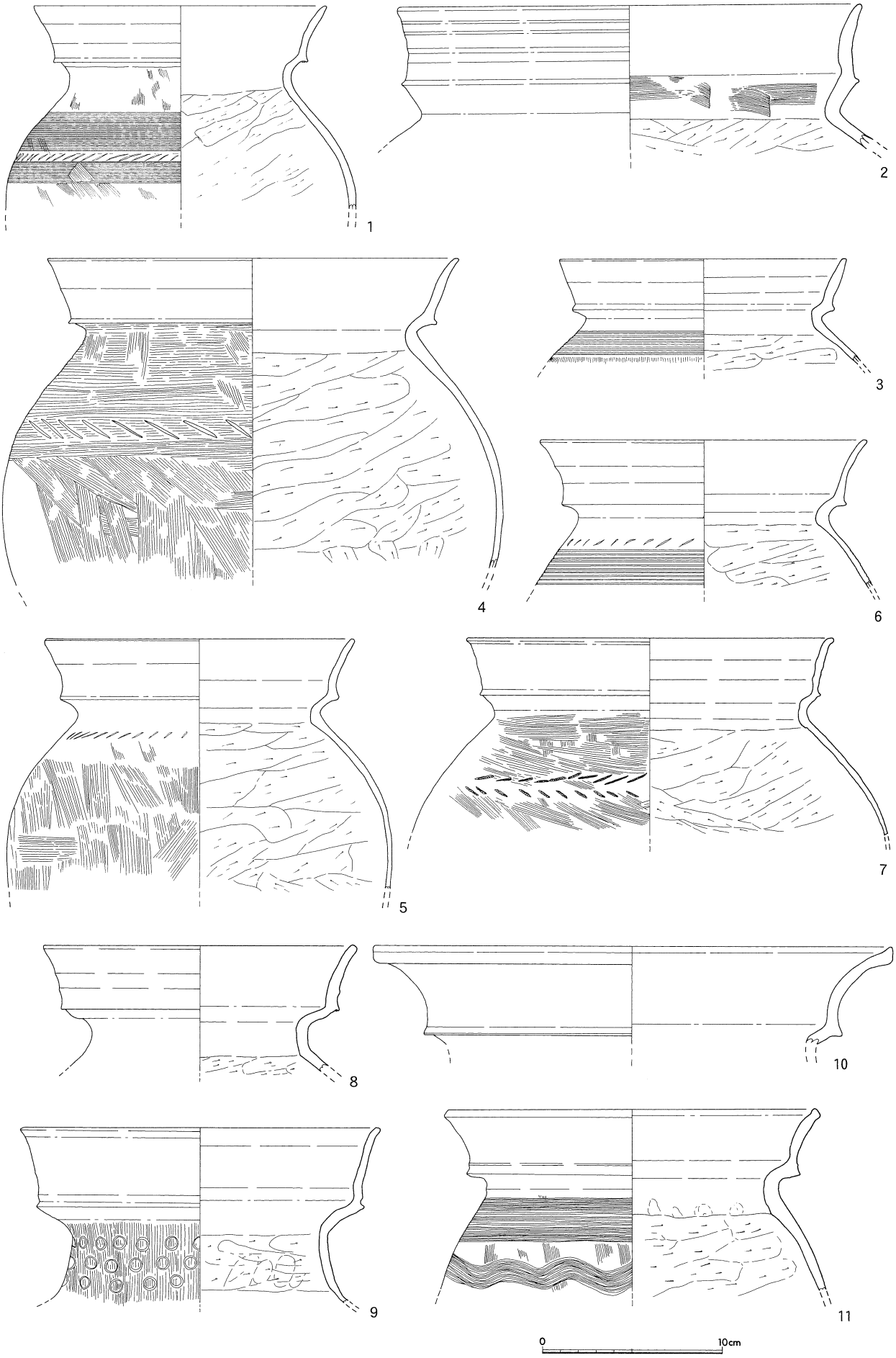
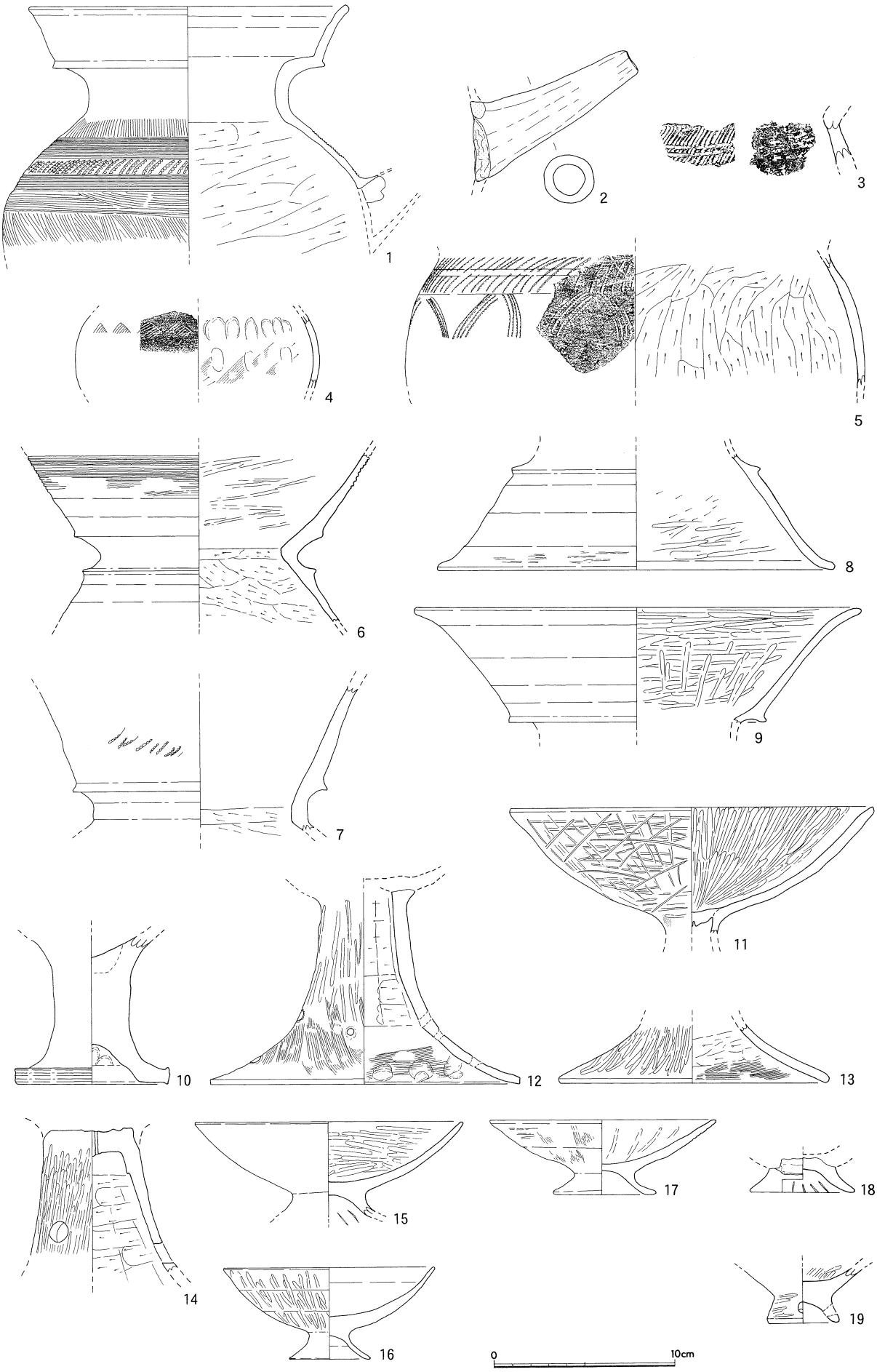


第103図　西区第１黒色土層出土弥生土器（３）実測図（Ｓ＝１／３）



第104図　西区第１黒色土層出土弥生土器（４）実測図（Ｓ＝１／３）

後期の鼓形器台（第104図６～９）　鼓形器台は筒部が短いものが出土しており、それらは平行沈線文が施された一群（６）と施されない一群（７～９）の２つに分けられる。

後期の高坏（第104図10～14）　高坏は完形のものが無く全体の形状が不明であるが、脚端部は拡張され沈線文が施される一群（10）と裾部が大きく開く一群（12、13）がある。裾部が大きく広がる脚部の坏部は11のように坏部が内湾しながら広がり端部が若干外に屈曲する形状のものと考えられる。14の脚部は11～13の高坏よりやや後出する新しい特徴を持ったものと思われる。

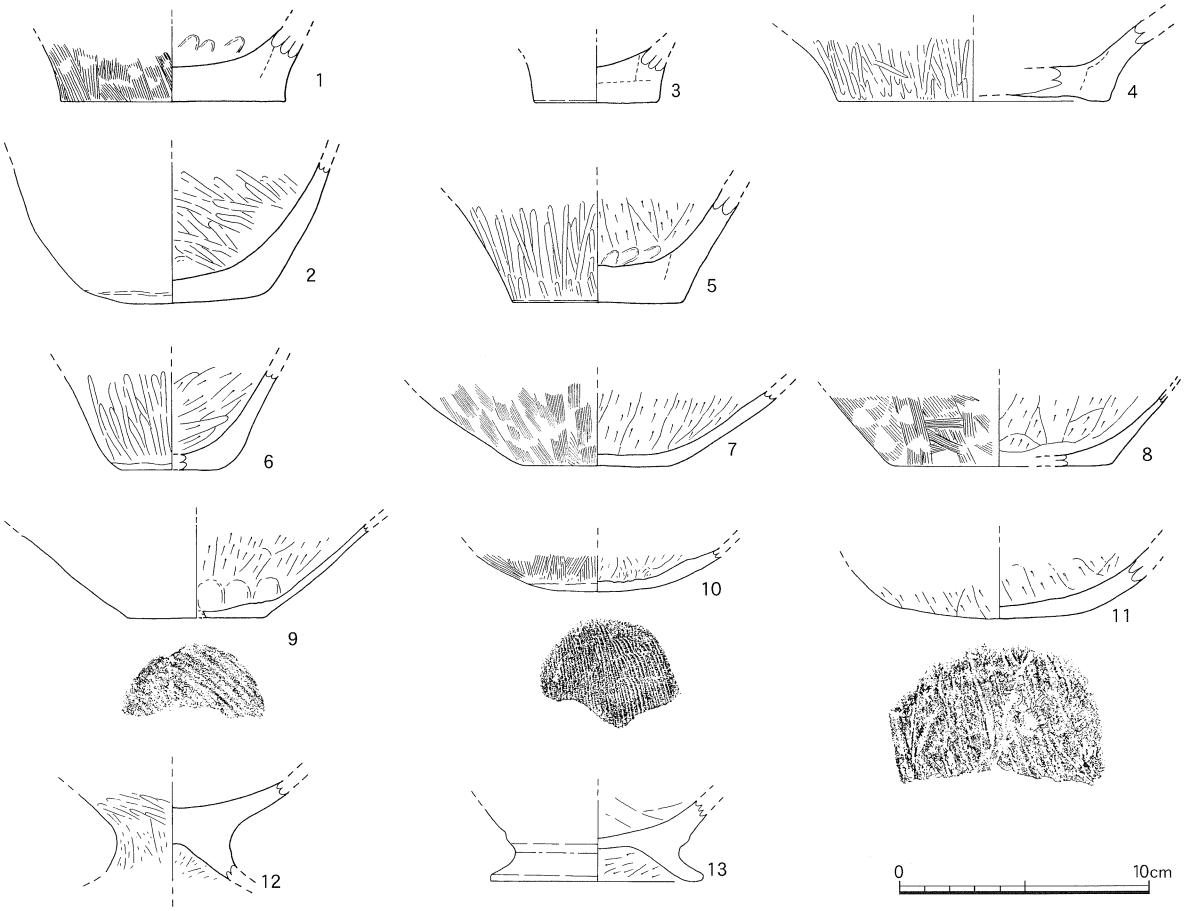
後期の低脚坏（第104図15～19）　低脚坏は坏部が緩やかに内湾し、脚部は「ハ」の字状に開く形態のものである。脚部には内面にヘラ状工具による刺突文が施された個体（15・18）や円形の透かしが空けられた個体（19）がある。

底部（第105図）　１と２は前期に属す可能性が考えられる底部で、内面にはミガキや指ナデが見られる。３～５は中期に属す底部で、５は内面に縦方向のヘラケズリが見られる。

６～９は後期に属す底部と考えられるが、６については中期の可能性もある。これらは内面にヘラケズリが見られ、７～８は器壁が薄く外面や底部にハケメが施されている。

10と11は丸底の底部であり後期末頃の可能性が考えられる。10は内面ヘラケズリで外面は底部も含めハケメが見られる。11は内外面ともヘラケズリである。

12と13は「ハ」字状に開く底部で前述した底部と異なり、壷・甕以外の器種と思われる。

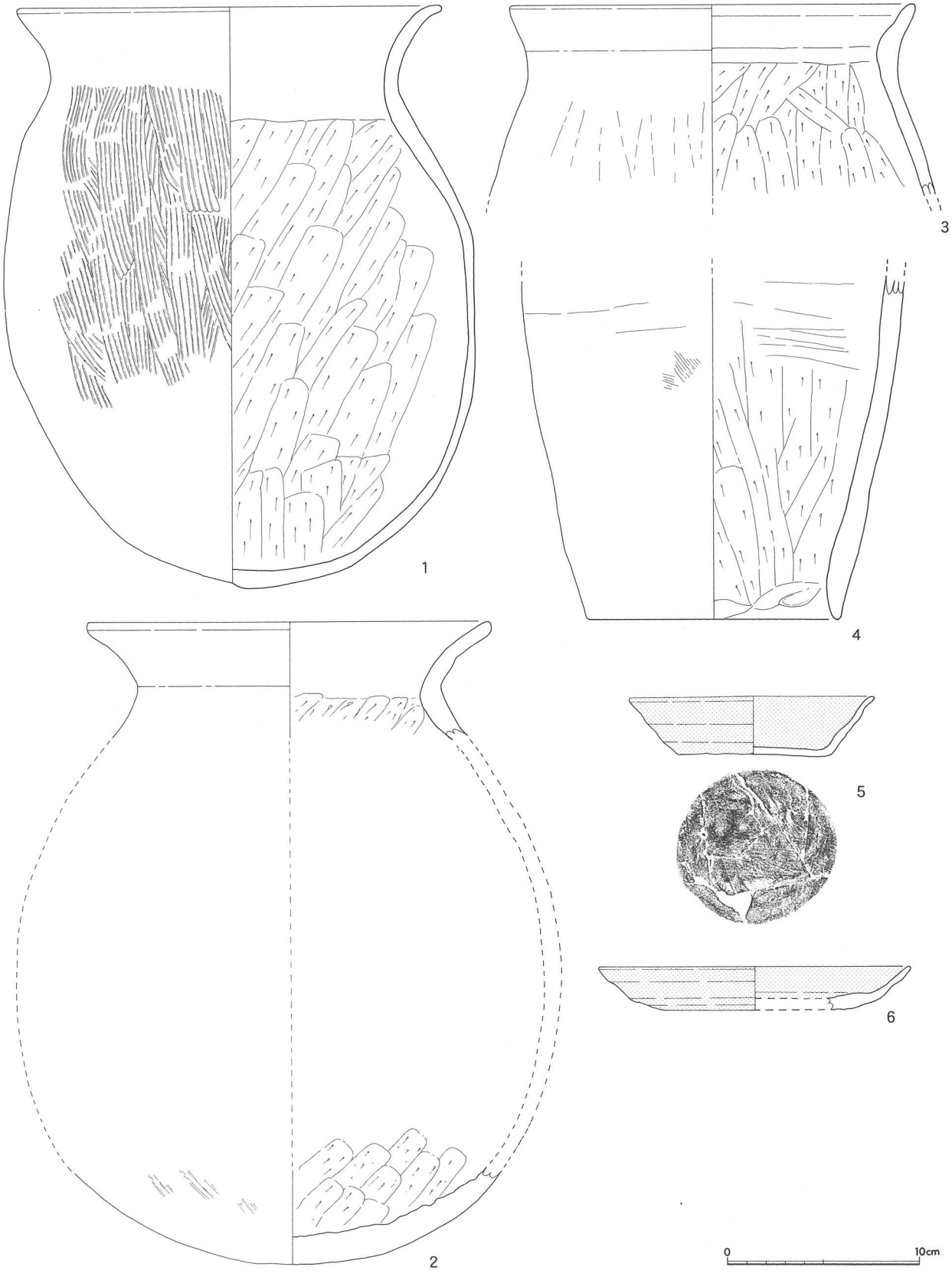


第105図　西区第１黒色土層出土弥生土器（５）実測図（Ｓ＝１／３）

（３）土師器（第106図）

土師器は古墳時代後期以降のものが殆どであり、前期～中期と考えられるものはない。

甕（第106図１～３）　甕は口縁部が「く」の字に折れる単純口縁のもので、外面には粗いハケメ



第106図　西区第１黒色土層出土土師器実測図（Ｓ＝１／３）

又はナデが施され、内面には頸部以下粗い縦方向のヘラケズリが認められる。胴部は肩が張らない長胴のものである。これらは概ね古墳時代後期頃のものと考えられる。

甑（第106図４）　甑は底部片が２個体分出土している。４は底部に向かって緩やかに狭まる形状のもので、下方には縦方向のヘラケズリが見られ上方は粗いナデである。これは前述した１～３と同じような時期のものと推測される。また、口縁部は３のような口縁部が短く屈曲する形状のものである可能性が考えられる。

坏類（第106図５、６）　ここでは底部が糸切りではない個体について記述する。５と６はいずれも内外面に赤色顔料が塗布されたものである。５は外傾する口縁部の坏であり、６は口縁部が外傾する浅い皿である。これらは一次調査の２号溝状遺構から出土したものと類似しており、共伴した須恵器の時期より奈良時代後半～平安時代初頭に位置づけられる。

（４）須恵器（第107図～第108図）

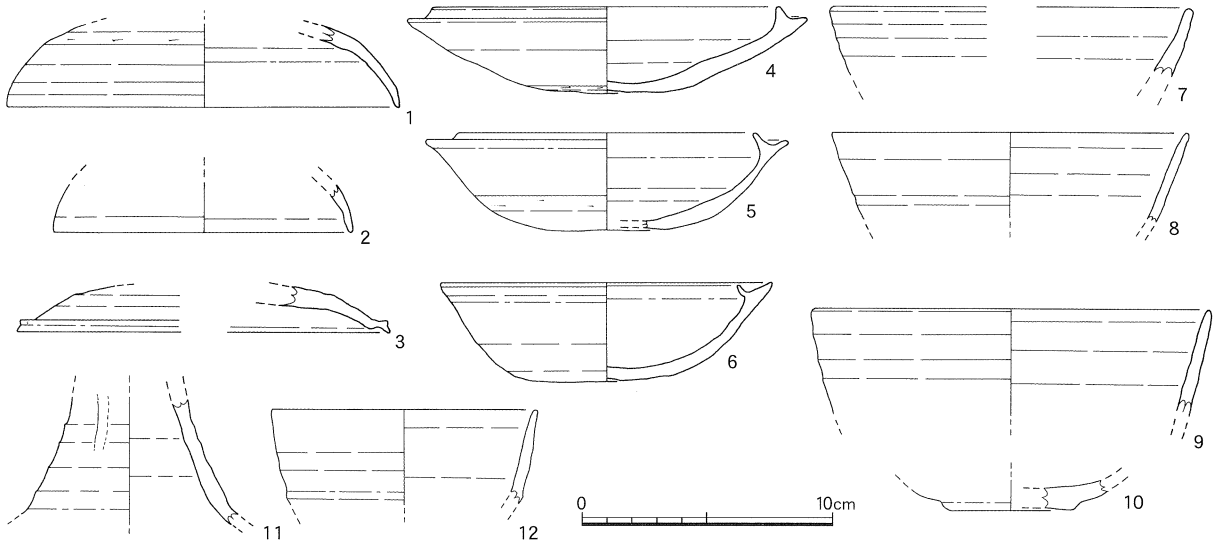
須恵器は古墳時代後期以降のものが出土している。

坏蓋（第107図１～３）　１は天井部に回転ヘラケズリが見られ、稜が不明瞭なであることから出雲４期[*11]と考えられ、６世紀末頃のものと考えられる。２は口縁部小片で口径が小さいことから出雲５期～６期と思われ、７世紀前半に位置づけられる。３は輪状つまみ等のつまみが付く蓋で、口縁部が屈曲した後に端部に至る形状で８世紀後半～９世紀初頭頃のものと考えられる。

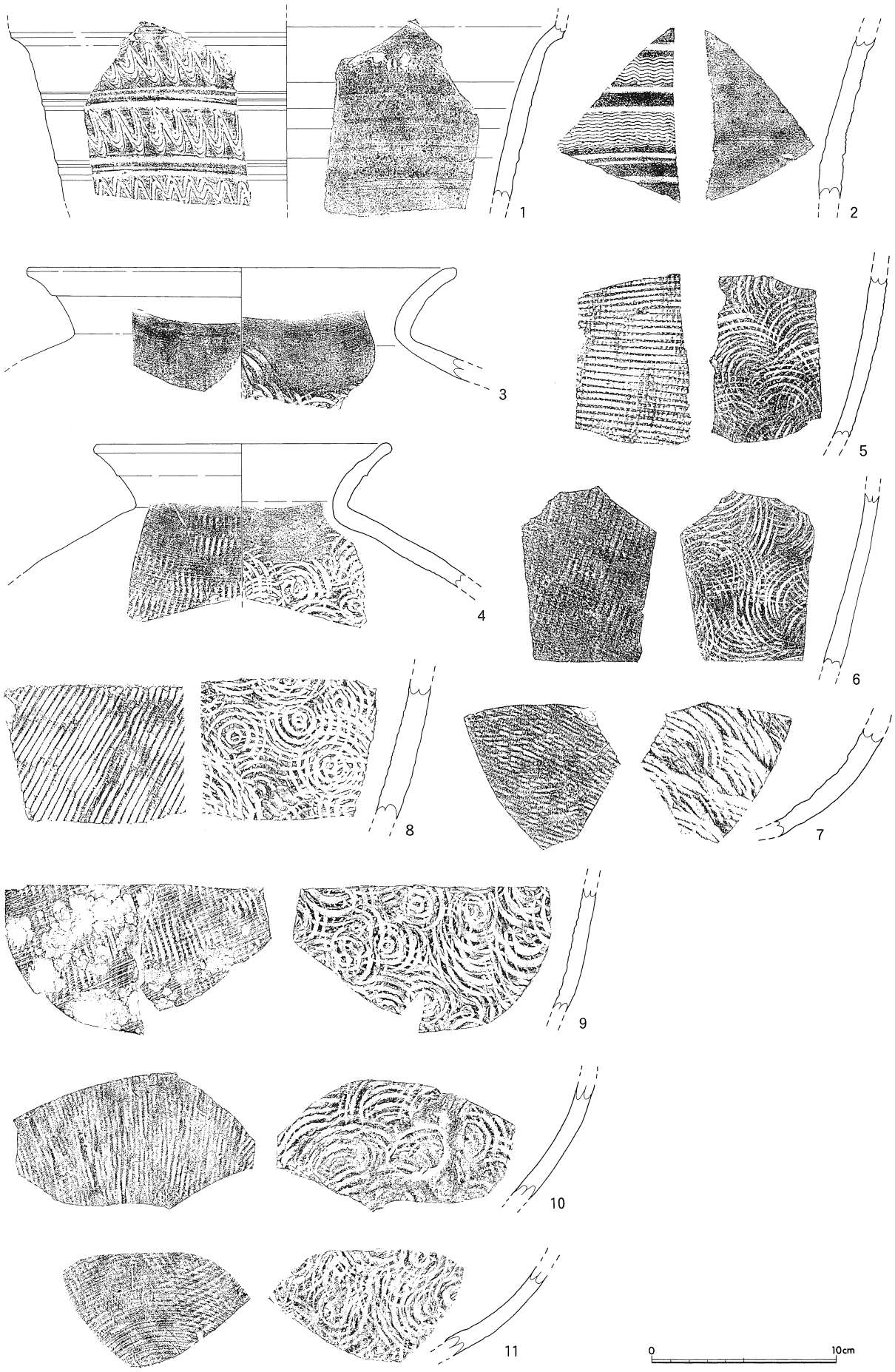
返りの有る坏身（第107図４～６）　４～６は返りの有る坏身であり前述した１、２の形態の蓋とセットになるものである。４と５は底部外周部に回転ヘラケズリが見られ出雲４期に位置付けられ６世紀末頃のものと考えられる。６は底部に回転ヘラケズリが見られず、返りも受部より低いことから出雲５期に位置付けられ７世紀初頭の時期が推測される。

返りの無い坏（第107図７～10）　７～10は返りの無い坏であり、無高台と高台の有る２種類の坏が存在する。７は器壁が厚い口縁部でおそらく無高台のものと思われる。８と９は器壁が薄く直線的に外傾する口縁部で高台が付く可能性がある坏である。10は無高台の坏であり底部の切り離しは不明である。これらの坏は完形品が無く時期は明確にできないが８世紀後半頃と思われる。

高坏（第107図11）　11は透かしのある高坏である。これは大谷晃二氏の分類[*12]の低脚無蓋高坏にあたり、小片のため不明確であるが出雲４期～５期頃のものと思われる。



第107図　西区第１黒色土層出土須恵器実測図（S＝１／３）



第108図　西区第１黒色土層出土須恵器・甕実測図（Ｓ＝１／３）

壷（第107図12）　12は壷の口縁部と考えられる破片である。内外面とも回転ナデである。

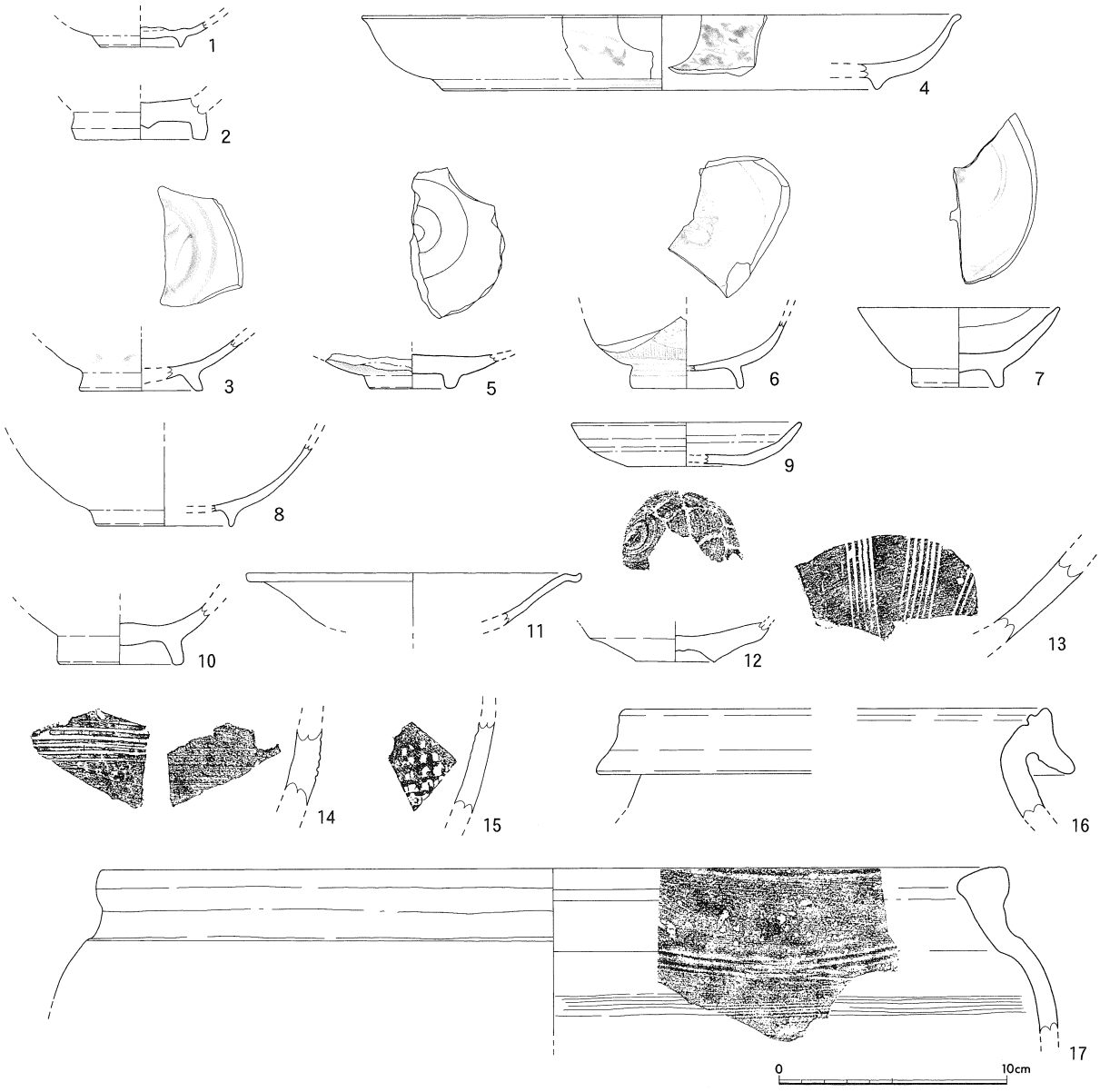
甕口縁部（第108図１～４）　甕の口縁部は頸部が長く沈線文と波状文が施される一群（１、２）と頸部が短く文様が施されない一群（３，４）の２つがある。

甕胴部片（第108図５～11）　出土している甕胴部片は大雑把に４つに分類され、内面の同心円文当具痕の細い一群（５、６）、当具痕が青海波状の一群（７）、当具痕がやや幅広のもので同心円文が明瞭な一群（８，９）、当具痕がやや幅広で同心円文が不明瞭な一群（10、11）がある。

（５）中世以降の陶磁器・土師器（第109図）

中世以降の陶磁器等は14世紀以降のものが出土している。

貿易陶磁器（１～３）　１は白磁の端反りの皿底部で白磁Ｅ類[*13]に分類され16世紀代に属する。２は龍泉窯系青磁の碗で青磁Ｄ類[*14]に分類され15世紀のものと思われる。３は漳州窯系の青花の碗で高台に砂粒が付着している。これは森村健一氏の２期[*15]に相当すると推測され16世紀末～17世紀初頭に位置づけられる。



第109図　西区第１黒色土層出土陶磁器実測図（Ｓ＝１／３）

肥前系磁器（４～８）　４～８は肥前系の磁器である。４～７は染め付けであり、４は皿、５～７は碗である。４は17世紀後半～18世紀のものである。５は蛇の目の釉剥ぎが見られ18世紀に位置づけられる。６も18世紀頃と思われる。７は青磁の染め付けで18世紀頃のものと考えられる。

土師器皿（９）　９は底部が回転糸切りの皿であり口縁はやや内湾気味に立ち上がる。時期については明確にできないが中世後半～近世前半頃であろうか。

陶器碗・皿（10～12）　10は淡褐色の釉が施された碗である。11は口縁端部が溝縁の皿であり内面には灰釉が施される。時期は17世紀中頃と推測される。12は三日月状の高台の皿である。これは17世紀前半に位置づけられる。

陶器鉢・壷・甕（13～16）　13は須恵質の在地産の擂鉢と考えられ、時期は室町時代頃であろうか。14は備前系の壷である。17世紀以前のものと思われる。15はタタキが見られる甕片で肥前系の近世頃のものと思われる。16は常滑系の甕である。これは中野晴久氏の７型式[*16]に相当し14世紀初頭のものである。

瓦質土器（17）　17は甕で断面に漆継ぎが見られる。産地・時期については不明である。

（６）石器（第110・111図）

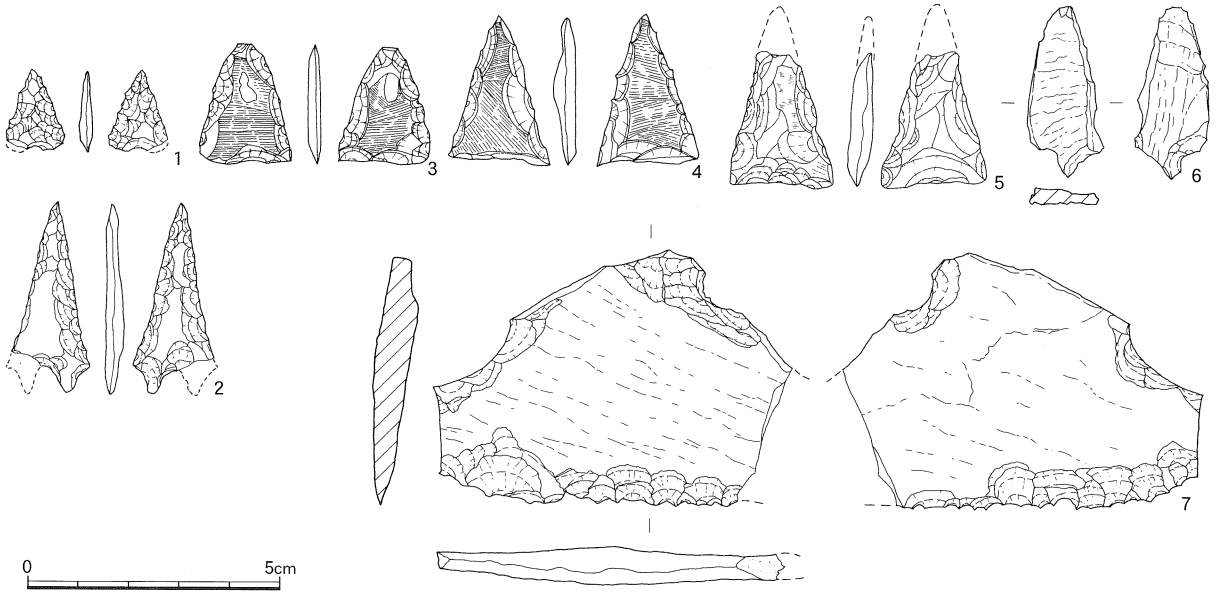
石器は縄文時代後期中葉～弥生時代頃にかけてのものが出土していると考えられる。第２・第３黒色土層出土の石器と比較すると石錘の減少と半磨製石鏃が見られる点が特徴である。

石鏃（第110図１～５）　１と２は凹基式の打製石鏃である。２は左右に抉りの入る特徴的な石鏃である。３～５は表面に細かな研磨痕が認められる半磨製石鏃である。基本的に基部に抉りが入らない三角形の石鏃である。

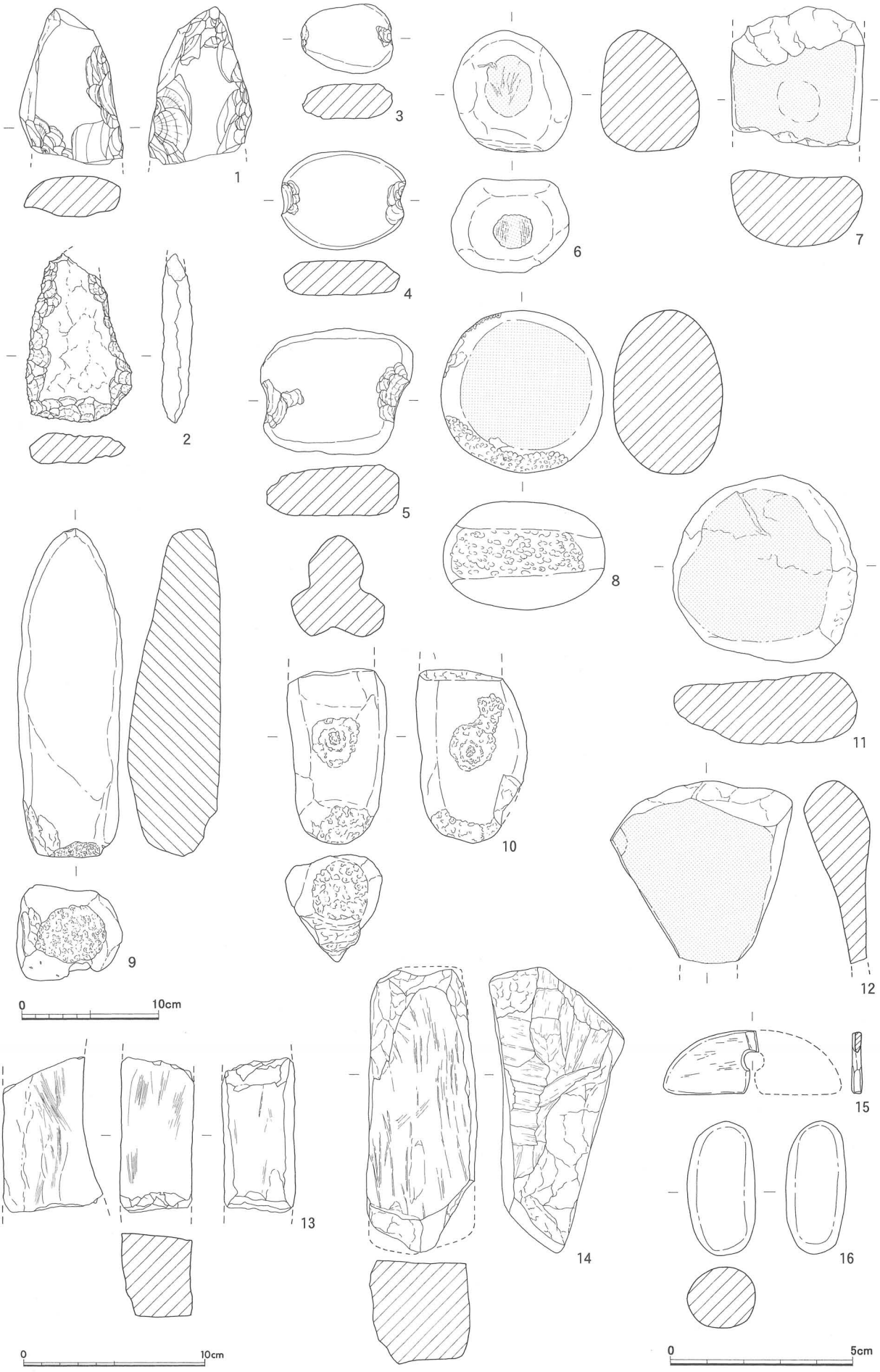
剥片（第110図６）　６は前述した半磨製石鏃と石材が類似した剥片である。

スクレーパー（第110図７）　７は左右の先端が破損しているが、両側から抉りを施し基部を作り出している。表面には光沢が見られる。

打製石斧（第111図１、２）　１は基部の破片である。やや厚みがあり両側部に調整剥離が見られる。２は扁平なもので基部が若干欠損している。刃部、側部ともに調整剥離が見られる。



第110図　西区第１黒色土層出土石器（１）実測図（S＝２／３）



第111図　西区第１黒色土層出土石器（２）実測図
（１～８、10～14はＳ＝１／３、９はＳ＝１／４、15・16はＳ＝２／３）

石錘（第111図３～５）　石錘は総数で８点出土し最軽量のものは３の54.2ｇ、最重量のものは５の244.3ｇである。これらは重量で大中小の３つ程に分類され、50～70ｇ程の一群、100ｇ前後の一群、200ｇ以上の一群になる。全ての石錘は短辺部分を打ち欠いている形態のものである。

磨石・敲石類（第111図６～10）　６は２面に磨面が認められ、磨面にはやや粗い擦痕も見られる。７は細長い形状で表面に磨面が見られ中心が窪む。８は扁平で円形の形状で表面に磨面が見られ側面に敲打痕が見られる。９は棒状のもので先端一面に敲打痕が見られる。10は凹石とも呼べるもので三面が窪み敲打痕が見られ、また先端部にも明瞭な敲打痕が認められる。

石皿・台石類（第111図11、12）　11は扁平なもので磨面が見られる面が窪む。12は砥石といった方が良いかもしれないが、遺跡出土の砥石の石材とは異なる。磨面部分は非常に厚みが薄い。

砥石（第111図13、14）　13は４面とも擦痕が見られる砥石である。14は擦痕が見られるやや湾曲した面があり、側面には砥石の製作時の加工痕ともとれる工具痕が確認される。

耳飾等（第111図15、16）　15は横に長い玦状耳飾である。これは樋口清之氏のＦ類[*17]に相当すると考えられる。16は石器として扱えるかは疑問であるが、黄褐色の半透明の光沢のある石である。

（７）金属製品（第112・113図）

金属製品は鉄製品が主なもので、中でも中世～近世頃と思われる鉄釘が多く出土している。

鍛冶系鉄片（第112図）　１～５は不整形のもので鍛冶に関連する鉄片と推測される。１～４は薄い鉄片であり、１はやや反り返ったものである。５はやや分厚いものである。これらは時期が特定できないが弥生時代後期の竪穴住居跡に関連する遺物である可能性が考えられる。

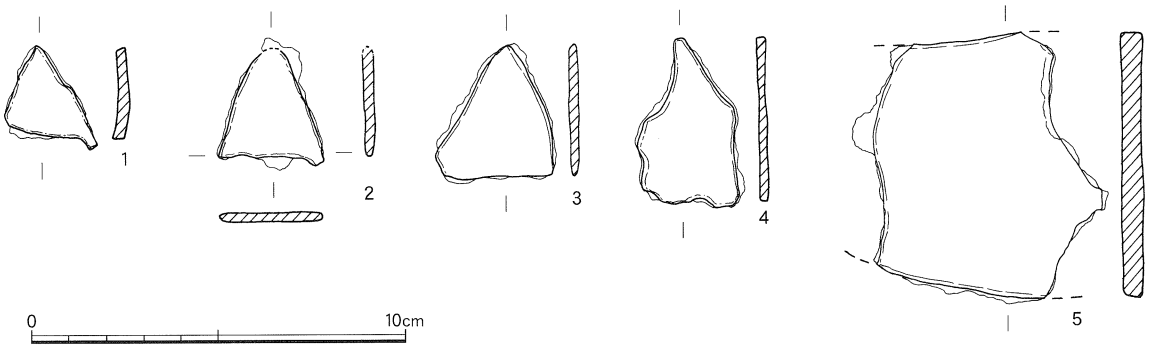
鉄鏃（第113図１～３）　１と２は無茎の鉄鏃であり、１は中央に円孔が空けられている。これらは形態から弥生時代後期[*18]に属すものと考えられる。３は鏃身が方頭状のもので関部は一回り厚くなるものである。これは古墳時代後期末以降[*19]の時期が推測される。

刀子類（第113図４～６）　４～６は刃部が片側に付く刀・刀子等と思われる鉄器である。４は片関の厚い刃部の小刀片と考えられる。５と６は刀子の茎と考えられる。

鎌（第113図７、８）　７は刃部が直線的で基部の折り返しは欠損等で不明瞭であるが、全体を折り曲げているものと思われる。８は刃先が尖っているもので７よりも新しい時期と考えられる。

楔・鑿（第113図９～11）　９と10はほぼ同じ寸法の楔である。11はカスガイで後述する掘立柱建物跡の柱穴内から出土している。先端部には木質が付着している。

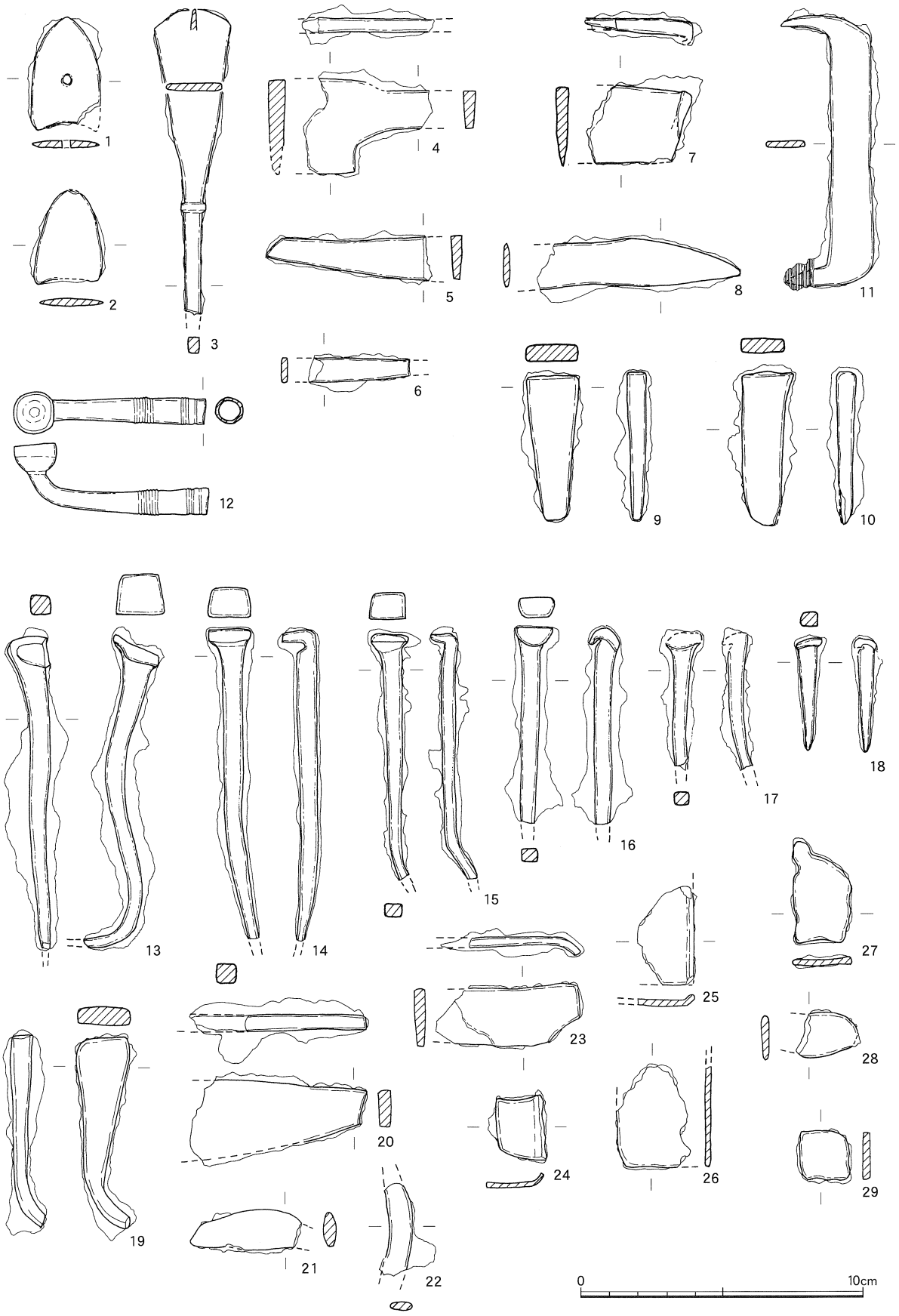
煙管（第113図12）　12は火皿補強帯があり肩には沈線状の凹凸が見られる。これは形態から古泉



第112図　西区第１黒色土層出土鍛冶系鉄片実測図（Ｓ＝１／２）

弘氏のⅢ段階*20に相当するものと思われ18世紀前半頃の時期が推測される。

鉄釘（第113図13～18）　鉄釘は後述する掘立柱建物跡周辺を中心に多数出土している。これらは



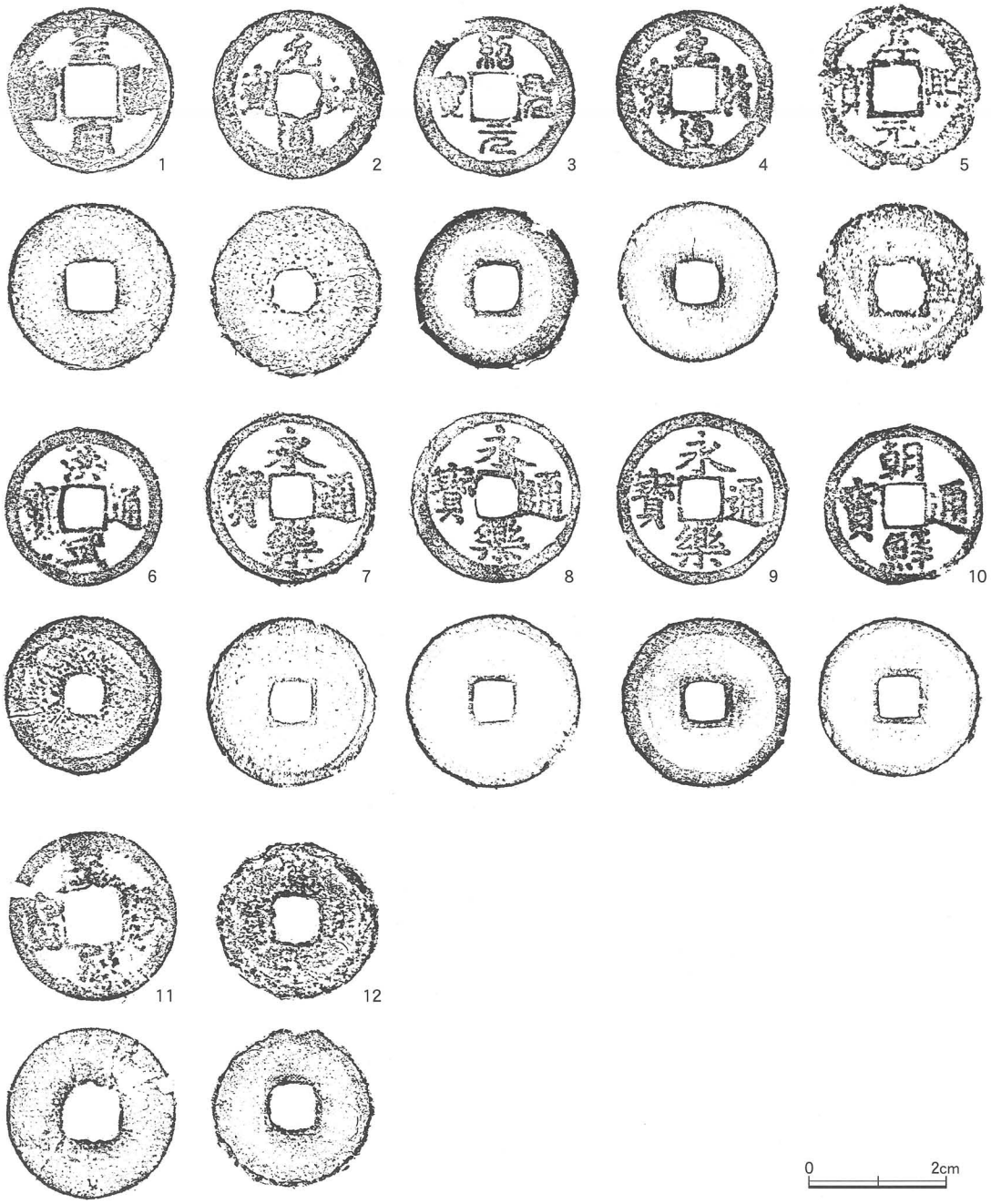
第113図　西区第１黒色土層出土金属器実測図（Ｓ＝１／２）

その長さから、11cm以上の特大の一群（13、14）、10cm前後の一群（15）、７cm前後の一群（16）、５cm前後の一群（17）、４cm以下の一群（18）の５つ程に分けられる。

不明鉄器（第113図19～29）　19～29は種類が不明な鉄器である。19と20は厚みがあり、21と22は厚くて細長い。23～29は薄板状のもので23～25は端部が若干折り曲げられているものである。

（８）銭貨（第114図）

銭貨は全部で12点出土しており、そのうち１～10の10点は調査区の南端部分で一括で出土している。一括で出土している銭貨は、北宋銭（１～４）、南宋銭（５）、明銭（６～９）、朝鮮王朝銭（10）がある。その他の出土品では11の「皇宋通寶」と12の「寛永通寶」があり、12は拓影が不明瞭であるが古寛永と推測される。



第114図　西区第１黒色土層出土銭貨拓本（Ｓ＝１／１）

4．製鉄関連遺構と遺物

第１黒色土層の調査では鍛冶炉を伴った掘立柱建物跡を検出し、またそれに関連する鍛冶滓等が出土している。また遺構は検出していないが、掘立柱建物跡以外の製鉄関連遺構に伴う鉄滓等の関連遺物も出土している。ここでは、それらの製鉄関連遺構・遺物について記述する。

（１）掘立柱建物跡（第116図）

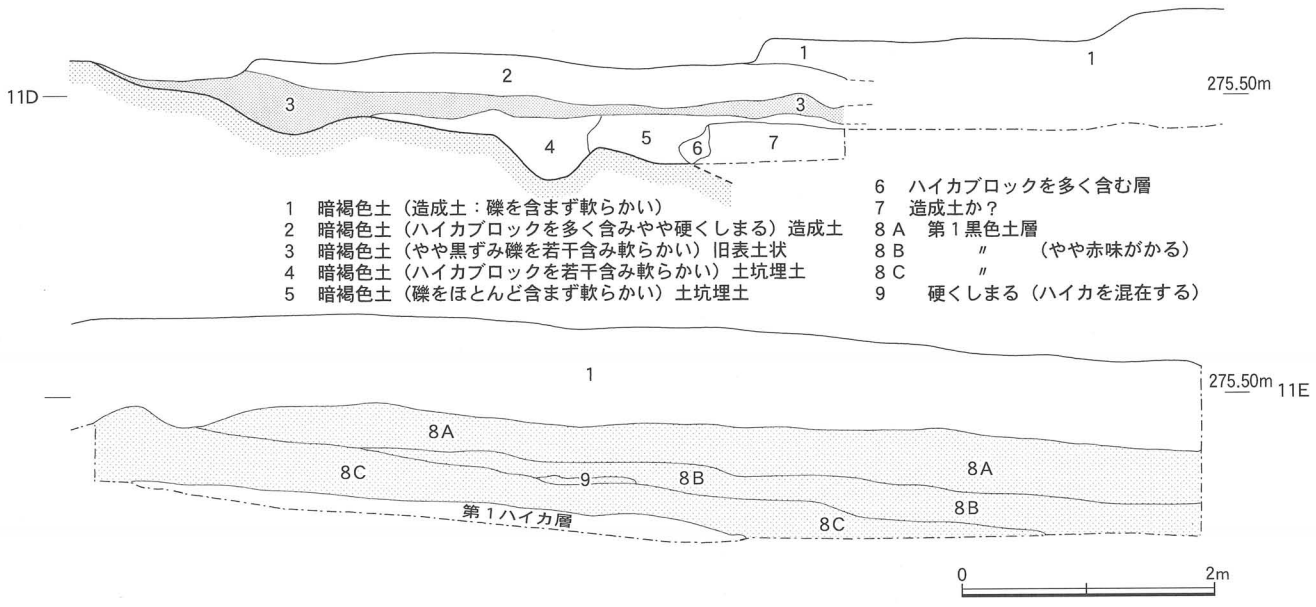
調査区の西側で検出した建物跡は、緩斜面を大きく削平し作り出した平坦面に建てられており、南側では削平が第２黒色土層にまで達している。また、この部分の土層断面（第115図）を観察すると旧表土（３層）上に版築状に硬く叩き締められた土砂（１・２層）が厚く堆積していた。この硬く締まった層は明剣神社に関わる造成土である可能性が考えられる。

掘立柱建物跡　建物跡の存在する平坦面には非常に多数の柱穴を検出していることから数棟の建物跡が重複している可能性も考えられたが、基本的に３間×２間の建物跡１棟を想定してみた。想定した建物跡は桁行きＰ39－Ｐ41－Ｐ43－Ｐ79、Ｐ12－Ｐ37－Ｐ66－Ｐ58の３間、梁行きＰ39－Ｐ18－Ｐ17、Ｐ79－Ｐ54－Ｐ58の２間である。そして柱穴間の距離は梁行き、桁行き共におおよそ２ｍ程である。なおＰ38－Ｐ19－Ｐ12も柱穴間距離が２ｍ程で、Ｐ39－Ｐ17からの距離が１ｍ程であることから、これらの柱穴群も建物跡を構成する柱穴群として考えられた。

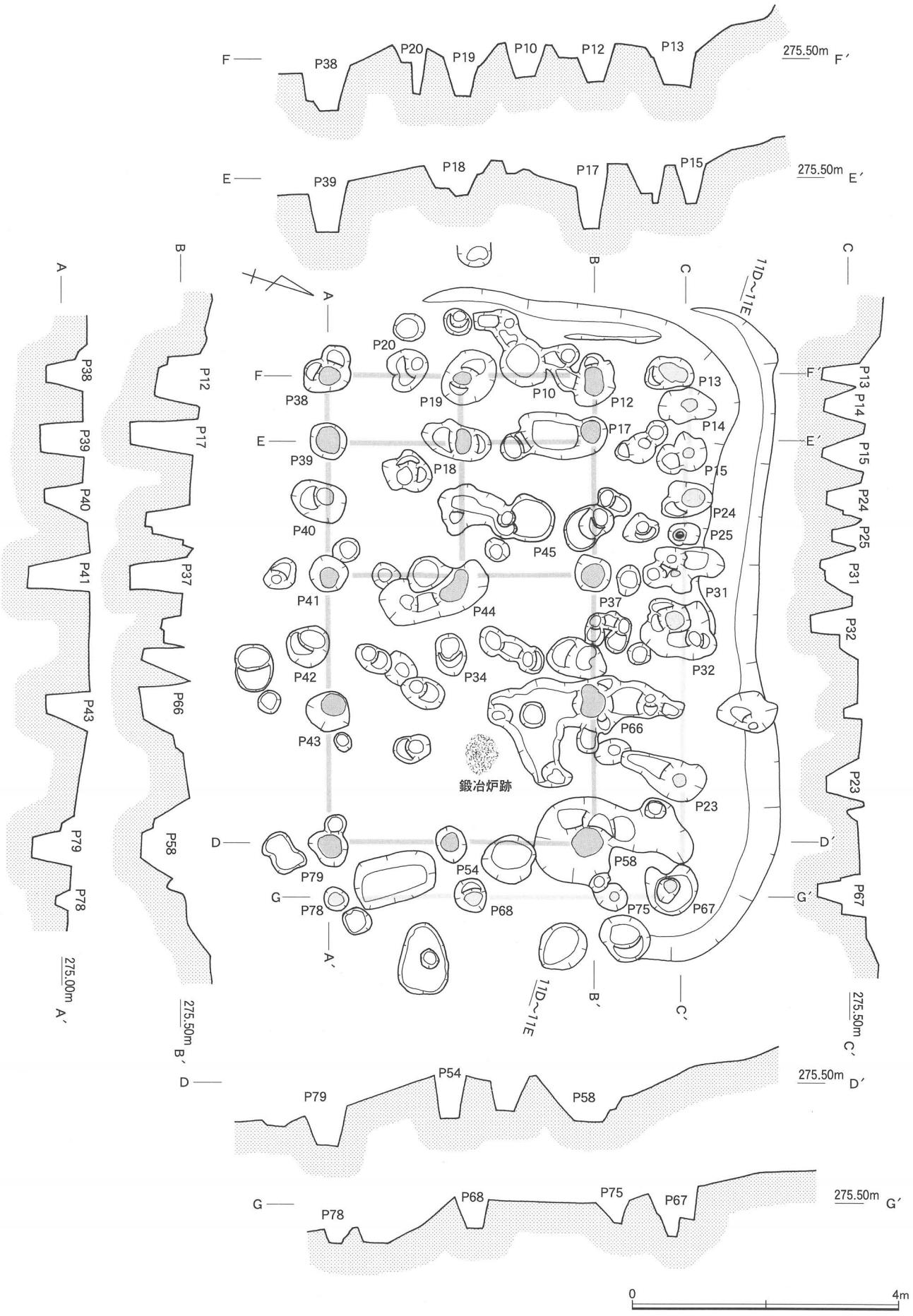
以上のことから建物跡は梁行きにもう１間加えた規模のものと推測され、梁行き約４ｍ×桁行き約７ｍ（加えない場合６ｍ）の規模が考えられる。

また想定した建物跡の周囲にも多数の柱穴を検出している。それらについて検討すると南北方向でＰ78～Ｐ67、東西方向でＰ13～Ｐ67が並ぶことから、この並ぶ柱穴群も建物跡に付随する構造物になるものと推測される。

鍛冶炉　鍛冶炉は建物跡の北東隅付近で検出しているが、調査時に鍛冶炉として認識して調査しなかったことから不十分な調査となった。鍛冶炉は径60㎝程の範囲で被熱によって赤く焼けており、若干窪んだ中からは椀形鍛冶滓が出土している。さらに周囲の土砂からは鍛造剥片、粒状滓といった鍛冶に関連した特有の遺物が採取された。



第115図　西区東西ベルト土層図〈11Ｄ－11Ｅ〉（Ｓ＝１／60）



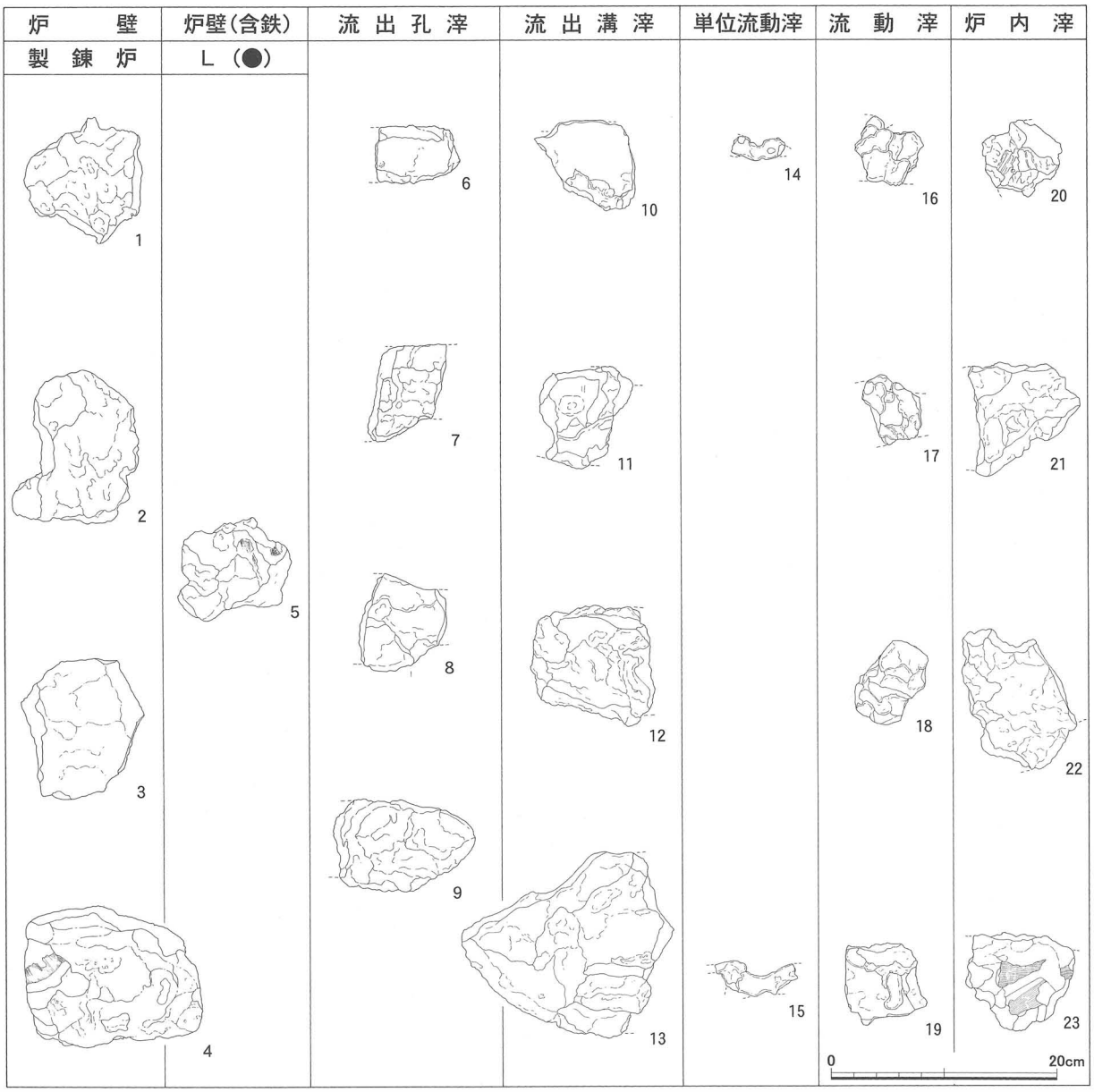
第116図　西区掘立柱建物跡実測図（S＝1／80）

建物跡の時期　建物跡からは鍛冶滓が出土し、柱穴からは鉄器（第113図11、13、16）が出土しているが、建物跡の時期の確定する材料としては困難なものである。そこで建物跡の上部に堆積した造成土の時期を検討すると、最も新しい出土陶磁器（第109図の６）が18世紀代であるので、建物跡は18世紀以前である可能性も考えられる。結論として時期判定の材料が少なく詳細は分からないが、鉄器や鍛冶滓の様相及び造成土の状況等から近世頃の建物跡と推測しておきたい。

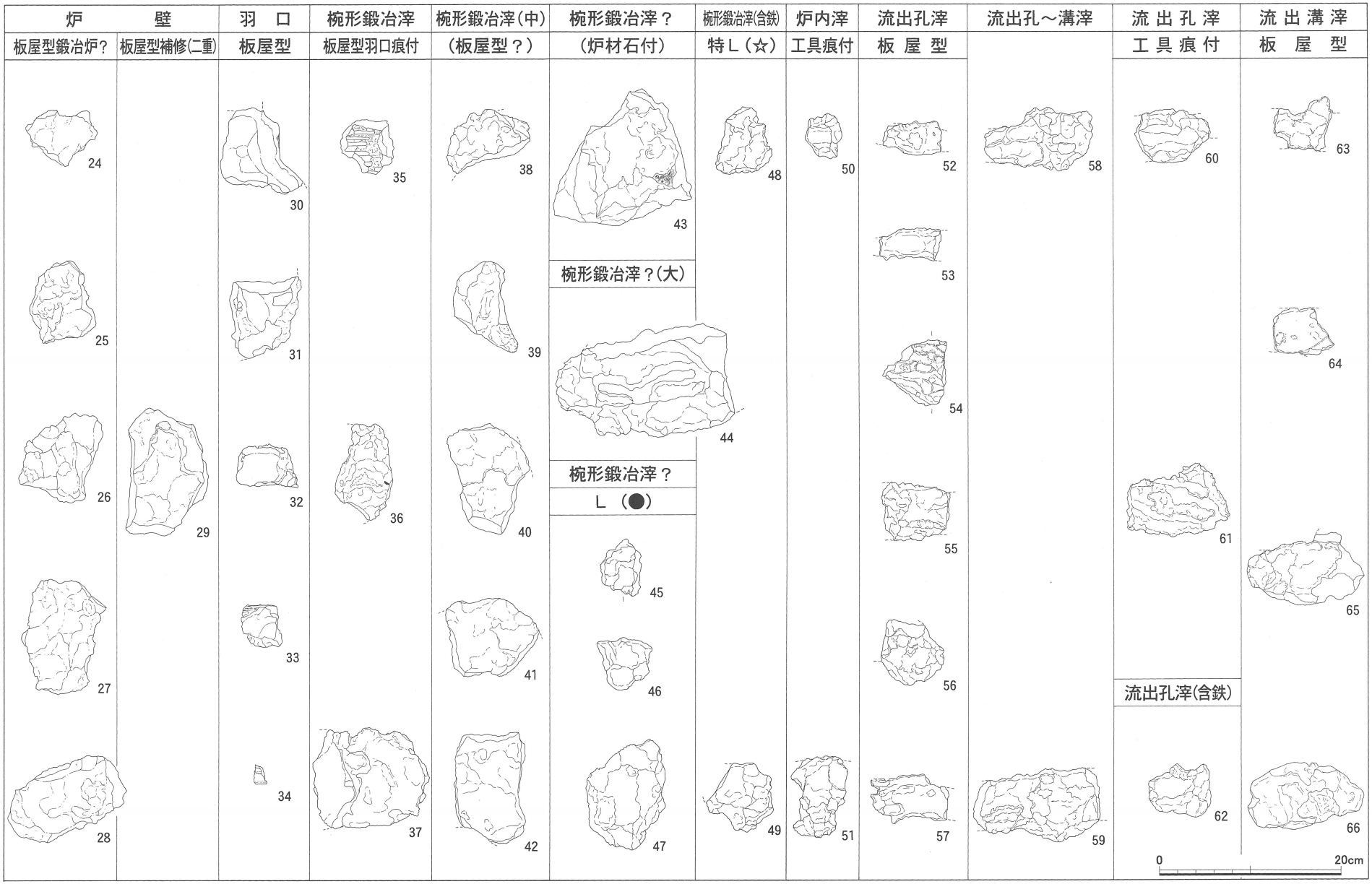
（２）製鉄関連遺物（第117図～130図）

出土している製鉄関連遺物は、大きく３群に分けられるものであった。それらは中世頃と推測される製鉄炉に関連するＡ群、中世頃と推測される精錬鍛冶炉に関係するＢ群、近世頃の建物跡の鍛冶炉に関連するＣ群である。なお冶金学的な分析は遺構に伴うＣ群についてのみ実施した。

Ａ群炉壁（第121図１～５）　中世頃の製鉄炉の炉壁と推測される一群であり、胎土には石英質の砂粒が混和された硬質のものである。また内面は高温のために強く黒色に滓化している。４は内面の溶解の状況から通風孔下の炉壁と推測される。



第117図　板屋Ⅲ遺跡製鉄関連遺物構成図１（Ｓ＝１／６）



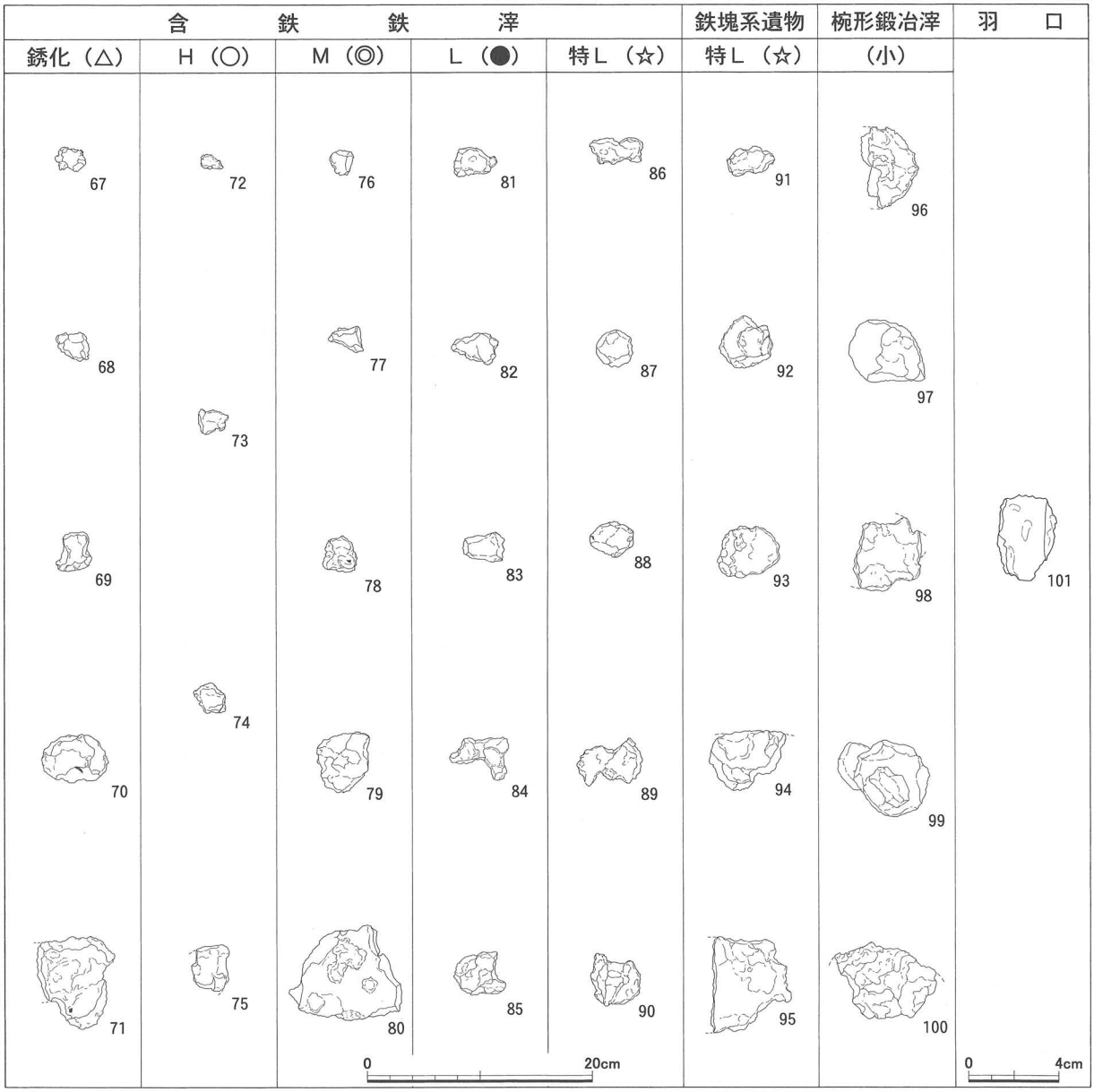
第118図　板屋Ⅲ遺跡製鉄関連遺物構成図２（Ｓ＝１／６）

A群流出孔滓（第122図６～９）　６～９は炉内で生成された滓が流出孔で固まったもので、いずれも緻密な滓である。７と８は底面の断面形が樋状になっているもので、９はその形状から流出孔中に詰まった滓のように見える。

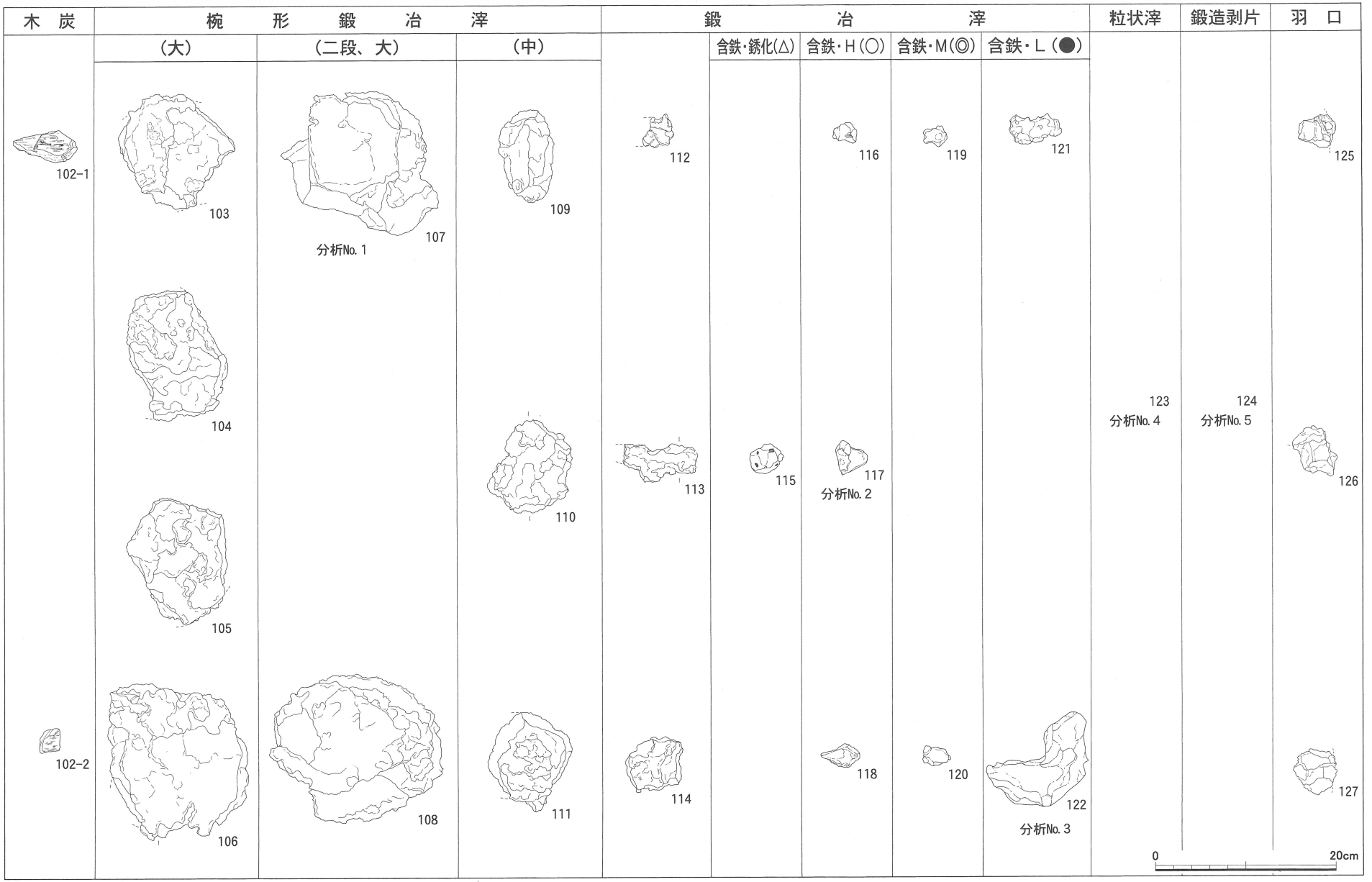
A群流出溝滓（第122図10～13）　10～13は炉外で滓を排出する溝の形状を残しているものである。これらの底面は緩やかな樋状になっており、11以外の３点は底面に炉壁粉をかみ込んだり固着している。10と12は気孔が見られ、11と13は気孔が殆ど見られない緻密な滓である。

A群単位流動滓（第122図14、15）　14と15は細長い形状をした流動滓で単位流動滓と呼称しているものである。いずれも緻密な滓であり、14は側面から下面に木炭痕が残り、15はきれいな流動状のもので下面には粉炭痕と炉壁粉が見られる。

A群流動滓（第122図16～19）　16～19はいずれも扁平な流動滓である。16、18、19は緻密な滓である。17はこぶ状の流動滓の単位が葡萄状に重層している特異な滓であり、下面には光沢をもった流動滓が天地を逆にして固着している。



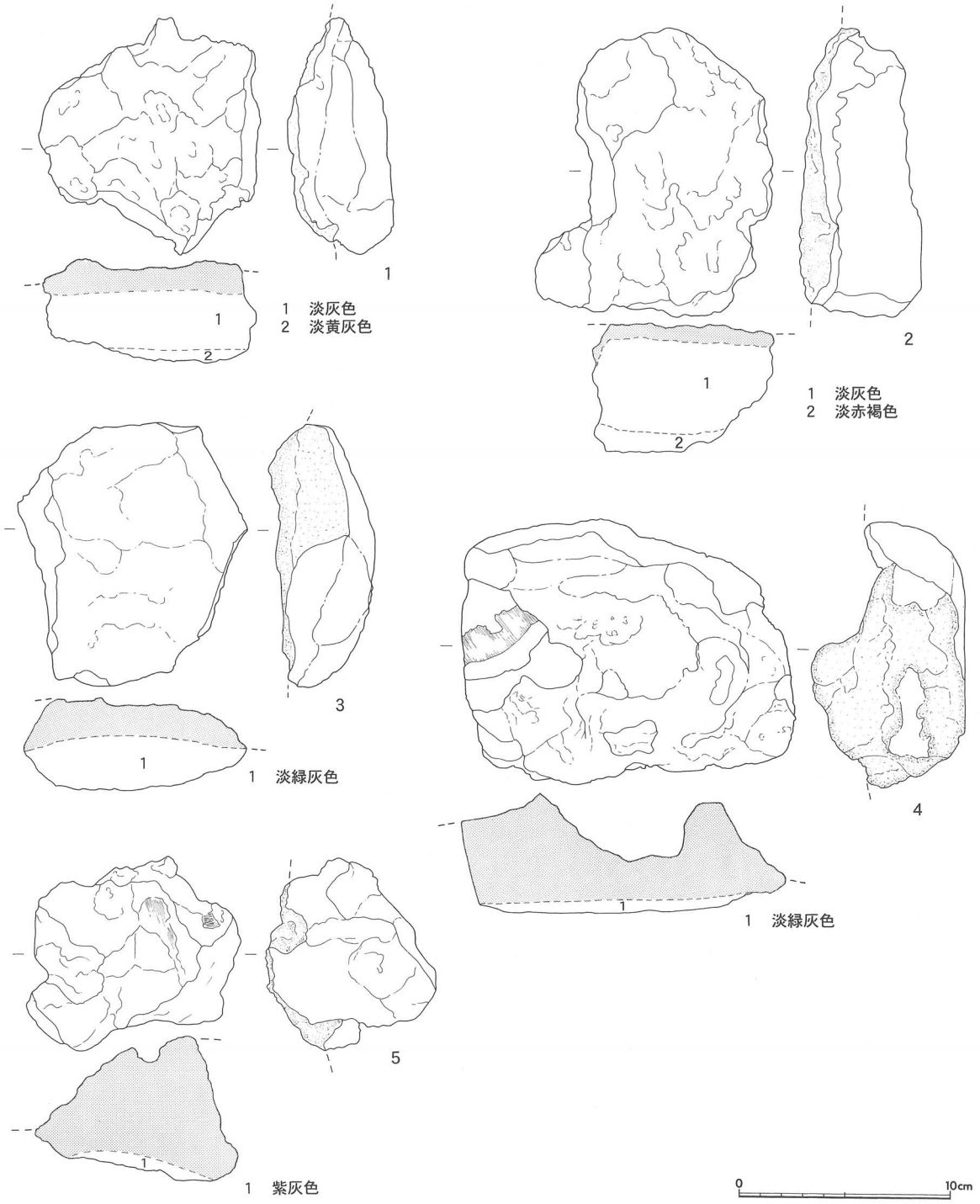
第119図　板屋Ⅲ遺跡製鉄関連遺物構成図３（S＝１／６、１／３）



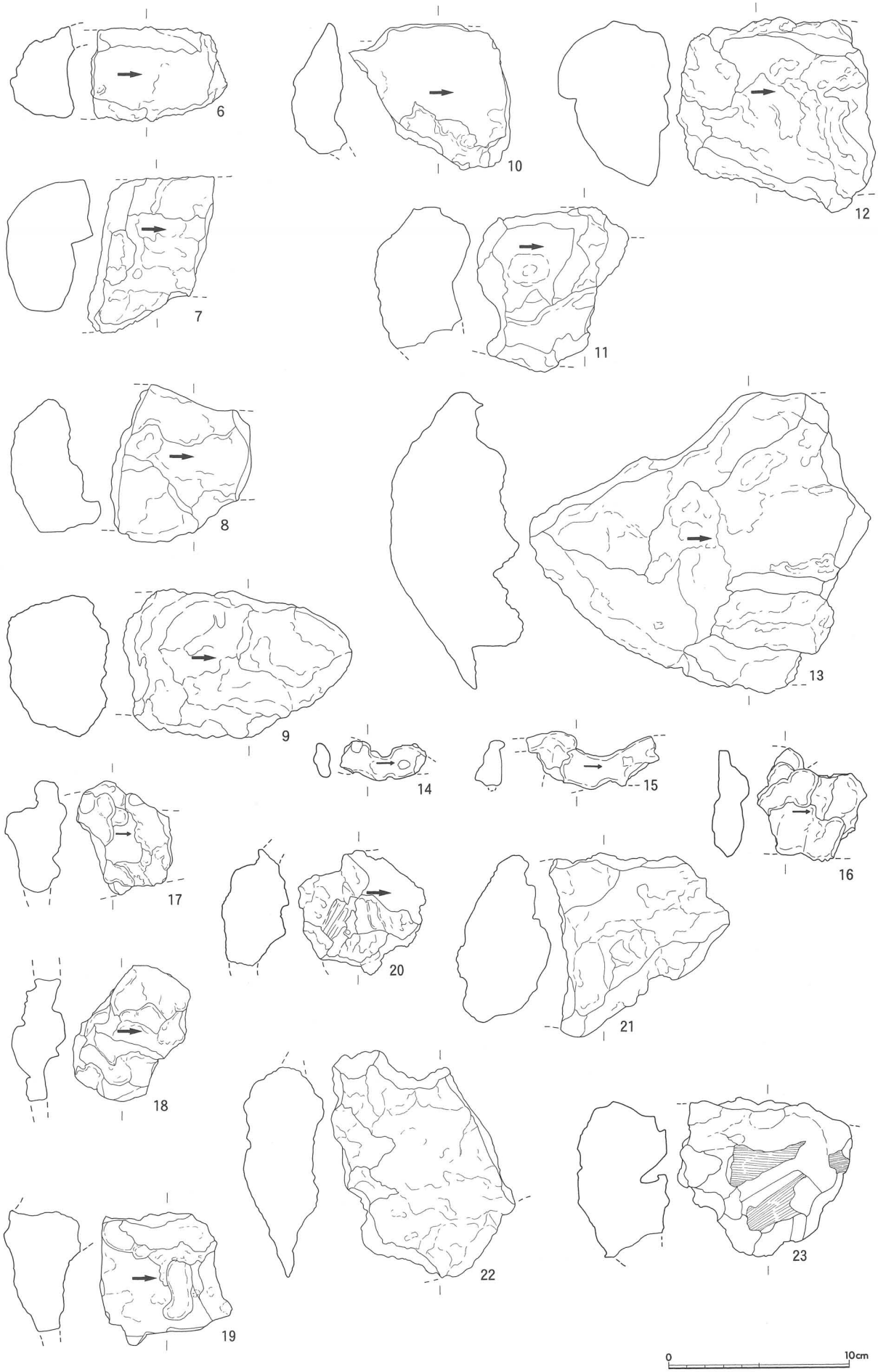
第120図　板屋Ⅲ遺跡製鉄関連遺物構成図４（S＝１／６）

A群炉内滓（第122図20～23）　20～23はいずれもメタル度の無い炉内滓である。21はややガス質の滓で22と23は緻密な滓である。20は上面に木炭痕が密集し、下面には地山のハイカ層が固着したやや特異な外観のものである。また、22の上面は流動気味で流出溝滓である可能性も考えられる。

B群炉壁（第123図24～29）　24～29は中世頃の板屋型羽口を伴う精錬鍛冶炉の炉壁と推測される一群である。これらは、A群炉壁（第121図１～５）としたものと比較すると胎土に石英質の砂粒を多めに含む点は似るが、被熱が弱く内面が薄く滓化している点が異なる。



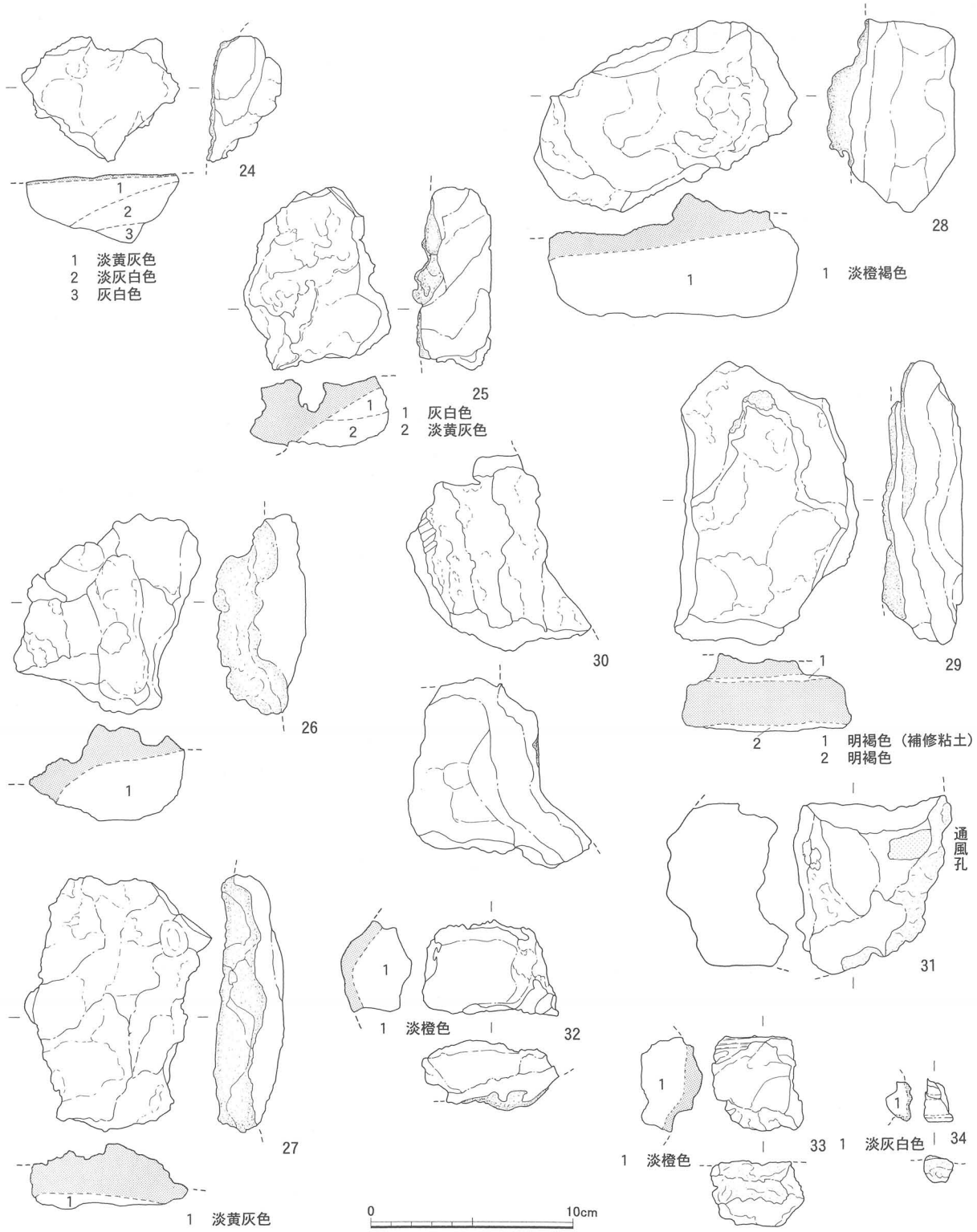
第121図　西区製鉄関連遺物実測図１（Ｓ＝１／３）



第122図　西区製鉄関連遺物実測図２（Ｓ＝１／３）

28は胎土が他のものと異なりスサと籾殻が混和された特異なものである。29は補修土を挟んだ溶解面が２枚重層しており、補修の痕跡が分かるものである。このことからこの炉壁は製錬炉では一般的に見られない補修痕があるので精錬鍛冶炉のものである可能性が高い。

Ｂ群板屋型羽口（第123図30～34）　30～34は外面にスマキによる成形痕が見られる板屋型羽口と呼称されている特徴的な羽口である。この板屋型羽口は精錬鍛冶炉に伴う特徴的な羽口として考えられている。31は上面に通風孔が残り、スマキ痕が認められないが外面の形状等から板屋型羽口と

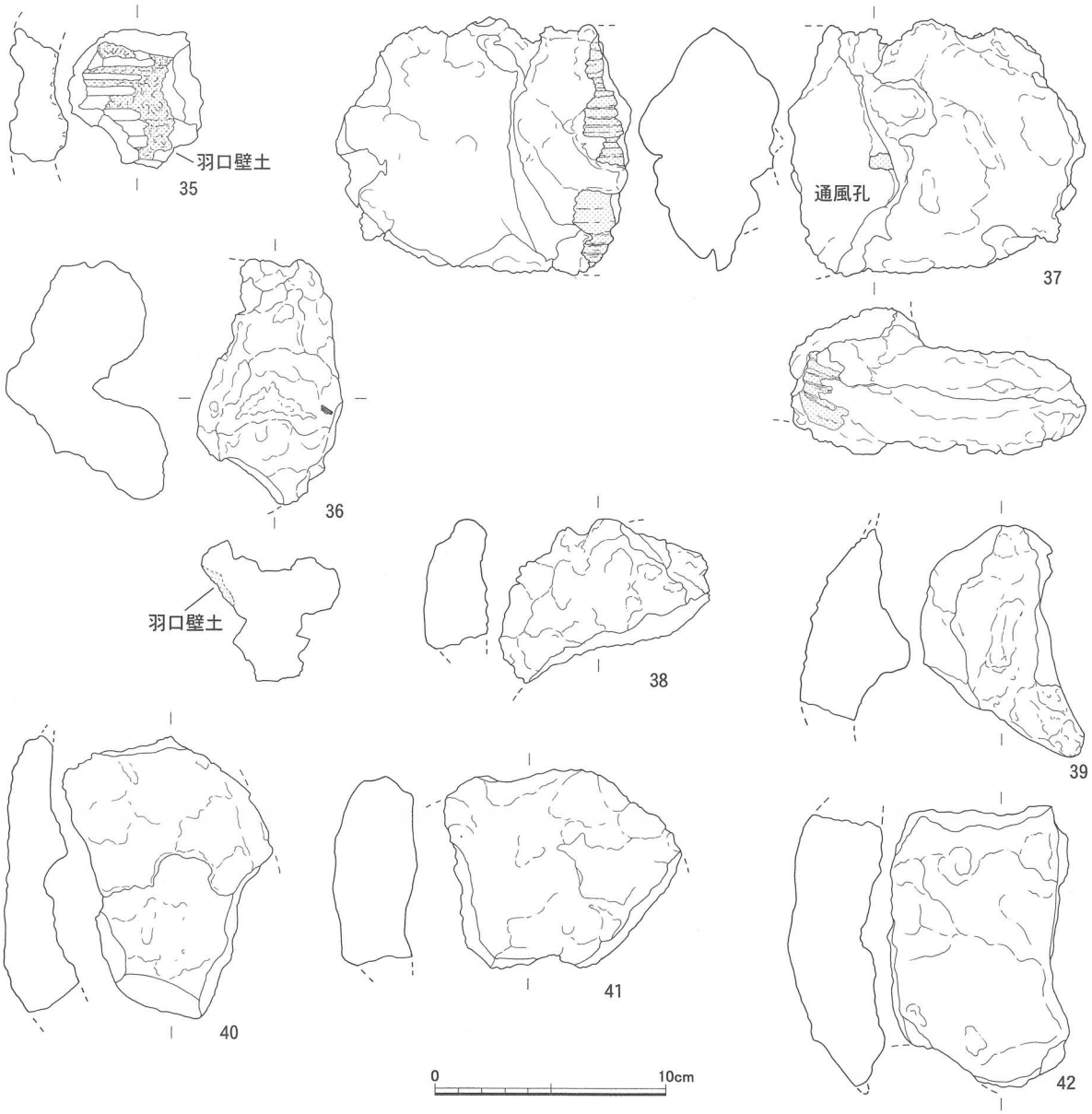


第123図　西区製鉄関連遺物実測図３（Ｓ＝１／３）

考えた。32には胎土に砂粒の他に籾殻が混和されている。

B群椀形鍛冶滓（板屋型羽口痕付き）（第124図35～37）　35～37は椀形鍛冶滓であり、板屋型羽口の外面のスマキ痕が写されているものである。このことから板屋型の精錬鍛冶炉に伴う鍛冶滓である可能性が高い滓である。35は上面にスマキ痕によってできた平行する筋状の凹凸が見られ、さらに羽口壁土と思われる土が固着している。36は上面が大きく凹んでおり、これは通風孔部の影響によるものと推測される。37は板屋型羽口先端部がそのまま残っている滓であり通風孔部も確認される。

B群椀形鍛冶滓（第124・125図38～44）　38～44は板屋型の精錬鍛冶炉に伴う可能性がある椀形鍛冶滓であり、39～42は中型の滓、43は炉壁に使用された石材が固着したもの、44は大型の滓である。38は緩やかな椀形のもので下面に石英質の砂粒を多く含む炉壁土が固着する。43はやや製錬滓の外観を持っている。左側下面には大型の角礫が固着し、精錬鍛冶炉では炉床に石材を用いる類例があることから鍛冶滓と考えられる。44は大型のもので下半の滓は密であるが中層はやや気孔が認めら



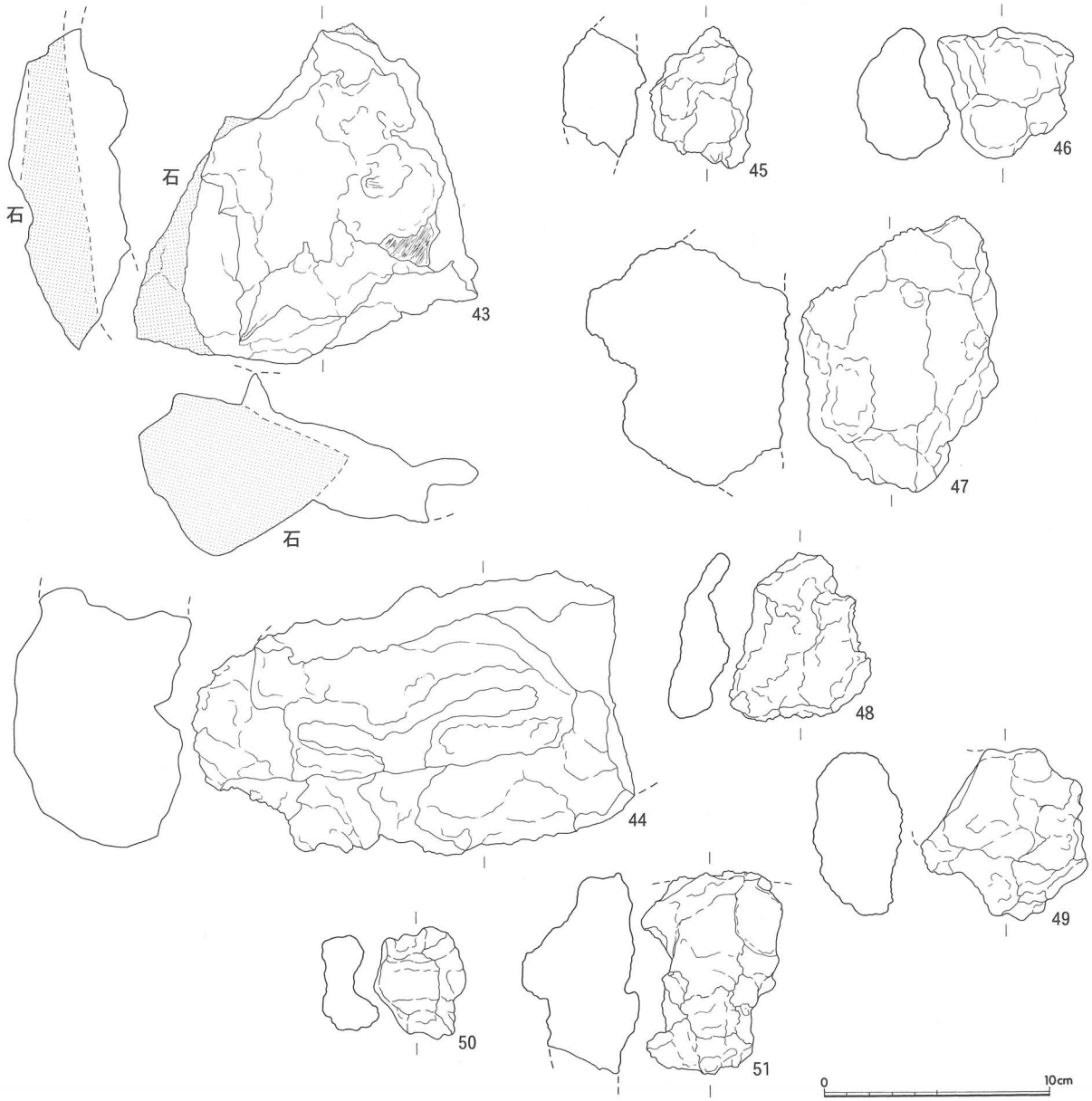
第124図　西区製鉄関連遺物実測図４（Ｓ＝１／３）

れる。下面には炉壁土が全面に固着している。製錬炉の炉底塊の端部の可能性も考えられる。

B群椀形鍛冶滓（含鉄）（第125図45～49）　45～49は金属部分を含む比重の高い椀形鍛冶滓である。これら4点は特殊金属探知器の設定で45～47はメタル度L（●）、48と49はメタル度特L（☆）となる。48は下面が浅い皿状で上面には木炭痕が見られる。49は上下面に流動状の滓部が認められる。

B群炉内滓（工具痕付）（第125図50、51）　50と51は上面に工具痕と考えられる樋状の窪みや平坦面が見られる滓である。50はやや気孔が見られるガス質の滓で下面には炉壁土が固着している。51は質感の異なる滓部が共存しているもので緻密な部分とガサガサした部分が見られる。

B群流出孔滓（第126図52～57）　52～57は流出孔滓で下面は緩やかな弧状をなしている。これらの幅を見るとは4㎝以下のもの（52、53）と5㎝～7㎝程のもの（54～57）がある。52は半流動状の滓で上面中央が陥没している。53は上面が流動状で下面は炉壁土が固着し、また光沢をもっている。54は細かい流動単位が重層しており断面は他のものと異なり「V」字状になっている。55は緻

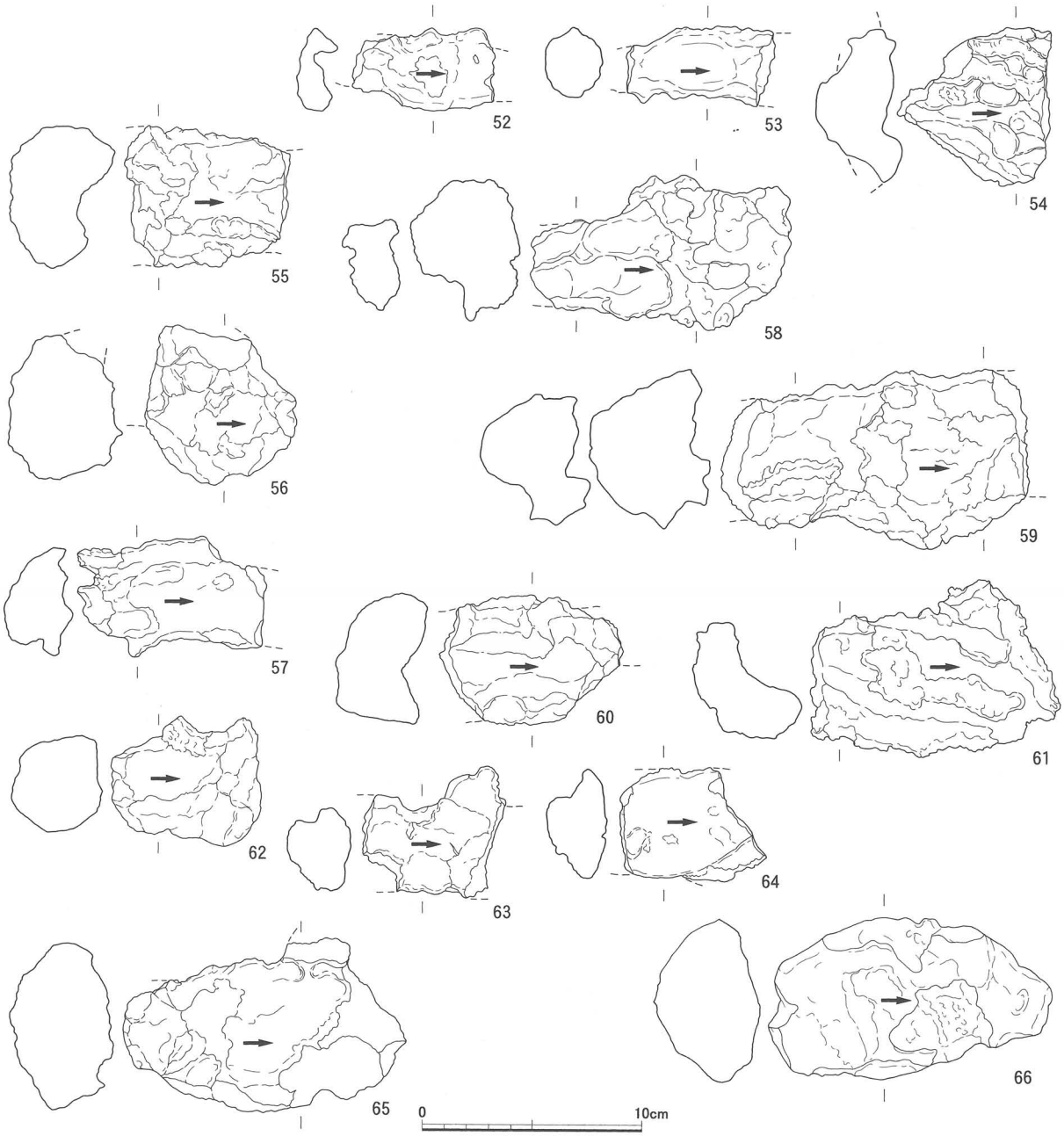


第125図　西区製鉄関連遺物実測図5（S＝1／3）

密な滓で上面中央部が凹む。56は上面に木炭を含んでおり上手側はきれいな流動状の滓である。57はやや厚みの薄いもので上面中央部が若干凹み、下面は木炭痕と見られ炉壁粉が固着している。

B群流出孔～溝滓（第126図58、59）　58と59は左右で質感が異なり右側が幅が広くなることから炉壁の流出孔から流出溝に至る部分の滓と推測される。58の上面左側は流動滓が重層しているが右側は木炭痕の多いガサガサした滓である。59も58と同様の外観であるが、よりガス質で流動状の部分は少ない。

B群流出孔滓（工具痕付）（第126図60、61）　60と61は工具痕が見られる流出孔滓である。60は下半部が緻密な滓で上半部はやや気孔が見られるガス質の滓であり、上面中央部は溝状に窪んでいる。61はややねじれたような外観の滓で上面中央部に樋状の工具痕が見られる。滓は流動性が不良のもので途切れ気味である。下面には粉炭痕が多量に固着している。



第126図　西区製鉄関連遺物実測図６（Ｓ＝１／３）

B群流出孔滓（含鉄）（第126図62）　62は金属部分が含まれる滓でメタル度特L（☆）のものである。外観は中間部がくびれ、左右端部の流動滓が途切れ気味のものである。このことから流出孔中で滓が途切れてしまったものであろうか。

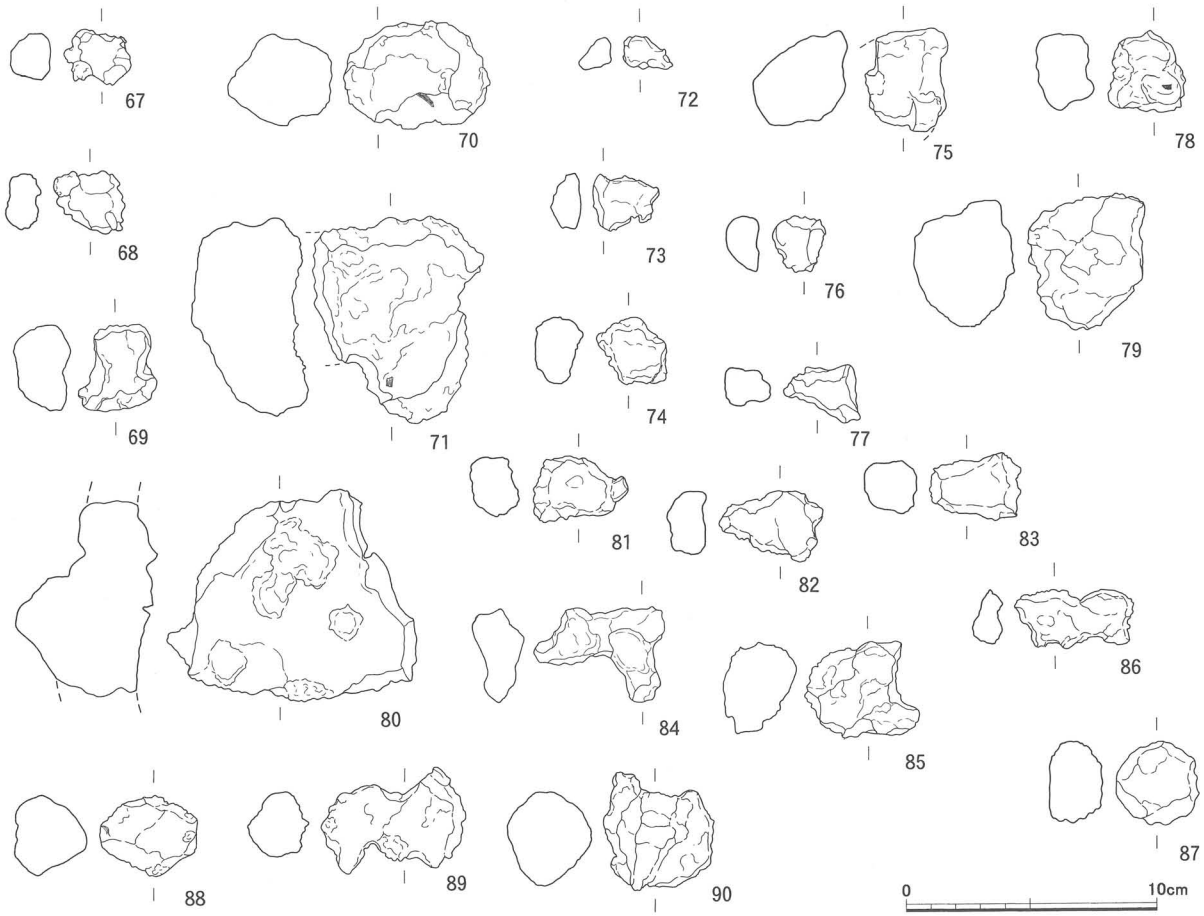
B群流出溝滓（第126図63～66）　63～66は精錬鍛冶炉の流出溝の形状を残していると考えられる滓である。63と64は幅が狭いものであり、63は緻密で下面には粉炭痕が全面に見られ流出孔滓的なものであり、64は下面と手前側部に別単位の滓が重層している。67と68は表面が紫紅色で外観も良く似た幅広の滓である。

B群鍛冶滓（含鉄）（第127図67～90）　67～90は金属部分が含まれた全体的に小形の鍛冶滓である。これらのメタル度は67～71が錆化（△）、72～75がH（○）、76～80がM（◎）、81～85がL（●）、86～90が特L（☆）である。

錆化（△）（67～71）　67と69は塊状のもので、68はやや扁平な形状のもので木炭痕が確認される。70と71はやや大振りなもので71は内部に木炭痕が見られ炉内滓的な外観である。

H（○）（72～75）　72～75は小塊状の滓である。73は小さな椀形のもので、75は上面が半流動状のものである。

M（◎）（76～80）　76、77は小塊状の滓で、78は下面が皿状の滓である。79は椀形滓様の滓で上面に粘土質の滓が固着しており、80は大型の流動滓片様の滓で下面は凹凸が著しく製錬系の流動滓の可能性も考えられる。



第127図　西区製鉄関連遺物実測図７（S＝１／３）

L（●）（81～85）　81と82は小形の扁平な滓であり、84はねじれたような形状のもので下面の凹部は木炭痕の可能性が考えられる。

特L（☆）（86～90）　86は薄手で船底状の外観の滓で、87はボタン状の外観のものである。88は比重が高い塊状の滓で、89は上面が波状で一部に木炭をかみ込んでいる。90は上面中央部が突出した異形のもので、上面は流動状の滓部である。

B群鍛冶鉄塊系遺物（第128図91～95）　91～95はメタル度が特L（☆）の鍛冶系の鉄塊系遺物である。91～93は小形のもので、91は左右に反り返り滓部の無いもの、92は扁平な板状の形状で上面に木炭痕のあるもの、93は椀形で比重が高いものである。

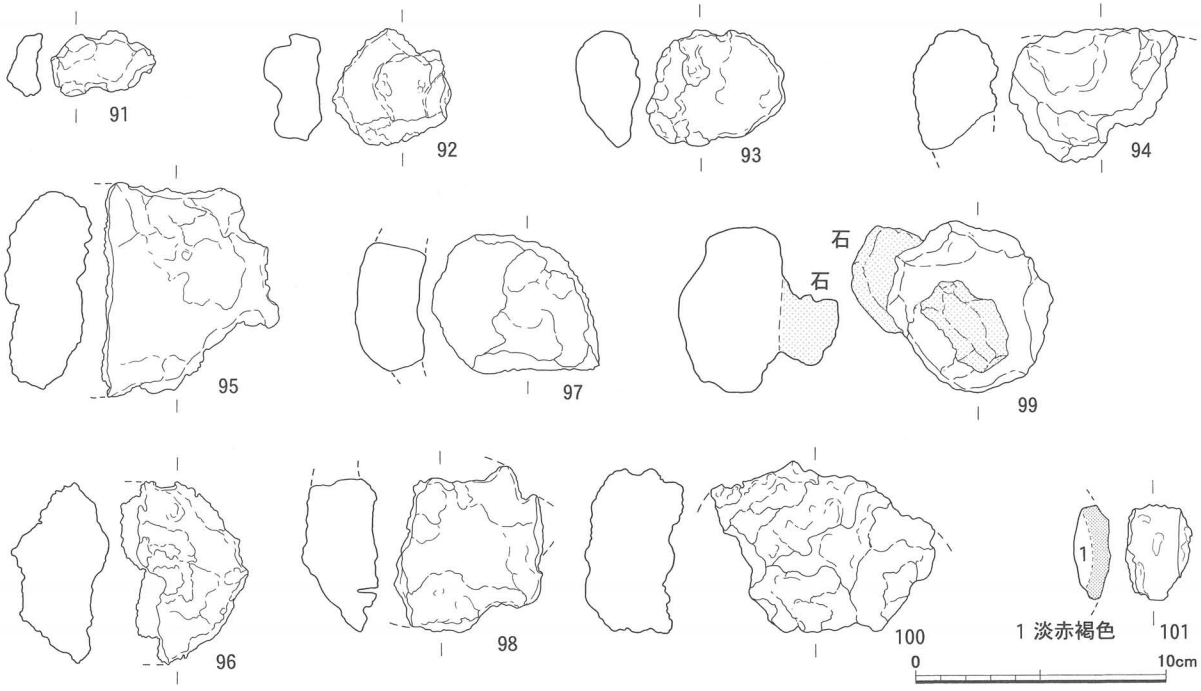
94、95はやや大きめの椀形のもので、94の上面は波状で下面は樋状、95は比重が高いものである。

B群椀形鍛冶滓（小）（第128図96～100）　96～100は径が７cm前後の小振りな椀形鍛冶滓である。96は右側部片であり上面は緩やかな山形のもので、97は上面が下面と同様緩やかな椀形で下面には粘土質の滓が固着している。98は肩部が波状にうねり下面には粉炭痕が見られる。99は炉壁片や石が固着したもので、100は上下面に木炭痕が密集し内部にも木炭痕が見られる。

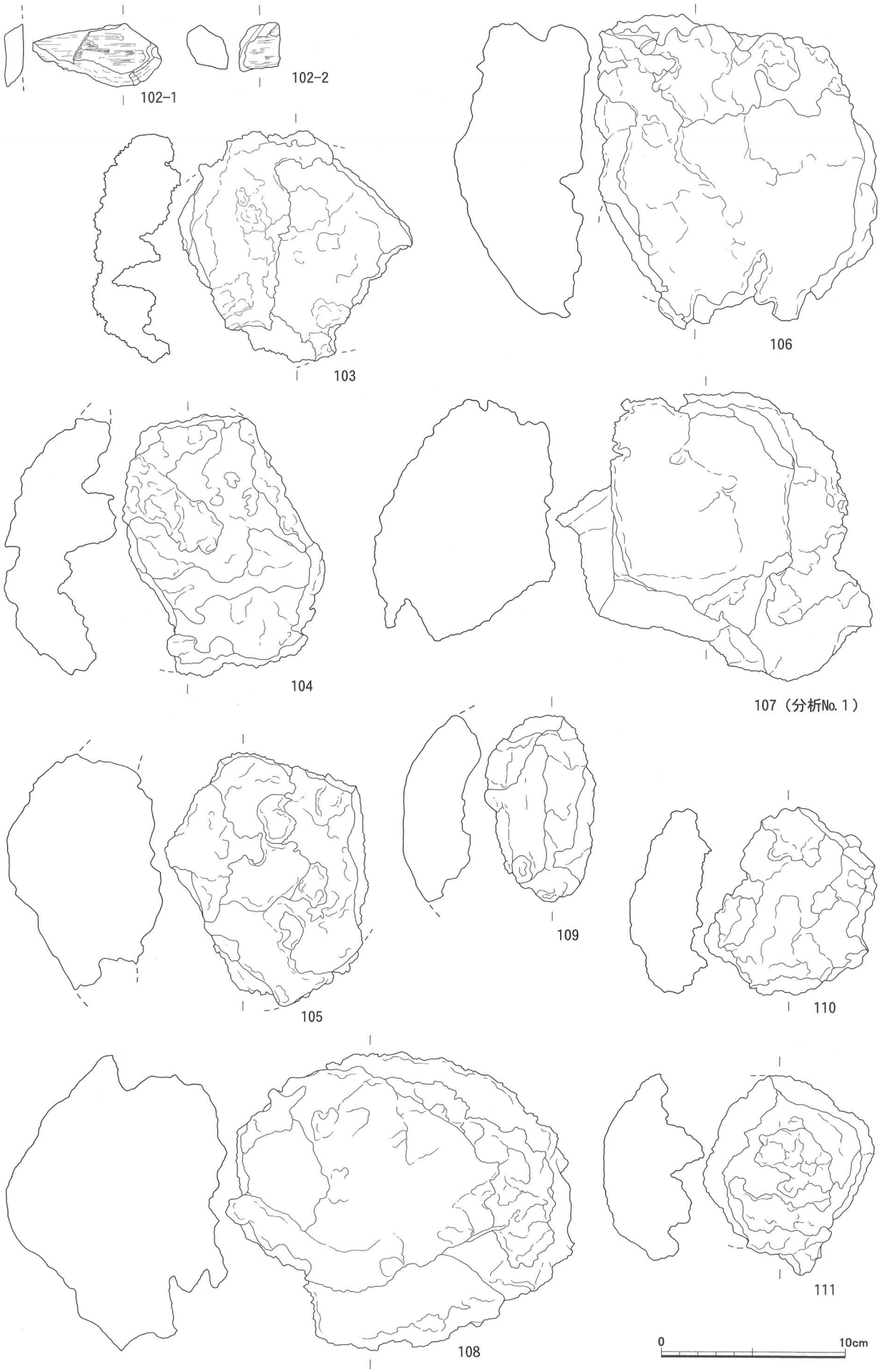
B群羽口（第128図101）　101は羽口の小片である。表層は黒色ガラス質に滓化しており胎土は軟質で砂粒を若干混和している。通風孔部が欠落した羽口先端片と思われる。

C群木炭（第129図102－1・2）　102は建物跡の覆土及びピットから出土しており、近世頃の鍛冶炉に関連する可能性がある黒炭である。－１は木取りが平割りのもので右側部に工具痕が見られる。－２は松の可能性がある軟質なものである。

C群椀形鍛冶滓（大）（第129図103～106）　103～106は幅が13cm～17cm程の大型の椀形鍛冶滓であり、B群のものと比較すると、色調が赤黒く密度が低いスカスカの印象がもたれる外観の滓である。



第128図　西区製鉄関連遺物実測図８（Ｓ＝１／３）



第129図　西区製鉄関連遺物実測図９（Ｓ＝１／３）

103と104は上面の凹凸が著しい滓で扁平なものである。103は下面に光沢のある鍛造剥片が多量に付着し粒状の滓もできかかっている。104も下面に鍛造剥片が付着しやや大きめの木炭痕も見られる。105と106は厚手で上面は103や104ほど凹凸は見られない。105は上層以外の部分は滓が緻密であり、106は下面に多量の鍛造剥片が固着し木炭痕も密集している。

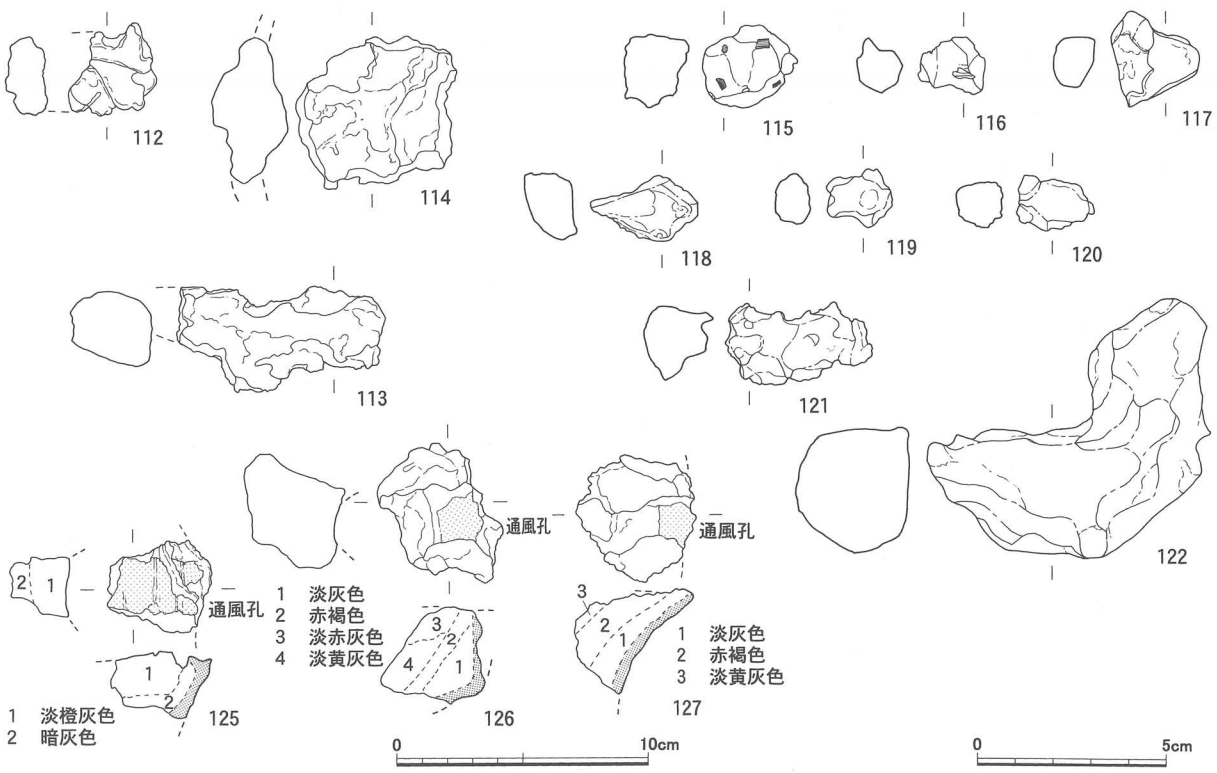
C群椀形鍛冶滓（二段）（第129図107、108）　107、108は幅16cm程の大型の椀形鍛冶滓が2段に重なっている滓で、両者とも上面に扁平で一回り小さい滓が見られる。107は分析資料で下面の木炭痕の凹み部分に光沢をもった鍛造剥片が多量に固着する。108はほぼ完形の滓で上面の滓は流動状で下面の滓は全体的にガサガサしており質感が異なっている。

C群椀形鍛冶滓（中）（第129図109～111）　109～111は幅10cm程の中型の椀形鍛冶滓である。109は緻密な滓で上面は破面である。110は完形の滓で上下面に木炭痕が見られる。111はガサガサした質感の滓で上面の凹凸が著しく下面には鍛造剥片が固着している。

C群鍛冶滓（第130図112～114）　112～114は小振りな鍛冶滓であり、112は上面に光沢を持つもの、113は半流動状でやや緻密なもの、114は扁平で上面の凹凸が著しい滓である。

C群鍛冶滓（含鉄）（第130図115～122）　115～122は金属部分が含まれた小形の滓である。これらのメタル度は115が錆化（△）、116～118がH（○）、119と120がM（◎）、121と122がL（●）である。またこれらの大部分は炭土坑（第94図）から出土しているものである。

C群羽口（第130図125～127）　125～127は羽口の先端部の破片であり、通風孔部の壁が残っている。125は通風孔部に横方向の擦痕が残り明褐色の胎土である。126の先端部は発泡気味の部分と滓化部分の両方が見られ胎土は明褐色から赤褐色である。127の先端部は強く溶解しており胎土はスサが混じる粗い粘土質のものである。



第130図　西区製鉄関連遺物実測図10（S＝1／3・1／2）

第6章　ま　と　め

最後にこの章で、板屋Ⅲ遺跡の西側調査区で検出された遺構や遺物を中心にまとめて結びとしたい。また記述にあたっては、第３色土層、第２色土層、第１色土層の各土層ごとに古い方から順に述べていきたい。

第１節　第３黒色土層の調査成果

第３黒色土層からは縄文時代早期に位置付けられる集石遺構を検出し、また黒色土層上部を中心に早期から前期にかけての土器と石器が出土している。本節では土器の分類とその時期を中心に述べる。

１．出土土器について（第131図）

出土した土器は大きく８類に分けられるものであった。**１類**（第46図１、２）はネガティブな楕円文が施文される押型文土器である。これらは神宮寺式に並行し早期前半と考えられる。

２類（第44図１～３）は集石遺構の下部から出土した山形文が帯状に施文された押型文土器である。これは神並上層式と喜島式の間と考えられており[*22]早期後半～末に位置づけられる。

３類（第46図13）は１点だけ出土しており、「３」字状の刺突文が連続して施されているもので羽島下層Ⅱ式に並行するものとみられ、前期前半頃のものと思われる。

４類（第46図１～８）は外面にいわゆるミミズ腫れの細隆帯が付くものである。第46図の８は断面三角形の隆帯にキザミが入る異形のものであるが、この類型と関連が深いものと思われる。これらは轟Ｂ式に並行するものと見られ、前期前半頃[*23]に比定される。

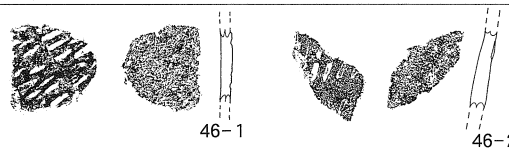
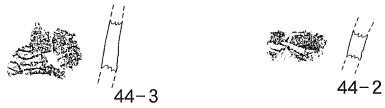
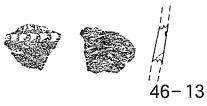
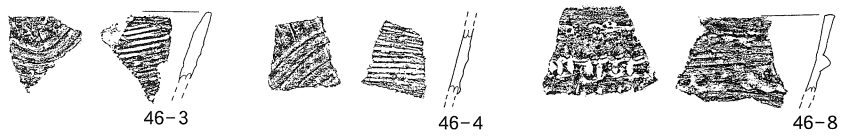
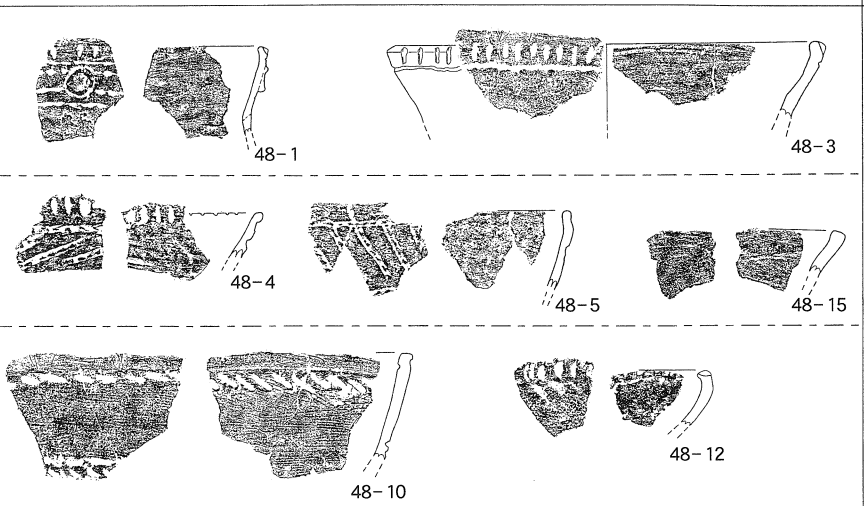
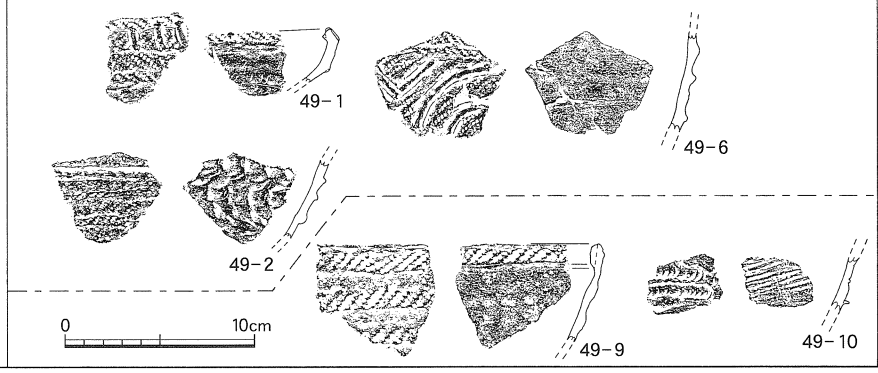
５類（第47図１～11）は条痕地で爪形文が施されているものである。爪形文は間隔が広いもの（４）と狭いもの（８）の２つに細分も可能なものである。また９のように半裁竹管状工具で押し引いて文様を付けるものも関連が深いものと考えられる。これらは羽島下層Ⅲ式に並行すると思われ、前期中葉頃に位置づけられる。なお、一次調査では縄文地で爪形文が施される土器が出土しているが、今回の調査では確実に縄文地であると判断されるものは出土しなかった。

６類（第46図９～12）は平行する短線が施されている土器である。これらは曽畑式と関連が深いものと思われ前期後半頃のものと考えられる。

７類（第48図）は条痕地で口縁部に刺突・押し引き文が施される一群である。これらはヘラ状工具による押引文（１、５）、半裁竹管状工具による押引文（４、５、15）、刺突文のみ（10、12）の３つに細分できるものである。この７類は月崎下層式や彦崎Ｚ式に比定され前期後葉と考えられる。

８類は（第49図１～10）はキャリパー状の口縁で縄文地に貼り付けた突帯上を半裁竹管状工具で押し引く土器である。さらに内面に指頭圧痕が顕著に見られるのも特徴である。また9と10はやや異なるものであるが、この類型の土器と関連が深いものと推測した。これらの土器は里木１式に並行すると思われ前期後葉頃に位置づけられる。

以上述べてきたように第３色土層からは早期前半から前期後葉に位置付けられる土器が包含されていることが確認された。またこの成果は、これまで実施された志津見周辺の遺跡の成果と矛盾ないものであることも追認された。

類型	特　徴	実　測　図	関連型式	時期
1類	押型文土器 ネガティブな楕円文		神宮寺式	早期前半
2類	山形文が帯状施文		神並上層式と黄島式の中間	早期後半〜末
3類	「3」字状の 刺突文の連続施文		羽島下層Ⅱ式	前期前葉
4類	外面に細隆起帯文（いわゆるミミズ腫れ状の隆帯）		轟B式	前期前半
5類	地文は条痕で爪形文（半裁竹管状工具による押引文含む）		羽島下層Ⅲ式〜磯ノ森式	前期中葉
6類	短沈線文		曽畑式	前期後半
7類	地文は条痕で押し引き沈線文が施される。口縁部には刺突文。 ・ヘラ状工具による押し引き沈線文 ・半裁竹管状工具による押引文 ・刺突文のみ		月崎下層式	前期後葉
8類	地文は縄文で貼付突帯上に半裁竹管状工具による押引文。 口縁端部内面に縄文、内面に指頭圧痕が顕著。		里木Ⅰ式	前期後葉

第131図　第3黒色土層出土縄文土器一覧（S＝1／4）

第２節　第２黒色土層の調査成果

第２黒色土層からは縄文時代前期末頃の落し穴（ＳＫ０５）を検出し、その覆土中から玦状耳飾が２点出土している。また黒色土層上部を中心に前期末～後期中葉にかけての土器と石器が出土している。本節では特徴的な遺物である玦状耳飾と土器の時期を中心に述べる。

１．出土玦状耳飾について

板屋Ⅲ遺跡では、ＳＫ０５（第２色土層の調査）から２点と第１色土層から１点の合計３点出土している。これらについてここでは県内出土の玦状耳飾も同時に概観して整理しておきたい。

（１）板屋Ⅲ遺跡出土の玦状耳飾りの特徴と時期

第２黒色土層で検出したＳＫ０５出土の２点（第55図13、14）は大歳山式に並行する土器が伴っているので縄文時代前期末の時期が推測される。２点とも細長いヘラ状のもので復元される長さは10.8cmと全国的に見ても非常に細長い形状で樋口分類のＡ類に相当するものと考えられる。

一方で第１黒色土層出土の１点（第111図15）は小形で横長の半円形の耳飾であり樋口分類のＦ類に相当すると思われ、第２黒色土層出土の２点とは異なる形状のものである。この耳飾の時期は包含層出土であり詳細には分からないが、包含層の時期から後期中葉～晩期の時期が推測される。

（２）県内出土の玦状耳飾について

完全ではないが県内出土の玦状耳飾を集めたものが第７表[*24]である。これらの中には時期が不明なものがあり細かな検討が難しいので、ここでは分布や時期等を概観するに留めたい。

玦状耳飾の中で最も多く出土している形状のものは樋口分類のＦ類である。この形状のものは、隠岐、島根県東部の海岸部、山間部の各所で見られる。またこの形状の耳飾の時期は板屋Ⅲ遺跡や家の後Ⅱ遺跡の様相から後期を中心とした時期が現状では考えられ、他のＡ類、Ｃ類より後出する形状の耳飾であるのかもしれない。Ｃ類は佐太講武貝塚遺跡や新槇原遺跡の様相から現状では前期を中心とした時期が考えられる。Ａ類、Ｂ類、Ｅ類については各１遺跡から出土しているだけであり、時期的な位置づけは資料的に無理があるが、Ａ類は前期末を中心とした時期が考えられ、Ｅ類は形状が類似したＦ類と似たような時期が考えられる。

以上述べてきたことをまとめると、玦状耳飾は前期を中心とするＣ類があり、前期末頃には縦に

第７表　島根県内出土の抉状耳飾一覧

番号	遺跡名	所在	出土遺構	形状	樋口分類	長さ(cm)	時期	備考
1	**板屋Ⅲ遺跡**	**飯石郡頓原町志津見**	**落とし穴（ＳＫ05）**	**下方に長く垂れる**	**Ａ類**	**9.3以上**	**前期末**	**第55図13、補修孔**
2	**板屋Ⅲ遺跡**	**飯石郡頓原町志津見**	**落とし穴（ＳＫ05）**	**下方に長く垂れる**	**Ａ類**	**5.6以上**	**前期末**	**第55図14**
3	**板屋Ⅲ遺跡**	**飯石郡頓原町志津見**	**包含層（第１色土層）**	**横長の半円形**	**Ｆ類**	**1.67**	**後期中葉～晩期**	**第111図15**
4	家の後Ⅱ遺跡	大原郡木次町北原	１区旧河道	横長の半円形	Ｆ類	3.6	後期	補修孔、二次加工か？
5	家の後Ⅱ遺跡	大原郡木次町北原	１区包含層	横長の半円形	Ｆ類	3.1	後期？	切れ目が短い
6	垣ノ内遺跡	大原郡木次町北原	包含層	やや縦長の方形	Ｂ類		中期～晩期	
7	サルガ鼻洞窟遺跡	八束郡美保関町	包含層	横長の半円形に復元	Ｆ類	－	不明	補修孔
8	佐太講武貝塚遺跡	八束郡鹿島町	包含層（第16調査区）	円形	Ｃ類	4.95	前期か？	補修孔
9	恵良遺跡	江津市二宮町神主	包含層	破片	－	－	不明	違う石製品の可能性あり
10	新槇原遺跡	美濃郡匹見町	表採	やや方形に近い円形	Ｃ類	4.4	不明	補修孔？
11	岩井津(岩泉)遺跡	隠岐郡西郷町	表採	三角形に近い形に復元	Ｅ類	2.7	不明	
12	郡山遺跡	隠岐郡海士町	表採	三角形に近い形に復元か？	Ｅ類？	3.7	不明	補修孔
13	郡山遺跡	隠岐郡海士町	－	横長の半円形	Ｆ類	－	不明	
14	郡山遺跡	隠岐郡海士町	－	横長の半円形に復元	Ｆ類	－	不明	

長い形状のＡ類が出現し、Ｆ類が後期を中心として存在する可能性が現状の資料では考えられる。

２．出土土器について（第132図）

出土した土器は大きく５類に分けられるものであった。**１類**（第58図１～14）は地文が縄文で突帯上を半裁竹管状工具で押し引くものである。そして口縁端部内面には縄文が付され、口縁部はキャリパー状のもの（１、２）と直線的でキザミが入れられるもの（６）の２種類に細分される可能性がある。また、突帯上の押し引きも間隔が細かいもの（１、２）と間隔が広いもの（６）が存在する。これらは６のように押し引きの間隔が広いものが里木Ⅰ式の可能性もあるが、おおむね大歳山式に並行すると考えられ前期末と推測される。

２類（第58図11～14）は原体の太い縄文地の土器である。これらは船元１式～Ⅱ式に並行するものと思われ中期前葉に位置づけられる。

３類（第58図16～19）は縁帯文土器であり、肥厚した口縁端部外面に縄文を付す16や太い沈線文が施された18が存在する。またこれらに伴う浅鉢として胴部屈曲部に刺突を施すもの（19）が考え

類型	特　徴	実　測　図	関連型式	時期
1類	地文は縄文で貼付突帯上に半裁竹管状工具による押引文。口縁端部内面に縄文。	58-1　58-2　58-6	大歳山式	前期末
2類	原体の太い縄文地の土器	58-11　58-14	船元Ⅰ式～Ⅱ式	中期前半
3類	縁帯文土器 太い沈線文	58-16　58-19　58-18	布勢式 崎ヶ鼻式	後期前葉
4類	沈線文で区画された綾杉状の沈線文。	58-15	—	—
5類	大きな原体による押引文（内面に押し引きが反映されて膨らむものあり。）	59-1　59-2　59-5　59-4　0　10cm	月崎下層式	（前期末か？）

第132図　第２黒色土層出土縄文土器一覧（Ｓ＝１／４）

られる。なお本来は細分可能であると思われるが出土点数が少ないことから一括している。これらの縁帯文土器は布勢式又は崎ヶ鼻式に比定され後期前葉に位置づけられる。

4類（第58図15）は1点だけ出土しているもので、沈線文で区画された綾杉状の沈線文が施された土器である。当初邑智郡瑞穂町郷路橋遺跡の土坑（ＳＫ26）から出土している土器[*25]と類似したものと考えて磨消縄文土器に関連する可能性を想定していた。しかし、非常に良く似た土器が板屋Ⅲ遺跡の一次調査では第3黒色土層から出土しており、下層のものが混入した可能性も考えられ、時期については保留しておきたい。

5類（第59図1～5）は大きな原体による押引文が見られる土器であり、内面に押し引きが反映され膨らむもの（2）もある。また、口縁部に刺突が施される土器（4、5）も関連が深いものと推測される。これらは月崎下層式に比定されるものである。しかし、前節で述べた第3黒色土層出土の土器にも月崎下層式に比定される一群（第131図7類）が存在していることから、本来第3黒色土層に伴う土器が混入している可能性が考えられる。

ただ、第3黒色土層で7類に分類した一群と比較すると原体の太さが異なっている。さらに月崎下層式の細分[*26]によると、ある程度の時期幅が存在し大きな原体のものは新しい様相の土器である。これらの理由から、第2黒色土層で出土する一群は月崎下層式の新しい段階のもの、第3黒色土層出土の一群は月崎下層式の古い段階のものと理解することも可能である。

この5類の位置づけについては、結論として今回は保留し、今後の類例の増加によって再検討されることを期待する。

以上述べてきたように第2黒色土層には前期末には後期中葉に位置付けられる土器が包含されている。この様相はこれまで実施された志津見周辺の遺跡の調査成果と矛盾はない。

第3節　第1黒色土層の調査成果（縄文時代）

この節では、第1黒色土層から出土している縄文土器について述べ、黒色土層から多数出土した弥生土器と弥生時代の竪穴住居跡については後節で述べることとする。

1．出土縄文土器について（第133図）

第1黒色土層から出土した縄文土器は非常に少ないが、大きく4類に分けられるものであった。

1類（第99図3，4）は口縁部内面に沈線文が施されるもので、外面に沈線が施されるものも関連が深いものと考えた。これらは岩田4類に近いものと推測され後期末頃のものと考えられる。

2類（第99図1）は口縁が緩く外反するもので、おそらく屈曲する頸部をもつものである。これは篠原式古段階に相当する可能性が考えられ、晩期中葉に比定される。

3類（第99図7）は浅鉢であり、外反する長い口縁部を持ち内外面にミガキが見られる精製土器である。これは谷尻式に類するものと思われ晩期中葉に位置づけられる。

4類（第100図1～19）は突帯文土器である。これらは突帯の貼り付けられている位置によって大きく3つに分けられる。それは口縁部から若干下がった位置に付く一群（A類：2、4、5）、胴部に突帯が付く一群（B類：8、10、11）、口縁端部に接して大きめの突帯が付く一群（C類：14、15、18）の3群である。このうち4B類とした胴部に突帯が付く一群は、4A類の口縁部の胴部である可能性が考えられる。またそれぞれの突帯を細かく見るとキザミがあるもの、無いもの、竹管状工具で刺突が施されるもの、といったように突帯にもいくつか種類が存在する。

これらの突帯文土器の時期は４Ａ・Ｂ類が沢田式に並行する可能性があり、晩期後葉頃と思われる。そして４Ｃ類は突帯文土器の終末段階と考えられ晩期後葉～末頃に位置づけられるものであろう。

なお４類とした突帯文土器について第一次調査で出土したものと比較すると、一次調査で出土している口縁端部にキザミをもった突帯文土器（前池式に近い一群）は今回出土していない。また４Ｃ類とした突帯文土器は一次調査でも出土しているが、キザミや刺突のある突帯が貼り付けられたものが今回の調査で新たに出土している。

以上述べてきたように第１黒色土層からは後期末から晩期後葉に相当する土器が包含されていることが確認され、この様相は周辺地域の調査成果と矛盾が無いものであった。

類型	特　徴	実　測　図	関連型式	時期
1類	口縁部内面に縄文（外面に沈線文の土器含む）	99-3　99-4	岩田４類？	後期末
2類	屈曲する頸部を持ち口縁部が外反する	99-1	篠原式古段階？	晩期中葉
3類	肩部が張り、口縁部が長く外反する（無文精製浅鉢）	99-7	谷尻式？	晩期中葉
4類	突帯文土器 ・口縁端部よりやや下がった位置に突帯が付く。	100-2　100-4　100-5	沢田式	晩期後葉～末
	・胴部に突帯が付く	100-8　100-10　100-11		
	・口縁端部に接するように突帯が付く	100-14　100-15　100-18　0　10cm		

第133図　第１黒色土層出土縄文土器一覧（Ｓ＝１／４）

第４節　縄文時代の調査成果について

この節では、第３黒色土層～第１黒色土層の調査で出土している縄文時代の土器と石器について数量的な面から検討して縄文時代の調査成果のまとめとしておきたい。

１．出土した縄文土器の破片数について（第14表～16表参照）

第１黒色土層～第３黒色土層で出土している縄文土器の破片数は1,834片であり、これらの内訳は第３黒色土層1,277片、第２黒色土層366片、第１黒色土層191片であった。この破片数を見ると第３黒色土層が圧倒的に多いと指摘することができる。ただし、各黒色土層の縄文時代の中での期間を検討すれば大雑把であるが第３黒色土層が５千年程、第２黒色土層と第１黒色土層が千年程であり、その期間を踏まえると第３黒色土層出土の縄文土器が多いことは当然と考えることができる。

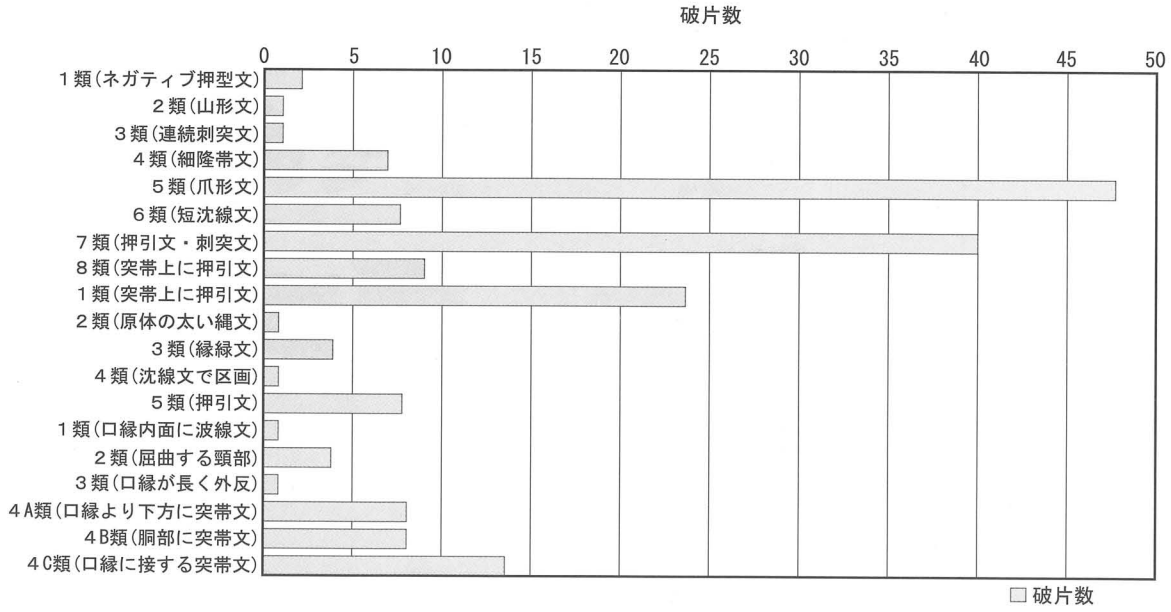
２．各類型ごとの出土破片数（第134図）

出土した縄文土器片の分類については既に述べてきたとおりであるが、ここではその各類型の破片数について検討したい。ただし分類した類型にもさらに細分可能なものもあったり、それぞれの類型の想定される時期幅が異なっている可能性が十分にあり、単純に比較することは危険であるので、大まかな遺跡の様相を捉える程度の検討に留めておきたい。

各類型ごとの破片数をグラフとして表したものが第134図である。このグラフの作成にあたっては基本的に文様等の特徴が分かり、どの類型に所属するのか判断されるものを対照にしており、条痕だけの破片は含めていない。また、縄文が施された破片で、ある程度所属する類型が想定されるものもあえて含まないことにした。

第134図のグラフを見ると類型によって破片数の多少があることが分かる。類型で突出して多いものは第３黒色土層の５類（前期中葉）、７類（前期後葉）と第２黒色土層の１類（前期末）である。このことから出土した土器で類型が分かる破片は前期中葉～末に集中していると言える。また早期～前期前半、中期～晩期中葉に属している破片は非常に少なく、晩期後葉の突帯文土器の時期にある程度増えている点も指摘される。

以上述べてきたことから、今回調査した板屋Ⅲ遺跡の西側調査区では、早期～晩期にかけての各時



第134図　各類型の縄文土器の破片数

期の土器が出土しているが、その中心は前期中葉～前期末であることが土器破片数から指摘される。

なお、本来は今回の調査成果と第一次調査の成果を加えて遺跡全体の様相を明らかにする必要があったが、時間的に検討ができなかったことが課題として残った。

3．三瓶山火山灰と縄文時代遺跡の関係（第８表）

今回の調査成果と三瓶山の火山灰との関係を周辺地域の遺跡も含めてまとめたものが第８表[*27]である。この表からも分かるように板屋Ⅲ遺跡の一次調査と比較すると火山灰との関係は矛盾がないものである。また土器型式から見ると、基本的に一次調査から出土しているものと変わらず、今回の調査で新たに早期の神宮寺式並行の押型文土器が出土していることが異なるのみである。

火山灰の降下と土器形式の関係を見ると、既に指摘されているように第１ハイカ層は、その下層（第２黒色土層）で彦崎Ｋ１式並行の土器が出土し、上層（第１黒色土層）で四元式並行の土器が出土していることから後期中葉に降下した可能性が高いものと考えられる。第２ハイカ層はその下層（第３黒色土層）から里木１式並行の土器が出土し、上層から大歳山式並行の土器が出土していることから前期末頃に降下したものと考えられる。ただ、第２ハイカ層については、上層から大歳

第８表　三瓶火山灰と縄文時代遺跡の関係

時期		板屋Ⅲ 一次調査	板屋Ⅲ 西側	五明田	森	下山	門	小丸	神原	貝谷	檀原	茶屋谷	三田谷	矢野	
晩期	沢田	●	◎		●	●	●	●	●	●			●		第１黒色土層
	前池	●			●	●		●	●	●					
	谷尻	●	◎		●	●	●	●	●	●			●		
	篠原	●	◎		●	●			●						
	滋賀里Ⅲa	●			●	●									
	滋賀里Ⅱ	●	◎					●	●						
後期	滋賀里Ⅰ							●							
	福田KⅢ	●			●	●	●							●	
	彦崎KⅡ				●	●		●				●			
	四元	●				●		●	●			●	●	●	
	第１ハイカ層（三瓶太平山火山灰）														
期	彦崎KⅠ	●	◎	●	●	●		●	●	●			●		第２黒色土層
	福田KⅡ	●		●		●		●	●	●			●		
	中津	●		●		●		●	●	●			●		
中期	里木Ⅱ	●		●		●			●		●				
	船元Ⅳ	●		●											
	船元Ⅲ			●		●									
	船元Ⅱ	●	◎	●					●						
	船元Ⅰ	●	◎			●									
前期	大歳山	●	◎												
	第２ハイカ層（三瓶角井降下火山灰）														
	里木Ⅰ	●	◎			●									第３黒色土層
	彦崎ZⅠ	●	◎			●									
	磯ノ森	●	◎			●			●						
	羽島下層Ⅲ	●	◎			●		●	●	●					
	羽島下層Ⅱ	●	◎			●			●	●					
	羽島下層Ⅰ														
早期	アカホヤ火山灰														
	繊維土器	●				●									
	穂谷														
	高山寺					●									
	黄島					●									
	帯状施文押型文土器	●	◎												
	神宮寺		◎			●									
	大川														
草創期	弘法滝Ⅳb	●													

山式並行の土器が出土している遺跡が板屋Ⅲ遺跡の１例みであることから、今後の周辺遺跡の類例が待たれる。なお、三瓶火山灰と黒色土層の放射性炭素年代測定値を第９表*28に掲げている。ちなみに今回の調査では第４黒色土層下部の最も黒色の部分を測定している。この表を見ると各層位で矛盾が殆ど見られないが、第３黒色土層の調査で検出した遺構試料の測定値が矛盾している点がやや問題であり、今後のさらなる検討が必要と思われる。

４．出土石器の組成について（第10表、第135図）

西側調査区で出土した石器をまとめたものが第10表と第135図である。これらを敦賀敬一郎氏の研究*29を採用してその機能・用途別に大きく７つに分類した。その内訳はⅠ類が狩猟具（石鏃、尖頭器）、Ⅱ類が漁撈具（石錘）、Ⅲ類が植物質食料加工具（石皿・台石類、磨石・敲石類、凹石）、Ⅳ類が処理加工具（スクレーパー類、石匙、石包丁状石器）、Ⅴ類が伐採加工具（磨製石斧）、Ⅵ類が土掘り具（打製石斧）、Ⅶ類が工具（楔形石器、石錐、砥石）である。

この７つに大きく分類した石器の各黒色土の様相について見てみると、第３黒色土層で圧倒的にⅡ類の石錘が多く、次にⅢ類の磨石類、石皿類が見られる。第２黒色土層でも様相は第３黒色土層と変わらずⅡ類が圧倒的に多く、次にⅢ類が多い。第１黒色土層では、これまで圧倒的に多かったⅡ類の石錘が激減し、Ⅲ類の磨石類、石皿類が最も多くなる。またⅥ類の打製石斧が若干ではあるが見られるようになる。なお、第１黒色土層から出土している石器の中には弥生時代に属す石器も含まれている可能性が存在している。

さて、この西側調査区の石器の様相を一次調査の石器の様相を加えると、第３黒色土層・第２黒食土層ではⅡ類の石錘が最も多く、次にⅢ類の磨石・石皿類が多い。その一方で第１黒色土層ではⅡ類の石錘が激減し、Ⅲ類の磨石・石皿類が最も多くなっており、大きな変化が見られる点が特徴的である。この石錘の急激な減少がそのまま漁撈の生産活動の中での割合の減少を意味しているかは、より詳細な検討が必要であるが注目される点である。

５．石器の石材について

石器の石材については、サヌカイト製の石器と黒曜石の比率が第３黒色土層と第２・第１黒色土層では大きく異なっている点が既に下山遺跡の調査や板屋Ⅲ遺跡の一次調査で指摘されている。今

第９表　三瓶山火山灰と黒色土層の放射性炭素による年代測定値一覧

層位		放射性炭素年代測定値（yBP：下段の数字は補正年代、網掛けは遺構による測定）					
第１黒色土層							
第１ハイカ層（三瓶太平山降下火山灰層）		3600± 75 （補正値なし）	3530±100 （補正値なし）	3710±100 （補正値なし）	3710±130 （補正値なし）	3740± 50 （ 3740± 50）	
第２黒色土層		3680± 90 （補正値なし）	3740±170 （補正値なし）	3800± 50 （ 3810± 50）	3590± 40 （ 3590± 40）	3710± 50 （ 3710± 50）	3580± 60 （ 3570± 60）
第２ハイカ層（三瓶角井降下火山灰層）		4780±100 （補正値なし）					
第３黒色土層（浮布黒色土層）	（最上部）	5670± 70 （ 5730± 70）	4710±120 （補正値なし）	4710±160 （補正値なし）	4330±140 （補正値なし）	4750± 70 （補正値なし）	
	（上部）	6520± 60 （ 6560± 60）					
	（最下部）	8960± 70 （ 9050± 70）					
第３ハイカ層							
第４黒色土層		9570±240 （補正値なし）	9900±200 （補正値なし）	10880± 70 （10970± 70）	10760± 73 （10830± 70）	10980±200 （11050±200）	
三瓶浮布降下火山灰層							

第10表　板屋Ⅲ遺跡出土石器内訳

●第１黒色土・第１ハイカ上面出土石器（西側調査区）

剥片石器		礫石器	
種別	点数	種別	点数
石鏃	5	磨石・敲石類	33
剥片	55	打製石斧	3
石匙・スクレーパー	1	凹石	2
		砥石	7
		石皿・台石	20
		石錘	9
小計	61	小計	74
合計（剥片をのぞく）			80

●第３黒色土・第３ハイカ上面出土石器（西側調査区）

剥片石器		礫石器	
種別	点数	種別	点数
剥片	93	磨石・敲石類	28
石鏃	3	磨製石斧	6
石匙・スクレーパー	1	凹石	2
		石皿・台石	19
		石錘	143
小計	97	小計	198
合計（剥片をのぞく）			202

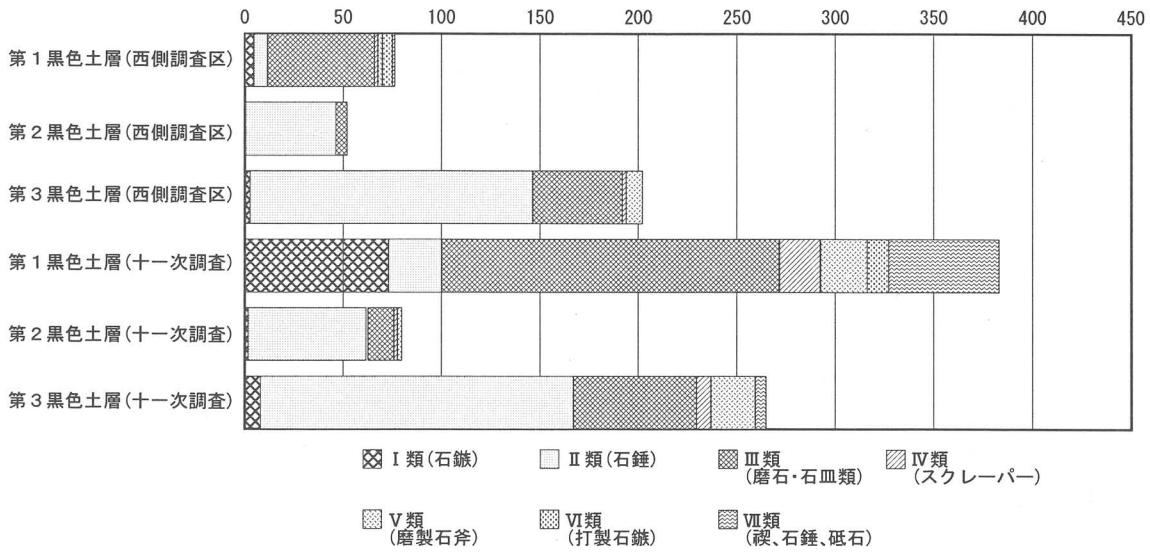
●第２黒色土・第２ハイカ上面出土石器（西側調査区）

剥片石器		礫石器	
種別	点数	種別	点数
剥片	14	磨石・敲石類	2
		凹石	1
		石皿・台石	3
		石錘	46
小計	14	小計	52
合計（剥片をのぞく）			52

●種類別数量（西側調査区）

剥片石器		礫石器	
種別	点数	種別	点数
剥片	162	磨石・敲石類	63
石鏃	8	砥石	7
石匙・スクレーパー	2	磨製石斧	6
		打製石斧	3
		凹石	5
		石皿・台石	42
		石錘	198
小計	172	小計	324
合計（剥片をのぞく）			334

	Ⅰ類（石鏃）	Ⅱ類（石錘）	Ⅲ類（磨石・石皿類）	Ⅳ類（スクレーパー）	Ⅴ類（磨製石斧）	Ⅵ類（打製石鍬）	Ⅶ類（楔、石錐、砥石）
第１黒色土層（西側調査区）	5	9	55	1	0	3	7
第２黒色土層（西側調査区）	0	46	6	0	0	0	0
第３黒色土層（西側調査区）	3	143	49	1	6	0	0
第１黒色土層（＋一次調査）	77	23	173	18	23	14	54
第２黒色土層（＋一次調査）	1	62	10	1	0	3	0
第３黒色土層（＋一次調査）	11	162	61	7	14	0	4



第135図　板屋Ⅲ遺跡石器組成グラフ

回の調査では安山岩の自然化学分析を行っていないことからサヌカイト製石器を抽出していないことから詳細な検討が十分には行えない。ただ、黒曜石製の石器の内で殆どのものが第３黒色土層で出土していることから、第３黒色土層では黒曜石製の石器の比率が大きく、第２・第１黒色土層ではサヌカイト製の石器が多く占めるといったこれまでの指摘と矛盾していないものと考えられる。

さて、黒曜石やサヌカイト製の石器以外の石器石材について最後に検討しておきたい。今回の調査で出土した石器の石材についてはその大部分を検討した*30。その結果大部分が神戸川上流域周辺で見られる石材であり地元で採れるものを利用していたことが判明した。ただし第３黒色土層出土の磨製石斧（第50図８、９）の２点と棒状の磨石（第50図10）、第１黒色土層出土の打製石斧（第111図１）の４点については他の石材とは異なり、周辺部では見られないものであることから他地域からの原石又は製品の搬入の可能性が考えられた。

第５節　弥生時代の調査成果について

本節では第１黒色土層で検出した弥生時代後期の竪穴住居跡と出土した弥生土器を中心に検討して弥生時代の調査成果のまとめとしたい。

１．検出した弥生時代の住居跡（第11表、第136図）

今回調査した西側調査区では可能性のあるものを含めて８棟の竪穴住居跡を検出している。さらに第一次調査では立て替えも含めて６棟検出しており、総数で14棟の竪穴住居跡を検出していることとなった。これらはＳＩ０２を除いて弥生時代後期に位置づけられる竪穴住居跡であり、弥生時代後期にはある程度の規模を持った集落が存在していたことが判明した。また、ＳＩ０４は調査区外に広がっており、本来は検出した住居跡以外に数棟まだ存在している可能性が高い。

（１）住居跡の形態と規模　住居跡の規模を見ると、径4.5m～5.5m程で床面積が14㎡以上のものが大部分であり、突出して大きいものは存在しないが、２号住居跡がやや小形のものであり、さらに主柱穴が２本の他と異なっている特徴が見られる。この２号住居跡は規模と構造から考えて他の住居跡とは異なる性格を持っている可能性がある。

住居跡の平面形は、全体が分かるものは隅丸方形で確実に円形のものが存在していない点が共通している。また、住居跡の構造は、２号住居跡以外では基本的に４本の主柱のもので、中央には土

第11表　板屋Ⅲ遺跡　弥生時代竪穴住居跡

	竪穴住居跡	規模（m、㎡）					特徴	出土土器	備考
		長径	短径	深さ	床面積	平面形			
西側調査区	西区ＳＩ０１	4.7	4.2	0.55	18.5	隅丸方形	４本柱・中央土坑	Ⅴ類	
	西区ＳＩ０２	4.4	3.5	0.2	9.8以上	不明	不明	中期か？	
	西区ＳＩ０３	5.3	3.4	0.3	12.3（推20.3）	隅丸方形（多角形？）	４本柱・中央土坑？	Ⅳ類	
	西区ＳＩ０４	4	1.6	0.6	4.3以上	隅丸方形	不明	Ⅳ類	
	西区ＳＩ０５	4.4	4.4	0.4	推14.6	隅丸方形	４本柱・中央土坑	Ⅳ類	切り合い新
	西区ＳＩ０６	4.5	3.6	0.3	推14.6	隅丸方形	４本柱・中央土坑	Ⅳ類	切り合い中
	西区ＳＩ０７	？	？	？	－	不明	不明	不明	切り合い古
	西区ＳＩ０８	3.8	1.8	0.4	5.3以上	不明	不明	Ⅴ類か？	加工段？
第一次調査	２号竪穴住居跡	4.1	3.7	0.25	12	隅丸方形	２本柱	Ⅳ類	
	３号竪穴住居跡	4	1.2	0.2	6.0以上	円形又は隅丸方形	不明	Ⅴ類	
	８号竪穴住居跡	2.5	？	0.3	推22.0	隅丸方形？	４本柱	Ⅳ類（古相）	
	11号竪穴住居跡（古）	4.2	4	？	推14.2	隅丸方形	４本柱	Ⅴ類	立て替え
	11号竪穴住居跡（新）	5.2	4.7	0.3	推20.8	隅丸方形	４本柱	Ⅴ類	立て替え（拡張）
	12号竪穴住居跡	5.6	4.5	0.9	15.3	隅丸方形	４本柱・中央土坑	Ⅳ類	

坑が設けられいるものが多い。

この隅丸方形で４本柱主柱を持って中央に土坑が設けられている住居跡は、同時期の出雲地方の宍道湖・中海周辺の住居跡と変わらないもので共通している。

（２）集落構造について　検出された住居跡の位置（第136図）を見てみると大きく４つの群に分けられる。それは北側から11号住居跡・12号住居跡・ＳＩ01・ＳＩ02・ＳＩ04で構成されるＡ群、ＳＩ05～07・ＳＩ03・ＳＩ08で構成されるＢ群、２号住居跡・３号住居跡で構成されるＣ群、８号住居跡で構成されるＤ群である。これらの住居跡の時期を見ると、各群を構成する住居跡は同じ時期がのものは無く、それぞれ時期が異なっている可能性が推測される。このことは、同時期に住居跡が各群に１棟又は２棟程存在している状況が想像される。当時の板屋Ⅲ遺跡内では、同時期に住居が２～３棟程で構成された集落編成であったものと思われる。

２．出土した弥生土器について（第137図）

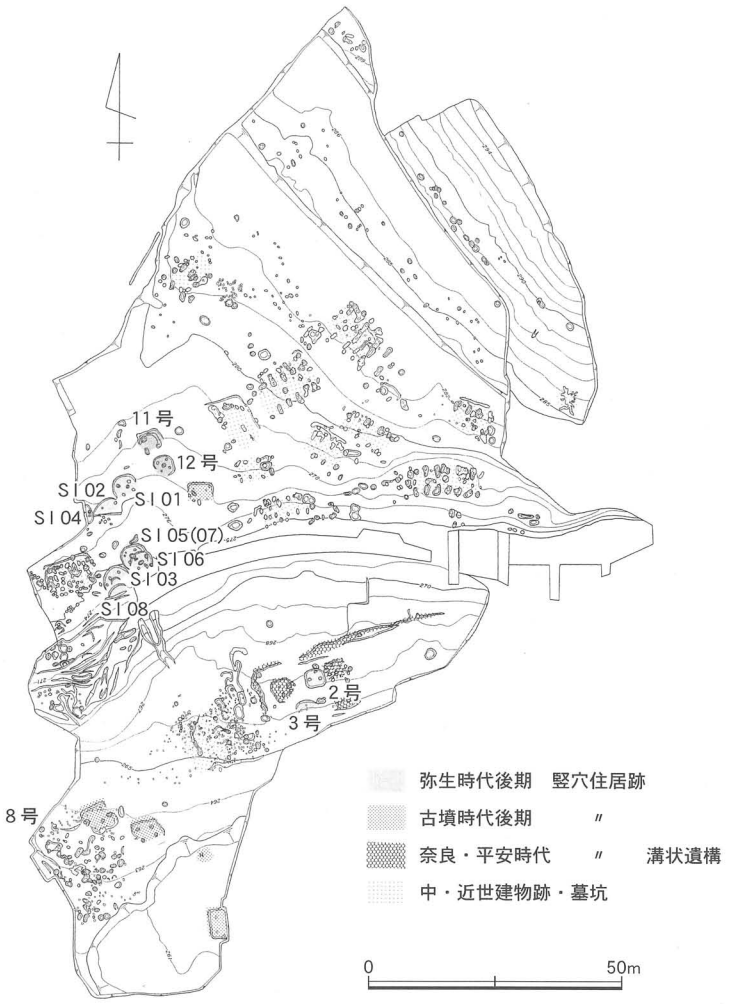
（１）甕の口縁形態について　第１黒色土層から出土した土器の大半は弥生時代に属するものであり、大部分が弥生時代後期に位置付けられる土器であった。これらの出土した後期の弥生土器の中で甕については、口縁部形態を基準にして大きく７つに分類し数をカウントして整理した。甕の口縁部の分類は、第３章第５節の包含層出土の弥生土器についての記述部分ですでに述べているが、もう一度ここで整理すると１類は口縁部に３～４条の凹線文が施されるものである。

２類は口縁部に平行沈線文が10条前後施されるもので、３類はさらに口縁部が拡張され、より密な平行沈線文が15条以上施されているものである。

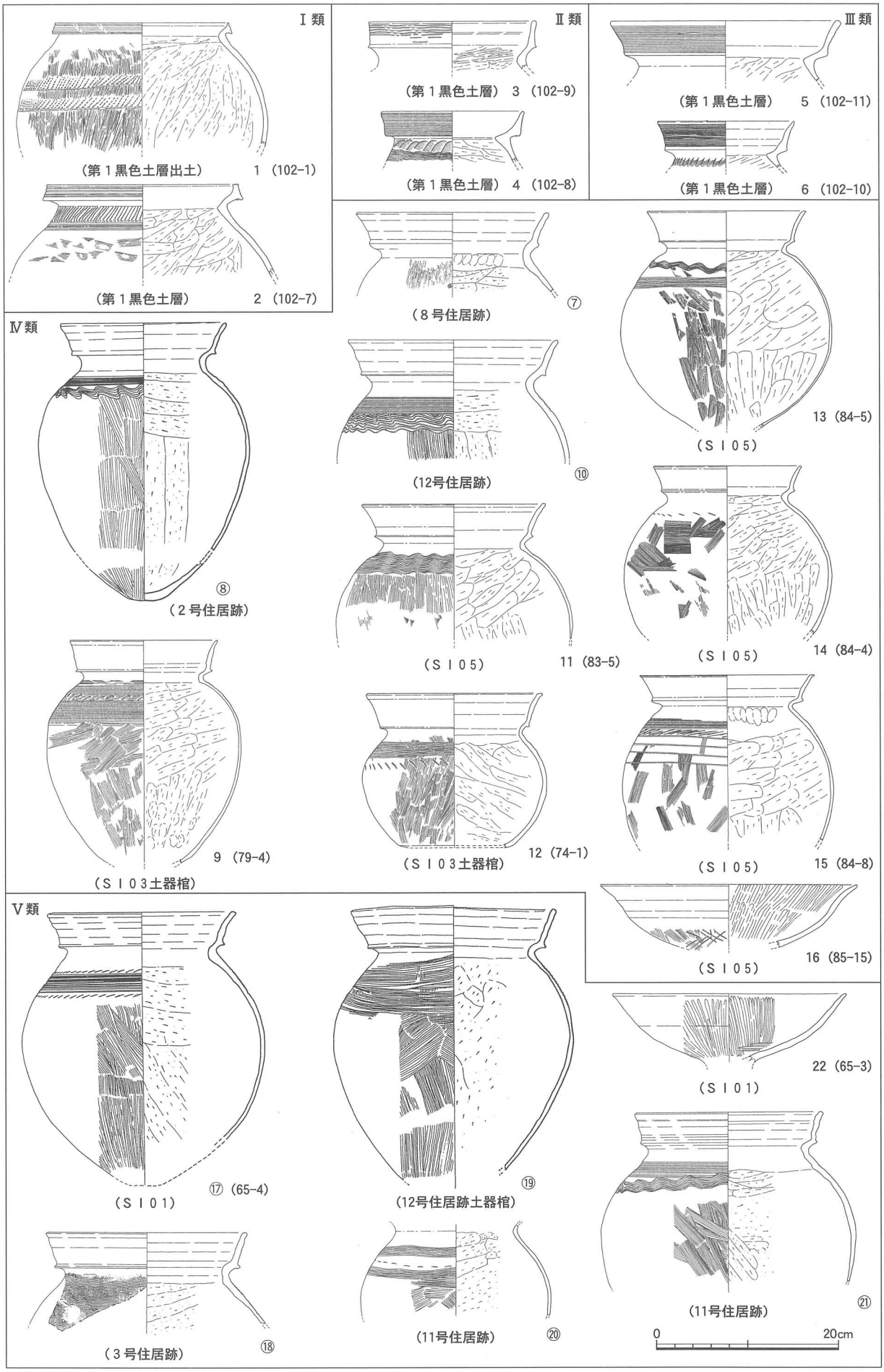
４類は平行沈線文が施されず口縁部立ち上がりの基部が厚く頸部の屈曲がシャープなもので、５類は口縁部の基部の器壁がヨコナデによって器壁が薄いものである。

６類は口縁端部に面を持っているもので、７類は口縁端部に面を持って内側に若干折れているものである。

以上のように口縁端部を基準に７つに分類し整理していたが、改めて完形に近い甕や一次調査出土品との比較検討を行う中で口縁形態の分類だけでは、問題があると思われたので再度検討を試みたいと考える。



第136図　第１ハイカ層検出遺構全体図（Ｓ＝１／8,000）



第137図　板屋Ⅲ遺跡出土の弥生時代後期の土器（Ｓ＝１／６、丸囲数字は一次調査出土）

（２）甕の再分類について（第137図）　板屋Ⅲ遺跡出土の後期に位置づけられる甕の中で、胴部上半～口縁部まで分かる個体について、検討してⅠ類～Ⅴ類の５つに分類したものが第137図である。この分類では口縁部に沈線文が施されている甕については、当初の口縁部形態のみから分類したものと同じものであるが、口縁部に沈線文が無いヨコナデ仕上げの甕については、大きく２つに分類し直している。また、各類型はこれまでの出雲地方の編年観からⅠ類～Ⅴ類へ変遷しているものと考えられる。以下各分類の内容について説明する。

Ⅰ類（１、２）は拡張した口縁部に３～４条の凹線文が入るもので、口縁部の拡張の幅によってⅠＡ類（１）とⅠＢ類（２）に細分される甕である。

Ⅱ類（３、４）はさらに拡張され複合口縁になったものに平行沈線文が10条前後施される甕。

Ⅲ類（５、６）はⅡ類よりも口縁が高く、外反し平行沈線文が15条以上施されている甕。

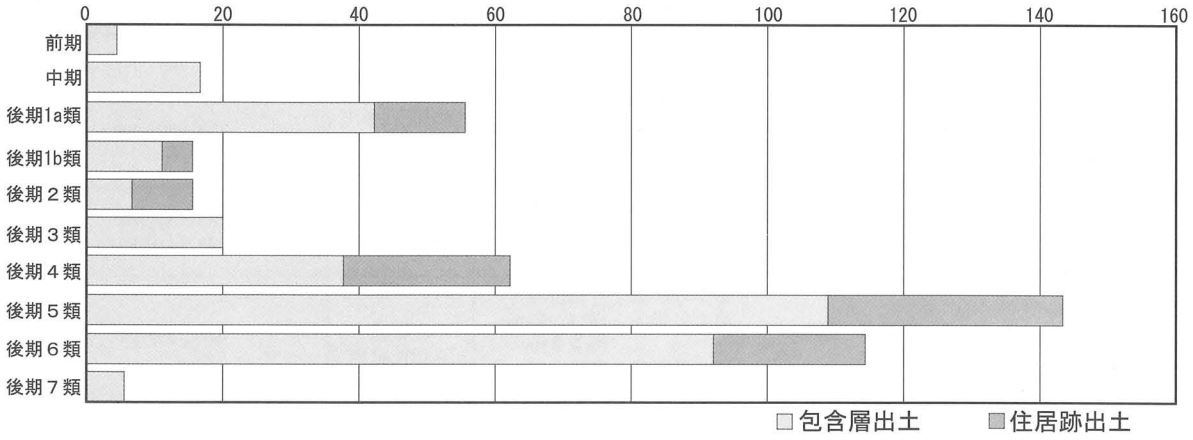
Ⅳ類（７～16）は口縁部に沈線文が無いものであり器壁が薄いもので口縁端部は尖り気味のものが多い。胴部は倒卵形で長いものが多い。ただし、13～15は胴部が球形に近いものであり、このような甕はⅣ類の中でも新しい様相の甕として捉えられる。中でも14と15は口縁部が短くより新しい様相が見られることから細分の余地がある。この類型の肩部の施文を見ると平行沈線文と波状文の組み合わせのものと平行沈線文と刺突文の組み合わせが見られる。なお、この類型とセットになると思われる鉢（12）、高坏（16）も掲載した。

Ⅴ類（17～22）は口縁部の立ち上がりが垂直気味のもので、端部に面を持ち外面の稜は水平方向に突出する個体であり、胴部はⅣ類に比して短くなり球形に近くなる。肩部の施文はⅣ類と同様に平行沈線文と波状文又は刺突文との組み合わせの両者が見られるが、波状文はⅣ類に比して緩やかで乱れたものである。

以上説明してきた各類型について、これまでの出雲地方における研究成果の内で鹿島町草田遺跡で行われた編年[*31]との並行関係を示すと、大まかなものであるがⅠ類が草田１期、Ⅱ類・Ⅲ類が草田２期～草田３期、Ⅳ類が草田４期～草田５期、Ⅴ類が草田６期におおよそ対応するものと思われる。

３．弥生土器の統計処理について（第138図）

弥生土器については第17表・19表にも挙げているように、分類によって破片数をカウントして整理している。出土した破片の内である程度内容が分かるものは1120片であり、また破片のうちで端部等の個体数が反映される破片は、前期10片、中期28片、後期398片の合計436片であった。



第138図　弥生土器の個体数（後期の類型は口縁部のみで細分した分類）

第138図は、前期～後期までの破片で、壷や甕の口縁部を対照にしてカウントしたものをグラフで表現したものである。ただし中期については高坏の端部も含めた。

この第138図を見ると分かるように後期に集中しており、それも後期５類・６類と細分した甕が多数を占めていることが分かる。また１ａ類とした甕もやや多いがこの類型には中期末頃のものも含まれている可能性があり、実際は中期末～後期前葉にかけての土器が比較的多く出土していることになると解釈した方が妥当かもしれない。

出土した土器の数量的な面からみれば、板屋Ⅲ遺跡（西側調査区）では弥生時代中期末～後期前葉頃に１つピークがあり、中心的な時期は後期後葉～末にかけての時期と考えられる。この結果は、住居跡の中心的な時期と矛盾するものではなく一致している。

第６節　製鉄関連遺構と遺物について

今回の板屋Ⅲ遺跡（西側調査区）の調査では、近世の掘立柱建物跡に付設された鍛冶炉を１基検出している。一次調査では第12表に整理しているように古代末頃～中世にかけての製鉄炉、精錬鍛冶炉を検出しており、今回の発見によって新たに近世の製鉄関連遺構を加えることとなり、各時代に鉄関連の生産活動が盛んであったことが明らかになった。また、遺構は検出しなかったが古代～中世の製鉄炉及び精錬鍛冶炉に伴うと推測される製鉄関連遺物が出土している。本節では新たに検出した近世の鍛冶炉と出土した製鉄関連遺物について整理しておきたい。

１．検出した近世の鍛冶炉（第13表）

検出した鍛冶炉は径60cm程の規模のものであり、分析結果を踏まえると精錬鍛冶～鍛錬鍛冶を行っていたことが判明した。また想定される原料の砂鉄に含まれるチタン量が８％程と想定されることから、周辺部の製錬炉で生成された素材を基に鍛冶を行っていたものと推測される。

今回検出した鍛冶炉の特徴は単独で存在し、鍛冶炉や製鉄炉等の関連施設が近接していない点である。これまで見つかっている近世の鍛冶炉は、獅子谷遺跡[*32]や中原遺跡[*33]で検出されており、数基がセットになる大規模ないわゆる「近世大鍛冶場」である。これら大規模なもの比較すると今回検出のものは、一般集落の中に存在して鍛冶を行っていた場で専業的な性格をあまり持たないものと考えられる。

第12表　板屋Ⅲ遺跡検出の製鉄関連遺構

調査区	遺構名	内　容	規　模	時　期	測定年代値 上：^{14}C年代 下：熱残留磁気年代
西側調査区	掘立柱建物跡付設鍛冶炉	詳細不明であるが円形	径60cm程	近　世（18世紀以前）	－
第一次調査	１号製鉄炉	隅丸長方形の箱形炉	長さ2.1m×幅1.0m×深さ0.1～0.3m	16世紀代か？（構造からは古代末以前）	380±80yrBP －
	４号製鉄炉	長方形箱形炉に小舟状遺構が付設	本床状遺構 長さ3.7m×幅1.55m×深さ0.6m	15世紀代	480＋80yrBP A.D.1410±10
	２号精錬鍛冶炉	板屋型（精錬）鍛冶炉	第１号炉床：径10cm程 第２号炉床：径14～24cm、深さ５cm 第３号炉床：径20～25cm、深さ15cm	12世紀～13世紀初	730±90yrBP －
	３号精錬鍛冶炉	板屋型（精錬）鍛冶炉	径40cm、深さ35cm	12世紀～13世紀初	800±190yrBP A.D.1180±50

2．出土した製鉄関連遺物について（第13表）

出土した製鉄関連遺物については３つのグループに分類して整理しており、それらがどの製鉄関連遺構に伴っている可能性があるのかは第13表で整理している。一次調査で検出している１号製鉄炉、２・３号板屋型（精錬）鍛冶炉は西側調査区の下方に位置していることから、Ａ群・Ｂ群として分類した製鉄関連遺物はそれぞれ対応しているものと考えて問題はないものと推測される。

第13表　板屋Ⅲ遺跡　製鉄関連遺構の主要要素一覧表

<table>
<tr><th></th><th>種　類</th><th>製　錬</th><th colspan="3">精　　錬</th><th>鍛　　錬</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>TiO_2　4～8％</th><th>TiO_2　1.1～2％</th><th>TiO_2　0～1％</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="3">分析資料</td><td>鉄　滓</td><td>－</td><td>ITA-42　大型椀形鍛冶滓（TiO_2：4.13）
ITA-43　鍛冶滓（含鉄）銑鉄（C：4.3以上）</td><td></td><td>ITA-44　鍛冶滓
亜共析　（含鉄）
鋼＋過　（C：0.8以
共析鋼　上）</td><td></td></tr>
<tr><td>粒状滓</td><td>－</td><td></td><td></td><td></td><td>ITA-45</td></tr>
<tr><td>鍛造剥片</td><td>－</td><td></td><td></td><td></td><td>ITA-46</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出土製鉄関連遺物</td><td>Ａ群
（古代～中世の製鉄炉関係）</td><td colspan="5">古代～中世の製鉄炉に関連する遺物群。一次調査検出の１号炉（長方形箱形製錬炉）に関連した遺物である可能性が高い。
（炉壁、単位流動滓、流出孔滓、流出溝滓、流動滓、炉内滓）</td></tr>
<tr><td>Ｂ群
（中世の板屋型精錬鍛冶炉関係）</td><td colspan="5">古代～中世の精錬鍛冶炉に関連する遺物群で、鍛冶炉は板屋型羽口を伴うタイプのものと推測される。一次調査検出の２・３号炉（板屋型の精錬鍛冶炉）に関連する遺物の可能性が高い。
（炉壁、炉壁（補修痕）、板屋型羽口、椀形鍛冶滓（板屋型羽口痕付）、　流出孔滓、流出溝滓、含鉄鉄滓、鉄塊系遺物）</td></tr>
<tr><td>Ｃ群（建物跡出土）
（近世の鍛冶炉関係）</td><td colspan="5">近世の掘立柱建物跡に付設された鍛冶炉に関連する遺物群。この遺物群について分析を実施。
（椀形鍛冶滓、椀形鍛冶滓（二段）、鍛冶滓、粒状滓、鍛造剥片）</td></tr>
<tr><td>遺構</td><td>掘立柱建物跡
（鍛冶炉付き）</td><td colspan="5">３間×２間（６ｍ×４ｍ）の規模の建物内に鍛冶炉（径60㎝程）が伴う。</td></tr>
<tr><td>時期</td><td>掘立柱建物跡
（鍛冶炉付き）</td><td colspan="5">柱穴出土の鉄製品や遺構上部を覆う造成土から出土した陶磁器から近世（18世紀以前）と推定。</td></tr>
<tr><td>検出した鍛冶炉の分析遺物から見た遺構の性格等</td><td colspan="6">①工房としてはTiO_2量が８％程の砂鉄を原料にした素材を精錬鍛冶（大鍛冶）と鍛錬鍛冶にまたがって鍛冶を行っている。

②鍛冶素材は、過共析鋼～銑鉄を用いたものであり、分析した２点の鍛冶滓（含鉄）は精錬途上の鍛冶系の遺物である。

③粒状滓と鍛造剥片は鍛錬鍛冶を示すものであるが、王水エッチングによる金属学的な解析がなされていないので、鍛錬工程のどのあたりに位置するかは厳密には不明である。

④47-イ-1は鍛錬鍛冶の後半段階に相当する生成物である。</td></tr>
</table>

おわりに

最後にこれまで述べてきた板屋Ⅲ遺跡の今回の調査における成果について整理して結びとしたい。以下時代ごとに記述していきたい。

1．縄文時代

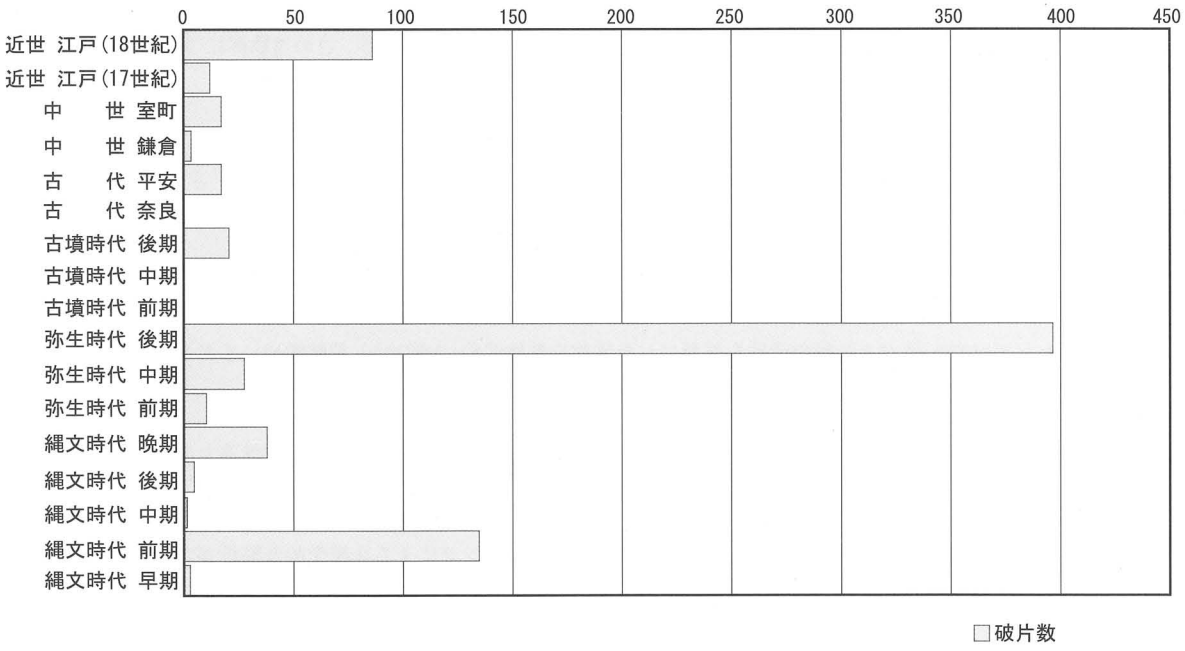
縄文時代では、その中心的な時期は前期中葉～前期末と土器の破片数から推測された。また、遺構は早期の集石遺構を検出し、遺構の面から生活の痕跡を明らかにすることができた。ただし住居跡などは一次調査の成果とは異なり検出しなかった。

石器の様相から見ると、縄文時代後期中葉以降ではそれ以前と比べ石錘の急激な減少が見られ、漁撈に関わる生産活動に何らかの変化が想定された。また、これまで述べられてきた石器石材の黒曜石とサヌカイトの占める割合が第３黒色土層と第２・第１黒色土層では変化しているという現象についても、今回も同じ現象が見られた。

出土石器の中では前期末の玦状耳飾２点と後期中葉～晩期の玦状耳飾１点が挙げられる。これらはこれまで神戸川上流域では出土例が無く、縄文時代の装飾品を検討する上で貴重な資料を追加したものと考えられる。また、前期末の２点は非常に細長いタイプのもので今回十分に類例の調査検討ができなかった点が課題として残っている。

さて板屋Ⅲ遺跡の位置する神戸川上流域は三瓶山に起因する噴出物が縄文時代に３度堆積しており、古土壌（黒色土層）がパックされている環境にある。このことからこれまで各遺跡で環境や農耕について自然科学的検討が試みられてきた。本報告書でも第７章自然化学分析の中でプラントオパールと花粉分析を検討していただいている。その詳細な成果については、第７章を見ていただければ分かるが、最も注目されるべき点は縄文時代草創期に相当する時期が想定される第４黒色土層で確認されたイネのプラントオパールであろう。

第４黒色土層は今回も放射性炭素年代測定値を出しており、これまでの成果（第９表）も合わせて想定されるＢＰ年代が10,000年～11,000年である。この層からイネのプラントオパールが確認されたことは非常に重大な成果であり今後論議を呼ぶものと考えられる。今後は考古学的な調査によっ



第139図　板屋Ⅲ遺跡西側調査区出土土器片一覧

て、第４黒色土層の遺構・遺物の検出の外に土壌に含まれる微細な遺物等の検討によって検証していく作業が必要になってくるものと考えられる。

２．弥生時代

弥生時代では、竪穴住居跡を可能性のあるものを含めて８棟検出している。これらはＳＩ０２が中期の可能性がある以外はすべて後期後葉に位置付けられる住居跡であった。後期後葉に位置付けられる住居跡は一次調査でも６棟検出しており、弥生時代後期後葉の神戸川中流域の１つの中心的な集落として考えられる。また、検出した住居跡からは鉄器が出土するものが見られ弥生時代のこの地域における鉄器の様相を検討する上で重要な資料を提供した。さらに、包含層（第１黒色土層）からの出土で確実に時期を特定はできないが、弥生時代の鍛冶に関係する可能性が考えられる鉄片が出土している。これらのことから板屋Ⅲ遺跡の成果は弥生時代の石から鉄への素材の転換を検討する面からも重要な遺跡として位置づけられよう。

その他に竪穴住居跡からは土器棺墓と推測されるものがＳＩ０３で検出し、さらに一次調査の12号住居跡でも同じタイプのものが見られ、両者の時期は弥生時代後期後葉と推測される。このようなタイプの土器棺墓は周辺の森遺跡群検出の竪穴住居跡でも発見例があり、弥生時代後期のこの地域の地域的特色として捉えられるものと考えられる。

３．古墳時代

古墳時代前期～中期に関しては一次調査と同様遺構は検出されなかった。土器の面から見ると甕の口縁部分類の７類が古墳時代前期に位置付けられる余地もあるが、基本的に第139図からも分かるように空白の時期である。この時期については周辺地域の遺跡でも遺構の検出がほとんど見られず、また後期になると遺構が見られ、このような様相についても検討の価値があるだろう。

古墳時代後期になると今回の調査でも第139図でも明らかなように遺物の出土例があるが、遺構は検出していない。これについては、一次調査で検出された古墳時代後期の竪穴住居跡に関連したものである可能性が考えられる。

４．古代（奈良・平安時代）

この時期で平安時代の遺物が第139図でも分かるように出土しているが、実際は奈良時代末～平安時代初頭に位置付けられるものである。今回の調査ではこの時期の遺構を検出していないが、一次調査では住居跡や溝状遺構が検出していることから、これらに関連した遺物と思われる。

５．中世（鎌倉～室町時代）

今回の調査で検出した遺構は、東側調査区で検出した鉄鍋の埋納遺構であり15世紀頃に位置づけた。これについては時期の検討や類似した埋納遺構の詳細な検討が今後残されている。

第139図を見ると、出土遺物から見ると中世も後半段階を中心に陶磁器が出土しているが、これらについても一次調査検出の掘立柱建物跡、製鉄関連遺構に関わる遺物であると考えられる。

６．近世（江戸時代）

近世の遺構は掘立柱建物跡とそれに付設した鍛冶炉がある。第139図で18世紀代の陶磁器などが比較的多く見られるのはこれに関連したものである可能性が考えられる。また一次調査ではこの時期の麻蒸しに関わる遺構（掘立柱建物跡・粘土貼土坑・集石遺構）が多く見つかっている。

以上のことから板屋Ⅲ遺跡は、近世のこの地域の鉄や麻等の生産の一端を窺うことができる遺跡であり、また鉄や麻といった当時の地場産業の特色を見事に遺構から知ることができる遺跡とも言

える。

以上述べてきたように板屋Ⅲ遺跡は縄文時代～近世までの様々な歴史的様相を窺い知ることができる遺跡であるが、本報告書では検討が不十分な点が多いことが悔やまれる。今後のより詳細な検討を期待し、この地域のより豊かなの歴史像を描くための資料として活用されることを願う。

＊1　板屋Ⅲ遺跡、森Ⅴ遺跡（頓原町）、古志本郷遺跡（出雲市）、福富Ⅰ遺跡（松江市）、大歳遺跡（木次町）、清水荒神塚遺跡（三刀屋町）の6遺跡が知られる。これら内容については以下を参考とした。また、可能性のあるものとして矢田横穴群（安来市）があり、石見地方では古市遺跡（浜田市）が知られる。
頓原町教育委員会　2001年　『森Ⅴ遺跡』
島根県教育委員会　2001年　『古志本郷遺跡Ⅱ』
島根県教育委員会　1997年　『福富Ⅰ遺跡・屋形1号墳』
三宅博士　1985年「土師質土器を伴う石鉢について」『島根考古学会誌』第2集
三刀屋町教育委員会　1990年『三刀屋町の遺跡Ⅲ　鍋山地区』
山本清　1969年「Ⅰ安来市・矢田横穴群」『島根県埋蔵文化財調査報告書』第Ⅰ集
浜田市教育委員会　1995年『古市遺跡発掘調査概報』
榊原博英　2001年「浜田・古市遺跡における中世前半の土器について」『松江考古』第9号

＊2　三宅博士　1985年「土師質土器を伴う石鉢について」『島根考古学会誌』第2集

＊3　頓原町教育委員会　2001年　『森Ⅴ遺跡』

＊4　第39図掲載遺物については、註1で挙げている報告書の他に以下の文献から転載している。
島根県教育委員会　1983年　『富田川河床遺跡　発掘調査報告書』Ⅲ

＊5　五十川伸矢　1992年「古代・中世の鋳鉄・鋳物」『国立歴史民俗博物館研究報告』第46集
五十川伸矢　1997年「中世の鍋釜－鋳鉄製煮炊具の名称－」『国立民俗博物館研究報告』第71集

＊6　1A類としたものは時期幅が存在しているものと推測され共伴遺物からは検証できないが、福富Ⅰ遺跡出土の鍋（第39図1）は口縁部が内湾気味に垂直に立ち上がり胴部も垂直に近いことからより古いものである可能性が考えられる。

＊7　中世の土師器については、出雲地方をさらに小地域に分けた地域ごとに検討し、共伴する陶磁器の状況も踏まえて位置づけていく必要があるが、資料の制約もあり現在詳細に検討した研究がない。さらに、今回詳細に検討する余裕がないので土師器の編年観は以下の文献を参考にし、おおよそ矛盾が生じない程度に鉄鍋の変遷を整理してみたつもりである。
島根県教育委員会　1999年『古志本郷遺跡　Ⅰ』
頓原町教育委員会　2001年『森Ⅴ遺跡』

＊8　年代については大雑把な比定であるが、五十川氏の研究成果や以下の出土鉄鍋の年代観を参考にしている。
●大分県深水邸埋納遺跡出土鉄鍋（14世紀前半～中葉）
佐々木稔・村上和久・赤沼秀男　1990年「大分県下の中世遺跡から出土した鉄鍋の金属学的解析」『古文化談叢』第23集
●福岡県太宰府史跡ＳＥ561出土鉄鍋（14世紀前半）
九州歴史資料館　1975年『太宰府史跡　昭和49年度発掘調査概報』
●浜田市古市遺跡ＳＥ2008出土鉄鍋（13世紀頃）
浜田市教育委員会　1995年『古市遺跡発掘調査概報』
●富田川河床遺跡ＳＢ031出土鉄鍋（17世紀前半）
島根県教育委員会　1983年『富田川河床遺跡　発掘調査報告書』Ⅲ

＊9　本書で掲載した出土縄文土器の編年の大枠と型式名等は以下の文献を参照して記述した。
鎌木義昌・木村幹夫　1955年「中国地方の縄文土器」『日本考古学講座』3
鎌木義昌・高橋　護　1965年「瀬戸内」『日本の考古学』Ⅱ
小林達雄編　1988～1989年『縄文土器大観』1～4小学館
加藤晋平・小林達雄・藤本　強編　1994年『縄文文化の研究』3～5雄山閣
大川　清・鈴木公雄・工楽善通編　1996年『日本土器辞典』雄山閣
戸沢充則編　1994年『縄文時代研究辞典』東京堂出版
柳浦俊一　2000年「山陰地方縄文時代後期初頭～中葉の土器編年」『島根考古学会誌』第17集
柳浦俊一　2001年「山陰地方における縄文時代前期土器の地域編年」『島根考古学会誌』第18集

＊10　出土弥生土器の中で後期に位置づけられる土器については、本報告書の中では口縁部の形態から1類～7類に分類したものを使用する。詳細については第5章第5節の第1黒色土層出土の弥生土器についての記述を参

照していただきたい。

＊11　本報告書では口縁部の形態のみから分類した以外に、第一次調査検出の住居跡出土の弥生土器も含めて肩部から上が残っている個体で再分類を試みた。詳細は第６章第５節の記述に譲るが、Ⅰ類～Ⅴ類の５つに分類している。この５つに分類したもので住居跡の時期に限っては使用する。

＊12　大谷晃二　1994年「出雲地方の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集

＊13　大谷晃二　1994年「出雲地方の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集

＊14　森田　勉　1982年「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』№２

＊15　上田秀夫　1982年「14～16世紀の青磁椀の分類について」『貿易陶磁研究』№２

＊16　森村健一　1995年「福建省漳州窯系青花・五彩・瑠璃地の編年」『大阪府埋蔵文化財協会 研究紀要』３

＊17　中野晴久　1995年「中世陶器［２］常滑・渥美」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編

＊18　樋口清之　1993年「玦状耳飾考」『考古学雑誌』23～１・２

＊19　島根県教育委員会　1998年『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』

＊20　原喜久子　1993年「島根県における古墳時代の鉄鏃について」『島根考古学会誌』第10集

＊21　古泉　弘　2001年「喫煙２　煙管」『図説　江戸考古学研究辞典』江戸遺跡研究会編

＊22　矢野健一　1993年「押型文土器の起源と変遷－いわゆるネガティブな楕円文を有する押型文土器の再検討－」『考古学雑誌』第78巻第４号

＊23　轟Ｂ式の並行関係については下記の文献を参考にし、時期的な位置づけを検討した。
柳浦俊一　2001年「山陰地方における縄文時代前期土器の地域編年」『島根考古学会誌』第18集

＊24　一覧表の作成にあたっては以下の文献を参照している。また未報告のものについては調査担当者の助言を得た。
家の後Ⅱ遺跡　県教育庁埋蔵文化財調査センター2002年調査、担当者 熱田貴保の助言による。
垣ノ内遺跡　県教育庁埋蔵文化財調査センター2001年調査、担当者　増田浩太の助言による。
サルガ鼻洞窟遺跡　藤田富士夫　1989年『玉』
佐太講武貝塚遺跡　鹿島町教育委員会　1993年『佐太講武貝塚発掘調査報告書』
恵良遺跡　島根県教育委員会　2001年『一般国道９号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』Ⅳ
新槇原遺跡　匹見町教育委員会　1987年『新槇原遺跡発掘調査報告書』
岩井津（岩泉）遺跡　関西大学・島根大学共同隠岐調査会編　1968年『隠岐』
郡山遺跡　関西大学・島根大学共同隠岐調査会編　1968年『隠岐』
藤田富士夫　1989年『玉』

＊25　土坑から出土している土器は条痕地の波状口縁の深鉢であり、三本沈線と二枚貝による刺突文が組み合わさっているものである。また土坑からは磨消縄文土器が一緒に出土している。
島根県教育委員会　1991年『中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財報告書』Ⅲ

＊26　柳浦俊一氏による検討では月崎下層式を３段階に整理しており、第１段階・第２段階に比較して第３段階では原体が大きくなり、押し引きが内面に反映され膨らむものが多いと指摘している。
柳浦俊一　2001年「山陰地方における縄文時代前期土器の地域編年」『島根考古学会誌』第18集

＊27　第８表は、これまで志津見ダム建設予定地内遺跡の調査報告書で掲載されているもに今回の調査成果を追加したものである。
島根県教育委員会　1998年『志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書５　板屋Ⅲ遺跡』
島根県教育委員会　2002年『志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書12　下山遺跡（２）』

＊28　表に掲載した放射性炭素測定年代値については以下の文献を利用している。
松井整司　1998年「三瓶火山の噴出物とその年代」『板屋Ⅲ遺跡』島根県教育委員会
松井整司　2002年「三瓶火山の噴出物とその年代」『下山遺跡（２）』島根県教育委員会
島根県教育委員会　1996年『門遺跡』
島根県教育委員会　2002年『下山遺跡（２）』
島根県教育委員会　2002年『貝谷遺跡』
島根県教育委員会　2000年『神原Ⅱ遺跡（３）』

＊29　敦賀敬一郎　2002年「石器組成分析による縄文時代生産活動の復元」『帝釈峡遺跡群発掘調査室年報』ⅩⅥ

＊30　板屋Ⅲ遺跡西側調査区出土の石器については、中村唯史氏（県立三瓶自然館）に鑑定していただき、御教示いただいた。

＊31　出雲地方の弥生時代後期の土器については研究の蓄積が進んでいるが、今回は一般的に調査報告書で使用されている草田遺跡の編年との比較をおこなった。
鹿島町教育委員会　1992年『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書５　南講武草田遺跡』

＊32　島根県教育委員会　2002年『殿淵山遺跡・獅子谷遺跡（１）』

＊33　島根県教育委員会　1999年『中原遺跡』

第14表　第３黒色土層　出土　縄文土器　総括表

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数											
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明	合計
第３黒色土層	３黒１類	ネガティブな押し型文							2						2
第３黒色土層	３黒２類	山形文が帯状施文（集石遺構出土）							1						1
第３黒色土層	３黒３類	３の字形の爪形文						1							1
第３黒色土層	３黒４類	隆帯文（蠟式）、灰色系で隆帯が細くで尖る				2									2
第３黒色土層	３黒４類	隆帯文（蠟式）、暗色系で隆帯が低くミミズ腫れ状	1	1				1	1						4
第３黒色土層	３黒４類	隆帯文（蠟式？）、太くて高い隆帯にキザミが入る				1									1
第３黒色土層	３黒５類	半裁竹管による２条１単位の沈線文(北白川Ｉｂ～Ⅱa)		1	2	1		1							5
第３黒色土層	３黒５類	器壁薄い、原体が太く間隔が疎な爪形文（北白川Ｉｂ～Ⅱa）		2	1	4	4	9							20
第３黒色土層	３黒５類	器壁薄い、原体が細く間隔が密な爪形文（北白川Ｉｂ～Ⅱa）		1	1	4	2	4	1						13
第３黒色土層	３黒５類	刺突文（北白川Ｉｂ）				1			2						3
第３黒色土層	３黒５類	器壁が厚く原体が太く間隔が疎な爪形文(北白川Ｉａ？)					2			1					3
第３黒色土層	３黒５類	幅が広く長い刺突文（北白川Ⅱａ？）					2								2
第３黒色土層	３黒５類	間隔が広い原体太めのD字の爪形文（北白川Ｉａ）						1							1
第３黒色土層	３黒５類	羽状文あり（北白川Ⅱa）						1							1
第３黒色土層	３黒５類？	縄文のある破片（北白川Ｉｂ～Ⅱa）						3							3
第３黒色土層	３黒５類？	縄文のある破片（北白川Ｉｂ～Ⅱa？）			2										2
第３黒色土層	３黒５類？	縄文のある破片（北白川Ⅱa？）				6		6							12
第３黒色土層	３黒５類？	縄文の破片（北白川Ⅱa？）		1											1
第３黒色土層	３黒６類	内面に羽状文（曽畑？）					1								1
第３黒色土層	３黒６類	まのびした沈線文・短沈線文（曽畑？）		1		1	4	1							7
第３黒色土層	３黒７類	ヘラ状工具による押し引き・刺突文（月崎下層）				3									3
第３黒色土層	３黒７類	幅の狭い原体（半裁竹管状工具？）による押し引き（月崎下層）	2	2		6	1	5	1						17
第４黒色土層	３黒７類	幅の広い原体による押し引き（月崎下層）	1			6									7
第３黒色土層	３黒７類	非常に幅の広い原体による押し引き(方形の刺突状)（月崎下層）						1							1
第３黒色土層	３黒７類	刺突文（月崎下層）		1		2									3
第３黒色土層	３黒７類	その他の文様（月崎下層）				6	3								9
第３黒色土層	３黒７類か？	口縁部の端部にキザミ（月崎下層式か？）	1	3			1	9	1						15
第３黒色土層	３黒８類	垂下隆帯、隆帯上に縄文を付す（里木Ⅰ）			1										1
第３黒色土層	３黒８類	結節浮線文、渦巻き状（里木Ⅰ）		1	1										2
第３黒色土層	３黒８類	口縁部内面が肥厚し縄文付す、外面にも帯状に縄文（里木Ⅰか？）	1												1
第３黒色土層	３黒８類	隆帯状に押し引き（里木Ⅰ）				1		1							2
第３黒色土層	３黒８類	隆帯上に縄文、隆帯上に半裁竹管による押し引きの両者が見られる（里木Ⅰ）								1					1
第３黒色土層	３黒８類？	隆帯と爪形文の組み合わせ、内面条痕（里木Ⅰ？）						2							2
第３黒色土層	３黒８類？	縄文のある破片（里木Ⅰ）	1	3		12		10							26
第３黒色土層	３黒８類？	縄文のある破片（里木Ⅰに近い）				6									6
第３黒色土層	不明	型式不明の沈線文土器、条痕地		5		1									6
第３黒色土層	不明	口縁端部（無文）				8		14							22
第３黒色土層	不明	底部	1												1
第３黒色土層	不明	端部	3												3
第３黒色土層	不明	口縁端部（無文）					1	3	2						6
第３黒色土層	不明	縄文のある破片						3							3
第３黒色土層	不明	無文、外ナデ（粘土痕跡）						1							1
第３黒色土層	表裏条痕	器壁厚いもの	19	16	21	56	35	146	8	7					308
第３黒色土層	表裏条痕	器壁薄いもの	3	1	6	17	7	54	1	3					92
第３黒色土層	表のみ条痕	器壁厚いもの	6	8	3	1	5	0	5	3					31
第３黒色土層	表のみ条痕	器壁薄いもの	1	3	1	0	5	0	1	2					13
第３黒色土層	裏のみ条痕	器壁厚いもの	13	12	11	38	17	3	8	2					104
第３黒色土層	裏のみ条痕	器壁薄いもの	2	6	4	4	7	17	0	1					41
第３黒色土層	無文	器壁厚いもの	34	30	27	93	19	114	30	17					364
第３黒色土層	無文	器壁薄いもの	3	13	8	17	10	46	1	3					101

第15表　第２黒色土層　出土　縄文土器　総括表

層位・遺構	型　式　名	特　　徴　　な　　ど	破　　片　　数											
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明	合計
第２黒色土層	２黒１類	隆帯状に間隔が密（爪形状）な押し引き（大歳山）		2		8									10
第２黒色土層	２黒１類	隆帯状に間隔が疎な押し引き （大歳山、里木Ⅰの可能性もあり）	1	5	1	1		1							9
第２黒色土層	２黒１類	底部（大歳山）		3											3
pit90	２黒１類？	縄文のある薄い破片（里木Ⅰ～大歳山）												1	1
pit96	２黒１類？	縄文のある薄い破片（里木Ⅰ～大歳山）												2	2
pit95	２黒１類？	縄文のある薄い破片（里木Ⅰ～大歳山）												1	1
pit101	２黒１類？	縄文のある薄い破片（里木Ⅰ～大歳山）												1	1
第２黒色土層	２黒１類？	器形の薄い縄文あり（前期後半）（里木Ⅰ～大歳山）	11	28	15	20	3								77
pit94	２黒２類	縄文のある厚い破片（船元）												1	1
pit95	２黒２類	縄文のある厚い破片（船元）												1	1
第２黒色土層	２黒２類	縄文のある厚い破片（船元）	3	4	3	4	8	21							43
第２黒色土層	２黒３類	後期縁帯文の土器（布勢式新～崎ヶ鼻並行）						1							1
第２黒色土層	２黒３類	後期（布勢式新～崎ヶ鼻Ⅰ並行）						2							2
第２黒色土層	２黒３類	後期　浅鉢　浅い単沈線文（崎ヶ鼻ⅠからⅡ並行）				1									1
第２黒色土層	３黒４類	沈線文で区画された綾杉文 （第３黒色土層からの混入か？）						1							1
第２黒色土層	２黒５類	細い押し引きが２段（月崎下層）				2									2
第２黒色土層	２黒５類	原体が非常に大きい押し引き（月崎下層）			2										2
第２黒色土層	２黒５類？	月崎下層式に類似	1	1	1	1									4
第２黒色土層	後期	条痕（表：巻貝）				5									5
第２黒色土層	後期	粗製無文土器　巻貝条痕						1							1
第２黒色土層	後期	粗製土器	2												2
第２黒色土層	後期	底部		1											1
第２黒色土層	後期	条痕の破片（厚い）	14	23	11	60									108
第２黒色土層	３黒５類(混入)、前期	爪形文（北白川Ⅰｂ～Ⅱａ）					1		1						2
第２黒色土層	前期	条痕Ｘ文　内面２枚貝条痕		2											2
第２黒色土層	前期	型式不明（刺突文）								2					2
第２黒色土層	前期	沈線文（曽畑の可能性あり）		1											1
第２黒色土層	前期？	底部						1							1
第２黒色土層	前期か	条痕の破片（薄い）　２枚貝条痕						1		2					3
第２黒色土層	前期	条痕の破片（薄い）	10	17	3	14									44
pit91	前期	条痕のある薄い破片												1	1
pit111	前期	条痕のある薄い破片												2	2
pit112	前期	条痕のある薄い破片												1	1
第２黒色土層	不明？							5							5
第２黒色土層	不明	条痕土器（時期不明）						1							1
第２黒色土層	不明？							2							2
第２黒色土層	不明	不明（縄文）	2			1		4							7
第２黒色土層	時期不明	刺突文		1											1
第２黒色土層	不明？	底部						4		1					5
第２黒色土層	不明	不明		3			2			2					7

第16表　第１黒色土層（表土）　出土　縄文土器　総括表

層位・遺構	型　式　名	特　徴　な　ど	破片数												
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明	合計
第１黒色土層	１黒１類	粗製深鉢・内面に沈線（一次調査　晩期Ⅲ類）						1							1
第１黒色土層	１黒２類	浅鉢（口縁部）・粗製・沈線文（晩期一次調査Ⅲ～Ⅴ類並行）						1							1
SI01貼り床	１黒２類	深鉢・口縁部にキザミあり（晩期一Ⅴ類並行篠原式新段階）（ＳＩ０１貼床出土）													1
第１黒色土層	１黒２類	深鉢・口縁部にキザミあり（晩期一Ⅴ類並行篠原式新段階）													1
第１黒色土層	１黒２類	屈曲する頸部をもつ無文粗製土器（深鉢）（晩期一Ⅴ類並行篠原式新段階）						1							1
第１黒色土層	１黒３類	無文精製浅鉢：肩部が張り口縁部が長く外反						1							1
第１黒色土層	１黒４類（A）	下方に突帯文（キザミあり）					1	2		1					4
表土	１黒４類（A）	下方に突帯文（キザミあり）						1							1
SI01床面付近	１黒４類（A）	下方に突帯文（キザミなし）													1
第１黒色土層	１黒４類（A）	下方に突帯文（キザミなし）						1		1					2
表土	１黒４類（B）	深鉢・胴部に突帯文（キザミあり）						1							1
第１黒色土層	１黒４類（B）	深鉢・胴部に突帯文（キザミあり）						1							1
SI01覆土	１黒４類（B）	深鉢・胴部に突帯文（キザミなし）													1
第１黒色土層	１黒４類（B）	深鉢・胴部に突帯文（キザミなし）								2					2
第１黒色土層	１黒４類（B）	深鉢・胴部に突帯文（刺突文）						1							1
第１黒色土層	１黒４類（B）	下方に突帯文（退化したもの）						2							2
第１黒色土層	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミあり）						2							2
SI08	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミあり）													1
第１黒色土層	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（刺突）						2							2
サブトレ	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミなし）				1									1
第１黒色土層	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミなし）						1							1
SI02B1層	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミなし）				1									1
SI02覆土	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミなし）													1
SI03覆土	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミなし）													1
第１黒色土層	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミなし）						1		2					3
第１黒色土層	１黒４類（C）	上方に突帯文あり（キザミなし）		1											1
第１黒色土層	晩期	精製浅鉢（沈線なし）・胴部						1							1
第１黒色土層	晩期	精製浅鉢（沈線あり）・胴部						1							1
SI01床面付近	晩期	精製浅鉢（沈線あり）・胴部													1
第１黒色土層	晩期	無文粗製深鉢				1		4						1(15T)	5
第１黒色土層	晩期	無文粗製深鉢		1											1
SI08覆土	晩期	無紋粗製深鉢													1
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：ミガキ、内：ミガキ						4							4
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：ミガキ						1							1
表土	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：ミガキ						1							1
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：二枚貝条痕				1		4	1						6
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：削り？、内：ミガキ						2							2
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：削り？、内：二枚貝条痕						4							4
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：削り？、内：条痕						2							2
表土	胴部片	胴部片・外削り？、内：条痕						1							1
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：条痕、内：条痕						1							1
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：条痕						2							2
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：ミガキ、内：条痕						2							2
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：ミガキ、内：ナデ			1			3							4
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：ナデ			1	12	2	20						その他1	35
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：条痕、内：ナデ						3							3
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：削り？、内：ナデ						15							15
表土	胴部片	胴部片・外：削り？、内：ナデ						2							2
第１黒色土層	胴部片	胴部片・外：条痕、内：条痕			2										2
表土	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：ナデ	1												1
SI01覆土	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：ナデ													3
SI01床面付近	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：ナデ													1
SI02B1層	胴部片	胴部片・外：　粗いナデ、内：ナデ													1
SI02覆土	胴部片	胴部片・外：　粗いナデ、内：ナデ													1
SI02覆土	胴部片	胴部片・外：　粗いナデ、内：削り													1

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数											
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明	合計
SI02覆土	胴部片	胴部片・外： 削り？、内：ミガキ													1
SI02覆土	胴部片	胴部片・外：条痕、内：条痕													1
SI03覆土	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：条痕													4
SI05覆土	胴部片	胴部片（外）粗いナデ、内：ナデ													1
第１黒色土層	胴部片	胴部片外：ミガキ、内：ナデ								2					2
第１黒色土層	胴部片	胴部片外：粗いナデ、内：ナデ								16					16
第１黒色土層	胴部片	胴部片外：削り？、内：粗いナデ								5					5
第１黒色土層	胴部片	胴部片外：粗いナデ、内：二枚貝条痕								1					1
第１黒色土層	胴部片	胴部片外：削り？、内：二枚貝条痕								1					1
第１黒色土層	胴部片	胴部片外：削り？、内：条痕								2					2
第１黒色土層	胴部片	胴部片外：粗いナデ、内：条痕								2					2
表土	縄文	薄手			1										1
第１黒色土層	縄文	薄手		2	1										3
不明	縄文	薄手						1							1
第１黒色土層	縄文	厚手					2	4							6
表土	２黒２類	縄文あり（船元式）	2												2
第１黒色土層	２黒２類	半裁竹管による連弧文・縄文（船元Ⅲ？）						1							1

第17表　第１黒色土層（表土）　出土　弥生土器・土師器　総括表

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数											
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明	合計
第１黒色土層	甕（弥生前期）	口縁(頸部)						2							2
第１黒色土層	鉢（弥生前期か？）	口縁（頸部）						2							2
第１黒色土層	壷（弥生前期）	木の葉紋						1							1
第１黒色土層	壷（弥生前期）	有軸羽状紋（Ａ）								1					1
第１黒色土層	壷（弥生前期）	有軸羽状紋（Ｂ）						1							1
第１黒色土層	壷（弥生前期）	その他						2		3					5
第１黒色土層	甕（Ⅳ様式）	口縁部はＩ類と同じで変わらないが頸部～胴部上半を削らないでハケメやナデの個体		3				2							5
第１黒色土層	甕（Ⅳ様式）	櫛描刺突文（中期）・櫛単位が明瞭・胴部文様		1				25		18					44
第１黒色土層	壷（中期）	文様あり						2							2
第１黒色土層	壷（中期）	文様無し								1					1
第１黒色土層	壷（中期）	凹線部分						2		1					3
第１黒色土層	壷（中期）	突帯付											1 (SI05)		1
第１黒色土層	大型特殊壷(Ⅳ様式)	胎土が特徴的なオレンジ色。流水紋付				2		3		2					7
第１黒色土層	高坏(Ⅳ様式)弥生中期後葉	口縁に凹線文・脚端部					2								2
第１黒色土層	高坏(Ⅳ様式)弥生中期後葉	口縁に凹線文・坏端部						3		1					4
第１黒色土層	高坏(Ⅳ様式)弥生中期後葉	口縁に凹線文・筒部						1							1
第１黒色土層	甕（後期Ｉａ類）	中期後葉を一部含む・複合口縁				2		23		16					41
第１黒色土層	甕（後期Ｉｂ類）	口縁部が拡張・複合口縁				3		4		3					10
第１黒色土層	甕（後期２類	口縁帯の幅広く沈線の間が広い・複合口縁				1		3		3					7
第１黒色土層	甕（後期３類）	口縁幅あり。沈線(貝殻)の間が狭く密にある・複合口縁			1			8		11					20
第１黒色土層	甕（後期４類）	口縁に平行沈線なし・複合口縁			1	4		18		11					34
第１黒色土層	甕（後期５類）	口縁に沈線無し、頸部内面甘い・複合口縁				3		76		26					105
第１黒色土層	甕（後期６類）	口縁に沈線無し、端部に面あり・複合口縁				4	1	69		14					88
第１黒色土層	甕（後期７類）	口縁に沈線なし、端部に面あり内面が肥厚・複合口縁								5					5
第１黒色土層	注口土器（後期）	注口のみ						1		1					2
第１黒色土層	壷(後期甕Ｉａ類に対応)	全般・複合口縁								1					1
第１黒色土層	壷(後期甕Ｉｂ類に対応)	全般・複合口縁							1						1
第１黒色土層	壷(後期甕4類に対応)	全般・複合口縁							3	1					4
第１黒色土層	壷(後期甕5類に対応)	全般・複合口縁							3	1					4
第１黒色土層	壷(後期甕6類に対応)	全般・複合口縁						2	1	1					4
第１黒色土層	壷（幾内系）	全般・複合口縁								1					1
第１黒色土層	鼓形器台Ａ(2～3類)	平行沈線文あり。受部・端部なし						3							3
第１黒色土層	鼓形器台Ｂ(4～6類)	平行沈線文なし。脚部・端部なし						13		5					18
第１黒色土層	鼓形器台Ｂ(4～6類)	平行沈線文なし。脚部・端部まであり								4					4

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数												
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明	合計
第１黒色土層	鼓形器台Ｂ(4～6類)	平行沈線文なし。脚部・端部まであり・内面ナデ						10							10
第１黒色土層	鼓形器台Ｂ(4～6類)	平行沈線文なし。受部・端部あり					3	4		6					13
第１黒色土層	鼓形器台Ｂ(4～6類)	平行沈線文なし。受部・端部なし				1		6		10					17
第１黒色土層	鼓形器台Ｂ(4～6類)	平行沈線文なし。受部・端部なし。								1					1
第１黒色土層	高坏（後期）	坏端部が単純なタイプ・脚端部						33		10					43
第１黒色土層	高坏（後期）	坏端部が単純なタイプ・脚部片								7					7
第１黒色土層	高坏（後期）	坏端部が単純なタイプ・坏端部						32		9					41
第１黒色土層	高坏（後期）	坏端部が単純なタイプ・坏部片	2	1				52		10					65
第１黒色土層	高坏（後期）	坏端部が単純なタイプ・筒部						6		3					9
第１黒色土層	低脚坏（後期）	全般・脚部						3		1					4
第１黒色土層	低脚坏（後期）	全般・脚部片						2							2
第１黒色土層	低脚坏（後期）	全般・坏端部						4							4
第１黒色土層	低脚坏（後期）	全般・完形（脚＋坏部）						2		1					3
第１黒色土層	甕など(弥生後期文様)	波状文・胴部文様			4	16		180	4	51					255
第１黒色土層	甕など(弥生後期文様)	羽状紋・胴部文様								3					3
第１黒色土層	甕など(後期３類中心文様)	胴部文様・貝殻刺突文（２段のもの）						16							16
第１黒色土層	甕など(後期３類以前文様)	胴部文様・刺突文（１段のみ）貝殻と櫛状工具の二種に分けられる可能性あり。		3		6		22		17					48
第１黒色土層	甕など(後期4～6類文様)	胴部文様・刺突文（１段シャープ）水平に近い文様で施されてるものが多い			1	5		51	2	13					72
第１黒色土層	甕など（後期文様）	後期の文様あり、破片でその他のもの						1							1
第１黒色土層	底部（弥生前期）	削りなし・砂粒多い						5		3					8
第１黒色土層	底部（弥生中期）	削りあり・砂粒少ない						8		3					11
第１黒色土層	底部（弥生後期）	削りあり・砂粒少ない		1		6		30		6					43
第１黒色土層	底部（時期不明）							5		4			1		10
第１黒色土層	甕（出雲４期以降）	単純口縁で「く」の字型						48		7					55
第１黒色土層	甑	底部						2							2
第１黒色土層	甑	口縁部？						1							1
第１黒色土層	椀(出雲4期6ｃ後半以降)	坏端部			1			5	2						8
第１黒色土層	椀(出雲4期6ｃ後半以降)	坏部片						4		8					12
第１黒色土層	坏（古代～中世）	糸切りなし・完形に近い						2							2
第１黒色土層	坏（古代～中世）	糸切り・底部	1						6				2		9
第１黒色土層	坏（古代～中世）	糸切りなし・底部						10							10
第１黒色土層	坏（古代～中世）	糸切りなし・坏端部						12							12
第１黒色土層	坏（古代～中世）	糸切り・坏端部	1												1
第１黒色土層	坏（古代～中世）	糸切りなし・坏部片						17							17
第１黒色土層															0
第１黒色土層															0

第18表　第１黒色土層　出土　須恵器　総括表

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数												
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明	合計
第１黒色土層	蓋①	出雲５～６期						1		3					4
第１黒色土層	蓋②	８ｃ後半以降				1									1
第１黒色土層	坏	出雲５～６期						3		2					5
第１黒色土層	坏	無高台（８ｃ）				1									1
第１黒色土層	坏	８ｃ後半以降						2		1					3
第１黒色土層	坏底部					1									1
第１黒色土層	壷口縁部							1		1					2
第１黒色土層	中型甕									2					2
第１黒色土層	大型甕							1		1					2
第１黒色土層	甕胴部①							4		9					13
第１黒色土層	甕胴部②					1	1	15		19					36
第１黒色土層	甕胴部③							1		10					11

第19表　竪穴住居跡　出土弥生土器　総括表

器種	型式	1号住居跡		2号住居跡		3号住居跡		3号住居跡土器溜まり		3号住居跡中央土坑		4号住居跡		5号住居跡		6号住居跡		7号住居跡		8号住居跡		合計	
甕（複合口縁）	Ⅳ様式		0		0		0		0	1	1		0		0		0		0	1	1	2	2
																						0	
甕（複合口縁）	甕口縁部１ａ類	2	2		0	5	6						0	2	3		1	1	1		0	10	13
						1								1		1						3	
甕（複合口縁）	甕口縁部１ｂ類	3	3		0		0		0	1	1		0		0		0		0		0	4	4
																						0	
甕（複合口縁）	甕口縁部２類	3	3		0		1		0		2		0	1	1		1		0	1	1	5	9
						1				2						1						4	
甕（複合口縁）	甕口縁部３類		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
																						0	
甕（複合口縁）	甕口縁部４類	6	7		0		0		0		0		1	13	15		0		0	1	1	20	24
		1										1		2								4	
甕（複合口縁）	甕口縁部５類	1	1		0	3	4		3		1	1	1	19	20	1	1		0	3	3	28	34
						1		3		1				1								6	
甕（複合口縁）	甕口縁部６類	5	10		0		1		1		0		0	6	9		0	1	1	1	1	13	23
		5				1		1						3								10	
甕（複合口縁）	甕口縁部７類		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
																						0	
注口土器	—		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
																						0	
壺	甕3類～7類に対応		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
																						0	
壺	搬入系		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
																						0	
壺	その他		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
																						0	
鼓形器台Ａ	平行沈線文あり（受部）		0		0		0		0		0		0	3	5		0		0		0	3	5
														2								2	
鼓形器台Ａ	平行沈線文あり（脚部）		0		0		0		0		0		0	1	1		0		0		0	1	1
																						0	
鼓形器台Ｂ	平行沈線文無し（受部）		0		0		1		1		1		0		0		0		0	3	3	3	6
						1		1		1												3	
鼓形器台Ｂ	平行沈線文無し（脚部）		0		0	1	1		0		0		0		0		1		0	5	5	6	7
																1						1	
高坏（中期）	（坏部）第Ⅳ様式		0		0		0		0		0		0		0	1	1		0		0	1	1
																						0	
高坏（中期）	（脚部）第Ⅳ様式		0		0		0		0		0		0	1	1		0		0		0	1	1
																						0	
高坏（後期）	（坏部）甕５類以降の時期	1	2		0		0		0		0		0	8	8		0		0	2	2	11	12
		1																				1	
高坏（後期）	（脚部）甕５類以降の時期		0		0	1	1		0		0	1	2	2	2		0		0	4	4	8	9
												1										1	
底脚坏	脚部		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	0
																						0	
底脚坏	坏部	1	1		0	1	1		0		0		0		0		0		0		0	2	2
																						0	
甕など	胴部文様（波状文）	11	15		0		2		2		2		0	39	51	1	1	2	2		7	53	82
		4				2		2		2				12						7		29	
甕など	胴部文様（羽状文）		1		0	1	1		0		0		0	3	5		0		0		0	4	7
		1												2								3	
甕など	胴部文様（２段貝殻刺突文）		0		0		0		0		0		0	3	3		0		0		0	3	3
																						0	
甕など	胴部文様（刺突文幅広）	1	3		0	1	2		1	4	5		0	7	7		0		0		0	13	18
		2				1		1		1												5	
甕など	胴部文様（刺突文シャープ）	3	7		0	4	5		1	2	3		0	16	20		0		0		0	25	36
		4				1		1		1				4								11	
甕など	胴部文様（後期その他）	1	5		0		0		0		0		0	1	1	1	1		0		0	3	7
		4																				4	
甕など	胴部文様（櫛描刺突文）	7	8		0	5	6		1		1		0		0		0		0	1	1	13	17
		1				1		1		1												4	
前期壷	破片（文様あり）		0		0		0		0		0		0		0		0		0		1	0	1
																				1		1	
大型特殊壷	Ⅳ様式	4	4		0		0		0		0		0		0		0		0		0	4	4
																						0	
底部			1		0	1	5		4	1	5		0	18	18	1	1		0		3	21	37
		1				4		4		4										3		16	

第20表　板屋Ⅲ遺跡（西側調査区）　出土　陶磁器　総括表

種　類	器　種	産　地	特徴（釉薬など）	時　期	破　片　数											
					14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	不明	合計
中世須恵器	蓋（？）			中世？						1						1
陶器	甕	常滑系		14ｃ初						1		1				2
陶器	擂鉢片	在地	須恵質	中世							1					1
青磁	椀・皿(高台付)	中国		中世					1			2				3
白磁	E群皿	中国		16ｃ											T15	1
陶器	甕	備前		17ｃ以前			1	1	1	1						2
備前系陶器	皿	岸嶽系	灰釉	1580～1590半頃 16c第４四半期						1						1
磁器	青花椀	華南		16c末～17c初							1					1
陶器	皿	肥前系		近世前半	1						1					2
陶器	皿	唐津	砂止め。溝縁あり。三ヶ月高台あり	17ｃ中頃				1	1		3	1				6
磁器（染付）	皿	肥前？		17c後半～18c代				6	6	4	4	6			1	27
磁器(陶胎染付)	椀	不明		18ｃ代	1	1		1	4	2	1	3				13
磁器(蛇の目)	皿	肥前系		18ｃ代								1				1
磁器（染付）	椀	肥前？		18ｃ代	1			2	8	4	5	4				24
磁器（染付）	蓋	肥前？		18ｃ代						1						1
磁器（染付）	瓶	肥前？		18ｃ代				1	1	1	1					4
不明	土人形	不明	すべて同一個体	18c後半以降～	7		3	1								11
陶器	擂鉢片	不明		近世			1									1
陶器	椀	不明	淡褐色の釉	近世			1	2		6	2	4			1	16
備前系陶器	甕	肥前系	たたきあり	近世								1				1
陶器	擂鉢片		さび釉	近世								1				1
磁器（染付）	椀・皿	肥前系		近世				1		1						2
陶器	皿（高台）	不明		近世	1			1		1		2				5
青磁	椀・瓶・皿	肥前系		近世			1		6	1					1	9
磁器(白地の部分)	椀又は皿	不明		近世				1		3		1				5
陶器	擂鉢・鉢・椀		茶褐色の釉	19cに入るもの （新しい）					3			1				4
陶磁器	椀・香炉・甕・他	不明	新しい	近代以降			1		9	5		3				18
陶器	壺	備前系か		不明						1						1
陶器	甕	不明	褐色釉系	不明				1			1					2
陶器	椀	肥前系	その他の釉	不明					3							3
土師質土器	皿	不明		不明						1						1
素焼き	不明	不明		不明			3									3
陶器	皿・円筒状製品	不明	さび釉	不明	2					5		1				8
不明	不明	不明		不明	1											1
瓦質土器	甕	不明		不明							1					1
磁器(染付＋青磁)	椀	肥前？		不明			1									1

第21表　板屋Ⅲ遺跡（東側調査区）　出土遺物　総括表

遺構名など	遺物種類	器　種	特　徴　な　ど	破片数
SK03	縄文土器	条痕のある土器		1
第２黒色土層	縄文土器	条痕のある土器		6
第２黒色土層	縄文土器	底部		1
第３黒色土層	縄文土器	鉢		1
東３区PNo27	縄文土器	条痕のある土器		1
東３区PNo26	縄文土器	条痕のある土器		1
第１黒色土層	縄文土器	条痕あり・胴部片		11
第１黒色土層取り上げNo2	弥生土器	胴部片		1
第１黒色土層	弥生土器	甕・壷	複合口縁	1
第１黒色土層	弥生土器	甕（胴部片）		6
第１黒色土層	土師器	かわらけ		6
第１黒色土層	須恵器	高台付坏		1
第１黒色土層	陶磁器	陶器・磨り鉢	褐色釉系	2
第１黒色土層	陶磁器	陶器・底部	褐色釉系	1
第１黒色土層	陶磁器	陶器・皿	褐色釉系	1
第１黒色土層	陶磁器	陶器	緑釉系	8
第１黒色土層	陶磁器	陶器	陶胎染付	3
第１黒色土層	陶磁器	磁器	近世染付	9
第１黒色土層	陶磁器	磁器	近世以降	1
第１黒色土層	瓦器系			2
第１黒色土層	石製品	宝篋印塔		1
東２区	陶磁器	磁器	国産白磁	1
大木周辺	縄文土器	鉢（口縁部）		1
大木周辺	土師器	坏	糸切り	10
大木周辺	土師器	人形片		25
大木周辺	陶磁器	陶器坏	褐色釉	1
大木周辺	陶磁器	陶器	黄色釉系	2
大木周辺	陶磁器	陶器	陶胎染付	2
大木周辺	陶磁器	磁器	近代以降	1
大木周辺	石器	磨石		1
大木周辺	石器	凹石		1
大木周辺	石器	石皿		1

遺物観察表

第22表　板屋Ⅲ遺跡　出土　縄文・弥生・土師器　観察表

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
013-01	-	-	東３区	-	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)横方向条痕 (内)斜めに近い横の条痕	なし	密：２㎜１㎜以下の砂粒を含む	(外)黄橙褐色 (内)黄褐色
013-02	深鉢	-	東２区	-	第２黒色土層	-	-	-	-	(内)横方向の条痕	(外)粗いナデ (内)	２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄橙色
013-03	鉢	-	東区	-	第２黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)ナデ、縦方向削り (内)ナデ	２～３㎜大の小石を多く含む	(外)橙褐色 (内)淡黄褐色
013-04	鉢	-	東３区	-	ＰNo.26	-	-	-	-	(外)たて方向の条痕	(外)粗いナデ (内)なで	密：２㎜１㎜以下の砂粒を含む	(外)橙褐色 (内)黒褐色
013-05	-	-	東２区	-	第２黒色土層	-	-	-	9.8cm	なし	(外)ナデ (内)ナデ	５㎜以下の小石を含む	(外)黄褐色 (内)黄灰色
013-06	鉢	-	東２区	ＳＫ０３	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)たて方向の粗い条痕	(外)口縁部上方横方向にナデ (内)粗い横ナデ、指圧痕	やや粗	(外)灰褐色 (内)黄灰褐色
044-01	-	黄島式以前、神宮寺式か？	西	集石遺構下部	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)押型文の山形文又は帯状施文と考えられる	(外) (内)ナデらしき痕あり	やや粗：砂粒を多量に含む	(外)黒灰色 (内)灰褐色
046-01	鉢	縄文･神宮寺	西	１１Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	ネガティブな押型文	(外) (内)粗いナデ（斜め方向）	３m程度の小石、0.5㎜以下の砂粒を含む	(外)橙褐色 (内)黒褐色
046-02	鉢	神宮寺式･早期	西	１１Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	ネガティブな押型文	(外) (内)ナデ	密：１㎜以下野砂粒を含む	(外)(内)橙褐色
046-03	深鉢	轟式	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)隆線文 (内)横位の条痕	全体にナデ	25㎜の小石、１㎜程度の砂粒含む	(外)(内)黄灰褐色
046-04	-	轟式	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)隆線文が５条 (内)横位の条痕あり	(外)ナデ (内)	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)灰黄褐色
046-05	-	轟式 (新しい方)	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)隆線文４条 (内)巻き貝？条痕（横）	(外)横ナデ (内)	密：0.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)暗褐色
046-06	-	轟ｂ式	西	１１Ｄ	第３黒色土層	30cm	23.6cm	-	-	(外)口縁端部刺突によるキザミ、５条の隆帯文斜行による条痕	なし	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)暗茶褐色 (内)燈褐色
046-07	深鉢	轟式	西	１４Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)３条の結節隆帯文、たて方向の条痕 (内)やや斜行な条痕	(外)横ナデ (内)ナデ	密：雲母を多量に含む３㎜大の砂粒含む	(外)黒褐色 (内)褐色
046-08	深鉢	轟式？	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)隆帯状に爪形文２段 (内)横方向の条痕、指頭圧痕	(外)横ナデ (内)	密：１㎜大の石英と雲母を含む	(外)(内)濃褐色
046-09	鉢	-	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)横位の沈線文と斜位の沈線文 (内)横位の条痕文	(外)横ナデ (内)	0.5㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)灰褐色
046-10	-	曽畑	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)斜めのまのびした沈線文 (内)横位の条痕、一部煤付着	(外) (内)一部煤付着	２㎜、４㎜の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黒褐色
046-11	鉢	曽畑	西	１４Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁部キザミ目、条痕、短沈線文	(外)ナデ (内)ナデ	２㎜の赤色粒、１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)黄褐色
046-12	鉢	曽畑か?	西	１２Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)連続した竹管文による沈線文 (内)条痕（２枚貝）口縁部に波状文の短沈線文	(外)横ナデ (内)	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)橙褐色
046-13	-	羽島Ⅱか？３の字形の瓜形	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)３の字形の瓜形文､粘土を積み上げた痕残る。	(外) (内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黄橙褐色 (内)暗黒褐色
047-01	-	羽島下層Ⅲ式	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)上方に瓜形文、下方に沈線文 (内)緩やかな横方向条痕	なし	密：微砂粒を含む	(外)(内)暗黒褐色
047-02	-	羽島下層Ⅲ式	西	１１Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)半裁竹管による連続刺突文（３段） (内)横方向の貝殻条痕		密：微砂粒を含む	(外)暗橙褐色 (内)暗黄褐色

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
047-03	-	羽島下層Ⅲ式	西	１２Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)連続する爪形文が２段	(外)横ナデ (内)	密：２㎜以下１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)暗褐色
047-04	-	羽島下層Ⅲ式	西	１１Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)半裁竹管による爪形文(２条)、斜行する条痕 (内)横位の条痕	なし	密	(外)(内)黄橙褐色
047-05	-	羽島下層Ⅲ式	西	１３Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁：刺突によるキザミ、連続爪形文、横位の貝殻条痕 (内)横方向の貝殻条痕	なし	密：微砂粒を含む	(外)(内)濃褐色
047-06	-	羽島下層Ⅲ式	西	１２Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)貝殻条痕、連続する爪形文	(外)横ナデ (内)なで	密：0.5㎜以下の砂粒を含む。雲母も含む	(外)(内)暗褐色
047-07	鉢	羽島下層Ⅲ式	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)半裁竹管による連続する爪形文 (内)横位の条痕	(外)横ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黄橙褐色 (内)暗灰褐色
047-08	鉢	羽島下層Ⅲ式	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)連続爪形文 (内)横位の条痕	なし	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)赤褐色
047-09	-	羽島下層Ⅲ式	西	１３Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)半裁竹管による沈線 (内)横方向の貝殻条痕	(外)ナデ	３㎜の小石、２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙褐色
047-10	-	羽島下層Ⅲ式	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)半裁竹管押し引きによる沈線文、外は斜行する条痕 (内)横位の条痕	なし	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黄橙褐色 (内)暗茶褐色
047-11	-	羽島下層Ⅲ式	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)半裁竹管の押し引きによる沈線文 (内)横位の条痕	なし	やや粗：２～３㎜大の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙褐色
047-12	鉢	羽島下層Ⅲ式？	西	１１Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)連続する刺突文 (内)横位の条痕	(外)ナデ (内)	密：２㎜以下の砂粒含む	(外)茶褐色 (内)淡橙褐色
047-13	鉢	羽島下層Ⅲ式？	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁端部に刺突文、連続した爪形文 (内)条痕、連続した刺突文	(外)横ナデ (内)	密：1.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙褐色
047-14	-	-	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)縄文原体の側線による羽状圧痕 (内)条痕	(内)ナデ	２㎜の赤色粒、１㎜程度の砂粒を含む	(外)(内)橙褐色
048-01	鉢	月崎下層	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)端部：刺突によるキザミ、４条の刺突文(押し引きによる)、円形の貼付凸帯あり、頸部煤付着、黒斑	(外) (内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)灰黒褐色 (内)橙褐色
048-02	-	月崎下層	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁端部、刺突によるキザミ、押し引きによる沈線文 (内)無紋	(外)ナデ (内)横ナデ	密：微砂粒を含む	(外)濃茶褐色 (内)橙褐色
048-03	-	月崎下層	西	１３Ｅ	第３黒色土層	23.2㎝	-	-	-	(外)端部に刺突文のキザミ、口縁部に押し引き沈線（ヘラによる）	(外)下部にナデ (内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒が混じる	(外)黒灰色 (内)灰褐色
048-04	-	月崎下層	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁端部刺突によるキザミ、口縁部付近、横方向の押し引き文、下方に斜めの押し引き文 (内)横方向の条痕	なし	密：微砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)暗灰褐色
048-05	深鉢	月崎下層	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)半裁竹管による押し引き沈線文（口縁端部付近は水平方向、それ以外は斜め方向）	なで	２㎜以下の砂粒を含む砂粒を含む	(外)暗褐色 (内)黄褐色
048-06	-	月崎下層	西	１２Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)横位の押し引きと斜行する押し引き文 (内)条痕	(外)口縁部ナデ (内)口縁部ナデ	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)濃茶褐色 (内)暗黄褐色
048-07	浅鉢	月崎下層	西	１４Ｅ	第３黒色土層(43)	-	-	-	-	(外)上方に押し引き、円形の貼付の凸帯斜行条痕 (内)横、又は斜行する条痕		６㎜の小石、３～２㎜以下の小石を多く含む	(外)黄灰褐色 (内)黄褐色
048-08	-	月崎下層	西	１１Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)押し引きによる沈線文	(外)ナデ、指頭圧痕 (内)横ナデ	密：３㎜以下の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)灰黄褐色
048-09	-	月崎下層	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁部押し引き文、斜行及び横条痕 (内)横条痕	なし	密：微砂粒を含む	(外)暗茶褐色 (内)暗黄褐色
048-10	-	月崎下層	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)端部付近刺突文、横位の条痕、下方に２段の刺突文 (内)刺突文、横方向の条痕	なし	密：４㎜以下の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)暗褐色

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
048-11	鉢	月崎下層	西	１４Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)条痕、刺突文 (内)横方向条痕、指頭圧痕	(外)横ナデ	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)淡黒褐色
048-12	鉢	－	西	１４Ｅ	第３黒色土層(45)	－	－	－	－	(外)押し圧痕あり、口縁端部にキザミ目あり	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)灰褐色 (内)黄褐色
048-13	鉢	月崎下層	西	１２Ｄ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部連続刺突文のキザミ	(外) (内)横ナデ	密：0.5㎜以上の石英を含む	(外)暗褐色 (内)暗橙褐色
048-14	深鉢	－	西	１４Ｅ	第３黒色土層	31.6cm	－	－	－	(外)口縁端部：キザミ目（間隔は不規則）横方向に条痕の後指圧痕、横方向条痕	なし	密：雲母を含む。３㎜以下の砂粒を含む	(外)灰黒褐色 (内)灰橙配色
048-15	鉢	月崎下層？	西	１４Ｄ	第３黒色土層	－	－	－	－	なし	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：微砂粒を含む	(外)(内)暗褐色
048-16	－	－	西	１３Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁端部あり、無紋	(外)横ナデ (内)横ナデ		(外)(内)橙褐色
049-01	深鉢	里木Ⅰ	西	１３Ｄ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁端部垂下隆帯、下方に隆帯、縄文	(外)ナデ (内)ナデ	密：２㎜以下の石英を含む	(外)淡黄褐色 (内)淡橙褐色
049-02	深鉢	里木Ⅰ	西	１１Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)上方隆帯上に半裁竹管による押し引き文１条下方に隆帯上に縄文が２条	(外) (内)指頭圧痕	密：３㎜の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
049-03	－	里木Ⅰ	西	１３Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)隆帯文の上に半裁竹管による押し引き縄文	(外) (内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)黄褐色 (内)明黄褐色
049-04	鉢	里木Ⅰ	西	１２Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)２条の結節隆帯文、１条の隆帯文、縄文 (内)指頭圧痕	(内)ナデ	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)灰褐色 (内)短黄褐色
049-05	－	里木Ⅰ	西	１３Ｄ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)渦巻き状の結節浮線文､浮線頂は押し引き文､沈線	(外) (内)指頭圧痕（爪跡もあり）	密：微砂粒を含む	(外)淡黄褐色 (内)暗黄褐色
049-06	－	里木Ⅰ	西	１４Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)結節浮線文（隆帯上から押し引き文）地文は縄文	(外) (内)ナデ	２㎜、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
049-07	鉢	里木Ⅰ	西	１２Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)頸部に縄文	(外)頸部に横ナデ (内)横ナデ、指頭圧痕	密：2.5㎜大の小石、0.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
049-08	－	里木Ⅰ	西	１２Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文、横位の指押さえ	(外) (内)指頭圧痕	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙褐色
049-09	深鉢	里木Ⅰ？	西	１４Ｄ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部以下３段の厚みのない隆帯に縄文を付ける (内)口縁内部に隆帯を付ける、縄文	(外)他の部分はナデ (内)口縁部以外は圧痕、ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黄灰褐色 (内)黄褐色
049-10	－	里木Ⅰ？	西	１２Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)下方隆帯文が１条､上方瓜形文の連続するもの２条 (内)横方向貝殻条痕	なし	密：微砂粒と雲母を含む	(外)(内)暗褐色
049-11	鉢	－	西	１２Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)(内)横方向貝殻条痕文	なし	密：大きいもので５㎜大の砂粒含む、１㎜以下の砂粒含む	(外)黒褐色 (内)褐色
049-12	浅鉢	縄文前期？	西	１１Ｅ	第３黒色土層	27cm	33cm	－	－	(外)斜めの２枚貝条痕 (内)横又は斜行する方向で（２枚貝条痕）	なし	密：雲母を含む	(外)(内)暗茶褐色
049-13	－	－	西	１２Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)厚手，たて条痕 (内)下方横条痕	(外) (内)上方横ナデ	密：微砂粒を含む	(外)(内)暗褐色
049-14	鉢	－	西	１３Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)斜行する条痕 (内)斜行する条痕	なし	密：２㎜大の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)暗褐色 (内)黄褐色
049-15	鉢	－	西	１３Ｅ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)条痕 (内)横方向と斜行する条痕	(外)ナデ (内)	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)褐色 (内)黒褐色
049-16	鉢	縄文・前期	西	１２Ｄ	第３黒色土層	－	－	－	－	(外)たて方向条痕 (内)横または斜行する条痕	なし	密：２㎜以下の砂粒を含む、光沢のある砂粒	(外)(内)暗茶褐色

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
049-17	-	-	西	１３Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)条痕（横方向）刺突文とも思われる凹部あり (内)条痕（横方向）	なし	密：0.5㎜以下の砂を含む	(外)暗橙褐色 (内)暗橙色
049-18	鉢	-	西	１２Ｅ	第３黒色土層	-	-	-	-	(内)横位と斜行の条痕 (外)粘土痕	(外)横ナデ (内)	密：７㎜大の小石、２㎜以下の砂粒を含む	(外)青橙褐色 (内)暗黒褐色
049-19	深鉢	-	西	１４Ｄ	第３黒色土層	-	-	-	-	(外)条痕	(外) (内)横ナデ	2.5㎜の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)灰黄褐色 (内)橙褐色
055-01	-	大歳山	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)隆帯上に半裁竹管による押し引き文。円形浮文あり？地は縄文	(外) (内)横ナデ	密：微砂粒を含む	(外)(内)橙褐色
055-02	-	大歳山	西	ＳＫ０５	-	-	-	-	-	(外)地は縄文、隆帯上に半裁竹管による押し引き文	(外) (内)横ナデ	密：微砂粒を僅かに含む	(外)暗黄褐色 (内)淡黄褐色
055-03	-	大歳山	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)縄文 (内)条痕	(外)圧痕 (内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
055-04	-	大歳山	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)縄文	(外) (内)なで	密：２㎜以下の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
055-05	鉢	大歳山	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)縄文	(外) (内)ナデ	密：２㎜以下の砂樂、砂粒含む	(外)淡黄褐色 (内)灰褐色
055-06	-	大歳山	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)縄文 (内)内面に黒斑あり	(外) (内)横ナデ	２㎜程度の小石、0.2㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
055-07	-	大歳山？	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)横位の条痕 (内)指頭圧痕	(外)ナデ (内)ナデ	密：２㎜程度の小石１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
055-08	鉢	大歳山？	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)横位の巻き貝条痕 (内)横方向に条痕	なし	密：２㎜以下の白砂含む	(外)灰褐色 (内)淡灰褐色
055-09	-	月崎下層	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁部刺突文のキザミ、横位の条痕 (内)斜め方向の条痕	なし	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)(内)黄褐色
055-10	-	月崎下層	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)たて方向の条痕 (内)横方向の貝殻条痕	なし	密：１㎜大の石英を含む	(外)(内)暗褐色
055-11	-	月崎下層	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)横位の条痕	(外) (内)横ナデ	密：微砂粒を少量含む	(外)暗橙褐色 (内)淡橙褐色
058-01	深鉢	大歳山	西	１３Ｅ	第２黒色土層	34cm	-	-	-	(外)４条の隆帯上から押し引き文、縄文 (内)１条の隆帯上から押し引き文、縄文	(内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)灰黄褐色
058-02	-	大歳山	西	１３Ｅ	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁端部刺突によるキザミ、隆帯上に半裁竹管による押し引き文（２段） (内)口縁部縄文	(外) (内)下面ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄橙褐色
058-03	-	大歳山	西	１４Ｅ	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)隆帯上に押し引き文、縄文 (内)横ナデ貝殻条痕	なし	密：微砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
058-04	深鉢	大歳山	西	１３Ｅ	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)隆帯上から押し引き(半裁竹管)２段、地は縄文	(外) (内)下半がナデ、上半がミガキ	密	(外)(内)灰褐色
058-05	鉢	大歳山	西	１３Ｅ	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)上方隆帯上に半裁竹管による押し引き文、その下に縄文	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：1.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)灰褐色
058-06	鉢	大歳山	西	１４Ｄ	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)縄文のち浮線文を施し、その上に半裁竹管による押し引き文を施してある。３条口縁にキザミあり。 (内)口縁部に縄文、下部は横ナデ	なし	６㎜大の小石２㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)橙褐色
058-07	-	大歳山	西	１３Ｄ	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)隆帯文の上から半裁竹管による押し引き文。その下縄文	(外)ナデ (内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)褐色
058-08	-	大歳山	西	１３Ｅ	第２黒色土層	-	-	-	-	(外)隆帯文の半裁竹管による押し引き文、下方縄文	(外)上方ナデ (内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)橙褐色 (内)黄橙褐色

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
058-09	鉢	縄文・黒木Ⅰ～大歳山	西	１４Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)側面は縄文、底部は縁から深いえぐりが入っている (内)条痕	(外)ナデ (内)	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)淡黄褐色 (内)淡橙褐色
058-10	浅鉢	大歳山	西	１３Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文	(外) (内)ナデ	密：１㎜程度の砂粒を含む	(外)(内)灰褐色
058-11	深鉢	船元式	西	１２Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文 (内)横位の条痕	(外)ナデ (内)ナデ	密：大きいもので３㎜大の小石粟を含む	(外)明褐色 (内)灰褐色
058-12	－	船元	西	－	－	－	－	－	－	(外)縄文 (内)横位の貝殻条痕	(外) (内)横ナデ	密：0.5㎜以下の砂粒を含む	(外)橙褐色 (内)淡黄褐色
058-13	深鉢	船元	西	１２Ｄ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文 (内)横位の条痕	なし	１㎜以下の砂粒を含む	(外)黄褐色 (内)灰黄褐色
058-14	－	縄文中期・船元式	西	１３Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文 (内)横ナデ	なし	やや粗：４㎜、３㎜以下の長石を含む	(外)(内)橙褐色
058-15	深鉢		西	１２Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)沈線文で区画された稜形文 (内)横方向に条痕	なし	１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)褐色
058-16	深鉢	後期・布勢式新段階～崎ヶ鼻Ⅰ	西	１２Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)沈線文、黒斑 (内)指頭圧痕	(外) (内)ナデ	密：３㎜の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
058-17	－	後期・布施式新段階～崎ヶ鼻Ⅰ	西	１２Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)沈線文 (内)横位の条痕	なし	密：４㎜以下、２㎜以下の長石を含む	(外)(内)黒褐色
058-18	鉢	縄文後期・布勢式新～崎ヶ鼻併行	西	１２Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文	(外) (内)ナデ	普通１㎜大の石英を含む	(外)(内)黄灰褐色
058-19	浅鉢	崎ヶ鼻Ⅰ～Ⅱ後期	西	１３Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(内)斜行する沈線文が横位に連続する。	(外)ナデ (内)ミガキ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
058-20	鉢	縄文後期	西	１３Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)横位の巻き貝条痕 (内)横位の巻き貝条痕	なし	３㎜以下の砂粒を含む	(外)灰褐色 (内)黄褐色
058-21	－	後期・粗製無文土器	西	１２Ｅ	第２黒色土層	3.0cm	16.2cm	－	－	(外)斜行する巻き貝条痕 (内)斜行する巻き貝条痕	なし	密：３㎜の砂粒、１㎜以下の砂粒含む	(外)(内)橙褐色
058-22	－	－	西	１２Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)横位の条痕のち円孔あり (内)横位の条痕	(外)ナデ (内)ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)明灰色
058-23	－	－	西	１２Ｅ	第２黒色土層	9.0cm	－	－	－	(内)条痕	(外)底部縁辺部はナデ、それ以外ヘラ削り (内)	密：２㎜以下１㎜以下の砂粒を含む	(外)橙褐色 (内)淡黄褐色
059-01	鉢	月崎下層	西	１３Ｄ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)押し引き刺突文が２段	(外)ナデ (内)ナデ	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)黄褐色 (内)灰褐色
059-02	鉢	月崎下層	西	１３Ｄ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)２段の押し引きによる刺突文	なし	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色
059-03	鉢	－	西	１４Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)刺突文あり（工具不明）	(外)横ナデ (内)横ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	(外)黄褐色 (内)淡黄褐色
059-04	－	－	西	１４Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部、ヘラによる刺突文、 (内)指頭圧痕、	(外)ナデ (内)ミガキ又はナデ	密：0.5㎜大の砂粒を含む	(外)(内)黄灰褐色
059-05	深鉢	－	西	１３Ｄ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)指頭圧痕、口縁端部に刺突のキザミ (内)横位の条痕	(外)ナデ (内)ナデ	密：１㎜大の砂粒が混じる	(外)(内)橙色
059-06	－	縄文前期	西	１１Ｅ	第２黒色土層	－	－	－	－	連続する弧形文	(外) (内)ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
059-07	－	縄文前期	西	１２Ｄ	第２黒色土層	－	－	－	－	(外)押し引きによる連続弧形文 (内)横方向の貝殻条痕文	なし	密：大きいもので２㎜程度の砂粒を含む	(外)橙褐色 (内)黒褐色

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
059-08	−	縄文前期	西	１４Ｅ	第２黒色土層	−	−	−	−	(外)条痕文（ｘ線) (内)横位の２枚貝条痕	なし	密：0.5㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)暗橙褐色
059-09	−	曽畑の可能性あり	西	１４Ｅ	第２黒色土層	−	−	−	−	(外)多重のたて方向の短沈線文（２段) (内)横方向の貝殻条痕	なし	密：微砂粒を含む	(外)(内)黄褐色
066-01	甕	２類	西	ＳＩ０１	Ｇ層	23cm	−	−	−	(外)口縁部に９条の沈線文。胴部に10条の沈線文	(外) (内)口縁部に横位のヘラミガキ。胴部は横位のヘラ削り	密：３㎜程度の砂粒、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)暗橙色系
066-02	壷	６類	西	ＳＩ０１	Ｇ層(176)	15.3	7.3	−	−	(外)口縁端部面を持つ。	(外)横ナデ (内)横ナデ、頸部以下ヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
066-03	甕	−	西	ＳＩ０１	Ｇ層(109)	−	3.1cm	−	9.0cm	なし	(外)たて方向のヘラミガキ、 (内)斜め左上方向のヘラ削り。	密：１㎜の密な砂粒を含む	(外)(内)黄色系
066-04	高坏	５類以降	西	ＳＩ０１	PNo.899	26cm	−	−	−	なし	(外)ナデ、たて方向ミガキ (内)ナデ、たて方向ミガキ	密：１㎜大の小石混ざる	(外)(内)黄色系
066-05	甕	−	西	ＳＩ０１	Ｇ層(73)	−	−	−	−	(外)ヘラ描波状文、５条の平行沈線文	(外)たてハケメ (内)たてハケメ、一部横ナデ	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
066-06	甕	−	西	ＳＩ０１	貼り床	−	−	−	−	なし	(外)横ナデ、黒班 (内)斜めヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
066-08	器台か？	弥生後期	西	ＳＩ０１	Ｇ層(1210)	−	−	−	−	(外)クシ状工具７条の平行沈線文	(外) (内)削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
066-09	鉢	縄文前期	西	ＳＩ０１	貼り床	−	−	−	−	(外)爪形文	(外) (内)たて方向の削り？	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄橙褐色
067-01	甕	１ａ類	西	ＳＩ０１	M層(57)	12.5cm	−	−	−	(外)口縁部に３条の凹線文、煤付着	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：1.5㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)淡灰色系
067-02	甕	１ｂ類	西	ＳＩ０１	M層(887)	21.2cm	−	−	−	(外)口縁３条の凹線文、６条の櫛描刺突文	(外)頸部横ナデ、頸部以下たてハケメ (内)ナデ、頸部以下ヘラ削り	密：２㎜以下、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)暗橙色系
067-03	壷	４類	西	ＳＩ０１	M層	17.4cm	−	−	−	(外)口縁部煤付着	(外)ナデ (内)ナデ	密：1.5㎜未満の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
067-04	甕	４類	西	ＳＩ０１	M層	26cm	−	−	−	(内)黒班	(外)頸部からナデ、削りからミガキ、 (内)削り、ミガキ、	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
067-05	甕	４類	西	ＳＩ０１	PNo.90	17.8	−	−	−	なし	(外)口縁から頸部横ナデ (内)口縁から頸部上半ナデ、頸部下半ヘラ削り、	密：１㎜以下砂粒を含む	(外)(内)橙色系
067-06	壷	５類	西	ＳＩ０１	覆土	17.6cm	8.9cm	−	−	(外)櫛状工具による９条以下の平行沈線文と刺突文、煤付着	(外)横ナデ (内)横ナデ、ヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
067-07	甕	６類	西	ＳＩ０１	M層	20.8cm	−	−	−	(外)口縁端部に面を持つ。上部に黒班。 (内)口縁部黒班	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：砂粒を含む	(外)(内)淡灰色
067-08	甕	６類	西	ＳＩ０１	第１黒色土層	23cm	−	−	−	(外)口縁端部面を持つ。一部煤付着 (内)口縁部黒班	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：２㎜以下の砂流含む	(外)(内)淡灰色系
067-09	甕	−	西	ＳＩ０１	M層(133)	11.6cm	5.5cm	25.8cm	−	(外)刺突文	(外)上半部横ナデ、肩部たてハケメ後横ハケメ。以下たてハケメ (内)頸部以上横ナデ、頸部横方向ヘラ削り	密：１㎜大の小石含む	(外)(内)淡灰色
067-10	(胴部)	−	西	ＳＩ０１	M層	−	−	−	−	(外)８条の櫛描文で下３本は沈線文	(外) (内)ハケメ	密：１㎜以下の砂粒	(外)(内)灰色系
067-11	(頸部)	−	西	ＳＩ０１	M層(100)	−	−	−	−	(外)櫛状工具による多状沈線文の上に沈線文、ナデ (内)全体的に赤彩残る	(外) (内)ヘラミガキ	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
067-12	甕	−	西	ＳＩ０１	M層(147)	−	−	−	−	(外)ヘラによる３条の沈線、たてハケメ (内)横ハケメ	(外) (内)横ハケメ	密：１㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)淡灰色

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
067-13	甕	-	西	ＳＩ０１	M層(149)	-	-	-	-	(外)櫛描刺突文６条、黒斑	(外)横ハケメ、横ナデ (内)たて、斜め方向のヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)橙色系
067-14	甕	-	西	ＳＩ０１	M層(881)	-	-	-	5.4cm	なし	(外)たてハケメ、ヘラミガキ (内)指圧痕、ヘラ削り	やや密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
067-15	甕	-	西	ＳＩ０１	M層(880)	-	-	-	10.2cm	なし	(外)たてハケメ (内)横ハケメ、底部はナデ	密：１㎜程度の砂粒を多く含む	(外)(内)黄色系
067-16	低脚杯(杯部)	-	西	ＳＩ０１	覆土	-	-	-	-	(外)一部煤付着 (内)黒斑	(外)ナデ (内)ミガキ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡黄色系
069-01	甕	弥生中期(Ⅳ－２)	西	ＳＩ０２	M層(154)	-	-	-	-	(外)櫛描刺突文２段	(外)たて方向のハケメ (内)たて方向へのヘラ削り	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
069-02	甕	-	西	ＳＩ０２	M層(55)	-	-	-	-	(外)櫛状工具による刺突文	(外)たて方向へラミガキ (内)たてナデ、たてヘラ削り	密：0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	(外)(内)暗橙色系
072-01	-	１ａ類	西	ＳＩ０３	G層(2310)	18.8cm	-	-	-	(外)一部黒斑	(外)横ナデ (内)横ナデ、頸部以下ヘラ削り	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
072-02	甕	２類	西	ＳＩ０３	G層(2595)	18.8cm	-	-	-	(外)口縁部５条以上の沈線	(外)頸部以下横ナデ、 (内)口縁上部横ナデ、口縁下部へラミガキ、口縁頸部削り	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色
072-03	甕	５類	西	ＳＩ０３	G層(2599)	16cm	-	-	-	(外)口縁部に平行沈線文、ナデ消し、肩部には平行沈線文、刺突文	(外)横ハケメ (内)口縁部から頸部横ナデ、肩部上半横へラミガキ、下半は横方向のヘラ削り	密	(外)(内)黄色系
072-04	甕	１ｂ類	西	ＳＩ０３	G層(2646)	17.6cm	4.5cm	-	-	(外)煤付着	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)(内)橙色系
072-05	甕	-	西	ＳＩ０３	G層(2309)	-	-	-	-	(外)櫛状工具による刺突文。２連現存。下に沈線	(外)横へラミガキ (内)ヘラ削り、上部削りのちミガキ	密：0.5㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)淡灰色系
072-06	甕	-	西	ＳＩ０３	G層(2317)	15.4cm	-	-	-	(外)櫛形工具による平行沈線文。シャープなヘラ又は板状工具による刺突文。	(外) (内)頸部削り	密：0.5㎜以下の砂粒を僅かに含む	(外)(内)橙色系
072-07	甕	-	西	ＳＩ０３	G層	-	-	-	-	(外)肩部に幅広の刺突文(２段)上部に黒斑、煤付着 (内)下部に煤付着	(外)横ナデ、ハケメのちミガキ(下半部) (内)削り	密：３㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)淡灰色系
072-08	甕	-	西	ＳＩ０３	G層(2316)	-	-	-	-	(外)波状文、平行沈線文、波状文	(外)上半はたてハケメ、下半はたてハケメ後斜行するハケメ (内)ヘラ削り後横ナデ	密：雲母を少量含む	(外)(内)橙色系
072-09	甕	弥生中期？	西	ＳＩ０３	G層(2312)	-	-	-	6.4cm	なし	(外)ヘラミガキ (内)削り	密：１㎜程度の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
072-10	甕	-	西	ＳＩ０３	G層(2594)	-	-	-	6.4cm	なし	(外)ナデ (内)削り	密：１㎜程度の砂粒を僅かに含む	(外)(内)黄色系
072-11	鼓形器台	-	西	ＳＩ０３	G層(2331)	-	-	-	-	赤祭	(外)ミガキ (内)ミガキ		(外)(内)黄色系
073-01	甕	５類	西	ＳＩ０３	覆土	13.4cm	-	-	-	なし	(外)横ナデ (内)横ナデ、胴部横方向にヘラ削り	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
073-02	壷	-	西	ＳＩ０３	M層(2344)	-	-	-	-	(外)沈線、貝殻刺突文	(外) (内)削り、ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡黄色
073-03	鼓形器台	-	西	ＳＩ０３	覆土	-	-	-	-	なし	(外)横ナデ (内)削り	密：１㎜程度の砂粒含む	(外)(内)黄色系
073-04	低脚杯	弥生後期	西	ＳＩ０３	M層	16.4cm	-	-	-	なし	(外)横ナデ後たて方向にヘラミガキ (内)横ナデ、たて方向のヘラミガキ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)暗橙色系
073-05	高坏	弥生後期	西	ＳＩ０３	M層(2256)	15cm	-	-	-	(外)上部黒斑	(外)ミガキ (内)ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
073-06	甕	-	西	ＳＩ０３	M層	22.5cm	8.6cm	-	-	なし	(外)口縁部粗い横ハケメのち横ナデ、胴部粗い横ナデ (内)口縁部横ハケメ後横ナデ頸部以下横斜め上方向のヘラ削り	やや粗：３㎜程度小石を含む	(外)(内)橙色系
073-07	甕	-	西	ＳＩ０３	M層(3670)	13.6cm	-	-	-	なし	(外)口縁粗いナデ (内)頸部横方向のナデ、削り	やや粗：４㎜、２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
074-01	鉢	６類	西	ＳＩ０３(土器溜り)	第２黒色土層	19.4cm	17cm	-	-	(外)肩部、平行沈線、刺突文	(外)口縁横ナデ、胴部たてハケメ (内)口縁から頸部、横ナデ、胴部ヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
074-02	甕	５類	西	ＳＩ０３	-	19.4cm	-	24.6cm	-	(外)肩部に14条以上の凹線とその下は斜めのシャープな刺突	(外)口縁部は横ナデ、胴部全体にハケメ (内)口縁部横ナデ、頸部横方向ミガキ、胴部はヘラ削り(上半横方向、下半たて方向)	密：0.5㎜以下の砂粒を僅かに含む	(外)(内)淡褐色
074-03	甕	５類	西	ＳＩ０３(土器溜り)	-	16.2cm	-	-	-	(外)波状文、平行沈線文	(外)上半横ハケメ、下半たてハケメ (内)口縁部横ナデ、頸部以下肩部横方向のヘラ削り、下半たて方向のヘラ削り	密：３㎜以下の微砂粒を含む	(外)(内)橙色系
074-04	甕	５類	西	ＳＩ０３(土器溜り)	-	16.2cm	24.5cm	-	-	(外)肩部平行沈線文、刺突文	(外)口縁部から頸部横ナデ (内)胴部上半横ハケメ、下半たてハケメ後ナデ、口縁部横ナデ、頸部から胴部上半横方向削り、胴部下半指頭圧痕後たてへら削り	密：微砂粒を多く含む	(外)(内)橙色系
076-01	甕	弥生Ⅳ様式	西	ＳＩ０３(中央土坑)	M層(3659)	18.8cm	3.4cm	-	-	(外)口縁部３条凹線文	(外) (内)横ナデ、頸部以下ハケメ	密：１㎜大の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
076-02	甕	１ｂ類	西	ＳＩ０３(中央土坑)	M層	18.8cm	-	-	-	(外)口縁部３条の凹線、刺突文	(外)横方向のナデ (内)横方向のナデ、削り	密：１㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)暗橙色系
076-03	甕	２類	西	ＳＩ０３(中央土坑)	G層(2641)	19.5cm	6.3cm	-	-	(外)口縁櫛状工具による	(外)胴部横ナデ (内)口縁横ナデ、頸部以下横方向ヘラ削り	密：２㎜の砂粒１㎜以下の砂粒含む	(外)(内)橙色系
076-04	壺	草田２	西	ＳＩ０３(中央土坑)	G層	17.6cm	11.6cm	-	-	なし	(外)口縁横ナデ、頸部横ナデ、胴部へラミガキ (内)口縁部上半横ナデ、口縁部下半へラ削り	密：３㎜程度の小石を含む	(外)(内)暗橙色系
076-05	甕	-	西	ＳＩ０３	G層	15.4cm	9.1cm	-	-	(内)煤付着	(外)口縁部横ナデ、肩部たてハケメ、煤付着 (内)口縁部横ナデ、頸部以下へラ削り	密：0.5㎜程度の砂粒を多く含む	(外)(内)黄色系
076-06	甕	弥生後期	西	ＳＩ０３(中央土坑)	M層(3658)	-	-	-	-	(外)上部：櫛描き平行沈線文。下部：６条の櫛描き刺突文。中央より下煤付着	(外) (内)横方向のへラ削り	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
076-07	甕	弥生後期	西	ＳＩ０３(中央土坑)	M層(3862)	-	-	-	3.2cm	(内)煤付着	(外)たて方向のへラミガキ (内)指頭圧痕、へラ削りか？煤付着	密	(外)(内)暗灰色系
076-08	甕	-	西	ＳＩ０３(中央土坑)	M層	12.8cm	9.3cm	-	-	なし	(外)口縁部横ナデ、胴部粗いナデ (内)口縁部横ナデ、胴部横、斜め方向へラ削り	やや粗：0.5㎜の砂粒含む	(外)(内)黄色系
079-01	甕	４類	西	ＳＩ０４	G層(2451)	14.6cm	-	-	-	(外)口縁一部分にすす付着	(外)口縁部横ナデ、頸部下半たてハケメ後横ナデ (内)口縁部横ナデ、頸部から胴部横方向にへラ削り	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)(内)橙色系
079-02	甕	５類	西	ＳＩ０４	M層(2998)	15.4cm	-	-	-	(外)一部煤付着	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：３㎜１㎜程度の砂粒含む	(外)(内)黄色系
079-03	甕	-	西	ＳＩ０３	M層(2999)	-	-	-	-	(外)櫛状工具による多状沈線	(外)横へラミガキ (内)横へラミガキ	密：１㎜程度の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
079-04	高坏	-	西	ＳＩ０４	M層(2997)	-	-	-	11.4cm	なし	(外)横ナデ又はたて方向のミガキ (内)上半削り、下端は横ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
083-01	甕	１ａ類	西	ＳＩ０５	G層	-	-	-	-	(外)３条の沈線	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：２㎜以下１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色
083-02	甕	４類	西	ＳＩ０５	G層(3601)	16.4cm	4.7cm	-	-	(外)口縁部黒斑	(外)横ナデ (内)横ナデ、頸部以下へラ削り	密：0.5㎜の砂粒を僅かに含む	(外)(内)淡灰色系
083-03	甕	-	西	ＳＩ０５	G層	18.7cm	-	-	-	(外)ところどころ煤付着	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
083-04	-	5類	西	S I 0 5	G層(3617)	18.3cm	6.7cm	-	-	(外)ヘラ先の刺突文	(外)口縁部横ナデ、頸部から肩部たてハケメのち横ナデ (内)口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
083-05	甕	5類	西	S I 0 5	P No. 3607	20cm	14.9cm	-	-	(外)肩部波状文（15～20本程度）	(外)口縁部横ナデ、胴部たてハケメ、下半は横ナデ (内)口縁部横ナデ、胴部上半斜め方向ヘラ削り、胴部下半たて方向ヘラ削り	密：0.5㎜の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
083-06	甕	6類	西	S I 0 5	G層(3614)	18.8cm	-	-	-	(外)口縁部上部に煤付着 (内)口縁上部に黒班	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：3.5㎜の小石、0.8㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
083-07	甕	6類	西	S I 0 5	M層(3645)	12cm	-	-	-	(外)口縁端部に面を持つ。	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：1.5㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)橙色系
083-08	鼓形器台	-	西	S I 0 5	G層	-	-	-	-	(外)擬凹線文	(外)ミガキ (内)削り、ミガキ	密：1㎜以下の砂粒含む	(外)(内)暗橙色
083-09	甕	-	西	S I 0 5	G層	-	-	-	-	(外)上部は17条程度の波状	(外)下部はたて方向にハケメ (内)横方向にヘラ削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
083-10	-	-	西	S I 0 5	G層	-	-	-	-	(外)平行沈線文、波状文	(外) (内)横方向の削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
084-01	甕	1 a類	西	S I 0 5	M層(3234)	19.6cm	4.5cm	-	-	(外)口縁部3条沈線	(外)横ナデ、胴部ハケメのちナデ (内)口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り	密：3㎜大の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
084-02	甕	2類	西	S I 0 5	M層(3036)	23cm	-	-	-	(外)口縁部と頸部に櫛描きによる沈線	(外)横ナデ (内)口縁部横ナデ、胴部削り、頸部ミガキ	1.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
084-03	甕	4類	西	S I 0 5	M層(3087)	14.8cm	-	-	-	(外)頸部以下5条の平行沈線文	(外)口縁横ナデ (内)口縁横ナデ、頸部以下横方向にヘラ削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
084-04	甕	5類	西	S I 0 5	M層(3004)	16.2cm	-	-	-	(外)肩部に櫛状刺突文	(外)口縁部横ナデ、頸部から肩部横ナデ、胴部上半横、たてハケメ、下半たてハケメ後横ナデ (内)口縁横ナデ、胴部削り（上半よこ調ヘラ削り、下半たて方向のヘラ削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
084-05	甕	5類	西	S I 0 5	M層(3532)	17.6cm	23.9cm	-	-	(外)波状文（9から10条）平行沈線文	(外)口縁横ナデ、肩部横に近いハケメ後横ナデ、胴部たて方向のハケメ、肩部付近煤付着 (内)口縁部横ナデ、頸部から胴部上半横方向ヘラ削り、下半たて方向ヘラ削り	密：1㎜以下の砂を多量に含む	(外)(内)橙色系
084-06	甕	5類	西	S I 0 5	P No. 3349	16.3cm	24.5cm	-	-	(外)胴部8条の波状文、櫛状工具13条以下の平行沈線文	(外)口縁部横ナデ、胴部ハケメ (内)口縁部横ナデ、斜め方向、たて方向のヘラ削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
084-07	甕	-	西	S I 0 6	G層	17.6cm	-	-	-	なし	(外)横ナデ (内)口縁横ナデ	密：2㎜以下、1㎜以下の砂粒を含む1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
084-08	甕	6類	西	S I 0 5	M層(3220)	19cm	-	-	-	(外)肩部に櫛描きによる7条程度の平行沈線文、その下にヘラ描きの斜めに刺突文、その下ヘラ描きの斜めに刺突文、その下4本のヘラ描きの沈線文 (内) 頸部に指頭圧痕	(外)口縁部横ナデ、胴部はハケメ後ナデ (内)口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り	3㎜程度の小石、1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
084-09	甕	6類	西	S I 0 5	M層(3021)	25.8cm	7.2cm	-	-	(外)波状文、11条程度の重ね波状、口縁平坦面を持つ	(外)横ナデ (内)口縁部横ナデ、頸部ヘラミガキ、以下横方向のヘラ削り	密：1㎜大の砂粒を少量含む	(外)(内)淡灰色系
085-01	甕	-	西	S I 0 5	覆土	-	-	-	-	(外)黒班	(外)たて方向のハケメ（棒状のもので押しながら引いている (内)たて方向の削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色
085-02	甕	-	西	S I 0 5 (中央土坑)		-	-	-	-	(外)胴部に幅広い刺突文	(外)頸部横ナデ (内)たて方向ヘラ削り	密：4㎜の小石、1㎜程度の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
085-03	甕	-	西	S I 0 5 (中央土坑)	M層	-	-	-	-	(外)肩部ヘラによる刺突文列、緩やかな波状、貝殻刺突文、刺突文はシャープ	(外)たて、横、斜め方向ハケメ、 (内)頸部横ナデ、胴部横方向の削り	密：0.5㎜大の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
085-04	甕	-	西	S I 0 5	M層(3161)	-	-	-	-	(外)貝殻刺突文（2段）	(外)ナデ、横方向のヘラミガキ (内)斜め方向の削り	密：2㎜、1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
085-05	甕	-	西	S I 0 5	M層	-	-	-	-	(外)11条の櫛状工具による刺突を行いながら平行沈線を施す	(外) (内)横方向のヘラ削り	密：2.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
085-06	(頸部)	-	西	ＳＩ０５	M層	-	-	-	-	(外)波状文	(外)頸部横ナデ (内)横方向の削り	密：１㎜以下砂粒を含む	(外)(内)黄色系
085-07	甕	-	西	ＳＩ０５	M層 (3628)	-	-	-	-	(外)ヘラ状工具による刺突文、ヘラ描き沈線、櫛状工具による平行沈線文。全体煤付着	(外)ハケメ (内)横方向ヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
085-08	甕	-	西	ＳＩ０５ (中央土坑)		-	-	-	-	(外)櫛状工具による平行沈線文、その下に櫛状工具による波状文	(外) (内)横方向のヘラ削り	密：1.5㎜以下の砂粒の砂粒を含む	(外)(内)暗橙色系
085-09	甕	-	西	ＳＩ０５	M層 (3030)	-	-	-	-	(外)一部煤付き (内)一部煤付き	(外)ハケメのちナデ (内)削り	２㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
085-10	甕	-	西	ＳＩ０５	M層	-	-	-	11.2cm	なし	(外)ナデ (内)ミガキ	やや粗	(外)(内)橙色系
085-11	鼓形器台	-	西	ＳＩ０５	M層 (3323)	-	7cm	-	-	(外)黒斑	(外)横方向ナデ (内)受部はヘラミガキ、脚部はヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
085-12	高坏	中期	西	ＳＩ０５	覆土	-	-	-	-	(外)口縁部上端３条の凹線文、口縁帯４条の凹線文	(外) (内)横ナデ	密：微砂粒含む	(外)(内)淡灰色系
085-13	高坏	-	西	ＳＩ０５	M層	-	-	-	-	(外)筒部：７条凹線紋。杯部：磨き (内)磨き。底部充填粘土剥離痕	(外)筒部：透かしあり？ (内)筒部：絞り。削り		
085-14	高坏	弥生後期	西	ＳＩ０５	M層	-	-	-	-	なし	(外)たて方向ナデ (内)ハケメ	0.5㎜以下の砂粒を僅かに含む	(外)(内)橙色系
085-15	高坏	-	西	ＳＩ０５	M層	28.2cm	7cm	-	-	なし	(外)横ナデ、たて横ハケメのち (内)たて方向のミガキ	２㎜大の小石を含む	(外)(内)黄色系
088-01	甕	-	西	ＳＩ０６	覆土	-	-	-	-	突帯はキザミ目あり	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
088-02	-	１ａ類	西	ＳＩ０６	M層 (3422)	16.5cm	-	-	-	(外)３条の凹線を施す 頸部刺突文、ヘラ描き沈線粘土帯貼り付けた後刺突文	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)(内)淡灰色
088-03	甕 (口縁)	２類	西	ＳＩ０６	M層	11.0cm	-	-	-	口縁部外面に櫛状工具による９条の平行沈線文	(外)口縁部から頸部横ナデ (内)口縁部上半横ナデ、下半横方向のヘラミガキ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
088-04	甕	２類	西	ＳＩ０６	G層 (3387)	22.4cm	6.8cm	-	-	(外)口縁部、頸部に平行沈線文	(外)横ナデ (内)口縁部横ナデ、頸部屈曲部ヘラミガキ（横方向）以下横方向ヘラ削り	やや粗：0.5㎜ｍの砂粒を多く含む	(外)(内)黄色系
088-05	鉢	６類	西	ＳＩ０５	M層 (3383)	24.4cm	23.4cm	-	-	(外)肩部平行沈線文	(外)口縁部横ナデ、胴部上半たてハケメ、下半は横たてハケメ (内)口縁部横ナデ、胴部上半右斜め方向ヘラ削り、底部付近横方向の削り	密：0.5㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)黄色系
088-06	甕	-	西	ＳＩ０６	M層	-	-	-	-	(外)波状文（12条以上の櫛状工具による）	(外)頸部横ナデ (内)頸部ナデ、胴部横方向のヘラ削り	密：１㎜程度の砂粒含む	(外)(内)橙色系
088-07	底部	-	西	ＳＩ０６	M層 (3059)	-	-	-	5.5cm	(外)黒斑、煤付着	(外)横方向ミガキ (内)ヘラ削り	密：20㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
088-08	高坏	中期	西	ＳＩ０６	G層	17.2cm	-	-	-	(外)口縁端部３条の凹線文、口縁側面５条の凹線文	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：微砂粒含む	(外)(内)淡灰色
090-01	甕	１ａ類	西	ＳＩ０７	G層	19.4cm	-	-	-	(外)口縁部３条の凹線、頸部櫛描刺突文	(外)口縁部ナデ (内)口縁部ナデ、頸部以下削り	密：２㎜以下、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
090-02	甕	６類	西	ＳＩ０５	M層 (3002)	-	-	-	-	なし	(外)横方向のナデ (内)横方向のナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色
090-03	鼓形器台	-	西	ＳＩ０５	M層 (3202)	19.6cm	-	-	-	なし	(外)横ナデ（ヘラ傷あり） (内)横方向のヘラミガキ	微砂粒を含む	(外)(内)黄色系
090-04	甕	-	西	ＳＩ０７	M層	-	-	-	-	(外)13条以上の波状文	(外)たてハケメ下横ハケメ (内)横方向削り	密：３㎜の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
093-01	甕	Ⅵ様式	西	ＳＩ０８	M層 (3754)	20.6cm	-	-	-	(外)２条の凹線	(外)横ナデ (内)口縁部から頸部横ナデ、胴部斜め方向のハケメのち	密：２㎜以下、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
093-02	甕	4類	西	SI08	M層(3733)	30cm	5.9cm	-	-	煤付着	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：3㎜の砂粒と1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
093-03	甕	5類	西	SI08	M層(3739)	15.4cm	-	-	-	煤付着	(外)横ナデ (内)口縁部ナデ、頸部以下横方向のヘラ削り	密	(外)(内)淡灰色系
093-04	甕	6類	西	SI08	第1黒色土層(3762)	18cm	3.4cm	-	-	(外)口縁端部凹線状に窪む。煤付着	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：微砂粒を多く含む	(外)(内)淡灰色系
093-05	胴部片	-	西	SI08	第1黒色土層(3700)	-	-	-	-	(外)櫛描刺突文	(外)たて方向のミガキ (内)ナデ	密：2㎜以下、1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
093-06	-	-	西	SI08	第1黒色土層(3720)	-	-	-	-	(外)竹管文（3段に施される）	(外)ハケメのちナデ (内)上半ナデ、下半横方向削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
093-07	底部	-	西	SI08	第1黒色土層(3706)	-	-	-	-	なし	(外)多方向ハケメ (内)やや右上がりのヘラ削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
093-08	鼓形器台	-	西	SI08	第1黒色土層(3766)	24.8cm	-	-	-	(外)櫛状工具による5条の波状文	(外)横ナデ (内)横方向のヘラミガキ、指頭圧痕あり	密：1.5㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)黄色系
093-09	鼓形器台	-	西	SI08	第1黒色土層(3734)	-	-	-	-	なし	(外)横ナデ (内)上部横ナデ、下部はヘラ削りのちミガキ	密：4㎜程度の小石、1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
099-01	縄文深鉢(口縁部)	縄文晩期・V類(篠原式段階)	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)条痕、口縁部は波状の形状 (内)条痕	なし	やや密：1㎜程度大の砂粒を含む	(外)(内)茶褐色
099-02	深鉢(口縁部)	縄文晩期(無文粗製深鉢)	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)横方向の条痕 (内)横方向の条痕	なし	やや密：3㎜程度大の小石を含む	(外)(内)茶褐色
099-03	三類・粗製の深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(内)口縁部下方沈線文	(外)粗いナデ (内)粗いナデ	粗：1㎜程度大の小石を含む	(外)茶褐色 (内)灰茶褐色
099-04	深鉢(口縁部)	縄文晩期(無文粗製深鉢)	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁部沈線文（1条）	(外)胴部上半に粗いナデ (内)粗いナデ	やや密：1㎜程度大の砂粒を含む	(外)(内)黄茶褐色
099-05	深鉢(無文・粗製深鉢)	縄文晩期	西	14E	第1黒色土層	-	-	-	-	(内)口縁部に粘土貼付（肥厚）	(外)ナデ (内)ナデ	やや密：1㎜程度大の小石を含む	(外)黄褐色 (内)灰褐色
099-06	深鉢(口縁部)	縄文晩期(無文粗製深鉢)		T15	第1黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)粗いナデ (内)粗いナデ	やや粗：2㎜程度大の砂粒を含む	(外)灰茶褐色 (内)茶褐色
099-07	晩期浅鉢	縄文晩期	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)横方向のミガキ (内)横方向のミガキ	密：4㎜程度大の小石を含む	(外)黄橙褐色 (内)黒褐色
099-08	浅鉢	縄文晩期(粗製浅鉢)	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)胴部沈線文1条あり	(外) (内)ナデ	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)茶褐色
099-09	浅鉢(胴部)	縄文晩期	西	SI01	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)1条の沈線あり	(外)ミガキ (内)ナデ	粗1㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)灰色
099-10	浅鉢(胴部)	縄文晩期(精製浅鉢)	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)横方向ミガキ (内)横方向ミガキ	密：2㎜大の砂粒を含む	(外)黄橙色 (内)灰茶褐色
099-11	浅鉢(口縁部)	粗製沈線文(Ⅲ～V)併行	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁下方粗製沈線文	(外) (内)ナデ	やや粗：1㎜程度大の砂粒を含む	(外)(内)黄茶褐色
100-01	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	12D	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁部やや下方に貼付突帯文	なで	やや密：3㎜程度大の小石を含む	(外)灰黒褐色 (内)灰色
100-02	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁下方突帯文（キザミあり）	(外)胴部上方ナデ (内)ナデ	やや密：1㎜程度大の砂粒を含む	(外)(内)淡茶褐色
100-03	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)口縁部やや下方に貼付突帯文（キザミあり）	(外)頸部ナデ (内)ナデ	やや密：2㎜程度大の小石を含む	(外)(内)黄茶褐色

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
100-04	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部やや下方に突帯文、口付端部若干外に折まがる、キザミあり	(外) (内)ナデ	粗：３㎜程度大の小石を含む	(外)茶褐色 (内)灰茶褐色
100-05	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	１１Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部下方突帯文（キザミ無し）	(外)ナデ (内)ナデ	やや粗：２㎜大の小石を含む	(外)(内)茶褐色
100-06	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	ＳＩ０１	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部下方に突帯文(突帯上にキザミ状の傷)	(外) (内)ナデ	やや密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)茶褐色
100-07	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部下方に退化した突帯文	(外) (内)ナデ	やや密：２㎜程度大の小石を含む	(外)(内)黄褐色
100-08	深鉢(胴部)	縄文晩期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)胴部刻み突帯文	(外) (内)ナデ	粗：３㎜程度大の小石を含む	(外)茶褐色 (内)灰茶褐色
100-09	深鉢(胴部)	縄文晩期	西	？	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)胴部に貼付突帯文（刻みあり）	(外)胴部粗いナデ (内)ナデ	やや密：１㎜程度大の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)茶褐色
100-10	深鉢	縄文晩期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)胴部貼付突帯文に竹管による刺突文	(外) (内)ナデ	やや密：１㎜程度大の小石を含む	(外)(内)茶褐色
100-11	深鉢(胴部)	縄文晩期	西	１１Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)胴部突帯文（キザミなし）	(外) (内)ナデ	やや密：３㎜程度大の小石を含む	(外)橙茶褐色 (内)黄茶褐色
100-12	胴部（突帯文キザミ無し）	縄文晩期	西	１１Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)胴部突帯文	(外) (内)ナデ	粗：１㎜程度大の小石を含む	(外)茶褐色 (内)灰茶褐色
100-13	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	26.8cm	－	－	－	(外)口縁部突帯文にキザミ	(外)口縁部ナデ、胴部上半ナデ (内)横方向のナデ	やや密：砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)茶褐色
100-14	深鉢（口縁部上方）	縄文晩期	西	ＳＩ０８	第１黒色土層	20.8cm	－	－	－	(外)口縁部突帯文	(外)胴部上半粗いナデ (内)ナデ	やや密：砂粒を含む	(外)黄橙褐色 (内)茶褐色
100-15	深鉢(口縁部)	縄文晩期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)竹管工具による刺突の突帯文	(外)ナデ (内)ナデ	粗：２㎜程度大の小石を含む	(外)茶褐色 (内)黄茶褐色
100-16	深鉢	縄文晩期	西	ＳＩ０３	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部上方に突帯文（キザミなし）	(外)ナデ (内)ナデ	やや密：３㎜程度大の砂粒を含む	(外)(内)茶褐色
100-17	深鉢(口縁部)	－	西	１４Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁突帯文（キザミ無し）	(外)指頭圧痕 (内)ナデ、指頭圧痕	やや粗：２㎜大の小石を含む	(外)(内)黄褐色
100-18	縄文(口縁部)	－	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)炭化物多量に付着	(外)粗いナデ (内)ナデ	やや密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)黒色 (内)茶褐色
100-19	浅鉢	縄文(後期・晩期)	西	１２Ｅ	第１黒色土層	12.4cm	－	－	－	突帯文？	(外)ナデ (内)ナデ	やや密：１㎜程度大の砂粒を含む	(外)黒褐色 (内)茶褐色
100-20	胴部片	縄文・船元Ⅲ	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文、半裁竹管による連弧文	(外) (内)ナデ	粗：２㎜程度大の小石を含む	(外)黄褐色 (内)茶褐色
100-21	胴部片	縄文（薄手）	西	１３Ｄ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文	(外) (内)指頭圧痕後ナデ	やや粗：１㎜大の砂粒を含む	(外)(内)茶褐色
100-22	胴部片	縄文	西	１４Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文	(外) (内)ナデ	やや密：１㎜程度大の砂粒を含む	(外)(内)黄茶褐色
100-23	胴部片	縄文	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)縄文	(外) (内)ナデ、指頭圧痕	粗：２㎜大の小石を含む	(外)橙褐色 (内)茶褐色
101-01	甕(口縁部)	弥生前期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部外に折り曲げ、突帯文にキザミ	(外)横ナデ (内)横ナデ		(外) (内)
101-02	壷	弥生前期	西	ＳＩ０１	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部刻み	(外)頸部上半ナデ (内)ナデ	やや密：３㎜程度大の小石を含む	(外)(内)淡茶褐色

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
101-03	甕(口縁部)	弥生前期	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)下方に２条以上の櫛描刺突文	(外)口縁上部はナデ (内)口縁部横ナデ、指頭圧痕後横ナデ	密	(外)(内)黄褐色
101-04	壷	弥生前期	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)９条のヘラ描木の葉文	(外) (内)ナデ	密：２㎜以下、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
101-05	壷	弥生前期	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)貝殻による２条の沈線文に上下を区切られた中に有軸羽状文	(外) (内)たてハケメ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
101-06	壷	弥生前期	西	１１E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)貝殻施文による有軸羽状文	(外) (内)		(外)(内)茶褐色
101-07	壷(頸部)	弥生中期	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)９条ほどの櫛状工具による斜行刺突文	(外)頸部上から横ナデ、たてハケメ後横ナデ、たてハケメ (内)絞り後ナデ	やや密：微砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
101-08	甕又は壷	－	西	１３E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)ヘラ状工具による斜行文、ヘラ描刺突文（一部黒斑）	(外)胴部上半たてハケメ、下半たてヘラミガキ (内)ハケメ後ナデ	密：２㎜の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
101-09	壷(頸部)	弥生中期	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)凹線文	(外)ナデ (内)ハケメを何重に施す	密	(外)白灰色 (内)明灰色
101-10	壷(頸部)	弥生中期	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)２条凹線文	(外) (内)横方向のハケメ後ナデ	密	(外)(内)黄灰色
101-11	壷	弥生中期	西	１２E ＳＩ０５	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)貼付突帯にヘラ状工具による刺突文	(外)頸部上部横ナデ、下部横ナデ (内)横ナデ	密：１㎜程度の砂粒を含む	(外)(内)灰色系
101-12	甕	Ⅳ様式	西	１４E	第１黒色土層	14cm	4.5cm	－	－	(外)口縁部３条の凹線文、頸部板状工具による刺突文の後に３条以上の沈線文	(外) (内)口縁部横ナデ、頸部横ハケメ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
101-13	高坏(端部)	中期Ⅳ様式	西	１２E	第１黒色土層	20.2cm	3.3cm	－	－	(外)口縁端部に２条凹線、口縁部と杯部中程に連続刺突文と３条凹線。２段にくびれている	(外)付け根に向かってミガキを施す (内)横ナデ	密：微砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
101-14	高坏(端部)	中期Ⅳ様式	西	１２D	第１黒色土層	12.4cm	－	－	－	(外)口縁の端部３条の凹線文、口縁部５条の凹線文	(外)なし (内)横ナデ	密：1.5㎜程度の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
101-15	高坏	筒部Ⅳ様式	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)６条以上の凹線文	(外)(内)削り後ナデ	１㎜程度の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
101-16	大型壷(流水紋付)	－	西	１１E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)５条１単位、櫛描流水紋 (内)風化の為不明	なし	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
101-17	大型壷(片)	弥生(中期後葉)	西	１１E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)凹線文１条、ヘラ状工具による８条の沈線文	(外)ハケメ (内)横方向ハケメ	密：微砂粒を含む	(外)(内)暗橙色系
101-18	大型壷(流水紋付)	弥生(中期後葉)	西	１３E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)８条のヘラ描沈線文、１条の凹線紋、刺突によるキザミ	(外) (内)ハケメ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
101-19	大型壷(流水紋付)	弥生(中期後葉)	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)８条程の櫛描沈線文	(外)ハケメ (内)横ハケメ後ナデ	密：２㎜の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
101-20	大型壷(流水紋付)	弥生(中期後葉)	西	１３E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)ヘラ描７条の沈線文、１条の凹線文、刺突によるキザミ後２条の凹線文	(外)たてハケメ (内)横ハケメ後ナデ	やや密：１㎜程度の小石を含む	(外)(内)橙色系
101-21	大型壷(流水紋付)	弥生(中期後葉)	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)ヘラ状工具による４条の沈線文、凹線文１条後刺突によるキザミ、凹線文２条	(外)ハケメ (内)横方向ハケメ	密：0.5㎜の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
101-24	大型壷	弥生(中期後葉)	西	１１E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)凹線文の間に凹線文１条を引き、キザミを入れる	(外)下方はたてハケメ (内)横ハケメ	密	(外)(内)暗橙色系
101-25	大型壷(流水紋付)	弥生(中期後葉)	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)刺突によるキザミ後凹線文	(外)たてハケメ後ミガキ (内)縦方向削り後横ハケメ後ナデ		(外)(内)暗橙色系
102-01	甕	Ｉａ類	西	１３E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)口縁部３条の凹線文、６条櫛状工具による２段の斜行刺突文 (内)煤付着	(外)口縁部から頸部横ナデ、胴部の上位から中位、たて、斜めハケメ (内)口縁横ナデ、頸部以下やや斜めの縦方向削り	密：５㎜大の小石を含む	(外)(内)黄色系

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位（取上NO）	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
102-02	甕	Ⅰa類	西	１１Ｅ	第１黒色土層	16.7cm	－	－	－	(外)３条凹線文	(外)横ナデ (内)ハケメ後ナデ、縦方向の削り	密：２㎜以下１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
102-03	壷又は甕	Ⅰb類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	14.6cm	－	－	－	(外)口縁３条の沈線文、頸部２段刺突文から沈線文	(外) (内)横ナデ		(外)(内)淡灰色系
102-04	壷又は甕	Ⅰb類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	23cm	－	－	－	(外)口縁部に３条の凹線文。肩部に櫛状工具による文様	(外)横ナデ、口縁部ナデ、胴部たてハケのち横ナデ (内)口縁部は横ナデ、胴部横方向のヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
102-05	－	Ⅰb類	西	１１Ｅ	第１黒色土層	25.2cm	－	－	－	(外)口縁部４条の凹線紋	(外)横ナデ (内)横ナデのちヘラミガキ		(外) (内)
102-06	壷又は甕	Ⅰb類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	19.4cm	3.0cm	－	－	(外)口縁端部は２条沈線文。口縁部は３条沈線文、頸部に連続刺突文	(外) (内)口縁部横ナデ、頸部横方向のヘラ削り	密：0.5㎜以下の砂粒を僅かに含む	(外)(内)淡灰色
102-07	甕	Ⅰb類	西	１３Ｅ	第１黒色土層	21.0cm	－	－	－	(外)口縁部２条、４条の凹線文、頸部連続した櫛描刺突文、３条の凹線文	(外)胴部横ハケ後ナデ (内)口縁部から頸部ナデ、頸部以下削り、頸部付近は指頭圧痕後削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
102-08	甕	２類	西	１１Ｅ	第１黒色土層	15.8cm	－	－	－	(外)口縁部櫛状工具による平行沈線文	(外) (内)口縁部横ナデ、頸部以下削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)暗灰色系
102-09	甕	２類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	18cm	5.2cm	－	－	(外)口縁８条程の平行沈線文、下半の３条程はナデ消し	(外)頸部以下横ナデ (内)口縁横ナデ、下半部横方向のヘラミガキ、頸部以下ヘラ削り	密：１㎜大の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
102-10	複合口縁	３類	西	１１Ｅ	第１黒色土層	15cm	－	－	－	(外)口縁部煤付着、16条以上の平行沈線文、胴部櫛状工具による波状文	(外) (内)口縁部横方向にナデ、胴部横方向にヘラ削り	密で５㎜以下の砂粒含む	(外)(内)黄色系
102-11	壷又は甕	３類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	25cm	－	－	－	(外)口縁22条の平行沈線文、煤付着	(外)頸部以下横ナデ (内)口縁横ナデ、頸部以下削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
102-12	甕	３類	西	１１Ｅ	第１黒色土層	14.6cm	－	－	－	(外)黒斑あり	(外)口縁部横ナデ　胴部ヘラ削り後ミガキ (内)口縁端部横ナデ、口縁部下半から胴部は横方向ヘラ削り	やや粗：1.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
102-13	鉢	－	西	１１Ｅ	第１黒色土層	23cm	－	－	－	なし	(外)口縁部横ナデ、肩部横ハケメ、胴部たてハケメ (内)口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り	密：３㎜以下の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
103-01	壷又は甕	４類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	16.2cm	－	－	－	(外)肩部刺突文	(外)口縁部横ナデ、頸部付近たてハケメのちナデ。肩部横ハケメ、肩部以下たてハケメ (内)口縁から頸部横ナデ、頸部以下上半ヘラ削り、下半削り後ナデ消し		(外)(内)暗灰色系
103-02	甕	４類	西	１１Ｅ	第１黒色土層	25.6cm	－	－	－	なし	(外)横ナデ (内)口縁から頸部横ナデ、頸部に横方向のハケメ、胴部はヘラ削り	密：1.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
103-03	複合口縁	５類	西	１１Ｅ	第１黒色土層	16.2cm	－	－	－	(外)一部煤付着，胴部14条の擬凹線文	(外)口縁部横ナデ (内)ハケメ	密：２㎜の小石、１㎜以下の砂粒含む	(外)(内)暗橙色系
103-04	甕	５類	西	１３Ｅ	第１黒色土層	23cm	－	－	－	(外)櫛状工具による刺突文	(外)頸部から口縁部にかけて横ナデ、頸部から胴部たてハケメのちナデ、胴部横ハケメとたて、斜め、横ハケメ (内)頸部から口縁横ナデ、頸部から下ヘラ削り	２㎜程度の小石を含む	(外)(内)黄色系
103-05	壷又は甕	６類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	17.2cm	－	－	－	(外)肩部刺突文、煤付着	(外)口縁部横ナデ、胴部たてハケ (内)口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
103-06	壷又は甕	６類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	18.2cm	－	－	－	(外)口縁端部面を持つ、肩部１条の刺突文と10条以上の平行沈線文	(外)口縁部横ナデ (内)口縁部から頸部横ナデ、頸部以下横方向ヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
103-07	壷又は甕	６類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	20.4cm	－	－	－	(外)口縁端部面を持つ、口縁帯は平行沈線文後ナデ消し、肩部櫛状工具による刺突文	(外)横ナデ、口縁帯は横ナデ (内)口縁部は横ナデ、頸部以下横方向ヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)暗灰色
103-08	壷	６類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	17.4cm	－	－	－	なし	(外)横ナデ (内)口縁横ナデ、頸部以下ヘラ削り	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
103-09	壷	６類	西	１２Ｅ	第１黒色土層	19.4cm	－	－	－	(外)頸部不規則な３段の竹筒文、全体的に煤付着	(外)口縁部横位のナデ、頸部ハケメ (内)口縁部横位のナデ、頸部指圧痕後横位のヘラ削り、胴部横位のナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
103-10	二重口縁壷	６～７類	西	１１Ｅ	第１黒色土層	28.8cm	－	－	－	(外)口縁部面を持つ (内)黒斑	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：３㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄色系

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
103-11	壷又は甕	7類より新しめ	西	11E	第1黒色土層	23.0cm	-	-	-	(外)口縁端部面とをもち、内面に若干折り返す。たてハケメ後15条程の平行沈線文と9条の波状文	(外)頸部より上部は横ナデ、ナデ、頸部より下部は、たてハケメ (内)頸部より上部は横ナデ、指頭圧痕後横ナデ、その下横方向削り	やや密：2㎜大の小石を含む	(外)(内)橙色系
104-01	(注口土器)	6類	西	11E	第1黒色土層	17.4cm	8.5cm	-	-	(外)肩部に平行沈線文と貝殻刺突文	(外) (内)		(外) (内)
104-02	(注口土器)	-	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)ナデ (内)絞り痕が認められる。	やや密	(外)(内)黄色系
104-03	甕	-	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)ハケ原体状の工具による刺突文のち、2条のへら描平行沈線文	(外) (内)横位のヘラ削り	2㎜の小石、1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄橙褐色
104-04	-	-	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)ヘラ状工具による鋸歯文	(外)ナデ (内)指頭圧痕の後、はけ目	密：1㎜以下の砂粒含む	(外)(内)黄色系
104-05	甕	-	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)貝殻連続刺突文と下方には「八の字」形に3～6条の連続刺突文	(内)たて削り、上半やや横のヘラ削り	やや粗：1㎜大の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
104-06	鼓形器台	3類	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)受部上半平行沈線文 (内)受部、単位不明瞭だが横方向のヘラミガキ、脚部横方向のヘラ削り	(外)横ナデ、下半横ナデ、胴部横ナデ	やや密：1㎜大の小石を含む	(外)(内)橙色系
104-07	鼓形器台	-	西	11E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)貝殻刺突文	(外)横ナデ (内)受部ナデ、筒部以下削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
104-08	鼓形器台	-	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	21.8cm	(外)擬凹線文後赤色顔料一部付着	(外)横ナデ (内)削り後ヘラミガキ	密：1㎜以下の砂を含む	(外)(内)淡灰色系
104-09	鼓形器台	-	西	12E	第1黒色土層	24cm	-	-	-	(内)黒斑あり	(外)ナデ (内)上方ミガキ（横方向）、下方横方向のミガキ後たてミガキ	密：1.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
104-10	高坏又は脚部	-	西	12E	第1黒色土層	-	8.1cm	-	8.2cm	(外)端部は2条の平行沈線文、 (内)杯底部分、粘土の充てん	(外)調整不明 (内)脚内面、上方指頭圧痕、下方横ナデ	粗：1㎜大の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
104-11	高坏	-	西	12E	第1黒色土層	20.0cm	-	-	-	(外)杯部との接続はα（アルファー）技法で5cm程の竹帯状の現による刺突痕あり。	(外)横ナデのあと、細いヘラミガキ (内)たて方向ヘラミガキ	密：2㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
104-12	高坏(脚部)	-	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	17.0cm		(外)胴部、たて方向のハケメ、筒部面取り状にたて方向にナデ、ミガキ、円孔の補修孔あり(5ヶ所) (内)脚部は横ハケメ、筒部ヘラ削り、脚部ナデ、端部付近に指頭圧痕	密：微砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
104-13	高坏脚	-	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)たて方向ヘラミガキ (内)底部下方にハケメ、上方は横方向のヘラ削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄橙褐色
104-14	高坏	-	西	11E	第1黒色土層	-	-	-	-	(外)赤色顔料塗布されている。3箇所に高さが不揃いの円孔あり。 (内)粘土盤を充てん。上部、中央部に孔あり	(外)横ナデのちミガキ (内)絞り後削り	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
104-15	低脚坏	-	西	11E	第1黒色土層	14.8cm	-	-	-	(外)口縁部赤色顔料一部塗布されている。 (内)坏部に2本のヘラ状工具による沈線	(外)横ナデ (内)坏部ミガキ	密：1㎜以下の砂粒含む	(外)(内)暗灰色系
104-16	低脚坏	-	西	12E	第1黒色土層	11.4cm	5.0cm	-	4.6cm	なし	(外)杯部たて方向のミガキ、脚部横ナデ (内)風化のため不明	密：2㎜大の砂粒含む	(外)(内)橙色系
104-17	低脚坏	-	西	12E	第1黒色土層	12.6cm	4.1cm	-	5.7cm	なし	(外)杯部たてハケメのちナデ　脚部横ナデ (内)杯部不明瞭であるが、たて方向のミガキ、脚部ナデ	密：1㎜以下の砂粒含む	(外)(内)橙色系
104-18	低脚坏(脚部)	-	西	12E	第1黒色土層	-	-	-	5.7cm	(外)上下部は剥離したもの、横ナデ (内)4条のヘラ描文	(外)横ナデ (内)内面横ナデ	密：2㎜大の砂粒、1㎜以下の砂粒含む	(外)(内)橙褐色
104-19	低脚坏	-	西	11E	第1黒色土層	-	-	-	3.6cm	(外)2方向の円形すかし	(外)杯部ヘラミガキ、脚部横方向ヘラミガキ (内)坏部ヘラミガキ、脚部ナデ	密：1㎜以下の砂粒含む	(外)(内)淡灰色系
105-01	壷又は甕(底部)	前期	西	12E	第1黒色土層	-	3.0cm	-	9.0cm	なし	(外)胴部ハケメ、底面ナデ (内)指頭圧痕、ナデ	粗：1㎜大の砂粒を多量に含む	(外)(内)暗橙色系
105-02	壷又は甕(底部)	弥生前期	西	11E	第1黒色土層	-	-	-	7.5cm	なし	(外)ナデ、底部ミガキ (内)やや斜め横位のヘラミガキ	密：1㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位(取上NO)	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調
105-03	壷又は甕(底部)	中期	西	１１Ｅ	第１黒色土層	-	2.2cm	-	4.8cm	なし	(外)ミガキ、底部、ナデのちミガキ (内)削り後ナデ？	密：0.5㎜大の砂粒を含む	(外)(内)暗灰色系
105-04	壷又は甕(底部)	中期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	-	3.2cm	-	10.8cm	なし	(外)たてミガキ、底部はナデ (内)表面は摩滅、調整の詳細は不明	やや粗：0.5㎜の砂粒を大量に含む	(外)(内)黄色系
105-05	壷又は甕(底部)	中期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	-	-	-	6.8cm	なし	(外)たてミガキ (内)底部、指頭圧痕、胴部たてヘラ削り	やや粗：１㎜大の砂粒を含む	(外)(内)淡灰色系
105-06	(底部)	後期	西	１３Ｅ	第１黒色土層	-	-	-	4.6cm	なし	(外)胴部縦方向ヘラミガキ、底部ナデ (内)ヘラミガキ	密：１㎜以下の砂粒含む	(外)(内)暗灰色系
105-07	壷又は甕(底部)	弥生後期	西	１１Ｅ	第１黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)胴部たてハケメ、底部ナデ (内)胴部たて方向のヘラ削り、底部ナデ	密：１㎜大の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
105-08	壷又は甕(底部)	弥生後期	西	１１Ｅ	第１黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)胴部たてハケメ、底部ハケメ (内)たて方向のヘラ削り	密：５㎜の小石、１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)橙色系
105-09	壷又は甕(底部)	後期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	-	3.6cm	-	4.4cm	なし	(外)胴部ナデ、底面は工具によるナデ (内)底部に指頭圧痕、たてヘラ削り	やや粗：0.5㎜の砂粒を含む	(外)(内)暗灰色系
105-10	壷又は甕(底部)	後期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	-	1.8cm	-	5.6cm	(外)底面は膨らみを持つ	(外)全体にハケメ (内)ヘラ削り	密：２㎜大の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
105-11	壷又は甕(底部)	後期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	-	-	-	6.4cm	(外)黒斑あり (内)煤付着	(外)粗いヘラ削り (内)ヘラ削り	４㎜大の小石、1.5㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)暗橙色系
105-12	(底部)	-	西	１２Ｅ	排土	-	-	-	-	なし	(外)上半削り後ミガキ、下半たて削り後横ナデ (内)胴部削り後ナデ、脚部削り後ナデ	密：１㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)暗灰色系
105-13	(底部)	弥生	西	１２Ｅ	第１黒色土層	-	-	-	9.5cm	なし	(外)横ナデ (内)胴部削り後横ナデ、脚部ヘラ削り	４㎜大の小石を含む	(外)(内)橙色系
106-01	甕	-	西	１２Ｅ		22.0cm	30.3cm	-	-	なし	(外)口縁部から頸部横ナデ、胴部たてハケメ、胴部下半から底部ナデ (内)口縁部横ナデ、胴部たて方向ヘラ削り	密：0.5㎜以下の砂粒を多く含む	(外)(内)橙色系
106-02	甕	-	西	ＳＩ０３	M層	21cm	-	-	-	(外)頸部以下ヘラ削り	(外)口縁部横ナデ (内)口縁部横ナデ	やや粗：３㎜大以上の小石を含む	(外)(内)黄色系
106-03	甕	古墳後期	西	１２Ｅ	第１黒色土層	20.8cm	-	-	-	なし	(外)横ナデ (内)口縁部横ナデ、頸部以下たてヘラ削り	密：２㎜～３㎜の大の砂粒を含む	(外)(内)黄色系
106-04	甑	-	西	１２Ｅ	第１黒色土層	-	-	-	-	なし	(外)ナデ (内)底部ナデ、胴部削りのちナデ	やや粗：５㎜大の小石を含む	(外)(内)黄色系
106-05	坏	-	西	１２Ｅ	第１黒色土層	13.0cm	3.0cm	-	8.0cm	(内)底部外面以外、内部に赤色顔料が塗布されている。	(外)凹凸が目立つ強い回転ナデ、なで、底部はけ目後ナデ (内)回転ナデ、底部はけ目	密で精製されている	(外)(内)橙色
106-06	坏	-	西	１２Ｅ	第１黒色土層	16cm	-	-	-	(外)条痕あり、内外に赤色顔料塗布される	(外)回転ナデ、底部は削りか？ (内)回転ナデ、底部はナデ	密	(外)(内)橙褐色
109-09	坏	-	西	１２Ｄ	第１黒色土層	10.2cm	1.9cm	-	5.3cm	なし	(外)回転ナデ、底部回転糸切り (内)底部付近まで回転ナデ、底部不明	密：３㎜以下の砂粒を含む	(外)(内)黄灰褐色
066-07	甕	-	西	ＳＩ０１	G層	-	-	-	-	なし	(外)横ナデ (内)たて方向のヘラ削り	密：粒砂を含む	(外)(内)淡灰色系
038-04	坏	-	東３区	-	第２黒色土層	11.6cm	3.1cm	-	5.5cm	(外)外側に土器片付着	(外)回転ナデ　底部回転糸切り (内)回転ナデ	密	(外)(内)橙褐色
101-22	大型壷(流水紋付)	弥生(中期後葉)	西	-	第１黒色土層	-	-	-	-	(外)刺突によるキザミ、凹線３条	(外) (内)横ハケメ	密：微砂粒を含む	(外)(内)橙褐色
101-23	大型壷(流水紋付)	弥生(中期後葉)	西	１１Ｅ	第１黒色土層	-	-	-	-	(外)沈線文１条、凹線文１条、刺突によるキザミ	(内)横ハケメ	密：微砂粒を含む	(外)(内)橙色系

板屋Ⅲ遺跡　出土　須恵器　観察表

挿図	器種	時期・型式	区	遺構	層位・取上NO	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	調整	胎土
107-01	杯蓋？	出雲４期	西	１１E	表土	15.6cm	3.3cm	－	－	－	(外)回転ナデ、回転ヘラ削り、底部中央ナデ (内)回転横ナデ、底部静止ナデ	緻密：0.5mm以下の砂粒を僅かに含む
107-02	坏蓋	出雲５～６期	西	１１E	表土	11.8cm	－	12.0cm	－	－	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	密：0.5mm以下の砂粒を僅かに含む
107-03	蓋	８C後半以降	西	１３E	南北ベルト	－	－	－	－	－	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	緻密
107-04	坏	出雲４期	西	１２E	2084	13.7cm	3.3cm	15.8cm	－	－	(外)口縁部から底部付近回転ナデ、底部周辺回転ヘラ削り、静止ナデ (内)口縁部から底部回転ナデ、底部静止ナデ	密：１mm以下の砂粒を含む
107-05	坏	出雲４期	西	１１E	第１黒色土層	11.8cm	3.8cm	14.4cm	4.4cm	－	(外)口縁部は回転横ナデ、1/2のところから1/3のところまで回転ヘラ削り、底部は静止ナデ (内)回転横ナデ、底部は静止ナデ	密：１mm以下の砂粒を含む
107-06	坏	出雲５期	西	１２E	第１黒色土層	10.4cm	3.9cm	14.1cm	7.6cm	－	(外)端部から底部上部回転横ナデ、底部静止横ナデ (内)横ナデ	密：１mm以下の砂粒を含む
107-07	坏(無高台)	８C代	西	１３E	第１黒色土層	14cm	－	14.4cm	－	－	(外)回転横ナデ (内)横ナデ	密：0．8mm以下の砂粒を含む
107-08	坏	８C後半以降	西	１２E	第１黒色土層718	17.4cm	3.1cm	－	－	－	(外)回転横ナデ (内)回転横ナデ	密：微砂粒を含む
107-09	坏	８C後半以降	西	１２E	第１黒色土層751	15.8cm	－	－	－	－	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	２mm以下の小石、１mm以下の砂粒を含む
107-10	坏(底部)	８C代	西	１３E	表土	－	－	－	5.2cm	－	(外)横ナデ (内)横ナデ	密：１mm以下の砂粒を僅かに含む
107-11	高坏	出雲４～５期	西	１１E	第１黒色土層1651	－	－	－	－	(外)透かしあり	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	密：１mm以下の砂粒を含む
107-12	壷	－	西	１２E		10.6cm	－	－	－	(外)自然釉薬付着	(外)回転横ナデ (内)回転横ナデ	密：１mm以下の砂粒を含む
108-01	大甕	－	西	１１E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)２条の沈線文、４条の櫛描き波状文（３段）	(外) (内)回転横ナデ	密：１mm以下の砂粒を含む
108-02	大型甕	－	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(外)沈線で区画された波状文（２段）、波状文は９～11条程の櫛状工具	(外) (内)回転ナデ	密：１mm以下の砂粒を含む
108-03	中型甕	－	西	１１E	第１黒色土層2661	23.2cm	6.1cm	－	－	(外)頸部以下平行たたき (内)頸部以下同心円文当具痕	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	密：１mm以下の砂粒を含む
108-04	中型甕	－	西	ＳＩ０３	M層	17cm	－	－	－	(内)同心円文押さえ痕	(外)口縁部回転横ナデ (内)頸部より下平行たたき	緻密：0．5mm以下の長石を僅かに含む
108-05	甕	－	西	１１E	表土	－	－	－	－	(内)同心円文おさえ	(外)(内)平行たたき	密：１mm以下の砂粒を含む
108-06	甕	－	西	１２E	第１黒色土層	－	－	－	－	(内)同心円文のおさえ	(外)平行たたき (内)	密：１mm以下の砂粒を含む
108-07	甕	－	西	ＳＩ０３	M層267	－	－	－	－	(内)同心円文（青海波状）	(外)平行たたき (内)	密：４mmの小石、１mm以下の砂粒を含む
108-08	甕	－	西	１２E	第１黒色土層620	－	－	－	－	(内)同心円文のおさえ	(外)２条１cmに２条の平行たたき (内)	密：２mm以下、１mm以下の砂粒を含む
108-09	甕	－	西	ＳＩ０３	M層	－	－	－	－	(内)同心円文のおさえ	(外)平行たたき (内)	密：１mm以下の砂粒を含む
108-10	甕	－	西	１２E	排土	－	－	－	－	(内)同心円文当具痕（青海波状）	(外)平行たたき (内)	密：２mm以下の砂粒を含む
108-11	甕	－	西	ＳＩ０３	M層	－	－	－	－	(内)同心円文が明瞭	(外)底部たたきのちカキ目 (内)	密：２mm以下の小石を含む

第23表　出土陶磁器観察表

挿図	器　種	区	遺構	層位・取上NO	口径	器高	最大径	底径	釉薬・文様など	産　地
038-05	褐色釉・陶器坏	東	３区	—	9.2cm	1.9cm	—	4.3cm	褐色釉	—
109-01	白磁皿（16ｃ）	西	１１Ｅ(トレンチ15)	盛土	—	—	—	—	—	中国
109-02	青磁碗	西	１１Ｅ	表土	—	—	—	5.8cm	—	中国（中世）
109-03	青花碗（16ｃ末～17ｃ初）	西	１１Ｄ	表土	—	—	—	5.5cm	底部青花	華南
109-04	皿	西	１３Ｅ	—	26.2cm	—	—	—	染付	肥前
109-05	碗	西	１１Ｅ	第１黒色土　層	—	—	—	3.9cm	(内)底部蛇目に釉をはぎとる	肥前
109-06	碗	西	１２Ｄ	造成土	—	—	—	５cm		肥前（18ｃ代）
109-07	碗	西	１３Ｄ	表土	—	—	—	4.2cm	(外)緑釉 (内)染め付	肥前？
109-08	碗	西	—	—	—	—	—	６cm	肥前系	肥前
109-10	碗	西	１３Ｄ	表土	—	—	—	5.4cm	淡褐色の釉	不明
109-11	皿	西	１２Ｄ	表土	14.8cm	—	—	—	(外)端部溝縁 (内)内面に灰釉	唐津
109-12	皿（三ヶ月高台）	西	１１Ｅ	表土	—	—	—	—	(外)底部、三ヶ月高台、無施釉 (内)乳白色の釉	唐津（17ｃ中頃）
109-13	擂鉢	西	１１Ｄ	表土	—	—	—	—	(外)回転ナデ (内)６条の櫛描による擂目	在地
109-14	壷（17ｃ以前）	西	１２Ｅ	表土	—	—	—	—	(外)５条の沈線 (内)回転ナデ	備前
109-15	甕	西	１１Ｄ	第１黒色土　層	—	—	—	—	(外)敲きあり	肥前系
109-16	甕	西	１１Ｅ	—	18.5cm	—	—	—	常滑系	—
109-17	瓦質土器（甕）	西	１１Ｄ	表土	4.0cm	—	—	—	(外)断面に修復痕あり。回転ナデ (内)６条のハケ状の条痕あり。	不明

第24表　板屋Ⅲ遺跡　出土　石製品　観察表

挿図NO	種別	区	遺構	層位・取上NO	長径	短径	厚さ	重量	石材	特　　徴
037-01	宝篋印塔	東	－	第１黒色土層	宝珠・長径10.1cm 幅(最大径)10.9cm 請花・長径 5.1cm 幅(最大径)11.3cm 九輪・長径 9.5cm 幅(最小径)8.3cm～10cm			－	－	九輪が結構しっかりしているので室町時代の後半～戦国頃
038-01	磨石	東	大木周辺	－	10.4cm	7.6cm	6.2cm	694.8ｇ	－	各面とも滑らかな磨面が認められる
038-02	凹石	東３区	大木周辺	－	11cm	9.6cm	5cm	651.4ｇ	－	表面は敲打により凹む。裏面は磨面でやや凹む。側面の一部は敲打によりやや凹む部分あり
038-03	石皿	東	大木周辺	－	8.7cm	4.9cm	1.6cm	90.6cm	－	表裏面とも磨面様であり凹凸が認められる
044-04	剥片	西	集石遺構	第３黒色土層	9.5cm	6.5cm	－	－	閃緑岩	自然石の可能性が高い
044-05	剥片	西	集石遺構下部	第３黒色土層	3.7cm	2.6cm	0.6cm	4.9ｇ	安山岩	人為的に加工が加えられた痕跡は無い
050-01	石鏃	西	１２Ｅ	第３黒色土層209	1.68cm	1.52cm	0.5cm	1ｇ	黒曜石	凹基式の石鏃
050-02	石鏃	西	１２Ｅ	第３黒色土層293	1.5cm	1.17cm	0.23cm	0.29ｇ	黒曜石	凹基式の石鏃
050-03	石鏃	西	１２Ｅ	第３黒色土層	0.8cm	0.15cm	0.3cm	0.24ｇ	黒曜石	先端部破損の凹基式の石鏃
050-04	スクレイパー	西	－	第３黒色土層	2.3cm	1.7cm	0.4cm	2ｇ	黒曜石	－
050-05	剥片	西	－	第３黒色土層	1.6cm	1.4cm	0.4cm	0.9ｇ	黒曜石	ただの剥片
050-06	石匙	西	１２Ｅ	第３黒色土層	5.2cm	2.9cm	0.7cm	8ｇ	流紋岩～安山岩	石匙の刃部を再加工したものか
050-07	スクレイパー	西	１１Ｄ	第３黒色土層	13.6cm	7.2cm	1cm	－	安山岩(サヌカイト)	長辺の１辺に細い剥片を施して刃部としている
050-08	磨製石斧	西	１４Ｄ	第３黒色土層	9.4cm	5.1cm	2.1cm	155.4ｇ	頁岩	基部は光沢あり。刃部は欠け側面は敲打痕が左右とも認められる
050-09	磨製石斧？	西	１３Ｅ	第３黒色土層	8.9cm	3.3cm	1.8cm	79.5ｇ	泥質片岩	石斧かどうか明確に判明しない
050-10	棒状磨石	西	１３Ｄ	第３黒色土層	7.8cm	3.2cm	2.5cm	111.5ｇ	頁岩	両側面は非常に擦痕が目立つ磨面であり平坦になる。表裏面は全面ではなく部分的に擦痕が目立ち滑面となる。
050-11	敲石・磨石	西	１１Ｄ	第３黒色土層	9.6cm	6.2cm	5cm	385ｇ	石英斑岩	下面が磨面で平坦になる
050-12	敲石・磨石	西	１３Ｄ	第３黒色土層	8.8cm	7.7cm	4.4cm	405.1ｇ	粗面岩	表裏面とも径１cm弱程の凹みを持つ。周辺は磨面様であり、又は側面の２面も磨り面で平坦となっている。
050-13	敲石・磨石	西	１４Ｅ	第３黒色土層	8.8cm	7.9cm	5.1cm	522.1ｇ	ひん岩	表裏面とも敲打により凹みを持つ。側面は敲打痕と磨り面の両者が見られ、ちょうど長辺と短辺がそれぞれ組み合わさって、1/2ずつ役割が変えてある。
050-14	敲石・磨石	西	１１Ｄ	第３黒色土層	11.6cm	8.7cm	6.1cm	934.6ｇ	－	表裏面とも磨石が認められ、表面中央に敲打痕が認められる
050-15	凹石	西	１１Ｅ	第３黒色土層155	13.4cm	11.5cm	4cm	901.7ｇ	ひん岩	表裏面とも敲打により凹む。
051-01	石錘	西	１３Ｄ	第３黒色土層84	5.47cm	3.48cm	1.26cm	4.25ｇ	凝灰岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所を打ち欠く
051-02	石錘	西	１１Ｄ	第３黒色土層	5.41cm	4.1cm	1.42cm	4.56ｇ	ひん岩	扁平な円礫の長辺２ヶ所打ち欠く
051-03	石錘	西	ＳＤ０２	第３黒色土層下部	6.15cm	4.89cm	1.41cm	49.9ｇ	粗面岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-04	石錘	西	１３Ｅ	第３黒色土層	5.55cm	4.31cm	1.52cm	50.4ｇ	ひん岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-05	石錘	西	ＳＤ０２	第３黒色土層下部	5.48cm	5.7cm	1.59cm	53.5ｇ	ひん岩	やや不整形の扁平な円礫の長辺２ヶ所打ち欠く
051-06	石錘	西	１２Ｅ	第３黒色土層	5.62cm	4.69cm	1.15cm	55.4ｇ	花崗岩	やや角の残る扁平な礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-07	石錘	西	１２Ｅ	第３黒色土層	5.64cm	3.67cm	1.77cm	60.3ｇ	花崗岩	やや凹凸のある扁平な礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-08	石錘	西	１２Ｅ	第３黒色土層292	5.68cm	4.04cm	1.83cm	60.6ｇ	粗面岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-09	石錘	西	１３Ｄ	第３黒色土層	6.33cm	5.79cm	1.56cm	89.3ｇ	流紋岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-10	石錘	西	１４Ｅ	第３黒色土層	6.75cm	4.68cm	4.26cm	95.5ｇ	？	横断面三角形の扁平な礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-11	石錘	西	１４Ｄ	第３黒色土層	7.28cm	5.34cm	1.77cm	97.2ｇ	凝灰岩	やや不整形の扁平な礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-12	石錘	西	１３Ｄ	第３黒色土層37	5.56cm	5.33cm	2.78cm	101.7ｇ	花崗岩	やや扁平でない礫の長辺２ヶ所打ち欠く。
051-13	石錘	西	１３Ｅ	第３黒色土層	7.1cm	2.38cm	2.41cm	102.6ｇ	粗面岩	やや厚みのある細長い円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-14	石錘	西	１２Ｅ	第３黒色土層281	7.05cm	4.81cm	1.96cm	105.7ｇ	花崗岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-15	石錘	西	１４Ｄ	第３黒色土層	7.93cm	6.19cm	1.71cm	142.2ｇ	流紋岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-16	石錘	西	１３Ｅ	第３黒色土層	7.29cm	5.58cm	3.15cm	147ｇ	流紋岩	一面のみが扁平である円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-17	石錘	西	１１Ｅ	第３黒色土層	9.24cm	6.48cm	1.43cm	159.1ｇ	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く。扁平な円礫を使用

挿図NO	種別	区	遺構	層位・取上NO	長径	短径	厚さ	重量	石材	特徴
051-18	石錘	西	１３Ｄ	第３黒色土層	8.58cm	6.42cm	2.35cm	166ｇ	流紋岩	やや不整形な扁平な礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-19	石錘	西	１４Ｅ	第３黒色土層46	7.18cm	7.03cm	2.18cm	171.6ｇ	流紋岩	やや不整形の円礫の長辺２ヶ所打ち欠く
051-20	石錘	西	１３Ｄ	第３黒色土層	10.2cm	6.46cm	1.71cm	193.6ｇ	花崗閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
051-21	石錘	西	１４Ｄ	第３黒色土層	7.09cm	6.14cm	2.96cm	198.9ｇ	閃緑岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く、右側上面一部破面
051-22	石錘	西	１３Ｅ	第３黒色土層	11cm	3.92cm	3.1cm	196.1ｇ	粗面岩	やや細長い棒状の礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-23	石錘	西	１４Ｅ	第３黒色土層	8.39cm	6.73cm	3.42cm	228.5ｇ	流紋岩	いびつな形の礫。短辺２ヶ所打ち欠く
051-24	石錘	西	１２Ｄ	第３黒色土層	7.48cm	7.78cm	2.77cm	222.8ｇ	細粗花崗岩	扁平な円礫の長辺２ヶ所打ち欠く
051-25	石錘	西	１３Ｄ	第３黒色土層	8.81cm	7.09cm	2.36cm	241.1ｇ	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く。扁平な円礫を使用
051-26	石錘	西	１３Ｄ	第３黒色土層	7.24cm	6.98cm	3.1cm	244.8ｇ	凝灰岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-27	石錘	西	１３Ｅ	第３黒色土層	10.7cm	8cm	1.93cm	325.5ｇ	花崗閃緑岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
051-28	石錘	西	ＳＤ０２	第3黒色土層下部309	10.57cm	8.39cm	2.1cm	331.9ｇ	閃緑岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
052-01	石皿	西	１１Ｄ	第３黒色土層159	18cm	13.2cm	6.2cm	2100ｇ	粗面岩	表裏面とも磨面であり表面はやや凹む
052-02	石皿	西	－	石20	25.3cm	14.3cm	16.6cm	6900ｇ	ひん岩	両面に磨り面あり。表面にはやや被熱の痕が赤味を帯びる
052-03	石皿	西	－	第３黒色土層石8	29.3cm	11.7cm	5.8cm	2800ｇ	安山岩	表面は使用面で平滑である。裏面は剥離のため不明であるが生きている部分は使用痕は認められない
052-04	石皿	西	－	第３黒色土層	22.8cm	22.6cm	8.5cm	6100ｇ	酸性貫入岩	表裏面とも使用面で滑らかである。凹面の方は破面付近がより滑らかな面となる
052-05	石皿	西	－	Ｂ３層石44	25.7cm	12.8cm	3.9cm	2800ｇ	ひん岩	やや粗めの滑面である。短径は破面。側面付近が不自然に凹む
055-12	石錘	西	ＳＫ０５	第２黒色土層	7.72	5.1	1.7cm	－	－	扁平な円礫の短辺２ヶ所を打ち欠く
055-13	玦状耳飾	西	ＳＫ０５	覆土	9.3cm	1.07cm	0.28cm	－	凝灰岩	擦り切り痕あり、補修孔（径３㎜）、上部と左側欠損
055-14	玦状耳飾	西	ＳＫ０５	覆土	5.6cm	0.9cm	0.28cm	－	凝灰岩	右側と左側下端欠損
060-01	石錘	西	１１Ｅ	第２黒色土層	4.89cm	3.4cm	1.21cm	26ｇ	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く。ややいびつな形状の扁平な石器
060-02	石錘	西	１４Ｅ	第２黒色土層	5.14cm	4.05cm	1.15cm	37.5ｇ	凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く。扁平な円礫を使用
060-03	石錘	西	１２Ｄ	第２黒色土層	5.64cm	4.1cm	1.2cm	37.5ｇ	凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く。扁平な円礫を使用
060-04	石錘	西	１３Ｅ	第２黒色土層	5.03cm	3.68cm	1.63cm	44.9ｇ	石英斑岩	短辺２ヶ所打ち欠く。扁平な円角を使用
060-05	石錘	西	１３Ｅ	第２黒色土層	5.6cm	5.1cm	1.3cm	50.2ｇ	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く。やや角の残る扁平な石を使用
060-06	石錘	西	１３Ｅ	第２黒色土層	7.68cm	3.76cm	2.1cm	103.8ｇ	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く。やや厚みのある細長い円礫を使用
060-07	石錘	西	１２Ｅ	第２黒色土層	7.69cm	5.02cm	2.01cm	111.2ｇ	花崗閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く。扁平なやや角が若干残る円礫を使用
060-08	石錘	西	１２Ｄ	第２黒色土層	7.34cm	5.35cm	2.1cm	112.4ｇ	花崗閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
060-09	石錘	西	１１Ｅ	第２黒色土層	8.37cm	4cm	2.16cm	114.6ｇ	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く。扁平で細長い円礫
060-10	石錘	西	１１Ｅ	第２黒色土層	5.82cm	6cm	2.76cm	151.8ｇ	凝灰岩	長辺２ヶ所打ち欠く。右は裏面が大きく打ち欠き、左は浅く打ち欠く。あまり扁平でない円礫
060-11	石錘	西	１２Ｅ	第２黒色土層	6.92cm	7.6cm	1.9cm	155.8ｇ	ひん岩	長辺２ヶ所打ち欠く。やや不整五角形の扁平な礫を使用
060-12	石錘	西	１１Ｅ	第２黒色土層	8.45cm	6.29cm	1.78cm	161.1ｇ	石英斑岩	扁平な円礫の両端を打ち欠く。右端部はあまりえぐれてない
060-13	石錘	西	１３Ｄ	第２黒色土層	7.56cm	5.84cm	2.9cm	189ｇ	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く。やや凹凸のある扁平な硬い円礫を使用する
060-14	石錘	西	１３Ｅ	第２黒色土層	9.45cm	6.25cm	2.36cm	210ｇ	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
060-15	石錘	西	１４Ｅ	第２黒色土層	7.38cm	6.83cm	4cm	249.5ｇ	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く。やや厚みのある扁平でない円礫
060-16	石錘	西	１３Ｅ	第２黒色土層	10.1cm	7.08cm	2.35cm	260ｇ	石英斑岩	短辺２ヶ所打ち欠く。扁平な円礫を使用している
060-17	石錘	西	１３Ｄ	第２黒色土層	10.7cm	7.7cm	2.6cm	320.3g	ひん岩	扁平な円礫を左右に打ち欠く
060-18	凹石	西	１３Ｄ	第２黒色土層	10.5cm	7.6cm	5.6cm	604.5ｇ	閃緑岩	表裏とも敲打により凹む。右側面も敲打痕あり若干平らになる。
060-19	石皿	西	１３Ｄ	第３黒色土層	12.8cm	8cm	2.6cm	430.1ｇ	ひん岩	平面が凹み、その中は滑面である。裏面は磨面の可能性あり
060-20	石皿	西	１３Ｄ	第２黒色土層	12.8cm	11.8cm	5.2cm	1097.4ｇ	花崗岩	表面が滑面でややくぼむ
067-17	打製石斧	西	ＳＩ０１	覆土	11cm	5.2cm	1cm	9.23ｇ	安山岩	基部が欠けている。刃部は摩耗のため滑らかになっている

挿図NO	種別	区	遺構	層位・取上NO	長径	短径	厚さ	重量	石材	特　　徴
067-18	磨石	西	ＳＩ０１	Ｂ１層	9.4cm	4.9cm	2.9cm	192.6ｇ	流紋岩	全面滑らかであり磨り面と考えられる
067-19	砥石	西	ＳＩ０１	M層108	15cm	9.7cm	4.81cm	247.7ｇ	流紋岩	表裏面と左右側面が使用面であり、使用時の擦痕が明瞭に認められる
072-12	扁平な石	西	ＳＩ０３	G層2321	3.1cm	3cm	0.6cm	8.7ｇ	流紋岩	石器かどうかは不明。平たく表面は中央が若干くぼむ
074-05	石皿	西	SI03 土器溜まり	-	44.2cm	16cm	11.9cm	10.7ｇ	粗面岩	石棒状の物。各面滑らか棒石の可能性あり
076-09	石皿	西	ＳＩ０３中央土坑	M層	14.2cm	10.6cm	7.8cm	1700ｇ	火山礫凝灰岩	表面と左右側面が磨面
076-10	磨石	西	ＳＩ０３中央土坑	M層	11.3cm	8.7cm	5.7cm	771.5ｇ	安山岩	表面は平坦で磨面であるが、裏面は滑らかであるが、磨面かは不明。下面に敲打痕が２ヶ所認められる
077-01	石皿	西	ＳＩ０３中央土坑	M層	17.6cm	8.2cm	7.8cm	1.7ｇ	閃緑岩	表裏面とも使用面であるが目上右側にある面（凸面）の方が磨面が滑らかである
083-11	磨石	西	ＳＩ０５	G層3438	12.8cm	8.4cm	4cm	909.5ｇ	粗面岩	表面の一部と下面が磨面
085-16	磨石	西	ＳＩ０５	M層3157	10.6cm	9.9cm	5.4cm	766.8ｇ	花崗岩	表面と下面の２ヶ所に磨面
085-17	砥石	西	ＳＩ０５	M層3640	13.5cm	6.3cm	5.1cm	674.1ｇ	流紋岩	表面と左側面は擦痕が明瞭。それ以外の三面は滑面であるが擦痕は不明瞭
089-01	石皿	西	ＳＩ０６	G層3434	23cm	17.4cm	10.9cm	7.2ｇ	火山礫凝灰岩	３面とも使用し、非常に滑らかである。凹面として目立つ面、被熱の為赤褐色になる部分が確認される
089-02	磨石	西	ＳＩ０６	覆土	6.3cm	4.4cm	2.4cm	102.3ｇ	酸性貫入岩	表面と左側部に磨面。下面に敲打痕
093-10	磨石	西	ＳＩ０８	M層3557	12.9cm	7.5cm	6.7cm	948.6ｇ	花崗岩	下部に敲打痕が１ヶ所あり
093-11	磨石	西	ＳＩ０８	G層3759	10.9cm	5.2cm	6cm	404.7ｇ	ひん岩	表裏面は磨面。側面に敲打痕
093-12	磨石	西	ＳＩ０８	G層3764	12.3cm	11.3cm	7.6cm	1677.9ｇ	ひん岩	表裏面とも磨面がみられ、左側部にも磨面があり凹む
110-01	石鏃	西	１１Ｅ	第１黒色土層1422	1.56cm	1.12cm	0.26cm	0.38ｇ	安山岩	凹基式の打製石鏃。基部が若干欠ける
110-02	石鏃	西	１１Ｄ	表土	3.8cm	1.6cm	0.35cm	1ｇ	安山岩(サヌカイト)	凹基式の石鏃であるが基部の左右にえぐりが入る
110-03	石鏃	西	不明	第１黒色土　層	2.31cm	1.76cm	0.23cm	1.31ｇ	流紋岩	研磨による擦痕が両面とも認められる。半磨製石鏃
110-04	石鏃	西	１２Ｅ	第１黒色土　層	2.9cm	2cm	0.3cm	2.1ｇ	流紋岩	無茎の三角形の鏃で、両面とも研磨痕が見られる半磨製石族
110-05	石鏃	西	１２Ｅ	第１黒色土　層	2.7cm	2.1cm	0.5cm	2.62ｇ	流紋岩	先端部欠で片面に研磨痕の残る半磨製石鏃
110-06	剥片	西	１１Ｅ	第１黒色土　層	3.5cm	1.4cm	0.25cm	1.51ｇ	流紋岩～安山岩	人為的な加工が施されない可能性あり。ただの剥片と思われる
110-07	スクレーパー	西	１２Ｅ	第１黒色土層232	5.1cm	7.1cm	0.8cm	31.6ｇ	流紋岩～安山岩	両面に穀物の光沢あり
111-01	打製石斧	西	１４Ｅ	第１黒色土　層	8.1cm	5.4cm	2.2cm	149.7ｇ	頁岩	打製石斧の基部の破片で刃部は欠
111-02	打製石斧	西	１２Ｄ	表土	9.2cm	5.2cm	1.5cm	104.2ｇ	粗面岩	基部が欠けた石斧
111-03	石錘	西	１２Ｅ	表土	5.02cm	3.77cm	1.89cm	5.42ｇ	安山岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所傷あり。
111-04	石錘	西	１３Ｄ	表土	6.77cm	5.43cm	1.89cm	99.8ｇ	流紋岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
111-05	石錘	西	１２Ｅ	第１黒色土　層	8.16cm	6.74cm	2.57cm	244.3ｇ	粗面岩	扁平な円礫の短辺２ヶ所打ち欠く
111-06	敲石・磨石	西	１２Ｄ	表土	6.7cm	6.3cm	5.3cm	343.3ｇ	ひん岩	表面に明瞭な磨面があり平坦になる。下面に敲打痕と明瞭な磨面あり。平坦となる
111-07	磨石	西	１２Ｅ	第１黒色土　層	7.7cm	7.3cm	3.8cm	345.8ｇ	ひん岩	使用面の中心部に僅かに凹あり
111-08	敲石・磨石	西	１２Ｄ	表土	9cm	8.9cm	6cm	683.8ｇ	ひん岩	上下面に擦痕が見られ、側面は全面に渡り敲打痕が見られるが、特に２ヶ所に集中している
111-09	敲石	西	１１Ｅ	第１黒色土　層	24cm	7.6cm	6.7cm	2043.8ｇ	ひん岩	下面に敲痕あり。また表裏面、磨面の可能性あり
111-10	凹石	西	１２Ｅ	第１黒色土　層	9.5cm	5.5cm	5cm	369.2ｇ	粗面岩	断面三角形の石材の各側面が凹む。また下面にも敲打痕が認められる
111-11	石皿	西	１１Ｅ	第１黒色土　層	10.3cm	10.1cm	4cm	612.4ｇ	花崗岩	表面の一面が磨面
111-12	石皿	西	１２Ｅ	第１黒色土層852	10.1cm	10cm	3.7cm	381.4ｇ	酸性貫入岩	表裏面とも滑面であり使用面
111-13	砥石	西	１２Ｅ	第１黒色土　層	8.6cm	4cm	5.5cm	254.7ｇ	流紋岩	表面と裏面、左側面の三面が使用面で擦痕が認められるが、左側面はあまり滑らかでなく、自然面に近い状態である
111-14	砥石	西	１３Ｄ	表土	15.8cm	5.7cm	5.7cm	723.5ｇ	凝灰岩	表裏面に使用面あり。左右側面に工具痕がみられる。（２面に工具痕あり）
111-15	玦状耳飾り	西	１２Ｅ	第１黒色土層278	4.8cm	1.67cm	0.3cm	5.91ｇ	凝灰岩	円孔径（0.5cm）Ｆ類玦状耳飾りの左側と推測。表面に研磨時の擦痕が認められる
111-16	円礫	西	１３Ｅ	第１黒色土層1723	3.7cm	1.9cm	1.7cm	18.7ｇ	石英	きれいな淡黄褐色の石である。確かは不明

第25表　板屋Ⅲ遺跡　出土金属製品　観察表

挿図NO	器種	区	遺構	層位（取上NO）	長さ	幅	厚さ			備　　考
031-01	鉄釘	東２区	ＳＫ16	第１黒色土層(15)	4.6cm	0.45cm	0.35cm	－	－	完形品　頭部付近に木質
031-02	鉄釘	東３区	ＳＫ16	－	4.0cm	0.35cm	0.35cm	－	－	頭部に1.1cm程の木片付着
031-03	鉄釘	東２区	ＳＫ16	－	3.9cm	0.4cm	0.3cm	－	－	完形品　頭部付近に木質　先端に木質付着か？
031-04	鉄釘	東２区	ＳＫ16	－	3.1cm	0.4cm	0.3cm	－	－	頭部欠
031-05	鉄釘	東２区	ＳＫ16	ＰＮｏ．１７	3.1cm	0.4cm	0.3cm	－	－	先端部欠　木質方向90°異なる
031-06	鉄釘	東２区	ＳＫ16	ＰＮｏ．１３	2.9cm	0.4cm	0.4cm	－	－	木質が頭部と先端部で90°方向が異なる
031-07	鉄釘	西区	ＳＫ16	ＰＮｏ．１３	2.7cm	0.4cm	0.3cm	－	－	頭部不明瞭　先端部欠　木質方向異なる
031-08	鉄釘	西区	ＳＫ16	－	2.5cm	0.35cm	0.3cm	－	－	先端部欠　木質方向90°異なる
035-01	鉄鍋	東３	ＳＸ01	－	口径 21.6cm	底径 16cm	高さ 9.4cm	－	－	把手・片口付、三足、湯口は一文字
035-02	鎌	東３	ＳＸ01	ＰNo.１	刃18.0 茎8.6cm	3.6 2.3cm	0.5 0.45cm	－	－	茎がえぐれる
035-03	銑	東	３区 (大木周辺)	－	6.2 13.1cm	11.6 3.4cm	6.4 1.6cm	全長 18.7cm	－	洗鉄
038-06	不明鉄器	東	２区	第１黒色土層	4.6cm	3.9cm	0.4cm	－	－	全体的に各側面の状況は不明瞭
063-01	刃子	西	ＳＩ01	床面	6.7cm	2.0cm	0.3cm	－	－	木質付着、切先欠ける、茎部分で折れる
077-02	袋状鉄斧	西	ＳＩ03	Ｇ層（3673）	7.5cm	2.2～ 3.8cm	0.4～ 0.5cm	－	－	袋部若干欠損
077-03	不明鉄器	西	ＳＩ03	覆土ベルト	2.0cm	0.5cm	0.3cm	－	－	端部欠
077-04	不明鉄器 (薄板状)	西	ＳＩ03	Ｂ１層	2.1cm	1.2cm	0.2cm	－	－	厚みの薄い鉄器
089-03	不明鉄器	西	ＳＩ06	Ｇ層	3.5cm	1.7cm	0.3cm	－	－	－
093-13	不明鉄器	西	ＳＩ08	覆土	2.8cm	0.9cm	0.2cm	－	－	刃部がある可能性もあるが不明瞭
112-01	三角形板状 鉄片	西	１２Ｅ	表土	2.7cm	2.5cm	0.25～ 0.3cm	－	－	断面が交じる、鍛冶関連遺物
112-02	三角形板状 鉄片	西	１２Ｅ	第１黒色土層	2.9cm	2.8cm	0.2cm	－	－	板状の鉄片、鍛冶関連遺物か？
112-03	三角形板状 鉄片	西	１２Ｅ	第１黒色土層	3.5cm	3.2cm	0.3cm	－	－	板状の鉄片、鍛冶関連遺物か？
112-04	板状鉄片	西	１１Ｅ	第１黒色土層	3.3cm	2.7cm	0.3cm	－	－	鍛冶関連遺物か？
112-05	板状鉄器	西	１３Ｅ	第１黒色土層	6.1cm	7.2cm	0.6cm	－	－	やや厚みのある板状品、鉄素材か？
113-01	鉄鏃	西	１２Ｅ	第１黒色土層	4.1cm	2.5cm	0.25cm	孔径0.3cm	－	無茎三角形　円孔あり
113-02	鉄鏃	西	１１Ｅ	第１黒色土層	3.3cm	2.4cm	0.25cm	－	－	無茎三角形式、基部の形状は不明瞭
113-03	鉄鏃	西	１２Ｄ	表土	茎3.6cm 鏃身7.2cm	0.4cm 2.7cm	0.6cm 0.25cm	全長 10.8cm	－	方頭形の鏃身棘状篦被
113-04	刀片	西	１２Ｅ	第１黒色土層	刀1.9cm 茎2.7cm	3.2cm 1.3cm	0.6cm 0.4cm	全長4.6cm	－	関部の背側の形状不明瞭、刀部錆が著しい
113-05	刀子	西	１３Ｅ	第１黒色土層	5.8cm	1.5cm	0.4cm	－	－	茎部分のみ
113-06	不明鉄器 (茎状)	西	１１Ｅ	第１黒色土層(1697)	3.6cm	0.4cm	0.35cm	－	－	厚みの薄い鉄器、
113-07	鎌？	西	１２Ｅ	第１黒色土層	3.7cm	2.7cm	0.4cm	－	－	折り返し不明瞭、厚みあり
113-08	鎌？	西	１１Ｅ	第１黒色土層	7.2cm	1.7cm	0.2cm	－	－	鎌かどうか不明。鉇（やりがんな）か？
113-09	楔	西	１３Ｅ	第１黒色土層	5.0cm	1.9cm	0.6cm	－	－	錆が若い
113-10	楔	西	１１Ｄ	表土	5.4cm	1.8cm	0.35cm	－	－	頭部が敲き打ちによりやや広がっていりか？
113-11	鎹	西	ｐｉｔ27	覆土ベルト	8.5cm	1.6cm	0.2cm	－	－	木炭付着
113-12	煙管	西	１１Ｅ	表土	6.8cm	0.9cm	0.1cm	火皿径1.5	－	補強体あり、古泉Ⅲ期頃（18世紀中頃）
113-13	鉄釘	西区	－	Ｐｉｔ．４３	11.7cm	0.8cm	0.8cm	－	－	先端欠、頭部は大きい
113-14	鉄釘	西区	１１Ｄ	－	10.9cm	0.8cm	0.8cm	－	－	先端部若干欠
113-15	鉄釘	西区	１３Ｄ	表土	9.4cm	0.7cm	0.5cm	－	－	先端部欠で折れ曲がる
113-16	鉄釘	西	ｐｉｔ58	－	6.7cm	0.6cm	0.5cm	－	－	先端部欠
113-17	鉄釘	西区	１２Ｄ	造成土	4.7cm	0.5cm	0.5cm	－	－	頭部の形状、不明瞭、先端欠
113-18	鉄釘	西区	１３Ｅ	－	4.0cm	0.6cm	0.5cm	－	－	完形品、頭部の状況不明瞭
113-19	不明鉄器	西	１１Ｅ	表土	6.9cm	1.9cm	0.6cm	－	－	先端に向かって尖る形状で、ねじれている
113-20	不明鉄器	西	１２Ｄ	第１黒色土層(3295)	6.3cm	2.8cm	0.45cm	－	－	刀等の茎の可能性もあるが明確にできない
113-21	不明鉄器	西	ＳＩ01	第１黒色土層	3.8cm	1.4cm	0.5cm	－	－	不明
113-22	不明鉄器 (棒状)	西	１１Ｅ	第１黒色土層	3.3cm	0.8cm	0.3cm	－	－	やや反ったもの、断面形は不明瞭
113-23	不明鉄器	西	１２Ｅ	表土	5.1cm	2.0cm	0.35cm	－	－	端部折れ曲がる、刃部の有無不明
113-24	不明鉄器 (薄板状)	西	１２Ｅ	第１黒色土層(2031)	1.7cm	2.3cm	0.2cm	－	－	端部の一辺が折れ曲がる
113-25	不明鉄器 (薄板状)	西	１１Ｅ	第１黒色土層	2.0cm	3.4cm	0.2cm	－	－	端部が折れ曲がる
113-26	板状鉄片	西	１２Ｅ	第１黒色土層(736)	3.6cm	2.6cm	0.2cm	－	－	薄い板状鉄片、縁片部の一部が生きている
113-27	薄板状鉄片	西	１２Ｅ	第１黒色土層	3.5cm	2.0cm	0.2cm	－	－	平滑でない板状鉄片
113-28	不明鉄器	西	１２Ｅ	第１黒色土層(1823)	2.2cm	1.6cm	0.3cm	－	－	鏃片か？刃部は有無不明
113-29	不明鉄器	西	１３Ｅ	Ｂ１層	1.8cm	1.7cm	0.3cm	－	－	各側面が生きているか不明確

第26表①　板屋Ⅲ遺跡（西区）　出土銭貨　観察表

挿図番号	種　別	初鋳年	区	遺　構	層位・取上NO	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　　考
114-01	皇宋通寶	1038	西	不明	表土 PNO1	2.5	0.11	3.11	北宋　篆書
114-02	元祐通寶	1086 1093	西	不明	表土 PNO1	2.47	0.11	3.53	北宋　行書
114-03	紹聖元寶	1094	西	不明	表土 PNO1	2.35	0.12	2.41	北宋　篆書
114-04	元符通寶	1098	西	不明	表土 PNO1	2.34	0.12	3.01	北宋　行書
114-05	淳熙元寶	1174	西	不明	表土 PNO1	2.42	0.1	2.16	南宋　真書
114-06	洪武通寶	1368	西	不明	表土 PNO1	2.49	0.12	1.6	明　無背
114-07	永楽通寶	1408	西	不明	表土 PNO1	2.47	0.15	3.62	明
114-08	永楽通寶	1408	西	不明	表土 PNO1	2.5	0.13	2.29	明
114-09	永楽通寶	1408	西	不明	表土 PNO1	2.51	0.12	3.29	明
114-10	朝鮮通寶	1423	西	不明	表土 PNO1	2.32	0.13	2.7	李
114-11	皇宋通寶	1038	西	１１Ｅ	表土	2.49	0.01	1.57	北宋　篆書
114-12	寛永通寶	1697	西	１２Ｄ	表土	0.23	0.1	1.87	新寛永

第26表②　板屋Ⅲ遺跡（東区）　出土銭貨　観察表

挿図番号	種　別	初鋳年	区	遺　構	層位・取上NO	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　　考
36-01	至道元寶	995	東３区	ＳＸ01周辺	-	2.46	0.11	2.27	北宋　行書
36-02	聖宋通寶	1101	東３区	ＳＸ01周辺	-	2.41	0.13	2.47	北宋　行書
36-03	熙寧元寶	1068	東３区	ＳＸ01周辺	-	0.11	0.19	1.25	北宋
36-04	寛永通寶	1697	東３区	-	表土	2.44	0.09	2.65	新寛永
36-05	寛永通寶	1697	東３区	ＳＸ01周辺	-	2.29	0.07	1.65	新寛永
36-06	一銭	近代	東３区	ＳＸ01周辺	-	2.29	0.12	3.48	日本

第27表　板屋Ⅲ遺跡　西区出土石錘　計測表（第３黒色土層出土）

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第３黒色土層	１３Ｅ	69.5	50.5	25.7	131.7	凝灰岩	短辺１ヶ所打ち欠く
2		第３黒色土層	１４Ｄ	84.9	54.9	23.5	166.7	閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
3		第３黒色土層	１４Ｄ	77.5	60.3	26.1	216.2	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
4	051-22	第３黒色土層	１３Ｅ	110	39.2	30.6	196.7	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
5		第３黒色土層	１３Ｄ	61.2	66	18.7	91.4	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
6		第３黒色土層	１２Ｅ	56.5	50.3	20.9	78.9	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
7		第３黒色土層	１２Ｅ	61.9	57.7	23.8	119.4	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
8	051-07	第３黒色土層	１２Ｅ	56.4	36.7	17.7	60.3	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
9		第３黒色土層	１２Ｅ	72.5	46.9	17.8	88	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
10		第３黒色土層	１１Ｄ	40.1	46.1	141.1	47.5	粗面岩	
11		第３黒色土層	１１Ｄ	68.1	46.9	13	67.5	流紋岩	短辺２ヶ所窪みあり
12		第３黒色土層	１２Ｅ	58.6	52.2	21	93	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
13		第３黒色土層	１２Ｅ	64.1	48.8	15.8	69.1	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
14		第３黒色土層	１２Ｅ	65.2	45.2	13.4	62.3	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
15	051-17	第３黒色土層	１１Ｅ	92.4	64.8	14.3	159.1	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
16		第３黒色土層	１３Ｅ	55.5	48.9	15.3	69.7	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
17	051-11	第３黒色土層	１４Ｄ	72.8	53.4	17.7	97.2	凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く
18		第３黒色土層	１３Ｅ	52.8	44.2	13.9	38.2	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
19		第３黒色土層	１４Ｄ	55.3	50.9	15.5	61.4	粗面岩	
20		第３黒色土層	１２Ｅ	64	49.5	16.5	61.5	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
21		第３黒色土層	１１Ｄ	69.3	58.7	17.9	116.4	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
22	051-13	第３黒色土層	１３Ｅ	71	23.8	24.1	102.6	凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く
23	051-24	第３黒色土層	１２Ｄ	74.8	77.8	27.7	222.8	細粒花崗岩	長辺２ヶ所打ち欠く
24		第３黒色土層	１３Ｅ	64.7	50.9	18.2	90.9	ひん岩	短辺１ヶ所打ち欠く
25		第３黒色土層	１３Ｅ	58.5	46.5	22.4	82.2	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
26	051-10	第３黒色土層	１４Ｅ	67.5	46.8	22.6	95.5	？	短辺２ヶ所打ち欠く
27		第３黒色土層	１２Ｅ	57.2	49.2	19.9	84.5	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
28		第３黒色土層	１３Ｅ	77.3	63.2	17	126.8	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
29		第３黒色土層	１３Ｅ	43.2	53.8	23.5	84.7	花崗閃緑岩	長辺１ヶ所打ち欠く
30		第３黒色土層	１４Ｅ	77.4	59.5	28.5	179.9	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
31		第３黒色土層	１４Ｄ	49.7	43.9	22.9	74.1	閃緑岩	短辺２ヶ所くぼむ
32		第３黒色土層	１３Ｅ	61.5	53	18	81.9	流紋岩	短辺２ヶ所くぼむ
33	051-02	第３黒色土層	１１Ｄ	54.1	41	14.2	45.6	ひん岩	短辺１ヶ所打ち欠く
34		第３黒色土層	１２Ｅ	45.9	49.5	27.3	85.3	ひん岩	長辺２ヶ所打ち欠く
35		第３黒色土層	１３Ｅ	69.5	51.4	25.6	143	閃緑岩	短辺２ヶ所傷あり
36		第３黒色土層	１４Ｄ	75.5	67.5	16.2	121.1	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
37		第３黒色土層	１２Ｅ	50.1	48.8	13.3	47.9	流紋岩	短辺１ヶ所打ち欠く
38		第３黒色土層	１１Ｄ	75.5	60.8	28.5	187.1	花崗閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
39		第３黒色土層	１４Ｅ	49.7	41.6	16.7	51	ひん岩	短辺２ヶ所くぼむ
40		第３黒色土層	１４Ｅ	62.6	54.9	17	92.6	ひん岩	短辺２ヶ所くぼむ
41	051-15	第３黒色土層	１４Ｄ	79.3	61.9	17.1	142.2	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
42		第３黒色土層	１３Ｅ	78.9	65.1	19.6	148	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
43		第３黒色土層	１３Ｅ	63.1	43.3	16	67.2	ひん岩	短辺１ヶ所打ち欠く
44		第３黒色土層	１２Ｅ	55.7	43	22.6	80.2	粗面岩	短辺２ヶ所傷あり
45		第３黒色土層	１４Ｅ	79	74.1	26	204	細粒花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
46		第３黒色土層	１３Ｅ	55.3	53.4	22.1	83.2	火山礫凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く
47		第３黒色土層	１４Ｄ	64.3	47.2	26.3	113.6	花崗岩	短辺２ヶ所傷あり
48		第３黒色土層	１２Ｅ	63.7	54.7	26.3	136.8	ひん岩	短辺２ヶ所傷あり
49		第３黒色土層	１４Ｅ	75.5	64.6	21.3	155.4	流紋岩	破損している
50	051-09	第３黒色土層	１３Ｄ	63.3	57.9	15.6	89.3	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
51		第３黒色土層	１３Ｅ	67.7	54.3	16	81.8	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
52		第３黒色土層	１４Ｅ	62.1	55.1	24.2	105.5	火山礫凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く
53		第３黒色土層	１３Ｄ	78.2	55.2	25.2	144.3	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
54		第３黒色土層	１２Ｅ	60	52.6	13.3	66.4	凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く
55	051-27	第３黒色土層	１３Ｅ	107	80	19.3	325.5	花崗閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
56		第３黒色土層	１４Ｅ	60.4	55.3	12.7	57.5	流紋岩	短辺２ヶ所傷あり
57		第３黒色土層	１２Ｄ	61.4	47.2	32.2	99.3	火山礫凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く
58	051-06	第３黒色土層	１２Ｅ	56.2	46.9	11.5	55.4	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
59	051-18	第３黒色土層	１３Ｄ	85.8	64.2	23.5	166	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
60		第３黒色土層	１３Ｅ	66.3	68	23.7	147	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
61		第３黒色土層	１３Ｄ	81.5	77.2	24	215.3	花崗岩	短辺２ヶ所くぼむ
62		第３黒色土層	１２Ｅ	61.8	42.2	21.3	82.1	ひん岩	短辺２ヶ所くぼむ
63	051-26	第３黒色土層	１３Ｄ	72.4	69.8	30.8	244.8	凝灰岩	短辺２ヶ所打ち欠く
64		第３黒色土層	１４Ｅ	54.5	49.3	20	74	流紋岩	
65		第３黒色土層	１３Ｄ	85.6	60.2	21	193.4	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く

計測No.	挿図NO.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
66		第３黒色土層	１４Ｄ	69.2	70.7	20	128	閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
67		第３黒色土層	１４Ｅ	76.8	52.2	15.1	97.7	閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
68		第３黒色土層	１３Ｅ	73.2	55	21	120.2	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
69		第３黒色土層	１２Ｄ	66	59.5	24.6	135.2	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
70	051-12	第３黒色土層	１３Ｄ	55.6	53.3	27.8	101.7	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
71	051-16	第３黒色土層	１３Ｅ	72.9	55.8	31.5	147	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
72		第３黒色土層	１４Ｄ	65.9	50.4	21	95.1	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
73		第３黒色土層	１４Ｄ	77	65.2	20.4	142.4	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
74		第３黒色土層	１２Ｅ	61.1	53.2	22.5	126.5	閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
75		第３黒色土層	１３Ｅ	64.5	50.9	25	79.4	粗面岩	破損
76		第３黒色土層	１３Ｅ	64.2	62.6	27.9	160.9	花崗岩	短辺１ヶ所窪み
77		第３黒色土層	１３Ｄ	70.2	75.1	20.1	165.3	花崗岩	破損
78		第３黒色土層	１２Ｅ	86.2	64.6	24.5	194.7	閃緑岩	短辺１ヶ所打ち欠く
79		第３黒色土層	１２Ｅ	76.8	60.7	25	195.5	粗面岩	短辺２ヶ所傷あり
80		第３黒色土層	１４Ｅ	53.5	54	19.5	103.2	流紋岩	石錘？
81		第３黒色土層	１１Ｅ	100	81	31.1	403.8	閃緑岩	石錘？
82		第３黒色土層	１４Ｅ	80.5	45.1	19.9	106.4	ひん岩	石錘？
83	051-25	第３黒色土層	１３Ｄ	88.1	70.9	23.6	241.1	ひん岩	短辺２ヶ所窪み
84		第３黒色土層	１４Ｅ	75	42.5	20.4	92.8	流紋岩	石錘？
85		第３黒色土層	１２Ｅ	52.6	37	16.9	51.2	ひん岩	短辺２ヶ所傷あり
86		第３黒色土層	１１Ｅ	56.2	58.6	19	97.4	流紋岩	長辺２ヶ所傷あり
87	051-01	第３黒色土層	１３Ｄ	54.7	34.8	12.6	42.5	凝灰岩	短辺２ヶ所傷あり
88		第３黒色土層	１４Ｅ	58.6	41.5	20.5	57.9	粗面岩	短辺２ヶ所傷あり
89		第３黒色土層	１２Ｅ	55.6	47.7	21.5	86.7	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
90		第３黒色土層	１２Ｅ	72.4	51.8	18.9	92.9	粗面岩	短辺１ヶ所打ち欠く
91	051-08	第３黒色土層	１２Ｅ	56.8	40.4	18.3	60.6	粗面岩	短辺２ヶ所傷あり
92		第３黒色土層	１２Ｅ	95.1	69	21.2	157.5	閃緑岩	短辺２ヶ所窪みあり
93		第３黒色土層	１２Ｄ	70.4	71.1	24.3	182.1	花崗岩	短辺２ヶ打ち欠く
94		第３黒色土層	１２Ｅ	53.9	48.6	17.5	60.9	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
95		第３黒色土層	１２Ｅ	87	60.7	22.6	190.8	細粒花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
96	051-20	第３黒色土層	１３Ｄ	101.9	64.6	17.1	193.6	花崗閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
97		第３黒色土層	１３Ｄ	66.7	50.6	21.8	102.8	細粒花崗岩	短辺２ヶ所傷あり
98		第３黒色土層	１３Ｅ	52.1	52.2	15.3	45.5	粗面岩	長辺２ヶ所打ち欠く
99		第３黒色土層	１２Ｅ	61	48.8	18.2	74.6	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
100		第３黒色土層	１２Ｅ	58.6	60.9	16.8	80.9	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
101		第３黒色土層	１２Ｄ	91.2	56.9	18.5	137.6	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
102		第３黒色土層	１３Ｅ	57.9	44.8	14.1	52.4	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
103		第３黒色土層	１４Ｅ	53	48.6	24.8	95.8	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
104	051-14	第３黒色土層	１２Ｅ	70.5	48.1	19.6	105.7	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
105		第３黒色土層	１３Ｄ	58.4	43.8	14.8	51.9	粗面岩	短辺２ヶ所傷あり
106		第３黒色土層	１２Ｅ	67.6	53.1	28.1	151.1	花崗岩	短辺２ヶ所傷あり
107		第３黒色土層	１２Ｅ	80.2	55.5	28.8	209.8	ひん岩	短辺２ヶ所傷あり
108		第３黒色土層	１２Ｅ	73.7	48.7	28.4	122.7	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
109	051-04	第３黒色土層	１３Ｅ	55.5	43.1	15.2	50.4	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
110	051-23	第３黒色土層	１４Ｅ	83.9	67.3	34.2	228.5	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
111		第３黒色土層	１３Ｄ	46.4	33.5	13	27.4	花崗岩	短辺１ヶ所窪み
112		第３黒色土層	１４Ｅ	62.5	51.2	26	134.9	閃緑岩	短辺１ヶ所窪み
113		第３黒色土層	１３Ｄ	79.7	70.7	26.5	178.9	粗面岩	短辺１ヶ所傷あり
114		第３黒色土層	１２Ｅ	55.1	49.8	20.9	77.9	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
115		第３黒色土層	１２Ｅ	63	47.5	17.5	70.8	流紋岩	短辺２ヶ所傷あり
116		第３黒色土層	１３Ｄ	66	47.7	17.5	73.1	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
117		第３黒色土層	１２Ｅ	64.5	44.5	18.6	75.8	ひん岩	短辺１ヶ所打ち欠く
118		第３黒色土層	１３Ｄ	65.5	47.7	19.8	99.5	ひん岩	石の中央がくぼむ
119		第３黒色土層	１３Ｄ	56.5	34.5	25.9	79.9	流紋岩	短辺２ヶ所傷あり
120		第３黒色土層	１３Ｄ	59.6	50.9	15.5	73.1	ひん岩	短辺２ヶ所打ち欠く
121		第３黒色土層	１４Ｅ	42.5	48.1	16.4	48.6	凝灰岩	長辺１ヶ所窪む
122		第３黒色土層	１３Ｅ	52.1	41.5	17.2	49.8	ひん岩	短辺２ヶ所傷あり
123	051-21	第３黒色土層	１４Ｄ	70.9	61.4	29.6	198.9	閃緑岩	短辺２ヶ所傷あり
124	051-19	第３黒色土層	１４Ｅ	71.8	70.3	21.8	171.6	流紋岩	長辺２ヶ所打ち欠く
125		第３黒色土層	１２Ｅ	85.6	65.2	24.2	179.1	ひん岩	短辺２ヶ所傷あり
126		第３黒色土層	１２Ｅ	82	56.7	21.6	163.2	細粒花崗岩？	短辺２ヶ所傷あり
127		第３黒色土層	１１Ｄ	43.9	38.1	15	35.26	細粒花崗岩	短辺２ヶ所傷あり

板屋Ⅲ遺跡　出土石錘　計測表（第２黒色土層出土）

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	060-17	第２黒色土層	１３Ｄ	106.5	77.3	25.8	320.3	ひん岩	短辺二ヶ所打ち欠く
2		第２黒色土層	１４Ｅ	67	49.4	29.5	131.2	閃緑岩	短辺二ヶ所傷あり
3		第２黒色土層	１４Ｅ	56.4	40.1	13.2	45	ひん岩	短辺二ヶ所傷あり
4		第２黒色土層	１２Ｄ	68.5	48.9	16	109.7	花崗岩	短辺二ヶ所傷あり
5		第２黒色土層	１４Ｅ	81.8	66.4	23.7	137	凝灰岩	短辺二ヶ所打ち欠く
6	060-15	第２黒色土層	１４Ｅ	73.8	68.3	40	249.5	花崗岩	短辺二ヶ所打ち欠く
7	060-13	第２黒色土層	１３Ｄ	75.6	58.4	30	189	流紋岩	短辺二ヶ所打ち欠く
8		第２黒色土層	１３Ｄ	87.5	63.9	19.7	153.7	粗面岩	短辺二ヶ所打ち欠く
9	060-14	第２黒色土層	１３Ｅ	94.5	62.5	23.6	210	ひん岩	短辺二ヶ所打ち欠く
10		第２黒色土層	１４Ｅ	90	67.9	17.3	196.8	閃緑岩	短辺二ヶ所打ち欠く
11		第２黒色土層	ｐｉｔ97	89.5	84.1	32.2	224.9	花崗岩	
12		第２黒色土層	１２Ｅ	56.5	53.5	22.1	110.2	花崗岩	短辺二ヶ所打ち欠く
13	060-02	第２黒色土層	１４Ｅ	51.4	40.5	11.5	37.5	凝灰岩	短辺二ヶ所打ち欠く
14		第２黒色土層	１３Ｅ	65.2	51.9	12.5	44.6	流紋岩	短辺二ヶ所打ち欠く
15		第２黒色土層	１４Ｅ	44	43.2	16.5	47	粗面岩	短辺一ヶ所打ち欠く
16		第２黒色土層	１２Ｅ	64.4	50.9	19.8	101.5	花崗岩	
17	060-10	第２黒色土層	１１Ｅ	58.2	60	27.6	151.8	凝灰岩(溶結凝灰岩)	長辺二ヶ所傷あり
18		第２黒色土層	１４Ｅ	77.8	53	21.7	112.8	ひん岩	
19	060-06	第２黒色土層	１３Ｅ	76.8	37.6	21	103.8	流紋岩	短辺二ヶ所打ち欠く
20	060-09	第２黒色土層	１１Ｅ	83.7	40	21.6	114.6	ひん岩	短辺二ヶ所傷あり
21	060-05	第２黒色土層	１３Ｅ	64.5	51	13	50.2	流紋岩	短辺二ヶ所打ち欠く
22		第２黒色土層	１２Ｄ	48.7	49	18.9	55.4	火山礫凝灰岩	
23		第２黒色土層	１３Ｅ	67	52.7	14	72.9	粗面岩	短辺二ヶ所打ち欠く
24		第２黒色土層	１３Ｅ	54.8	45.2	35.6	92.4	ひん岩	
25	060-03	第２黒色土層	１２Ｄ	56.4	41	12	37.5	凝灰岩(火山礫凝灰岩)	短辺二ヶ所打ち欠く
26		第２黒色土層	１１Ｅ	52.1	44	12.7	43.5	ひん岩	
27	060-08	第２黒色土層	１２Ｄ	73.4	53.5	21	112.4	花崗閃緑岩	短辺二ヶ所打ち欠く
28		第２黒色土層	１２Ｅ	45.7	40.4	15.2	40.3	閃緑岩	短辺二ヶ所打ち欠く
29		第２黒色土層	１２Ｅ	58.3	39.4	19.2	66.9	粗面岩	短辺二ヶ所傷あり
30		第２黒色土層	１４Ｅ	86.6	68.1	38	343.5	花崗岩	
31		第２黒色土層	１４Ｅ	61.1	42.6	19.6	73.1	粗面岩	短辺二ヶ所傷あり
32	060-04	第２黒色土層	１３Ｅ	50.3	36.8	16.3	44.9	石英斑岩	短辺二ヶ所打ち欠く
33		第２黒色土層	１２Ｅ	71.1	52.4	13.7	87.9	流紋岩	短辺二ヶ所打ち欠く
34		第２黒色土層	１３Ｅ	58.3	40.4	17.6	56	粗面岩	短辺二ヶ所窪む
35	060-16	第２黒色土層	１３Ｅ	101	70.8	23.5	260	石英斑岩	短辺二ヶ所打ち欠く
36		第２黒色土層	ｐｉｔ100	57.9	41.1	21.6	79.5	ひん岩	短辺二ヶ所打ち欠く
37	060-12	第２黒色土層	１１Ｅ	84.5	62.9	17.8	161.1	石英斑岩	短辺二ヶ所傷あり
38	060-01	第２黒色土層	１１Ｅ	48.9	34	12.1	26	ひん岩	短辺二ヶ所打ち欠く
39		第２黒色土層	１３Ｄ	94.4	65.9	22.8	256.8	火山礫凝灰岩	
40		第２黒色土層	１３Ｅ	65.3	46.8	22	83	閃緑岩	短辺二ヶ所打ち欠く
41	060-07	第２黒色土層	１２Ｅ	76.9	50.2	20.1	111.2	花崗閃緑岩	短辺二ヶ所打ち欠く
42	060-11	第２黒色土層	１２Ｅ	69.2	73	19	155.8	ひん岩	長辺二ヶ所打ち欠く
43		第２黒色土層	１３Ｅ	46.7	35.7	21.2	55.9	火山礫凝灰岩	
44		第２黒色土層	１３Ｄ	57.8	60.1	14.9	68.5	流紋岩？	
45		第２黒色土層	１２Ｅ	68.8	37.7	18	70.1	ひん岩？	
46		第２黒色土層	１２Ｄ	47.3	31.4	14.6	27.96	流紋岩	1/2破損。１ヶ所打ち欠く
47	055-12	第２黒色土層	ＳＫ０５	77.2	51	17			平たい長方形の礫の長辺を打ち欠く

板屋Ⅲ遺跡　出土石錘　計測表（その他黒色土層等出土）

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	051-05	第３黒色土層下部	ＳＤ０２	54.8	55.5	15.9	53.5	ひん岩	短辺２ヶ所窪み
2		第３黒色土層下部	ＳＤ０２	72.1	47.6	25.6	114.6	ひん岩	短辺２ヶ所傷あり
3	051-28	第３黒色土層下部	ＳＤ０２	105.7	83.9	19.4	331.9	閃緑岩	短辺２ヶ所打ち欠く
4		第３黒色土層下部	１２Ｅ	55	44.9	20.4	67.6	ひん岩	短辺２ヶ所傷あり
5	051-03	第３黒色土層下部	ＳＤ０２	61.5	48.9	14.1	49.9	粗面岩	短辺２ヶ所傷あり
6		第１黒色土層	１２Ｅ	81.6	67.4	25.7	244.3	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
7		造成土	１２Ｄ	66.3	53.1	12.8	66.2	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
8		造成土	１２Ｄ	78.9	70.9	26.3	228.2	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
9		表土	１３Ｄ	67.7	54.3	18.9	99.8	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
10		第１黒色土層	１２Ｅ	62.6	49	25.3	114.3	流紋岩	短辺２ヶ所打ち欠く
11		造成土	１２Ｄ	66.9	53.8	22.8	114	粗面岩	短辺２ヶ所打ち欠く
12		表土	１１Ｅ	65.6	55.3	21.4	114.6	花崗岩	短辺２ヶ所打ち欠く
13	111-03	表土	１２Ｅ	50.2	37.7	18.9	54.2	安山岩	短辺２ヶ所傷あり

第28表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　石鏃）

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	110-6	第１黒色土層	１１Ｅ	35	14	2.5	1.51	流紋岩～安山岩	凸基式
2	110-1	第１黒色土層	１１Ｅ	15.6	11.2	2.6	0.38	安山岩	凹基式
3	110-4	第１黒色土層	１１Ｅ	29.3	20.3	3.8	2.1	流紋岩	平基式
4	110-3	第１黒色土層	不明	23.1	17.6	2.3	1.31	流紋岩	平基式
5	110-5	第１黒色土層	１２Ｅ	27	20.5	4.9	2.62	流紋岩	平基式
6	050-2	第３黒色土層	１２Ｅ	15	11.7	2.3	0.29	黒曜石	凹基式
7	050-1	第３黒色土層	１２Ｅ	16.8	15.2	5.5	1	黒曜石	凹基式
8	110-2	第１黒色土層	表土	38	15.7	2.6	1.22	安山岩	凸基式
9	050-3	第３黒色土層	１２Ｅ	80	15	2.7	0.24	黒曜石	凹基式

第29表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　剥片）

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第１黒色土層	１２Ｅ	3	2.3	0.6	4.3	－	
2		第１黒色土層	１２Ｅ	3.2	1.9	0.5	2.3	流紋岩	
3		第１黒色土層	１２Ｅ	6.2	4.5	0.7	28.2	流紋岩	
4		第１黒色土層	１２Ｅ	2.9	0.9	0.8	1.4	黒曜石	
5		第１黒色土層	１１Ｅ	2.6	2.3	0.3	2.3	流紋岩	
6		第１黒色土層	１１Ｅ	4.7	4.6	0.7	27.8	流紋岩	
7		第１黒色土層	１１Ｅ	2.1	1.2	0.6	1.8	流紋岩～安山岩	
8		第１黒色土層	１１Ｅ	2.7	2.1	0.6	4.1	流紋岩～安山岩	
9		第１黒色土層	１１Ｅ	5.1	1.3	0.6	3	流紋岩	
10		第１黒色土層	１１Ｅ	6.1	4	0.9	20.3	流紋岩～安山岩	
11		第１黒色土層	１１Ｅ	3.4	3.1	0.4	5.6	－	
12		第１黒色土層	１１Ｅ	3.1	2.2	0.4	3.2	流紋岩	
13		第１黒色土層	１１Ｅ	2.5	2.4	0.2	1.5	流紋岩	
14		第１黒色土層	１１Ｅ	3	2.9	0.5	3.9	流紋岩	
15		第１黒色土層	１１Ｅ	2.5	2.2	0.5	4.1	流紋岩	
16		第１黒色土層	１１Ｅ	3.1	2.4	0.2	1.6	流紋岩	
17		第１黒色土層	１１Ｅ	2.4	1.8	0.3	2	流紋岩？	
18		第１黒色土層	１１Ｅ	2.2	1.9	0.2	1	流紋岩	
19		第１黒色土層	１１Ｅ	2	1.9	0.5	1.5	流紋岩	
20		第１黒色土層	１１Ｅ	2.2	1.6	0.2	0.8	流紋岩	
21		第１黒色土層	１１Ｅ	1	0.8	0.6	0.4	－	
22		第１黒色土層	１１Ｅ	3.6	2.9	0.6	5.3	流紋岩	
23		第１黒色土層	１１Ｅ	3	2.6	0.4	4.2	流紋岩	
24		第１黒色土層	１１Ｅ	2.4	1.5	0.4	1.9	流紋岩	
25		第１黒色土層	１３Ｅ	2.6	1.7	1	4.7	黒曜石	
26		第１黒色土層	１２Ｅ	2.8	2.6	0.9	5.5	ひん岩	
27		第１黒色土層	１２Ｅ	3.1	2.5	0.3	2	－	
28		第１黒色土層	１１Ｅ	1.8	0.8	0.1	0.2	流紋岩	
29		第１黒色土層	１１Ｅ	2.7	1.8	0.4	2.5	流紋岩	
30		第１黒色土層	１２Ｅ	7.3	4.1	1.4	36.8	細粒花崗岩	
31		第１黒色土層	１２Ｅ	2.3	1.6	0.8	2.1	珪質岩	
32		第１黒色土層	１２Ｅ	3.7	2.4	0.5	3.7	流紋岩	
33		第１黒色土層	１２Ｅ	3.6	2.9	0.5	5.9	流紋岩	
34		第１黒色土層	１２Ｅ	4.4	2.1	0.3	2.8	流紋岩	
35		第１黒色土層	１２Ｅ	3.1	2.1	0.4	2.6	流紋岩	
36		第１黒色土層	１２Ｅ	2.9	2.3	0.2	2	流紋岩	
37		第１黒色土層	１２Ｅ	2.2	1.1	0.3	0.8	流紋岩	
38		第１黒色土層	１１Ｅ	2.2	2	0.4	2.6	－	
39		第１黒色土層	１２Ｅ	3.7	2.7	0.2	3.2	－	
40		第１黒色土層	１２Ｅ	1.7	1.5	0.3	0.8	－	
41		第１黒色土層	１３Ｅ	3.4	1.5	0.4	1.6	－	
42		第１黒色土層	１３Ｅ	2.7	1.8	0.4	1.8	－	

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
43		第１黒色土層	１１Ｅ	3.1	2.9	0.4	40	－	
44		第２黒色土層	１２Ｄ	2.2	1.8	1	2.9	流紋岩～安山岩	
45		第２黒色土層	１４Ｄ	3.8	1.8	1.1	5.8	流紋岩～安山岩	
46		第２黒色土層	１４Ｄ	2.3	1	0.5	1	黒曜石	
47		第２黒色土層	１４Ｄ	4.7	4.6	1.2	19.9	凝灰岩	
48		第２黒色土層	１４Ｄ	2.3	1.2	1	1.1	碧玉	
49		第２黒色土層	１４Ｄ	1.5	1.3	1	1.1	碧玉	
50		第２黒色土層	１４Ｅ	1.8	1	0.5	0.5	碧玉	
51		第２黒色土層	１４Ｅ	1.5	1.2	0.7	0.7	碧玉	
52		第２黒色土層	１４Ｅ	1.8	1	0.5	0.5	碧玉	
53		第２黒色土層	１１Ｅ	5.3	2	0.7	4.9	凝灰岩	
54		第２黒色土層	１３Ｄ	2.2	2.1	0.3	0.8	流紋岩～安山岩	
55		第２黒色土層	１３Ｄ	2.2	1.6	0.9	1.4	碧玉	
56		第２黒色土層	１３Ｄ	2.2	1.3	0.5	0.5	碧玉	
57		第２黒色土層	１２Ｄ	3.4	2.8	0.9	7	流紋岩～安山岩	
58		第３黒色土層	１４Ｄ	1.9	1	1	1.4	黒曜石	
59		第３黒色土層	１４Ｄ	4.4	2.4	0.6	6.3	黒曜石	
60		第３黒色土層	１３Ｄ	1.3	0.8	0.2	0.1	黒曜石	
61		第３黒色土層	１３Ｄ	2	1.5	0.5	0.8	黒曜石	
62		第３黒色土層	１２Ｄ	1.9	1.6	0.5	1	黒曜石	
63		第３黒色土層	１２Ｄ	1.3	1.2	0.4	0.5	黒曜石	
64		第３黒色土層	１２Ｄ	2.1	1.2	0.6	0.9	黒曜石	
65		第３黒色土層	１２Ｄ	1.7	1.2	0.3	0.3	黒曜石	
66		第３黒色土層	１３Ｅ	1.4	1.3	0.4	0.6	黒曜石	
67		第３黒色土層	１２Ｄ	2.4	1.8	0.9	2.7	黒曜石	
68		第３黒色土層	１２Ｄ	2	1	0.8	1.2	黒曜石	
69		第３黒色土層	１２Ｄ	1.7	1.1	0.3	0.1	黒曜石	
70		第３黒色土層	１２Ｄ	1.6	0.8	0.4	0.2	黒曜石	
71		第３黒色土層	１３Ｅ	2.5	1.1	0.3	0.5	黒曜石	
72		第３黒色土層	１１Ｄ	1.6	1.1	0.3	0.2	黒曜石	
73		第３黒色土層	１１Ｄ	1.5	1.2	0.3	0.1	黒曜石	
74		第３黒色土層	１２Ｄ	2.6	1	1	2.2	黒曜石	
75		第３黒色土層	１３Ｅ	1.7	1.6	0.4	0.5	黒曜石	
76		第３黒色土層	１３Ｅ	1.5	1.1	0.7	0.8	黒曜石	
77		第３黒色土層	１３Ｅ	2	1.4	0.8	2.6	黒曜石	
78		第３黒色土層	１２Ｅ	2.9	1.3	0.5	1.4	流紋岩？	
79		第３黒色土層	１２Ｅ	2	1.2	0.4	0.5	黒曜石	
80		第３黒色土層	１２Ｅ	1.4	1	0.3	0.2	黒曜石	
81		第３黒色土層	１１Ｄ	2.7	1.6	0.8	1.8	黒曜石	
82		第３黒色土層	１４Ｅ	3	1.4	0.5	1.1	黒曜石	
83		第３黒色土層	１３Ｅ	1.9	1.8	0.4	0.6	黒曜石	
84		第３黒色土層	〃	1.1	0.9	0.2	0.1	黒曜石	
85		第３黒色土層	１２Ｄ	2.5	1.1	0.4	0.5	黒曜石	
86		第３黒色土層	〃	1.7	1.2	0.4	0.4	黒曜石	
87		第３黒色土層	〃	1	0.9	0.3	0.1	黒曜石	
88		第３黒色土層	１４Ｄ	2	1.6	0.4	1.1	黒曜石	
89		第３黒色土層	１４Ｄ	2	0.9	0.3	0.1	黒曜石	
90		第３黒色土層	１４Ｄ	1.5	1.2	0.4	0.5	黒曜石	
91		第３黒色土層	１２Ｅ	2.1	1.7	0.9	2.4	黒曜石	
92		第３黒色土層	１２Ｄ	2.9	1.6	1.4	4.9	黒曜石	
93		第３黒色土層	１１Ｄ	2.5	1.7	1	3.2	黒曜石	
94		第３黒色土層	１１Ｄ	2.2	1.6	0.7	1.1	黒曜石	
95		第３黒色土層	１１Ｄ	2.3	1.5	0.5	1	黒曜石	
96		第３黒色土層	１１Ｄ	2.1	1.4	0.6	1.1	黒曜石	
97		第３黒色土層	１１Ｄ	1.9	1.2	0.6	1.2	黒曜石	
98		第３黒色土層	１１Ｄ	1.8	1.6	0.3	0.5	黒曜石	

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
99		第３黒色土層	１１Ｄ	2.1	1.1	0.5	0.5	黒曜石	
100		第３黒色土層	１１Ｄ	1.3	1.1	0.6	0.5	黒曜石	
101		第３黒色土層	１１Ｄ	1.2	1.1	0.3	0.1	黒曜石	
102		第３黒色土層	１１Ｅ	2.5	2.3	1.1	4	黒曜石	
103		第３黒色土層	１１Ｅ	2.3	2.3	0.8	3.3	黒曜石	
104		第３黒色土層	１１Ｅ	1.9	0.8	0.3	0.3	黒曜石	
105		第３黒色土層	１１Ｅ	1.3	1.3	0.3	0.3	黒曜石	
106		第３黒色土層	１２Ｅ	2.5	1.2	0.6	0.2	黒曜石	
107		第３黒色土層	１２Ｅ	1.5	1.2	0.2	1.9	黒曜石	
108		第３黒色土層	１３Ｅ	1.7	1.2	0.2	1.6	黒曜石	
109		第３黒色土層	１３Ｅ	2.4	0.9	0.6	1.4	黒曜石	
110	050-5	第３黒色土層	１３Ｅ	1.6	1.4	0.4	0.9	黒曜石	
111		第３黒色土層	１３Ｅ	1.8	1.3	0.4	0.4	黒曜石	
112		第３黒色土層	１３Ｅ	1.1	1	0.4	0.3	黒曜石	
113		第３黒色土層	－	1.6	1.5	0.6	0.9	黒曜石	
114	050-4	第３黒色土層	－	2.3	1.7	0.4	2	黒曜石	
115		第３黒色土層	１２Ｅ	2	1.5	0.5	1.1	黒曜石	
116		第３黒色土層	１３Ｄ	2.1	1	0.5	0.4	黒曜石	
117		第３黒色土層	－	2.2	1.8	0.8	2.2	黒曜石	
118		第３黒色土層	１３Ｅ	1.9	1.3	0.6	0.9	流紋岩～安山岩	
119		第３黒色土層	－	3.2	2.1	0.6	4.2	流紋岩？	
120		第３黒色土層	１２Ｄ	7.4	3.5	2.5	82.8	流紋岩	
121		第３黒色土層	１１Ｅ	4.1	3.8	1.5	20.1	流紋岩	
122		第３黒色土層	１４Ｄ	1.8	1.4	0.3	0.3	流紋岩	
123		第３黒色土層	１３Ｅ	4.8	4.4	2.9	64.7	流紋岩	
124		第３黒色土層	１４Ｄ	7.5	2	1.6	15.6	流紋岩	
125		第３黒色土層	１４Ｄ	3.7	3.4	0.7	13.5	安山岩	
126		第３黒色土層	１４Ｄ	3.7	3.6	0.6	6.3	流紋岩？	
127		第３黒色土層	１４Ｄ	2.7	2	0.6	3.8	流紋岩？	
128		第３黒色土層	１４Ｄ	2.4	2.2	0.5	2.1	流紋岩	
129		第３黒色土層	１４Ｄ	2.2	1.3	0.3	0.5	流紋岩	
130		第３黒色土層	１１Ｄ	7.5	4.3	1.7	45	流紋岩	
131		第３黒色土層	１１Ｄ	6.7	5.8	3.3	170	流紋岩	
132		第３黒色土層	１１Ｄ	4.3	4.3	1.2	16.9	流紋岩	
133		第３黒色土層	１２Ｄ	2.2	1.4	0.4	1.4	流紋岩？	
134		第３黒色土層	１１Ｅ	4.1	2.7	0.6	6	安山岩	
135		第３黒色土層	１１Ｅ	8.6	4.2	1.1	42.5	流紋岩	
136		第３黒色土層	１１Ｅ	6.9	3.4	1	24.4	流紋岩	
137		第３黒色土層	１１Ｅ	8.5	5.1	1	38.5	流紋岩	
138		第３黒色土層	１１Ｅ	5.1	3.4	1.4	25.8	流紋岩	
139		Ｍ層	ＳＩ０２	2.6	2.3	0.3	2.1	－	
140		表土	１２Ｅ	3.1	2.8	0.8	3.8	－	
141		不明	１２Ｅ	2.1	0.8	0.6	1.1	黒曜石	
142		第３黒色土層	１２Ｅ	1.8	1.2	0.3	0.7	黒曜石	
143		第３黒色土層	１２Ｅ	2	1.8	0.1	0.7	黒曜石	
144		第３黒色土層	１４Ｅ	1.2	0.8	0.1	0.1	黒曜石	
145		第３黒色土層	１４Ｅ	2	1	0.2	0.5	黒曜石	
146		第３黒色土層	１１Ｅ	2.4	2.3	1.2	4.9	黒曜石	
147		第３黒色土層	１１Ｅ	2.3	1.6	0.8	2.1	黒曜石	
148		第３黒色土層	１３Ｅ	1.6	1.1	0.4	0.6	黒曜石	
149		第３黒色土層	１３Ｅ	3	1.1	1	2.4	黒曜石	
150		第３黒色土層	１２Ｅ	1	0.8	0.1	0.1	－	
151		第３黒色土層	不明	5.8	3.5	1.1	26.2	－	
152		第３黒色土層	１３Ｄ	2.4	1.1	0.2	0.5	－	
153		第３黒色土層	11D集石遺構	1.5	1.2	0.4	5.5	黒曜石	

第30表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　磨石・敲石）

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第１黒色土層	１２Ｅ	18	15.1	10.4	4600	閃緑岩	
2		第１黒色土層	１２Ｄ	14	12.4	9.6	2500	凝灰岩	
3		第１黒色土層	１１Ｅ	10	8.7	3.8	420.6	凝灰岩	
4		第１黒色土層	１２Ｅ	8.5	7.7	6.9	605.6	ひん岩	
5		第１黒色土層	１２Ｄ	13.3	11.7	9.2	2094.6	花崗岩	
6	111-08	第１黒色土層	１２Ｄ	9.1	8.9	5.7	683.8	ひん岩	
7		第１黒色土層	１２Ｅ	9.3	7.9	5.2	456.7	流紋岩	
8		第１黒色土層	１３Ｄ	9	7.2	5.1	509.3	流紋岩	
9		第１黒色土層	１２Ｄ	13.2	11.5	11.1	2500	ひん岩	
10		第１黒色土層	１３Ｄ	10.7	10.2	9.2	1352.4	凝灰岩	
11		第１黒色土層	１２Ｅ	7.6	5.4	3.7	179.8	凝灰岩？	
12		第１黒色土層	１１Ｅ	6.9	6.3	4.3	243.7	ひん岩	
13		第１黒色土層	１２Ｄ	7	5.5	4.9	254.6	花崗岩	
14		第１黒色土層	１２Ｄ	8.7	7.8	6.9	694.1	ひん岩	
15		第１黒色土層	１１Ｅ	6.5	5.5	4.7	251	凝灰岩	
16	111-06	第１黒色土層	１２Ｄ	7.1	6.2	5.6	343.3	ひん岩	
17	111-09	第１黒色土層	１１Ｅ	23.8	7.2	6.8	2043.8	ひん岩	
18		第１黒色土層	１３Ｅ	5.7	5.2	3.1	170.9	ひん岩	
19		第１黒色土層	pit12	6.1	4.9	3.4	143.7	閃緑岩	
20		第１黒色土層	１１Ｅ	5.7	4.4	3.2	105.5	安山岩	
21		第１黒色土層	１４Ｄ	7.5	5.1	3.4	217.7	流紋岩	
22		第１黒色土層	１１Ｅ	6.6	5.6	3.4	167.5	ひん岩	
23		第１黒色土層	１２Ｄ	9	8	5.6	542.4	花崗岩	
24		第１黒色土層	１２Ｅ	9.7	7.6	7	701.7	ひん岩	
25		第１黒色土層	１２Ｄ	9.8	7.7	5.5	599.7	閃緑岩	
26		第１黒色土層	１２Ｄ	8.9	8.1	4.5	510.2	ひん岩	

第31表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　磨石・敲石）

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第２黒色土層	１４Ｅ	8.2	5.6	4.7	243.6	閃緑岩	
2		第２黒色土層	１３Ｅ	7.8	4.9	2.9	145.7	花崗岩	
3	050-14	第３黒色土層	１１Ｄ	11.7	9.7	6.2	934.6	-	
4		第３黒色土層	１３Ｄ	6.2	5.4	4.5	160.3	花崗岩	
5		第３黒色土層	１３Ｅ	5.2	4.6	3.2	108.1	閃緑岩	
6		第３黒色土層	１３Ｅ	7.4	5.7	4.2	211.7	花崗岩	
7		第３黒色土層	１３Ｅ	11.8	10.8	7.2	1060.6	安山岩	
8		第３黒色土層	１４Ｄ	9.1	6.2	4.6	369.4	閃緑岩	
9	050-12	第３黒色土層	１３Ｄ	8.8	7.7	4.4	405.1	粗面岩	
10		第３黒色土層	１２Ｅ	9.4	8	6.5	648.4	花崗岩	
11	050-13	第３黒色土層	１４Ｅ	8.8	7.9	5.1	522.1	ひん岩	
12		第３黒色土層	１１Ｅ	15.9	9.7	6.6	1136.8	花崗岩	
13		第３黒色土層	１２Ｅ	12.6	7.3	6.4	861.3	花崗岩	
14	050-11	第３黒色土層	１１Ｄ	9.6	6.3	5.3	385	石英斑岩	
15		第３黒色土層	１３Ｅ	15.2	10.2	7.9	1701.7	花崗岩	
16		第３黒色土層	１１Ｄ	7.8	5.2	3.3	166.4	ひん岩	
17		第３黒色土層	１３Ｅ	10.6	7.5	5.3	571.3	花崗岩	
18		第３黒色土層	１１Ｄ	10.4	9.8	6.5	845	花崗岩	
19		第３黒色土層	１３Ｄ	8.2	7.4	4.5	329.7	細粒花崗岩	
20		第３黒色土層	１４Ｅ	11.3	8.8	5.4	697.2	花崗岩	
21		第３黒色土層	１３Ｅ	10.1	9.1	6.1	687.8	ひん岩	
22		第３黒色土層	１３Ｅ	7.6	7.5	6.8	479.1	花崗岩	

計測No.	挿図NO.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
23		第３黒色土層	１４Ｅ	8.6	7.7	4.2	375.2	ひん岩	
24		第３黒色土層	１４Ｄ	11.8	10.1	5.4	854	流紋岩？	
25		第３黒色土層	１３Ｅ	12.1	5	3	190.6	凝灰岩	
26		第３黒色土層	不明	9.5	7.7	5.1	488.5	花崗岩	
27		第３黒色土層	１３Ｄ	6.5	6.2	2.4	152.1	粗面岩	
28		第３黒色土層	１１Ｅ	8.1	7.8	2.5	269.6	ひん岩	
29		第３黒色土層	１４Ｅ	9.7	6.5	3.4	315.2	花崗岩	
30		第３黒色土層	１１Ｄ	12	4	1.4	103.5	ひん岩	

第32表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　磨製石斧）

計測No.	挿図NO.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	50-09	第３黒色土層	１３Ｅ	8.9	3.3	1.8	79.5	泥質片岩	
2	50-08	第３黒色土層	１４Ｄ	9.4	5.1	2.1	155.4	頁岩	
3		第３黒色土層下部	１１Ｄ	8.4	5.6	2.6	143.3	ひん岩	
4	50-10	第３黒色土層	１３Ｄ	7.8	3.2	2.5	111.5	頁岩	
5		第３黒色土層	１３Ｅ	5.9	3	0.8	15.4	安山岩？	
6		第３黒色土層	１４Ｄ	8.3	5.3	2	104.8	粗面岩	

第33表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　石斧）

計測No.	挿図NO.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	111-2	第１黒色土層	１２Ｄ	9.3	5.7	1.5	104.2	粗面岩	
2	111-1	第１黒色土層	１４Ｅ	7.8	5.9	2.3	149.7	頁岩	

第34表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　凹石）

計測No.	挿図NO.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第１黒色土層	１１Ｅ	13.2	9.1	8.1	994.9	ひん岩	
2	111-10	第１黒色土層	１２Ｅ	9.5	5.5	5	369.2	粗面岩	
3	060-18	第２黒色土層	１３Ｄ	10.7	7.6	5.5	604.5	閃緑岩	
4	050-15	第３黒色土層	１１Ｅ	13.5	11.6	4.3	901.7	ひん岩	
5		第３黒色土層	１２Ｅ	12.8	8.2	3.8	506.5	ひん岩	

第35表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　石匙・スクレーパー）

計測No.	挿図NO.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	110-7	第１黒色土層	１２Ｅ	6.6	5	0.7	31.6	流紋岩	スクレーパー
2	050-6	第３黒色土層	１２Ｅ	5.3	3	0.8	8	流紋岩～安山岩	石匙

第36表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　石皿）

計測No.	挿図NO.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第１黒色土層	１１Ｅ	14.3	10.6	7.2	1942.1	閃緑岩	
2		第１黒色土層	１２Ｅ	17	8.9	3.9	901.9	粗面岩	
3		第１黒色土層	１２Ｅ	16.9	12.9	3.5	952.4	火山礫凝灰岩	
4	111-11	第１黒色土層	１１Ｅ	10.4	10.2	4.1	612.4	花崗岩	
5		第１黒色土層	１２Ｅ	17.5	6.4	3.1	553.4	流紋岩	
6		第１黒色土層	１２Ｄ	9.8	8.6	3.3	398.7	花崗岩	
7		第１黒色土層	１２Ｅ	11.7	6.9	1	70	粗面岩	
8		第１黒色土層	１１Ｅ	15.6	8.6	2.2	371.4	閃緑岩	
9	111-12	第１黒色土層	１２Ｅ	10.2	10.1	3.7	381.4	酸性貫入岩	
10		第１黒色土層	１１Ｅ	17.9	8.2	7.1	1761.6	閃緑岩	
11		第２黒色土層	１２Ｄ	12.6	11.5	3.7	679.8	花崗岩	
12	060-20	第２黒色土層	１３Ｄ	13.2	12	4.9	1097.4	花崗岩	

計測No.	挿図NO.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
13	060-19	第２黒色土層	１３Ｄ	13.7	8	2.7	430.1	ひん岩	
14	052-01	第３黒色土層	１１Ｄ	17.8	13	5.2	2100	粗面岩	
15		第３黒色土層	１４Ｄ	12.8	4.5	4.5	434.9	ひん岩	
16		第３黒色土層	１３Ｅ	7	6.6	2.5	189	粗面岩	
17		第３黒色土層	１３Ｅ	12.6	8.1	3.8	526.2	閃緑岩	
18		第３黒色土層	１１Ｄ	11.5	8.53.6	636	636.6	ひん岩	
19		第３黒色土層	１２Ｅ	9.6	7.8	3.7	312.8	流紋岩	

第37表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　大型の石皿）

計測No.	挿図NO.	層位・遺構	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
25	52-02	第３黒色土層	石２０	25.3	14.3	16.6	6900	ひん岩	破面のため厚み実寸。各面とも使用面と思われる。
1		ＳＩ０１	中央土坑	25.9	24.3	15.5	14.4	-	長径破面のため実寸不明。表裏面が滑面であるが使用面か不明。
2		ＳＩ０３	土器溜り	44	16	11.9	10.7	粗面岩	石棒状のもの。各面滑らか。棒石かも。
3	76-09	ＳＩ０３	中央土坑	14.3	10.5	7.8	1.7	火山礫凝灰岩	長端部欠け。各面とも滑らか、磨石として使用と思われる。
4	77-01	ＳＩ０３	中央土坑	17.6	8.2	7.8	1.7	閃緑岩	波面のため実寸不明。表裏面とも滑らか石皿。
5		ＳＩ０３	中央土坑	15.4	8.2	6.5	0.9	-	各側面は滑らか。側短部の一面に打痕らしいものあり。叩石か
6		ＳＩ０３	中央土坑	11.9	7.5	5.8	0.6	-	各面ともゴツゴツした自然面。自然石と思われる。
7	89-01	ＳＩ０５	Ｇ層	23	17.4	10.9	7.2	火山礫凝灰岩	長短軸寸法は波面で不明。一面に凹みあり。石皿。
8		ＳＩ０５	Ｍ層	26	20.8	5	2.7	-	平たい石材。各面滑らかだが石皿かは不明。
9		ＳＩ０５	Ｍ層	42.3	24.9	10.5	11.4	-	表裏面が滑らかで使用面の可能性があるが、明確ではない
10		ＳＩ０５	Ｍ層	18.9	18.2	7.6	3.4	-	自然石と思われる。各面とも滑面なし。
11		ＳＩ０５	Ｇ層	24.8	22.6	8.3	7.5	-	各面とも滑らかである。石皿の使用面というより石材的な特徴か？
12		ＳＩ０５	Ｍ層	19.8	16.6	5.3	2.4	-	使用面と思われる滑面はない。表がやや凹むが自然面か？
13		第１黒色土層	１２Ｅ	27.5	18.7	7.2	5.8	-	表面が凹むが自然面の可能性あり。自然石と思われる。
14		第１黒色土層	１２Ｅ	18.7	10.9	8.5	3.2	-	各面とも滑らかである。角棒状の石材。自然石と思われる。
15		第１黒色土層	１２Ｅ	22.4	18.2	12.3	4.4	-	各面ともやや滑らかである。自然石と思われる。
16		第１黒色土層	１２Ｅ	18.3	13.1	6.8	2.1	-	破面のため短径不明。各面とも滑らかであるが自然石と思われる。
17		第１黒色土層	１１Ｅ	26.3	13.7	12.8	5.5	-	各面若干滑らかだが自然石と思われる。
18		第１黒色土層	１２Ｅ	20.9	18.4	12.2	5.4	-	各面ともやや滑らかであり、表裏面が使用面とも考えられるが断定できない。
19		第１黒色土層	１２Ｅ	19	11.6	10.7	2.5	-	各面ともやや滑らかであるが、自然石と思われる。
20		第１黒色土層	１２Ｅ	16.2	12.7	6.9	1.9	-	各面ともやや滑らかであるが自然石と思われる。
21		第１黒色土層	１２Ｅ	33.2	25.3	13.9	13.2	-	各面とも滑らかであるが自然石と思われる。
22		第１黒色土層	１３Ｅ	30.9	25.1	12.2	13.2	-	表裏面とも平坦であるが、石皿とは断定できない。
23	52-03	第３黒色土層	石８	29.3	11.7	5.8	2800	安山岩	破面のため厚さのみ実寸。表面が使用面。石皿片
24		第３黒色土層	石１０	34.8	29.8	8.8	10.6	-	平坦な石。表は若干やや凹み。裏面ともに使用面の可能性あり
26		第３黒色土層	石２４	19.6	17.1	6.7	3.8	-	平たい石材。表裏面とも滑らかだが自然石の可能性あり。
27		第３黒色土層	石２７	17.6	13.8	6.5	1.7	-	滑面はなく、自然石と思われる。
28	52-05	第３黒色土層	石４４	25.7	12.8	3.9	2800	ひん岩	やや粗めの滑面である。短径は破面。側面付近が不自然に凹む。
29	52-04	第３黒色土層	石４３	22.8	22.3	8.5	6100	酸性貫入岩	平坦な石材。表裏面とも使用面と思われる。
30		第３黒色土層(SD2)	石４７	17.4	10.1	7	1.8	-	全面滑らかであるが自然石と思われる。
31		第３黒色土層	石４８	40.6	28.4	21	30.5	-	全体的に滑らかであるが、断定できない。
32		第３黒色土層	石４９	30.8	21.1	9.7	6.7	-	表裏面ともやや滑らかであるが、自然石の可能性が高い。
33		第３黒色土層(SD2)	石５０	11.8	9.4	6	0.7	-	自然石。
34		第３黒色土層	石５１	22.8	17.4	8.3	3.8	-	表裏面ともやや滑らかであるが、自然石の可能性が高い。
35		第３黒色土層	No.なし	18.8	16.9	6	2.6	-	表裏面の片面が平滑であり使用面の可能性あり。

第38表　板屋Ⅲ遺跡　出土石器　計測表（種類　砥石）

計測No.	挿図NO.	層位・遺構	グリッド	計測値（mm・g）				石　材	特　　徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	111-07	第１黒色土層	１２Ｅ	7.3	6.4	4.1	345.8	ひん岩	
2	111-13	第１黒色土層	１２Ｅ	8.1	5.7	3.8	254.7	流紋岩	
3	111-14	第１黒色土層	１３Ｄ	14	5.9	6.9	723.5	凝灰岩	
4		第１黒色土層	１１Ｄ	9.1	6.6	3.7	397.8	凝灰質泥岩	
5		第１黒色土層	１２Ｅ	5.8	4.5	2.1	88.9	流紋岩	
6		第１黒色土層	１２Ｅ	10.1	4.1	3.8	249.6	流紋岩	

第39表　竪穴住居跡（SI）出土石器　計測表

計測No.	挿図NO.	種　類	遺構名	層　位	計測値（cm・g）				石　材
					長径	短径	厚さ	重さ	
1	－	円礫	ＳＩ０１	M層	17.1	6.3	4.9	750.1	－
2	67-18	磨石	ＳＩ０１	第１黒色土層	9.4	4.9	2.9	192.6	流紋岩
3	67-17	打製石斧	ＳＩ０１	覆土	10.7	5.2	1.1	92.3	流紋岩
4	－	剥片	ＳＩ０１	G層	2.8	1.4	0.4	1.3	流紋岩
5	67-19	円礫	ＳＩ０１	M層	15	9.7	4.8	1247.7	流紋岩
6	－	角礫	ＳＩ０１	第１黒色土層	5.1	2.7	1.4	29.9	－
7	－	円礫	ＳＩ０１	M層	17.6	13	7.7	2011.4	－
8	－	円礫	ＳＩ０１	M層	9.8	9.5	8.5	896.2	－
9	76-10	磨石	ＳＩ０３中央土坑	M層	8.5	10.5	5.5	771.5	安山岩
10	－	磨石	ＳＩ０３	M層	9.7	5	1.3	88.1	安山岩
11	－	角礫	ＳＩ０３	M層	9.8	6.4	2.4	185.5	－
12	－	剥片	ＳＩ０３	M層	3.5	2.2	0.3	2.7	安山岩
13	－	剥片	ＳＩ０３	第１黒色土層	2.7	1.9	0.4	2.5	安山岩
14	－	剥片	ＳＩ０３(ﾌｸｴﾍﾞﾙﾄ)	M層	1.6	0.8	0.2	0.2	安山岩
15	－	剥片	ＳＩ０３(中央土坑)	M層	3.2	1.9	0.2	1.9	安山岩
16	－	剥片	ＳＩ０３	M層	3.9	3.2	0.6	13.8	安山岩
17	－	円礫	ＳＩ０１	第１黒色土層	4.5	1.6	0.8	11.5	－
18	－	円礫	ＳＩ０３	G層	2.6	1.9	1.8	12.4	－
19	－	円礫	ＳＩ０３	M層	3	2.5	2.1	22.4	－
20	－	円礫	ＳＩ０３	G層	2.5	2.2	1.5	11.8	－
21	72-12	不明石器	ＳＩ０３	G層	3.1	3	0.6	8.7	流紋岩
22	85-17	砥石	ＳＩ０５	M層	13.1	5.9	5	674.1	流紋岩
23	－	円礫	ＳＩ０５	G層	5.7	4.9	2.5	111.8	－
24	－	円礫	ＳＩ０５	M層	11.2	8.7	2.1	237.6	－
25	83-11	磨石	ＳＩ０５	G層	12.8	8.4	4	909.5	粗面岩
26	85-16	磨石	ＳＩ０５	M層	10.8	9.3	4.7	766.8	粗面岩
27	－	剥片	ＳＩ０５	G層	3.1	2.9	0.6	6.3	粗面岩
28	－	剥片	ＳＩ０５	覆土	3.3	1.7	0.3	1.5	粗面岩
29	－	剥片	ＳＩ０５	G層	1.5	1.1	0.1	0.1	粗面岩
30	－	剥片	ＳＩ０５	覆土	2.7	2.5	0.3	2.6	粗面岩
31	－	剥片	ＳＩ０５	覆土	3.4	3.3	0.4	4.4	粗面岩
32	－	円礫	ＳＩ０５	M層	9.7	6.1	3.8	379.7	－
33	－	円礫	ＳＩ０５	M層	9.7	6.4	3.8	358.1	－
34	－	円礫	ＳＩ０５	－	6.3	3.6	1.2	40.7	－
35	－	円礫	ＳＩ０５	M層	6.6	3.9	1.7	60.9	－
36	－	円礫	ＳＩ０５	G層	4.7	3.5	1.7	41.7	－
37	－	円礫	ＳＩ０５	－	6.5	5.1	3.3	93.4	－
38	89-02	磨石	ＳＩ０６	覆土	6.2	4.3	2.3	102.3	酸性貫入岩
39	92-12	磨石	ＳＩ０８	G層	12.3	11.3	7.6	1677.9	ひん岩
40	92-10	磨石	ＳＩ０８	M層	12.9	7.5	6.7	948.6	花崗岩
41	92-11	磨石	ＳＩ０８	G層	10.9	5.2	6	404.7	ひん岩

第40表　板屋Ⅲ遺跡　集石遺構　出土石材　計測表（第３黒色土層検出）

計測No.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				特　徴
			長径	短径	厚さ	重さ	
1	第３黒色土層	集石遺構	103	60	25	273.4	
2	第３黒色土層	集石遺構	131	100	41	749.1	
3	第３黒色土層	集石遺構	102	93	67	684.3	赤く焼けた形跡あり
4	第３黒色土層	集石遺構	105	91	48	678.9	
5	第３黒色土層	集石遺構	124	56	30	418.5	
6	第３黒色土層	集石遺構	62	42	39	130.7	
7	第３黒色土層	集石遺構	121	77	46	417.7	炭付着
8	第３黒色土層	集石遺構	94	54	53	431.1	
9	第３黒色土層	集石遺構	99	58	35	277.5	
10	第３黒色土層	集石遺構	148	74	28	468.7	
11	第３黒色土層	集石遺構	93	72	47	597.5	
12	第３黒色土層	集石遺構	75	61	56	574.1	
13	第３黒色土層	集石遺構	106	58	58	719.1	
14	第３黒色土層	集石遺構	79	55	37	242.6	
15	第３黒色土層	集石遺構	91	83	45	624.7	
16	第３黒色土層	集石遺構	100	85	48	847	
17	第３黒色土層	集石遺構	115	95	54	600	
18	第３黒色土層	集石遺構	117	84	33	677.2	
19	第３黒色土層	集石遺構	97	63	34	199.1	
20	第３黒色土層	集石遺構	113	78	36	391	
21	第３黒色土層	集石遺構	124	101	65	760	
22	第３黒色土層	集石遺構	107	59	47	409	
23	第３黒色土層	集石遺構	57	31	30	69.4	
24	第３黒色土層	集石遺構	105	65	22	234	
25	第３黒色土層	集石遺構	43	31	37	55.4	
26	第３黒色土層	集石遺構	79	70	49	364.4	
27	第３黒色土層	集石遺構	82	66	41	200.1	
28	第３黒色土層	集石遺構	60	37	30	109.6	炭付着
29	第３黒色土層	集石遺構	97	57	23	134.1	炭付着
30	第３黒色土層	集石遺構	46	28	25	33.6	
31	第３黒色土層	集石遺構	54	37	41	198.9	
32	第３黒色土層	集石遺構	53	37	24	52.2	
33	第３黒色土層	集石遺構	79	60	48	235.7	炭付着
34	第３黒色土層	集石遺構	151	71	57	837.8	炭付着
35	第３黒色土層	集石遺構	11	80	34	366.7	
36	第３黒色土層	集石遺構	63	47	52	315.3	炭付着
37	第３黒色土層	集石遺構	60	44	27	98.9	
38	第３黒色土層	集石遺構	113	84	32	386.7	
40	第３黒色土層	集石遺構	110	63	26	294.5	赤い
41	第３黒色土層	集石遺構	105	82	24	418.1	赤い
42	第３黒色土層	集石遺構	51	50	31	153.5	
43	第３黒色土層	集石遺構	37	28	24	46.7	
44	第３黒色土層	集石遺構	61	54	33	165.3	
45	第３黒色土層	集石遺構	94	60	51	424.1	
46	第３黒色土層	集石遺構	66	41	19	84.4	
47	第３黒色土層	集石遺構	51	43	21	45.5	赤い
48	第３黒色土層	集石遺構	79	68	49	539.7	
49	第３黒色土層	集石遺構	90	76	36	318	
50	第３黒色土層	集石遺構	129	61	42	562.7	炭付着
51	第３黒色土層	集石遺構	108	83	63	687.3	赤い
52	第３黒色土層	集石遺構	97	45	25	154.5	赤い
53	第３黒色土層	集石遺構	96	88	57	591.5	
54	第３黒色土層	集石遺構	103	84	52	681.3	
55	第３黒色土層	集石遺構	113	77	61	652.2	
56	第３黒色土層	集石遺構	89	85	43	442.6	炭付着
57	第３黒色土層	集石遺構	107	46	35	330	
58	第３黒色土層	集石遺構	84	62	49	262.6	
59	第３黒色土層	集石遺構	115	87	44	463.9	炭付着
60	第３黒色土層	集石遺構	59	44	21	88.6	

計測No.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				特徴
			長径	短径	厚さ	重さ	
61	第3黒色土層	集石遺構	300	130	87	600	赤い
62	第3黒色土層	集石遺構	92	85	36	573.8	
63	第3黒色土層	集石遺構	70	28	50	443.4	炭付着
64	第3黒色土層	集石遺構	143	96	36	536	
65	第3黒色土層	集石遺構	115	65	43	374.6	
66	第3黒色土層	集石遺構	129	74	53	701	
67	第3黒色土層	集石遺構	99	23	30	155.3	
68	第3黒色土層	集石遺構	106	94	68	652	
69	第3黒色土層	集石遺構	117	69	37	386	
70	第3黒色土層	集石遺構	106	59	37	428.4	
71	第3黒色土層	集石遺構	76	50	18	115.1	赤い
72	第3黒色土層	集石遺構	57	47	42	186.6	赤い
73	第3黒色土層	集石遺構	96	45	42	269.2	
74	第3黒色土層	集石遺構	116	34	48	287.5	炭付着
75	第3黒色土層	集石遺構	42	41	41	172.5	炭付着
76	第3黒色土層	集石遺構	76	43	34	337.6	
77	第3黒色土層	集石遺構	110	74	35	478.3	
78	第3黒色土層	集石遺構	87	45	35	193.4	
79	第3黒色土層	集石遺構	79	63	32	128	赤い
80	第3黒色土層	集石遺構	56	30	25	73.8	赤い
81	第3黒色土層	集石遺構	78	54	58	303.3	
82	第3黒色土層	集石遺構	50	31	26	49.3	
83	第3黒色土層	集石遺構	75	50	29	123.8	炭付着
84	第3黒色土層	集石遺構	108	68	42	482.6	赤い
85	第3黒色土層	集石遺構	131	87	54	1134.4	炭付着
86	第3黒色土層	集石遺構	77	25	28	141.4	赤い
87	第3黒色土層	集石遺構	170	118	51	1414	炭付着
88	第3黒色土層	集石遺構	143	86	56	1057.5	炭付着
89	第3黒色土層	集石遺構	108	92	37	390.4	
90	第3黒色土層	集石遺構	79	77	51	480.6	
91	第3黒色土層	集石遺構	128	88	74	1021.7	赤い
92	第3黒色土層	集石遺構	113	108	74	1635.6	炭付着
93	第3黒色土層	集石遺構	114	102	83	1139	
94	第3黒色土層	集石遺構	82	40	25	111.3	
95	第3黒色土層	集石遺構	105	54	31	258.9	
96	第3黒色土層	集石遺構	139	79	32	611.5	
97	第3黒色土層	集石遺構	126	81	59	920	
98	第3黒色土層	集石遺構	124	61	50	428.3	炭付着
99	第3黒色土層	集石遺構	132	99	34	614.7	炭付着
100	第3黒色土層	集石遺構	122	67	63	581.6	
101	第3黒色土層	集石遺構	74	54	44	190.7	炭付着
102	第3黒色土層	集石遺構	88	38	34	198.1	
103	第3黒色土層	集石遺構	58	57	38	212.2	炭付着
104	第3黒色土層	集石遺構	73	66	15	148.4	炭付着
105	第3黒色土層	集石遺構	77	60	37	229.6	
106	第3黒色土層	集石遺構	93	52	29	212.8	炭？
107	第3黒色土層	集石遺構	177	52	51	850.5	
108	第3黒色土層	集石遺構	113	106	68	756.9	炭？
109	第3黒色土層	集石遺構	77	55	33	311.8	
110	第3黒色土層	集石遺構	108	71	36	368.6	炭付着
111	第3黒色土層	集石遺構	41	27	16	31.2	
112	第3黒色土層	集石遺構	103	82	31	387.9	
113	第3黒色土層	集石遺構	88	49	35	185.4	炭付着
114	第3黒色土層	集石遺構	71	58	20	103.4	
115	第3黒色土層	集石遺構	80	66	36	348.8	
116	第3黒色土層	集石遺構	78	65	47	298.7	
117	第3黒色土層	集石遺構	112	89	44	634.2	炭付着
118	第3黒色土層	集石遺構	140	65	32	391.4	
119	第3黒色土層	集石遺構	104	60	44	389.1	赤い
120	第3黒色土層	集石遺構	135	85	30	481.2	赤い
121	第3黒色土層	集石遺構	123	40	29	274.3	赤い

計測No.	層位	グリッド	計測値（mm・g）				特徴
			長径	短径	厚さ	重さ	
122	第3黒色土層	集石遺構	149	111	42	840.9	
123	第3黒色土層	集石遺構	69	55	34	245.6	炭付着
124	第3黒色土層	集石遺構	58	33	30	85.8	赤い
125	第3黒色土層	集石遺構	46	34	24	32.6	炭付着
126	第3黒色土層	集石遺構	45	27	15	23.8	炭付着
127	第3黒色土層	集石遺構	76	37	35	148.6	炭付着
128	第3黒色土層	集石遺構	65	38	28	108.7	赤い
129	第3黒色土層	集石遺構	110	63	36	468.7	
130	第3黒色土層	集石遺構	109	67	40	519.6	炭付着
131	第3黒色土層	集石遺構	47	46	30	63.9	炭付着
132	第3黒色土層	集石遺構	69	27	13	43	炭付着
133	第3黒色土層	集石遺構	73	30	32	113.2	
134	第3黒色土層	集石遺構	110	21	31	142.3	
135	第3黒色土層	集石遺構	107	70	35	420.7	炭付着
136	第3黒色土層	集石遺構	65	61	32	221.3	炭付着
137	第3黒色土層	集石遺構	73	55	33	203.6	炭付着
138	第3黒色土層	集石遺構	66	46	26	117.7	
139	第3黒色土層	集石遺構	100	64	40	572.1	炭付着
140	第3黒色土層	集石遺構	65	45	17	76	炭付着
141	第3黒色土層	集石遺構	162	75	35	633.6	赤い　炭付着
142	第3黒色土層	集石遺構	116	56	41	402.7	赤い　炭付着
143	第3黒色土層	集石遺構	111	44	37	432.6	赤い　炭付着
144	第3黒色土層	集石遺構	58	57	18	81	赤い　炭付着
145	第3黒色土層	集石遺構	52	26	25	55.1	炭付着
146	第3黒色土層	集石遺構	80	56	12	97.3	炭付着
147	第3黒色土層	集石遺構	108	100	48	988.8	
148	第3黒色土層	集石遺構	76	50	44	306.2	
149	第3黒色土層	集石遺構	55	37	21	61	
150	第3黒色土層	集石遺構	68	37	32	112.3	炭付着
151	第3黒色土層	集石遺構	61	46	25	89.5	炭付着
152	第3黒色土層	集石遺構	54	25	23	50.7	
153	第3黒色土層	集石遺構	61	45	29	66.4	
154	第3黒色土層	集石遺構	55	39	25	52	炭付着
155	第3黒色土層	集石遺構	61	51	21	87.1	炭付着
156	第3黒色土層	集石遺構	118	50	46	328	赤い　炭付着
157	第3黒色土層	集石遺構	45	30	10	14.7	炭付着
158	第3黒色土層	集石遺構	101	44	24	205.9	
159	第3黒色土層	集石遺構	60	25	27	54.8	炭付着
160	第3黒色土層	集石遺構	59	43	27	107.6	炭付着
161	第3黒色土層	集石遺構	143	59	64	666.8	赤い
162	第3黒色土層	集石遺構	57	43	33	89.8	炭付着
163	第3黒色土層	集石遺構	45	30	21	36.2	炭付着
164	第3黒色土層	集石遺構	83	48	16	109.3	赤い
165	第3黒色土層	集石遺構	123	69	61	517.6	赤い
166	第3黒色土層	集石遺構	118	114	59	983.3	赤い
167	第3黒色土層	集石遺構	61	39	38	127.1	炭付着
168	第3黒色土層	集石遺構	50	38	8	24.5	
169	第3黒色土層	集石遺構	45	34	23	38.9	炭付着
170	第3黒色土層	集石遺構	50	26	15	23.8	
171	第3黒色土層	集石遺構	68	53	11	77.2	炭付着
172	第3黒色土層	集石遺構	61	41	7	38.2	赤い
173	第3黒色土層	集石遺構	52	40	18	39.2	赤い　炭付着
174	第3黒色土層	集石遺構	63	58	20	91.4	
175	第3黒色土層	集石遺構	51	41	23	75.9	
176	第3黒色土層	集石遺構	67	50	31	115.4	赤い
177	第3黒色土層	集石遺構	53	34	16	51.9	赤い　炭付着
178	第3黒色土層	集石遺構	51	34	26	68	赤い　炭付着
179	第3黒色土層	集石遺構	75	53	10	47.4	赤い　炭付着
180	第3黒色土層	集石遺構	50	29	14	25.3	赤い　炭付着
181	第3黒色土層	集石遺構	40	32	23	39.7	赤い　炭付着
182	第3黒色土層	集石遺構	44	40	31	81.9	

計測No.	層　位	グリッド	計測値（mm・g）				特　徴
			長径	短径	厚さ	重さ	
183	第3黒色土層	集石遺構	27	24	18	17.3	炭付着
184	第3黒色土層	集石遺構	70	37	31	104.9	赤い　炭付着
185	第3黒色土層	集石遺構	50	37	20	65.8	赤い　炭付着
186	第3黒色土層	集石遺構	53	31	15	38.3	赤い　炭付着
187	第3黒色土層	集石遺構	35	29	14	26.6	
188	第3黒色土層	集石遺構	154	78	64	1005.9	炭付着
189	第3黒色土層	集石遺構	53	37	30	111.4	赤い　炭付着
190	第3黒色土層	集石遺構	54	35	36	77.2	赤い　炭付着
191	第3黒色土層	集石遺構	70	51	27	147.5	線が入っている
192	第3黒色土層	集石遺構	156	113	51	1023.2	赤い
193	第3黒色土層	集石遺構	88	49	36	264	赤い　炭付着
194	第3黒色土層	集石遺構	84	74	29	307.3	赤い
195	第3黒色土層	集石遺構	90	62	53	589.3	赤い　炭付着
196	第3黒色土層	集石遺構	84	79	48	606.8	赤い　炭付着
197	第3黒色土層	集石遺構	68	52	39	204.3	炭付着
198	第3黒色土層	集石遺構	57	42	25	111.2	炭付着
199	第3黒色土層	集石遺構	63	47	45	147	赤い
200	第3黒色土層	集石遺構	65	39	38	173.5	
201	第3黒色土層	集石遺構	63	35	19	100.8	赤い
202	第3黒色土層	集石遺構	61	45	21	98.5	赤い
203	第3黒色土層	集石遺構	110	65	59	423	
204	第3黒色土層	集石遺構	129	86	41	597.1	
205	第3黒色土層	集石遺構	79	70	22	130.2	赤い
206	第3黒色土層	集石遺構	76	51	25	83.9	赤い　炭付着
207	第3黒色土層	集石遺構	113	106	80	1302.7	赤い
208	第3黒色土層	集石遺構	124	121	47	1016	赤い　炭付着
209	第3黒色土層	集石遺構	78	70	43	289.8	赤い
210	第3黒色土層	集石遺構	152	82	56	1207	炭付着
211	第3黒色土層	集石遺構	134	114	78	1206	赤い
212	第3黒色土層	集石遺構	43	38	26	83	
213	第3黒色土層	集石遺構	41	40	13	37.8	炭付着
214	第3黒色土層	集石遺構	72	25	26	59.7	赤い
215	第3黒色土層	集石遺構	64	57	47	212.5	炭付着
216	第3黒色土層	集石遺構	119	60	34	438.9	赤い　炭付着
217	第3黒色土層	集石遺構	84	53	28	166.8	赤い　炭付着
218	第3黒色土層	集石遺構	84	82	27	334.2	炭付着
219	第3黒色土層	集石遺構	81	63	57	299.3	
220	第3黒色土層	集石遺構	46	33	16	39.9	赤い
221	第3黒色土層	集石遺構	85	82	30	413.5	赤い
222	第3黒色土層	集石遺構	61	46	24	118.4	
223	第3黒色土層	集石遺構	65	45	14	54.3	
224	第3黒色土層	集石遺構	70	40	29	101.6	赤い
225	第3黒色土層	集石遺構	136	79	49	798.2	赤い　炭付着
226	第3黒色土層	集石遺構	50	45	28	105.8	赤い
227	第3黒色土層	集石遺構	60	47	29	96	赤い
228	第3黒色土層	集石遺構	43	43	19	55.4	赤い
229	第3黒色土層	集石遺構	56	33	15	32.6	赤い
230	第3黒色土層	集石遺構	72	24	17	40	炭付着
231	第3黒色土層	集石遺構	57	29	26	46.3	
232	第3黒色土層	集石遺構	56	36	21	39.7	
233	第3黒色土層	集石遺構	35	32	18	27.9	
234	第3黒色土層	集石遺構	35	23	21	25.3	赤い

第41表①　板屋Ⅲ遺跡　出土鉄釘（東区）　計測表

計測No.	挿図NO	層　位	グリッド	計測値（cm・g）				特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重さ	
1	31-02	第１黒色土層	ＳＫ１６	4.1	0.5	0.5	2.53	完形。錆が激しい
2	31-03	第１黒色土層	ＳＫ１６	3.9	0.4	0.3	2.15	完形。錆が激しい
3	31-04	第１黒色土層	ＳＫ１６	3.1	0.5	0.5	0.9	頭部欠。錆が激しい
4		第１黒色土層	ＳＫ１６	4.6	1.9	1.1	3.48	詳細不明。木片付着
5		第１黒色土層	ＳＫ１６	3.5	0.5	0.4	2.1	詳細不明
6		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.4	0.6	0.4	2.29	詳細不明。木片付着
7		第１黒色土層	ＳＫ１６	3	0.4	0.4	1.66	詳細不明。木片付着
8	31-01	第１黒色土層	ＳＫ１６	3.5	0.6	0.5	3.69	完形。木片付着
9		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.6	0.7	0.3	1.71	詳細不明。木片付着
10	31-05	第１黒色土層	ＳＫ１６	3.2	0.4	0.4	1.92	先端部欠。木質が頭部側と先端部側で90度異なる
11		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.8	0.6	0.4	1.73	詳細不明。木片付着
12	31-07	第１黒色土層	ＳＫ１６	2.7	0.4	0.4	1.92	頭部形状不明瞭。先端部欠。頭部側と先端部側で木質の付着方向が90度異なる
13	31-06	第１黒色土層	ＳＫ１６	2.9	0.5	0.3	1.75	頭部側と先端側で木質の付着方向が90度異なる
14	31-08	第１黒色土層	ＳＫ１６	2.6	0.4	0.3	1.87	先端部欠。頭部側と先端部側で木炭が90度異なる
15		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.2	0.4	0.3	1.52	残存少なく木炭付着
16		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.2	0.5	0.3	2.48	詳細不明。木片付着
17		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.2		0.4	1.88	木片付着
18		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.2	0.7	0.4	1.49	木片付着
19		第１黒色土層	ＳＫ１６	2	0.5	0.4	1.8	木片付着
20		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.5	0.5	0.4	1.43	木片付着
21		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.5	0.5	0.4	0.82	詳細不明
22		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.5	0.4	0.4	1.32	木片付着
23		第１黒色土層	ＳＫ１６	2	0.6	0.4	2.1	詳細不明。木片付着
24		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.8	0.4	0.3	1	詳細不明。木片付着
25		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.1	0.6	0.4	0.81	詳細不明。木片付着
26		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.7	0.4	0.3	1.36	詳細不明。木片付着
27		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.1	1.6	1.2	1.71	詳細不明。木片付着
28		第１黒色土層	ＳＫ１６					詳細不明。木片付着
29		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.7	0.4	0.3	1.11	詳細不明。木片付着
30		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.8	0.7	0.6	1.23	詳細不明。木片付着
31		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.1	0.4	0.4	1.4	詳細不明。錆が激しい
32		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.3	0.4	0.4	1.66	詳細不明。木片付着
33		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.2	0.5	0.4	1.46	詳細不明。木片付着
34		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.3	0.5	0.4	1.46	詳細不明。錆が激しい
35		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.3	0.5	0.4	1.46	詳細不明。木片付着
36		第１黒色土層	ＳＫ１６	2	0.5	0.3	1.2	詳細不明。木片付着
37		第１黒色土層	ＳＫ１６					詳細不明。木片付着
38		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.5	0.4	0.3	1.02	詳細不明。錆が激しい
39		第１黒色土層	ＳＫ１６	2	0.4	0.5	1.15	詳細不明。錆が激しい
40		第１黒色土層	ＳＫ１６	2.1	0.5	0.3	1.1	詳細不明。錆が激しい
41		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.6	0.5	0.4	1.26	詳細不明。錆が激しい
42		第１黒色土層	ＳＫ１６					詳細不明。木片付着
43		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.2	0.4	0.3	0.51	詳細不明。錆が激しい
44		第１黒色土層	ＳＫ１６	1.2	0.3	0.3	0.32	詳細不明。錆が激しい

第41表②　板屋Ⅲ遺跡　出土鉄釘（西区）　計側表

計測No.	挿図NO	層　位	グリッド	計測値（cm・g）				特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重さ	
1	113-13		ｐｉｔ43	11.3	1.85	1.74	41.15	先端部欠。頭部は鍛打により薄くて大きい
2	113-14	造成土	１１Ｄ	10.5	1.1	1.2	30.07	先端部若干欠
3		造成土	１２Ｄ	8	1.2	1.2	35.02	全存。錆が激しい
4		廃土		8.05	0.8	0.8	15.6	全存。錆が激しい
5	113-15	表土	１３Ｄ	8.93	1	0.8	16.8	先端部欠で折曲がれる
6		表土	１２Ｄ	7.18	1.2	1.4	29	先端破損。錆が激しい
7			不明	8.3	0.5	0.7	8.34	頭部が破損
8				55.6	1.3	1.2	16.8	詳細不明
9		表土	１１Ｄ	68.3	1.2	1.2	19	頭部が破損
10	113-16			69.5	1	1.2	22.9	先端部欠
11		表土	１１Ｄ	55.1	0.9	0.9	14.6	先端が破損
12		表土	１１Ｄ	52.9	0.8	0.9	10.8	先端が破損。錆が激しい
13		造成土	１２Ｄ(ベルト)	8.2	1.2	1.1	21.5	全存。錆が激しい
14		表土	１１Ｄ	6.6	0.9	0.9	13	先端部破損。錆が激しい
15		表土	１１Ｄ	7.4	1	0.8	12.3	全存。錆が激しい
16		表土	１２Ｄ	6.5	0.5	0.5	9.2	頭部が破損
17		表土	１２Ｅ	4.8	0.7	0.6	9	先端部破損。錆が激しい
18		表土	１１Ｄ	6.4	0.7	0.5	8.1	全存。錆が激しい
19		表土	１２Ｄ	7.5	0.4	0.4	6.2	頭部が破損。錆が激しい

計測No.	挿図NO	層　位	グリッド	計測値（cm・g）				特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重さ	
20		第一黒色土層	１１Ｄ	6	0.5	0.4	5.9	頭部が破損。錆が激しい
21			１１Ｄ	6.9	0.6	0.6	17	先端部破損
22		造成土	１２Ｄ	6.5	0.8	0.7	12.8	頭部破損
23		表土	１１Ｅ	5.6	0.7	0.6	3.9	先端部、頭部破損
24		造成土	１２Ｄ	5.6	0.6	0.5	11.1	
25		表土	１１Ｄ	5.1	0.8	0.7	15.8	先端部破損
26		造成土	１２Ｄ	5.2	0.7	0.6	12.1	頭部と先端部破損
27		表土	１１Ｄ	6	0.7	0.6	12.8	頭部破損
28			１２Ｅ	6.2	0.6	0.4	10.7	頭部破損
29		造成土	１２Ｄ	6.4	0.8	0.7	19.5	先端部破損
30		造成土	１２Ｄ(ベルト)	6.3	0.8	0.6	26.1	先端部破損
31		表土	１１Ｄ	6.6	0.8	0.7	30.1	先端部破損
32		第一黒色土層	１２Ｅ	5.3	0.5	0.4	5.9	頭部破損
33		廃土		5.4	0.4	0.4	5.2	先端部破損。錆が激しい
34		表土	１２Ｄ	4.3	0.4	0.4	3.8	頭部破損。錆が激しい
35		表土	１１Ｄ	5	0.9	0.9	8.5	頭部と先端部破損。錆が激しい
36	113-17	造成土	１２Ｄ	5	0.7	0.6	11.1	頭部の形状はｘ線でも不明。先端部欠
37		造成土	炉跡周辺	5.1	0.6	0.6	9.2	先端部破損。錆が激しい
38		表土	１２Ｄ	4.4	0.7	0.7	6.4	先端部破損。錆が激しい
39		第一黒色土層	１２Ｅ	4.5	0.7	0.6	7.2	先端部破損。錆が激しい
40		表土	１２Ｅ	5.4	0.8	0.6	9	先端部破損。錆が激しい
59	113-18		１３Ｅ	4	0.6	0.5	4.1	完形品。頭部の状況は明確ではない
41				5.2	0.6	0.5	6.4	先端部破損。錆が激しい
42		表土	１２Ｄ	4.7	0.6	0.7	7.3	先端部破損。錆が激しい
43			ｐｉｔ11	5.5	0.6	0.6	7.5	頭部破損。錆が激しい
44		表土	１１Ｄ	5.4	0.6	0.5	7.3	先端部破損。錆が激しい
45		表土	１２Ｅ	4.3	0.7	0.6	19.9	詳細不明
46				5	1.1	0.9	26.2	先端部破損
47		第一黒色土層	１２Ｅ	4.4	0.6	0.8	6.1	先端部破損
48		造成土	１１Ｄ	4.1	0.4	0.4	5.3	先端部破損
49		造成土	１２Ｄ	4	0.8	0.7	6.8	先端部、頭部破損
50			１３Ｅ	3.7	0.4	0.3	4.4	詳細不明
51		第一黒色土層	１２Ｅ	4	1	0.6	12.1	詳細不明
52		表土	１１Ｄ	3.9	1	0.9	10	先端部破損
53		東西ベルト	１２Ｄ	4.3	0.8	0.6	7	頭部破損
54		表土	１１Ｄ	4.7	0.5	0.4	6.3	
55		表土	１１Ｅ	4.6	1.4	1	7.8	詳細不明
56		造成土	１１Ｄ	3.4	0.8	0.7	7.7	先端部、頭部破損
57		造成土	１２Ｄ	4	0.5	0.5	5.7	詳細不明
58		造成土	１２Ｄ	4.3	0.7	0.5	5.7	先端部、頭部破損
60		表土	１１Ｄ	4.3	0.7	0.5	7.6	完形
61		造成土	１２Ｄ(ベルト)	4.6	0.8	0.6	10.2	先端部破損
62		表土	１１Ｅ	3.3	0.6	0.5	3.2	先端部破損
63		造成土	１２Ｄ	3.1	0.7	0.5	7.8	先端部破損
64		造成土	１２Ｄ	4	0.6	0.6	2.9	完形
65		造成土	１２Ｄ	4.5	0.7	0.6	5	先端部、頭部破損
66		造成土	１２Ｄ	3.8	0.7	0.7	4.9	先端部、頭部破損
67		表土	１１Ｄ	4.4	0.5	0.5	4.2	頭部破損
68		第一黒色土層	１２Ｅ	3.2	0.8	0.4	6.6	詳細不明
69		造成土	１２Ｄ	3.5	1	0.8	8.5	頭部以外破損
70		表土	１１Ｄ	4	1.2	0.8	12.6	頭部以外破損
71		－	ｐｉｔ38	4.6	0.7	0.6	22.1	詳細不明
72		－	ｐｉｔ29	4	0.5	0.4	8	詳細不明
73		造成土	１２Ｄ	3.4	0.5	0.4	7.2	先端部、頭部破損。錆が激しい
74		表土	１２Ｄ	4.1	0.7	0.6	8.1	先端部、頭部破損。錆が激しい
75		－	１２Ｅ	3.4	0.4	0.3	3.2	先端部、頭部破損。錆が激しい
76		覆土	ｐｉｔ15	3.1	0.8	0.7	5.5	先端部、頭部破損。錆が激しい
77		第一黒色土層	１２Ｅ	3.8	0.5	0.5	3.7	先端部、頭部破損。錆が激しい
78		第一黒色土層	１２Ｅ	3.6	0.6	0.5	3.2	先端部、頭部破損。錆が激しい
79		第一黒色土	１２Ｅ	3.7	0.6	0.5	3.3	先端部、頭部破損。錆が激しい
80		表土	１１Ｄ	4.2	0.9	0.9	13.2	詳細不明。錆が激しい
81		表土	１３Ｅ	4.3	1.2	0.9	17.3	詳細不明
82		－	１１Ｄ	3.5	1	0.8	19.8	詳細不明。錆が激しい
83		造成土	ｐｉｔ11Ａ	3.8	0.5	0.5	11.3	詳細不明。錆が激しい
84		造成土	１２Ｄ	3	0.9	0.7	10.3	詳細不明。錆が激しい
85		第一黒色土層	１２Ｅ	2.4	0.5	0.4	9.6	詳細不明。錆が激しい
86		覆土	ｐｉｔ40	2.1	0.6	0.6	2	詳細不明

計測No.	挿図NO	層　位	グリッド	計測値（cm・g）				特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重さ	
87		造成土	１２Ｄ	2.8	0.8	0.8	3.6	詳細不明
88		表土	１１Ｄ	0.9	0.6	0.6	4.1	詳細不明
89		表土	１１Ｅ	2.9	0.5	0.4	1.5	詳細不明
90		表土	１１Ｅ	3.8	0.6	0.4	2.2	頭部破損
91		第一黒色土層	１１Ｅ	3	0.9	0.7	4.9	先端部破損
92		－	ｐｉｔ45	3.8	0.9	0.8	7.3	先端部破損。錆が激しい
93		表土	１２Ｄ	3.7	0.9	0.8	8.2	先端部破損。錆が激しい
94		表土	１２Ｄ	4	0.9	0.9	10.4	詳細不明。錆が激しい
95		造成土	１２Ｄ(ベルト)	3.6	1.1	0.6	9.7	詳細不明。錆が激しい
96		表土	１１Ｄ	2.7	0.8	0.8	3.6	詳細不明。錆が激しい
97		表土	１１Ｄ	3.9	1	0.9	9	詳細不明。錆が激しい
98		表土	１１Ｄ	2.9	0.9	0.8	7.1	詳細不明。錆が激しい
99		表土		3.1	0.8	0.5	3.4	詳細不明。錆が激しい
100		覆土	ｐｉｔ40	2	0.7	0.7	1.5	詳細不明。錆が激しい
101		覆土	ｐｉｔ40	3	0.5	0.5	2.9	詳細不明。錆が激しい
102		造成土	１１Ｄ	3.4	0.4	0.4	2.5	詳細不明。錆が激しい
103		表土	１１Ｄ	1.6	0.6	0.4	3.3	詳細不明。錆が激しい
104		表土	１１Ｄ	2.8	0.8	0.6	4.1	詳細不明。錆が激しい
105		表土	１１Ｄ	2.5	2.7	0.6	3.5	詳細不明。錆が激しい
106		表土	１１Ｄ	3.1	0.7	0.6	3.9	詳細不明。錆が激しい
107		表土	１１Ｄ	3	0.9	0.8	5.6	詳細不明。錆が激しい
108		造成土	１２Ｄ(ベルト)	4	0.6	0.5	8.3	先端部破損。錆が激しい
109		表土	１２Ｅ	3.2	0.7	0.7	5.4	先端部破損。錆が激しい
110		表土	１１Ｄ	3.2	0.7	0.7	6.1	詳細不明。錆が激しい
111		第一黒色土層	１２Ｅ	3.7	0.6	0.5	3.2	詳細不明。錆が激しい
112		造成土	１２Ｄ	3.2	0.8	0.7	4.7	詳細不明。錆が激しい
113		ピット群造成土	１１Ｄ	0.9	0.9	0.5	2.5	詳細不明。錆が激しい
114		南北ベルト	１３Ｄ	2.8	0.8	0.5	4.3	詳細不明。錆が激しい
115		第一黒色土層	１２Ｅ	2.2	0.9	0.4	1.5	先端部以外破損。錆が激しい
116		表土	１１Ｄ	3.1	0.4	0.4	1.3	詳細不明。錆が激しい
117		表土	１１Ｅ	2.5	0.4	0.4	1.3	詳細不明。錆が激しい
118		表土	１１Ｅ	1.7	0.6	0.5	0.9	詳細不明。錆が激しい
119		表土	１１Ｅ	1.9	0.5	0.5	1.6	詳細不明。錆が激しい
120		表土	１２Ｄ	2.6	0.6	0.6	1.4	詳細不明。錆が激しい
121		表土	１１Ｄ	3.3	0.5	0.4	2.7	詳細不明。錆が激しい
122		造成土	１２Ｄ	2.6	0.7	0.6	2.6	詳細不明。錆が激しい
123		表土	１１Ｄ	2	0.6	0.3	1.9	詳細不明。錆が激しい
124		表土	１１Ｄ	0.5	1	1	1.2	詳細不明。錆が激しい
125		表土	１２Ｄ	2.6	0.7	0.7	4.2	詳細不明。錆が激しい
126		造成土	１２Ｄ(ベルト)	2	0.6	0.6	1.7	詳細不明。錆が激しい
127		表土	１２Ｅ	3.3	0.5	0.5	2.3	詳細不明。錆が激しい
128		表土	１１Ｄ	2.3	0.6	0.7	4	詳細不明。錆が激しい
129		表土	１１Ｄ	3.2	0.6	0.6	3.1	詳細不明。錆が激しい
130		表土	１２Ｅ	2	0.7	0.5	8.1	詳細不明。錆が激しい
131		第一黒色土層	１２Ｅ	1.9	0.4	0.3	0.6	詳細不明。錆が激しい
132		－	ｐｉｔ42	1.5	0.7	0.5	0.9	詳細不明。錆が激しい
133		ピット群造成土	１１Ｄ	1.8	0.8	0.5	3.8	詳細不明。錆が激しい
134		－	ｐｉｔ42	2.8	0.6	0.6	1.9	詳細不明。錆が激しい
135		ピット群造成土	１１Ｄ	2.2	0.8	0.6	2.5	詳細不明。錆が激しい
136		表土	１３Ｅ	2.9	2	2.3	2.5	詳細不明。錆が激しい
137		表土	１１Ｄ	2.1	0.8	0.5	2.5	詳細不明。錆が激しい
138		表土	１１Ｄ	2.4	0.5	0.4	2.2	詳細不明。錆が激しい
139		－	１２Ｄ(ベルト)	2	0.6	0.6	1.1	詳細不明。錆が激しい
140		第一黒色土層	１２Ｅ	3	0.6	0.6	2.6	詳細不明。錆が激しい
141		表土	１２Ｄ	0.3	0.8	0.8	0.8	詳細不明。錆が激しい
142		表土	１２Ｄ	2	0.9	0.8	1.8	詳細不明。錆が激しい
143		表土	１２Ｄ	1.8	1.6	0.5	2.8	詳細不明。錆が激しい
144		－	－	2.4	0.6	0.6	2	詳細不明。錆が激しい
145		表土	１１Ｄ	1.3	1.1	1	1.8	詳細不明。錆が激しい
146		表土	１１Ｄ	2.8	0.6	0.7	2.9	詳細不明。錆が激しい
147		表土	１１Ｄ	0.9	0.7	0.5	0.3	詳細不明。錆が激しい
148		表土	１１Ｄ	2	1	0.8	4.3	詳細不明。錆が激しい
149		表土	１１Ｄ	1.7	0.6	0.6	1.5	詳細不明。錆が激しい

製鉄関連遺物観察表

1．調査の手順

出土した製鉄関連遺物については、遺構などの機能や工程を把握するために、製鉄関連遺物の強力磁石（TAJIMA PUP－M）と特殊金属探知器による鉄塊の抽出と、肉眼観察による考古学的な遺物の分類を実施した*1。この中から遺構の機能や工程を代表すると思われる資料について図化、観察表の作成をおこなった。また、近世の鍛冶炉に伴う遺物については金属学的な分析が必要なものを抽出し、詳細な観察表作成と写真撮影をおこなった。

2．遺物観察表の見方

遺物観察表は、新潟県北沢遺跡*2における製鉄関連遺物の検討で採用された様式を基本とし、これまでの志津見ダム地内遺跡の報告書で採用されている様式を用いている。主な項目の見方は以下のとおりである。

（1）遺物種類　金属学的な分析を行う以前に、考古学的な観察によって判定した遺物の種類。

（2）法　　量　資料の現存する最大長、最大幅、最大厚、重量を計測したものである。

（3）磁 着 度　鉄滓分類様の「標準磁石」を用いて資料との反応を１～８までの数字で表現したもので、数値が大きいほど磁性が強い。

（4）遺 存 度　資料が完形品か破片かを記す。

（5）破 面 数　資料が破片の場合、破面がいくつあるかを記す。

（6）メタル度　小形金属探知機によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、基準感度は以下のとおりである。

H（○）：Hは最高感度でごく小さな金属鉄が残留していることを示す。

M（◎）：Mは標準感度で一般的な大きさの金属鉄が残留することを示す。

L（●）：Lは低感度でやや大きな金属鉄が残留することを示す。

特L（☆）：特Lは低感度でL以上の大きな金属鉄が残留することを示す。

（7）分　　析　どの分析をどの部分について行うかを○印で示す。

（8）所　　見　外形や破面・断面の状況、木炭痕や気孔の有無、及び付着物やその他の状況について記す。

（9）分析箇所　資料をどのような部分でどのような目的で、調査・分析するのかを記す。また、観察表下の実測図の網掛け部は分析に供した試料の位置を示す。

＊1　遺物の分類、観察表作成、分析用遺物の抽出については穴澤義功氏に指導・協力いただいた。

＊2　新潟県教育委員会　1992年『北沢遺跡群』

第42表　板屋Ⅲ遺跡　製鉄鉄関連遺物　一般観察表

構成No.	遺物名	遺構名	計測値（cm）			重量（g）	磁着度	メタル度	備考
			長さ	幅	厚さ				
1	炉壁（板屋型鍛冶炉？）	１３Ｄ	10.5	11.2	5	437.6	3	なし	内面が黒色に溶解した炉壁片。胎土には粗い石英質の石粒を混和。内面の上端部は茶褐色の錆色。
2	炉壁（製錬炉）	１２Ｄ	133	84	60	731.6	4	なし	多量の石英質の砂粒を混和した硬質の炉壁片。内面が生き下面が接合部。内面は下半部が滓化し、やや紫紅色。
3	炉壁（製錬炉）	１１Ｅ	10.8	12.4	5.1	576.1	2	なし	内面のみ生き、上半部が発泡した炉壁片。胎土は前者と同様。下半部はきれいな滓化。全体に黒みが強い。
4	炉壁（製錬炉）	１１Ｅ	15.8	12.6	7.3	1187.8	2	なし	通風孔下の炉壁破片。下面は接合部で内面は激しく滓化し、大形の木炭痕や凹みが目立つ。短軸方向は内側に傾き気味。
5	炉壁（含鉄）	１１Ｄ	7.5	9.5	6.8	481.5	3	L（●）	胎土は硬質で石英質の砂粒が多い含鉄の炉壁片。内面のみ生きており、黒色ガラス質滓化した炉壁主体。一部に木炭痕あり。
6	流出孔滓	１２Ｅ	7.5	5.2	3.6	236.6	5	なし	上面の中央部が平滑な流出孔滓。右端部は途切れ気味で短軸側がせり上がる。滓は緻密で、上皮は紫紅色気味。下面はごつごつしている。
7	流出孔滓	１２Ｄ	7.1	8.6	4.8	446.4	3	なし	きれいな樋状の底面を持つ流出孔滓。やや厚手で結晶が発達。上面中央が凹み気味。
8	流出孔滓	１２Ｅ	7.6	7.2	3.8	418.4	2	なし	前者と同様、きれいな樋状の下面を持つ流出孔滓。中央部が長軸方向に窪む点も共通する。滓は緻密。
9	流出孔滓	１２Ｄ	12.3	7.7	5.6	880.6	4	なし	流出孔中につまったような外観を持つ流出孔滓。上面は大きく３単位に分かれ、右方向に傾斜する。滓は緻密で下面の一部も紫紅色。
10	流出溝滓	１１Ｄ(pit41)	9	8	2.1	283.9	4	なし	きれいな樋状の流出溝滓。上面は平坦気味で、たっぷりと流動する。わずかに気孔あり。下面は粉炭や炉壁粉をかむ。
11	流出溝滓	１４Ｅ	8.3	9.1	5.6	420.7	2	なし	緻密でややゆがんだ流出溝滓。下面は流出溝底の土砂の圧痕か。上面の一部が陥没気味。
12	流出溝滓	１２Ｄ	11.1	10.8	6.2	1006.3	5	なし	やや太めの典型的な流出溝滓。上手側部に別単位の滓が重なる。滓は気孔が散在し、上面中央部には小単位の流動滓が重層。わずかに工具痕を残す。下面には炉壁粉が固着。
13	流出溝滓	１１Ｅ	18.7	16.2	7.1	2500	5	なし	二片が接合した流出溝滓。右手に向かい肥厚する。長手の椀形の外形を持つ。上面中央部の滓は別単位の滓で、他の滓を押し上げている。滓は緻密で気孔はまばら。下面には面的に炉壁土が固着。
14	単位流動滓	１２Ｄ	4.8	2.2	1	17.6	2	なし	側面から下面に木炭痕の残る単位流動滓。わずかに流動気味で、表皮は紫紅色。
15	単位流動滓	１１Ｅ	7.3	3.1	1.7	33.6	2	なし	きれいな流動状の単位流動滓。屈曲気味で、下面には粉炭痕と炉壁粉あり。
16	流動滓	１１Ｅ	6.2	6.2	2.1	96.8	4	なし	緻密で滓が不定方向に重層した流動滓。下面は平坦気味で滓単位が別々。部分的に剥離面あり。
17	流動滓	１１Ｅ	5.3	6.2	3.5	140.7	4	なし	特異な流動滓。こぶ状の流動滓単位がぶどう状に重層。表皮には微細なしわがあり、下面の一部には光沢を持つ滓が逆転して固着。
18	流動滓	１１Ｅ	6.5	7.5	3	166.7	3	なし	扁平な流動滓の破片。滓は緻密で下面には大型の木炭痕が多数。
19	流動滓	１１Ｄ(pit43)	7.3	7.3	4.2	270.3	3	なし	緻密な流動滓。広い流出溝底を流れたものか。下面には炉壁粉や石粒が固着。
20	炉内滓	１１Ｄ(pit12)	7	6.8	4	187.1	5	なし	上面に木炭痕が密集した炉内滓。錆色で下面にはハイカが固着。やや不思議な外観の滓。
21	炉内滓	１２Ｄ	9.9	10.1	5.2	421.9	3	なし	ややガス質で、一部に炉壁溶解物の残る炉内滓。内外面に小振りの木炭痕が残り、全体が銹化気味。下面は炉壁土の剥離面か。
22	炉内滓	１２Ｄ	8.6	10.1	3.6	647.1	6	なし	比重の高い緻密な炉内滓。上下面には二次的にハイカが固着。上面は流動気味で不規則な形状。流出溝滓の可能性の可能性もあり。
23	炉内滓	１１Ｄ	9.6	8.8	5.6	619.2	3	なし	結晶が発達した緻密な炉内滓。木炭痕が大きく部分的に流動気味。下面はごつごつした表面。
24	炉壁（板屋型鍛冶炉？）	１１Ｄ	7.9	6.2	3.7	84.5	4	なし	灰色から白色に被熱した軟質の炉壁片。内面は薄くガラス化し、黒色気味。
25	炉壁（板屋型鍛冶炉？）	１１Ｄ	7.3	9.1	3.9	198.6	7	銹化（△）	石英質の砂粒を多めに含む胎土を用いた炉壁片。左側は木炭痕の目立つ、がさがさした滓部。右側は炉壁土の溶解した黒色の滓部。
26	炉壁（板屋型鍛冶炉？）	１１Ｄ	9.4	7.6	4.6	259	4	なし	前者と共通する胎土をもつ炉壁片。内面は薄く滓化し、茶褐色のこぶ状の酸化物が目立つ。上下で屈曲するように溶解する。

構成No.	遺物名	遺構名	計測値（cm）			重量（g）	磁着度	メタル度	備考
			長さ	幅	厚さ				
27	炉壁（板屋型鍛冶炉？）	１１Ｄ	9.3	12.7	3.6	350.8	3	錆化（△）	基本的には前者と同様の炉壁胎土。内面は変化が激しく、炉壁溶解物や滓部が、不規則なしわ状に広がる。
28	炉壁（製錬炉）	１２Ｄ	1.2	7.5	6	515.8	4	なし	内面が薄く滓化した炉壁片。表面は紫紅色。胎土にはスサと籾殻を混和し、石粒は少ない。下面が接合部の可能性あり。
29	炉壁（板屋型、補修、二重）	１２Ｄ	12.8	8.3	3.4	487.8	8	錆化（△）	溶解面が２枚重層した炉壁片。中間層には明褐色の補修土を残す。裏面にも同様の土が面的に固着。内面は緩やかな滓化面で、部分的に発泡気味。（補修痕は製鉄炉には一般的にない場合が多い）
30	羽口（板屋型）	１１Ｄ	6.3	8.4	8	358.1	6	錆化（△）	内面が紫紅色に滓化した先端部を持つ羽口片。側部にはびっしりと「す巻き痕」が残る。種類としては板屋型羽口の先端右側片。胎土にはやや石英質の石粒を多めに含む。
31	羽口（板屋型）	１２Ｄ	7.4	8	4.6	375.8	3	なし	「す巻き痕」は見られないが、外面の形状から羽口先と推定。上面にわずかに通風孔部の壁面が残る。先端の外周部が厚くガラス化。胎土の練りは粗い。
32	羽口（板屋型）	１１Ｅ	6.8	4.8	3.5	86.8	2	なし	構成No.30と似た胎土を持つ羽口片。側部にわずかに「す巻き痕」あり。先端側は紫紅色に滓化。胎土には石粒や籾殻を混和。
33	羽口（板屋型）	１２Ｄ	4.5	4.7	3.3	55.7	4	錆化（△）	長い「す巻き痕」の残る小さな羽口破片。外面には黒色ガラス質の滓が付着。
34	羽口（板屋型）	１１Ｅ	1.4	2.1	1.4	2.9	1	なし	羽口外面の小破片。表面に「す巻き痕」が併走。表面の一部が紫紅色。
35	椀形鍛冶滓（板屋型羽口痕付）	１１Ｅ	5.9	6	2.5	120.2	5	なし	板屋型羽口の「す巻き痕」に沿って形成された筋状の滓が上面に平行する椀形鍛冶滓。明褐色の固着土が側面に残る。下面は木炭痕を残し、不定形の椀形鍛冶滓の一種と推定。羽口の顎部か。
36	椀形鍛冶滓（板屋型羽口痕付）	１１Ｅ	6.4	10.6	7	310.1	5	なし	下面の左側に羽口の通風孔部の壁体を固着する椀形鍛冶滓。上面のへこみは通風孔部の影響。羽口先に垂れ下るようにして形成された滓。ややガス質で不規則な形成
37	椀形鍛冶滓（板屋型羽口痕付）	１３Ｅ	12.7	11.2	6.3	784.6	5	H（○）	重要資料。不整楕円形の椀形鍛冶滓主体。左側上面から下面の左端部にかけて、中型の板屋型羽口の先端部が残る。羽口先の通風孔部の壁面は上端部にわずかに残る。羽口の身厚は約5.2cm、羽口側の外目に沿って「す巻き痕」が並ぶ。滓部は通帯の椀形滓で、中央部には粘土質の滓がのる。下面は微細な粉炭痕。No.35と基本的に共通する。
38	椀形鍛冶滓（板屋型？）	１１Ｄ	9.2	7	3.2	214.7	6	なし	ゆるやかな椀形の椀形鍛冶滓。下面に石英質の砂粒を多く含む炉壁土を固着する。上面の中央が凹み木炭痕あり。
39	椀形鍛冶滓（中）板屋型？	１２Ｄ	7.1	10	4.7	258.1	7	M（◎）	ややゆがんだ椀形断面を持つ椀形鍛冶滓。側部は破面で結晶が激しく発達。手前側部は錆ぶくれ。下面は発泡した滓層でハイカが固着。
40	椀形鍛冶滓（中）板屋型？	１１Ｄ	9.1	12.2	3.5	326.9	6	錆化（△）	黒錆色で炉壁土が裏面に密着した椀形鍛冶滓。炉壁にも類似。
41	椀形鍛冶滓（中）板屋型？	１１Ｄ	10.6	8.6	3.6	510.7	6	なし	やや厚みを持った椀形鍛冶滓。破面は緻密。横長の椀形滓の側部寄りの破片。
42	椀形鍛冶滓（中）板屋型？	１２Ｄ	7.8	12.2	4.2	643.7	7	錆化（△）	下面に明褐色の炉壁土を残す椀形鍛冶滓。前者と似るが接合せず、滓は緻密。
43	椀形鍛冶滓？（炉材石付）	１１Ｄ	15.2	15	8	1398.1	4	なし	左側下面に大型の礫が固着した椀形鍛冶滓。木炭痕が大きく下半部は密な滓。下面にはハイカを含む礫が固着している。上面の短軸方向に筋状の凹みを残すが、工具痕の可能性もあり、滓の外観は製錬滓様である。左下面の礫は操業時の固着で、炉床の一部に石を用いていたことがわかる。
44	椀形鍛冶滓？（大）	１２Ｄ	19.6	12.5	7.9	2500	8	錆化（△）	左右方向に伸びるしっかりした椀形鍛冶滓。右側側面と上手側が破面。左端部にはややガス質の、質感の異なる滓が突出している。滓は下半部が密で、中層にやや気孔が残る。下面はきれいな樋状で、全面に明褐色の炉壁土が固着。製錬系の炉底塊の端部である可能性も残される。
45	椀形鍛冶滓？（含鉄）	１３Ｄ	4.5	6.3	3.8	146.9	7	L（●）	しっかりした含鉄の椀形鍛冶滓。手前側部の木炭痕が大きい。下面はやや樋状で、側部から黒錆が吹き、放射割れも生ずる。
46	椀形鍛冶滓？（含鉄）	１２Ｅ	5	5.7	3.1	162.5	8	L（●）	ずっしりとした重みを持つ含鉄の椀形鍛冶滓。内部から黒錆が吹き固着土砂が厚い。左側部は破面か。
47	椀形鍛冶滓？（含鉄）	１３Ｅ	8.8	12.1	10.2	1072.2	7	L（●）	構成No.44にやや似た条件を持つ含鉄の椀形鍛冶滓。滓は緻密で結晶が大きく発達。下面の上手には流動状の滓が突出。含鉄部は上面寄り。
48	椀形鍛冶滓（含鉄）	１１Ｅ	6.2	7.4	3.2	190.3	10	特L（☆）	比重の高い含鉄の椀形鍛冶滓。上面は左に傾斜し木炭痕を持つ。下面は浅い皿状。各局とも黒錆が吹き、内部の鉄部をうかがわせる。
49	椀形鍛冶滓（含鉄）	１１Ｅ	7.1	7.2	3.8	235	10	特L（☆）	含鉄の椀形鍛冶滓。上下面に流動状の滓部を持ち、中核部に含鉄部を、左側部には破面を持つ。黒錆のにじみと放射割れあり。
50	炉内滓（工具痕付）	１１Ｅ	4	4.2	2.8	48.4	3	なし	ややガス質の炉内滓。上面の左右方向に樋状の工具痕を残す。下面は粉炭痕でわずかに炉壁土が固着。
51	炉内滓（工具痕付）	１２Ｄ	6.2	8.8	5.2	272	6	なし	不定形で質感もまちまちな炉内滓。上面上手に平坦面を持ち、工具痕と推定される。密度の高い滓部と、がさがさした滓部が共存。上面が左側部の可能性もあり。
52	流出孔滓（板屋型）	１１Ｅ	6.5	3.7	2	61.4	3	なし	半流動状の流出孔滓。中央部が陥没。上面は錆色でわずかに木炭痕あり。下面は全面が粉炭痕。

構成No.	遺物名	遺構名	計測値（cm）			重量（g）	磁着度	メタル度	備考
			長さ	幅	厚さ				
53	流出孔滓（板屋型）	１３Ｅ	5.5	3	2.6	93.7	2	なし	緩やかな弧状をした流出孔滓。上面は流動状で波うつ。表皮はわずかに紫紅色で緻密。下面には炉壁粉が固着し光沢あり。
54	流出孔滓（板屋型）	１２Ｄ	7	7.2	3.9	169.8	6	錆化（△）	上面の右方向に向う細い流動単位が重層した流出孔滓。短軸断面はＶ字型。表皮は紫紅色。気孔は下面寄りに目立つ。
55	流出孔滓（板屋型）	トレンチ１６	7.5	6.4	4.8	265.8	4	なし	流出孔底を流れた密度の高い滓。上面は中央部が凹み、右側は傾斜する。表皮の一部は紫紅色。部分的に黒錆が吹く。
56	流出孔滓（板屋型）	１２Ｄ	6.8	6.3	4.6	294.4	5	なし	黒褐色の緻密な流出孔滓。上面は木炭を含み酸化物がこぶ状に残る。上手はきれいな流動状の滓。下面には炉壁粉と木炭痕あり。
57	流出孔滓（板屋型）	１１Ｄ	8.6	5.4	3	144.9	5	なし	薄い樋状の流出孔滓。上面は茶褐色の錆色で、中央部が凹み気味。滓は側部にも１条が接する。左端部は流動状で不規則に途切れた滓。下面は木炭痕と炉壁粉。
58	流出孔～溝滓	１１Ｄ	11.5	6.3	4.6	393.5	4	なし	左右で質感が異なる流出孔滓から流出溝滓。下面は舟底状に突出し、上面の左手は流動滓が重層、右手は木炭痕の多い、がさがさした滓で端部で途切れる。下面は粉炭痕の残る滓部。
59	流出孔～溝滓	１１Ｄ	14	8.1	5.5	596.2	4	なし	構成Ｎｏ.58と全体的に似た条件を持つ、流出孔滓から流出溝滓。前者よりガス質で流動状の部分はない。下半部は緻密で、下面には別単位の滓の破片を巻き込む。
60	流出孔滓（工具痕付）	１２Ｄ	8.3	6	4.3	282.8	5	錆化（△）	左右方向が樋状の流出孔滓。中央部が溝状に窪む。Ｎｏ.55などにも類似。滓は下半部は緻密で、上半部はややガス質。
61	流出孔滓（工具痕付）	１２Ｄ	11.3	8	6.2	444.7	4	なし	やや幅広のねじれた様な外観を持つ流出孔滓。上面中央部にやや斜方向の樋状の工具痕。さらにその上に小単位の流動滓が重層。全体に右方向に傾斜し、滓は途切れ気味。流動性は不良。下面は粉炭痕多量。
62	流出孔滓（含鉄）	１４Ｅ	6.8	5.8	4.1	246.7	9	特Ｌ（☆）	右端部が紫紅色の流動滓で途切れた流出孔滓。中間部がややくびれ、左端部も途切れ気味。特異な資料。右側の下面に放射割れ、上手側部には黒錆あり。流出孔中で滓が途切れてしまったものか。
63	流出溝滓（板屋型）	１２Ｄ	5.8	3.8	2.8	137	2	なし	光沢をもった緻密な流出溝滓。下面は全面が粉炭痕で、やや流出孔滓的。気孔が途切れ々でガスが抜けつつある途上。
64	流出溝滓（板屋型）	１２Ｅ	11.7	5.2	3	118.7	3	なし	紫紅色の表皮を持つ流出溝滓。下面には別単位の滓が重層。手前側部の滓は別単位。
65	流出溝滓（板屋型）	１２Ｄ	13	7.9	4.8	438.8	3	なし	長くのびた流出溝滓。上面は盛り上がり気味の流動滓で部分的に紫紅色。本体も滓部も両側に別単位の滓あり。下面には筋状の凹みと粉炭痕が共存。
66	流出溝滓（板屋型）	１２Ｄ	12.7	7.3	4.9	520.8	4	なし	前者と似た形態の流出溝滓。表面の紫紅色も共通。流出溝滓の先端部付近の破片。下面にはハイカが固着。
67	鍛冶滓（含鉄）	１３Ｄ	2.7	2.2	1.6	12.9	7	錆化（△）	黒錆の吹いた小塊状の含鉄の鍛冶滓。錆ぶくれも激しい。
68	鍛冶滓（含鉄）	１１Ｄ	2.5	2.1	1	13.1	7	錆化（△）	やや扁平な含鉄の鍛冶滓。内部から黒錆と錆ぶくれ。
69	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	3.2	3.5	2.4	40.9	8	錆化（△）	塊状の含鉄の鍛冶滓。緻密な酸化土砂に覆われる。表面には木炭痕がかろうじて確認される。放射割れが始まる。
70	鍛冶滓（含鉄）	１１Ｄ	5.9	4.3	4.1	115.9	10	錆化（△）	全面が石粒主体の酸化土砂に覆われた含鉄の鍛冶滓。右端部にわずかに黒錆がのぞく。
71	鍛冶滓（含鉄）	１１Ｅ	5.7	7.8	4.1	294.6	9	錆化（△）	黒錆に覆われた含鉄の鍛冶滓。表面の酸化土砂も黒みを持つ。下面が突出し、手前左側は欠落。内部にも木炭痕を持ち炉内滓的外観。
72	鍛冶滓（含鉄）	１１Ｄ	2	1.3	1.3	4.2	7	Ｈ（○）	小塊状の含鉄の鍛冶滓。黒錆が吹き、放射割れが顕著。
73	鍛冶滓（含鉄）	１１Ｄ	2.6	2.3	1.2	9	7	Ｈ（○）	小さな椀形の含鉄の鍛冶滓。黒錆が強い。
74	鍛冶滓（含鉄）	１１Ｄ	2.8	2.7	2	17.3	6	Ｈ（○）	分解しかけている含鉄の鍛冶滓。放射割れが激しく、凹部には酸化土砂が強い。
75	鍛冶滓（含鉄）	１３Ｄ	3.3	4.2	3.8	62	7	Ｈ（○）	上面が半流動状の含鉄の鍛冶滓。破面の気孔は不規則。下面には石粒が固着。
76	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	2.1	2.2.	1.3	9.7	6	Ｍ（◎）	黒錆が吹き、放射割れが入り始めた含鉄の鍛冶滓。
77	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｄ	2.8	1.5	1.8	15.6	6	Ｍ（◎）	表面の大半が滓となる含鉄の鍛冶滓。側面が破面。わずかに黒錆が残る。
78	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	3	3.2	2.3	24.8	6	Ｍ（◎）	下面が皿状の含鉄の鍛冶滓。上面はこぶ状の酸化土砂に覆われ、側部は割れ始めている。

構成No.	遺物名	遺構名	計測値（cm）			重量（g）	磁着度	メタル度	備考
			長さ	幅	厚さ				
79	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	4.5	5.4	4.1	111	6	Ｍ(◎)	上面に粘土質の滓が固着した含鉄の鍛冶滓。肩部は椀形滓様。下面は突出し、放射割れが入る。
80	鍛冶滓（含鉄）	１３Ｄ	10	8.3	5.5	494.4	6	Ｍ(◎)	大型の流動滓片様の鍛冶滓。表皮は部分的に紫紅色。気孔は中型のものが不定方向に残る。下面は凹凸が激しく、部分的に工具痕様の凹みあり。製錬系の流動滓の可能性も残る。
81	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	3.7	2.3	1.8	27.5	7	Ｌ(●)	扁平な塊状で、内部から黒錆の吹く鍛冶滓。表面には錆ぶくれあり。
82	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	4.1	2.8	1.5	29.4	7	Ｌ(●)	扁平な塊状の含鉄の鍛冶滓。全体に放射割れと錆ぶくれが激しい。
83	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	3.7	2.7	2.1	39.1	7	Ｌ(●)	表面が酸化土砂に覆われた含鉄の鍛冶滓。上面は生きている可能性大。側部は破面か。
84	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｄ	5.2	3.8	2	48.2	7	Ｌ(●)	ねじれたような外観の含鉄の鍛冶滓。凹部の部分は木炭痕か。炉内滓的でもある。
85	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	4.6	3.9	3	77.1	8	Ｌ(●)	比重の高いしっかりとした含鉄の鍛冶滓。錆ぶくれはやや激しい。右側部は破面。
86	鍛冶滓（含鉄）	１３Ｄ	4.7	2.4	1.4	23.7	7	特Ｌ(☆)	薄手で浅い船底状の含鉄の鍛冶滓。部分的に錆ぶくれあり。
87	鍛冶滓（含鉄）	１４Ｅ	3.1	3.2	2.1	47.1	6	特Ｌ(☆)	ボタン状の外観を持つ含鉄の鍛冶滓。上下面は平坦気味で、側部は丸みをもつ。部分的に錆ぶくれの欠けあり。
88	鍛冶滓（含鉄）	１２Ｅ	3.8	3.2	2.8	77.1	7	特Ｌ(☆)	ずっしりとした塊状の含鉄の鍛冶滓。錆ぶくれは少ないが、鉄部の範囲は広そうである。
89	鍛冶滓（含鉄）	１３Ｅ	5.6	2.5	2.4	76.9	8	特Ｌ(☆)	上面がゆるやかな波状となる含鉄の鍛冶滓。下面は船底状に突出。端部は酸化土砂。一部に木炭をかみこむ。
90	鍛冶滓（含鉄）	１１Ｅ	4.5	4.7	3.5	91.5	8	特Ｌ(☆)	中央部が上部に突出した異形の鍛冶滓上面はやや流動状の滓部あり。下面は剥離面状。
91	鍛冶鉄塊系遺物	１４Ｅ	4.2	2.6	1.9	30	7	特Ｌ(☆)	中央部が窪み、左右に反り返った鍛冶鉄塊系遺物。はっきりした滓部は無く錆ぶくれが激しい。
92	鍛冶鉄塊系遺物	１１Ｅ	4.8	4.6	2.3	85.3	7	特Ｌ(☆)	やや板状の鍛冶鉄塊系遺物。上面は木炭痕を持つ波状。側部は破面。下面は平坦気味。
93	鍛冶鉄塊系遺物	１３Ｅ	5.5	4.6	2.6	143.6	8	特Ｌ(☆)	小さな椀形の鍛冶鉄塊系遺物。左端部が欠落。比重が高く放射割れが始まる。上面は全体に平坦気味。
94	鍛冶鉄塊系遺物	１２Ｅ	6.1	4.7	3.1	197.2	7	特Ｌ(☆)	前者と多少似ているが、大きさの違う鍛冶鉄塊系遺物。左側面から手前右側面は破面。上面はやや波状で下面は樋状。放射割れ大。
95	鍛冶鉄塊系遺物	１１Ｄ	7.1	8.5	3.5	343.9	9	特Ｌ(☆)	椀形の外観を示す鍛冶鉄塊系遺物。左側部は直線状の割れ。比重が高く、ずっしりとしている。内部は鉄部主体か。全面に酸化土砂あり。
96	椀形鍛冶滓（小）	１１Ｅ	5.1	7.3	3.9	123.1	4	錆化(△)	きれいな椀形鍛冶滓の右側部片。左側部は完全な破面。滓の上面は緩やかな山形で平滑。側面は木炭痕。
97	椀形鍛冶滓（小）	１４Ｅ	6.7	5.6	2.8	128.2	3	な し	上下面ともに椀形の鍛冶滓。側面は破面。粘土質の滓が下面に固着し、炉壁土と一体化。炉壁の可能性もあり。
98	椀形鍛冶滓（小）	１３Ｅ	6	6.6	3	131.3	4	な し	肩部が波状にうねった椀形鍛冶滓。やや表面が風化。気孔は中層に発達。下面には粉炭痕。
99	椀形鍛冶滓（小）	１１Ｅ	8.1	6.8	6.3	236.9	3	錆化(△)	上面や左側面には炉壁片や石が固着した椀形鍛冶滓。酸化土砂が厚い。No.96にやや似た外観を持つ。不整円形の椀形滓か。付着物が多く詳細は不明。
100	椀形鍛冶滓（小）	１２Ｅ	7.7	6.4	3.6	248.6	7	錆化(△)	上下面ともに木炭痕が密集した椀形鍛冶滓。手前側と左右が破面。滓は内部にも木炭痕を持ち、気孔が散在する。椀形鍛冶滓の肩部片。
101	羽口	１２Ｅ	2.7	3.8	1.5	13.5	1	な し	表層が黒色ガラス質滓化した羽口の小片。表皮は風化して褐色。胎土はやや石粒をまじえる軟質土。断定はできないが通風孔部が欠落した羽口先片と推定される。
102	102-①木炭（黒炭）	建物跡	7	3.5	1	5.6	1	な し	①右側部に斜めの工具痕を持つ木炭。大型の材の表皮側。広葉樹の環孔材。材は軟質。木取りは平割り。年輪数23本以上。
	102-②木炭（黒炭）	ピット群造成土	2.2	2.7	2.3	2.1	1	な し	②光沢を持った軟質材。松の可能性あり。年輪数４。
103	椀形鍛冶滓（大）	１１Ｄ	12.9	12.7	7	751.5	4	錆化(△)	構成No.103～106は類似資料。密度の低い椀形鍛冶滓の破片。上面が窪み外周部が高い。部分的に結晶が発達し青光り。また鉄部の錆化部も点在。スポンジ状で表面はイガイガ。下面には薄手で光沢を持った鍛造剥片が多量に固着し、粒状の滓もできかかっている。

構成No.	遺物名	遺構名	計測値（cm）			重量（g）	磁着度	メタル度	備考
			長さ	幅	厚さ				
104	椀形鍛冶滓（大）	１１Ｄ	10	14.3	5.8	706.8	4	なし	基本的には前者と同様、中央部が大きく凹み、全体に密度の低い椀形鍛冶滓。下面の木炭痕はやや大きめ。鍛造剥片の固着あり。わずかに左右が破面。
105	椀形鍛冶滓（大）	炉跡	11.2	13.9	8.4	1518.2	4	錆化（△）	やや厚手で、上面中央部に鉄錆化部を残す椀形鍛冶滓。上下面と手前側部以外は破面。滓は上層以外は緻密で、部分的に結晶が発達。光沢をもった鍛造剥片が多量に固着する。
106	椀形鍛冶滓（大）	炉跡	15.6	17.2	7.7	2150	4	錆化（△）	わずかに側部が欠けた椀形鍛冶滓。上面は浅い皿形で錆色が強い。下面は大きな椀形で、木炭痕が密集し光沢を持つ。鍛造剥片が多量に固着する。わずかに二段気味。
107	椀形鍛冶滓（二段・大）	炉跡	17.5	15.8	9.9	2200	9	錆化（△）	分析資料No.１
108	椀形鍛冶滓（二段・大）	炉跡	19.2	16.3	12.1	3500	5	錆化（△）	ほぼ完形の二段椀形鍛冶滓。上面の滓は扁平で一回り小さい。下面の滓は全体にがさがさしており上面の流動状の滓と異なる。黒褐色で部分的に明るい赤色部を持つ。下面は長軸方向に突出し、工具痕流入滓の可能性大。左手側部が不自然。上面の滓の左手側部にも丸棒状の工具痕が斜めに残る。
109	椀形鍛冶滓（中）	１１Ｄ	6.1	10.2	3.7	271.2	4	なし	緻密で上面と側面が破面となる椀形鍛冶滓。下面は丸みを持ち、石粒が多量に固着。
110	椀形鍛冶滓（中）	１１Ｄ（pit11B）	8.1	10.3	3.8	293.2	7	錆化（△）	小型ながら完形の椀形鍛冶滓。上下面ともに木炭痕主体で、部分的に隙間が生ずる。上手側が磁着が強い。
111	椀形鍛冶滓（中）	炉跡	5.5	10.2	5.4	349.5	5	錆化（△）	構成NO.103～108の質感に似た、がさがさした椀形鍛冶滓の端部破片。左側部のみが破面。下面には鍛造剥片が固着。
112	鍛冶滓	１３Ｄ（pit42）	2.9	3.1	1.4	20.2	3	なし	上面に光沢を持つ鍛冶滓の小片。滓質は通常の鍛冶滓。下面には木炭痕あり。上面の光沢部は何かに接していたためか。
113	鍛冶滓	１１Ｄ（pit41）	8.2	4.2	3.1	116.9	5	なし	椀形鍛冶滓の側部沿いの破片。破面は左端部のみ。半流動状でやや緻密。
114	鍛冶滓	１１Ｄ	6.4	6.1	3.1	124.7	6	なし	浅い樋状の小振りな鍛冶滓。上面は凹凸が激しい。側部は全面が破面。
115	鍛冶滓（含鉄）	１１Ｄ（pit40）	2.5	2.2	2.5	9.1	6	錆化（△）	黒錆に覆われた再結合気味の含鉄の鍛冶滓。鍛造剥片も確認される。椀形鍛冶滓の端部片か。
116	鍛冶滓（含鉄）	炭土坑	1.8	1.5	1.2	3.4	6	H（○）	基本的には前者と同様の含鉄の鍛冶滓。含鉄部はごく小さい。
117	鍛冶滓（含鉄）	炉跡	2.3	2.5	1.1	7.2	4	H（○）	分析資料No.２
118	鍛冶滓（含鉄）	炭土坑	2.9	1.8	1.4	6.3	6	H（○）	菱型をした小塊状の含鉄の鍛冶滓。No.116に比べややしっかりしている。ゆがんだ板状。
119	鍛冶滓（含鉄）	炭土坑	1.6	1.3	0.9	4	6	M（◎）	小塊状の含鉄の鍛冶滓。全面が黒っぽい錆に覆われ、表面には僅かに木炭痕の痕跡。
120	鍛冶滓（含鉄）	炭土坑	2	1.3	1.2	5.1	5	M（◎）	黒錆に覆われた小塊状の含鉄の鍛冶滓。端部に錆ぶくれが少々あり。
121	鍛冶滓（含鉄）	炭土坑	3.8	2.2	1.9	18.2	6	L（●）	含鉄の鍛冶滓の小破片。黒錆に覆われた含鉄部が右側に存在。左側は滓。
122	鍛冶滓（含鉄）	炭土坑	7.4	6.8	3	167.7	9	L（●）	分析資料No.３
123	粒状滓	炉跡	－	－	－	－	－	なし	分析資料No.４
124	鍛造剥片	炉跡	－	－	－	－	－	なし	分析資料No.５
125	羽口	１１Ｅ	6.2	3.7	2.7	31.4	5	錆化（△）	羽口先の小破片。上面に通風孔部の壁が残る。先端部は非常に強い酸化雰囲気で紫紅色。通風孔部は横方向の擦痕を残す。胎土は明褐色の粘土質。
126	羽口	１１Ｄ	5	5.5	4	65.4	6	なし	羽口先片。先端部の上面に通風孔部の壁面あり。先端部は発泡部と滓化部分が共存。胎土は明褐色から赤褐色。
127	羽口	１１Ｄ（pit54）	4.6	4.9	4	56.8	4	なし	羽口先の小破片。上面にわずかに通風孔部の壁面が残る。先端部の外面は強く溶解し、通風孔部に沿ってひだ状。外面はやや紫紅色。胎土はスサを混じえた粗い粘土質。

第43表　板屋Ⅲ遺跡　製鉄関連遺物分析資料一覧表

（滓：メタル又は胎土）

No	地区名	遺構名	構成番号	遺物種類	重量（g）	磁着度	メタル度	分析コメント	マクロ	検鏡	硬度	CMA	X線回折	化学分析	耐火度	カロリー	放射化分析	断面樹脂	分析位置指定	採取方法	観察	集合写真	モノクロ	カラー	実測図	前含浸	X線透過
42	１１Ｄ	炉　跡	107	椀形鍛冶滓（二段・含鉄）	2200.0	9	錆化(△)	滓部を中心に	－	◎	－	○	○		○	－	－	－	－	－	長軸端部１／４	直線状の切断	○		○	○	○	－	－
43	１１Ｄ	炉　跡	117	鍛冶滓（含鉄）	7.2	4	H(○)	メタル部を中心に	○	－	◎	－	－		－	－	－	－	○	長軸端部１／２	直線状の切断	○		○	○	○	－	○
44	１１Ｄ	炉　跡	122	鍛冶滓（含鉄）	167.7	9	L(●)	メタル部を中心に	○	－	◎	○	－		－	－	－	－	○	長軸端部１／５	直線状の切断	○		○	○	○	－	○
45	１１Ｄ	炉　跡	123	粒状滓（３点）	－	－	な　し	粒状滓として	○	○	－	－	－		－	－	－	－	－	－	必要品	選　択	○		○	○	－	－	－
46	１１Ｄ	炉　跡	124	鍛造剥片（４点）	－	－	な　し	鍛造剥片として	○	○	－	－	－		－	－	－	－	－	－	必要品	選　択	○		○	○	－	－	－

第44表　資料番号１

出土状況	遺跡名	板屋Ⅲ遺跡	遺物No	107	分析	項目	滓	メタル
	出土位置	11D炉跡（B１）	時期・根拠	近世：出土陶磁器		マクロ		
試料記号	検鏡：ITA-42 化学：ITA-42 放射化：－	法量 長さ 17.5cm 幅 15.8cm 厚さ 9.9cm 重量 2200.0ｇ	色調	表：濃茶褐色～黒褐色 遺存度 破片 地：濃茶褐色～青黒色 破面数 7		検鏡	◎	
						硬度	○	
						ＣＭＡ	○	
						Ｘ線解折		
						化学	○	
						耐火度		
遺物種類（名称）	椀形鍛冶滓（二段・含鉄）		磁着度	9 前含浸 －		カロリー		
			メタル度	錆化（△） 断面樹脂 －		放射化		
						Ｘ線透過		

観察所見

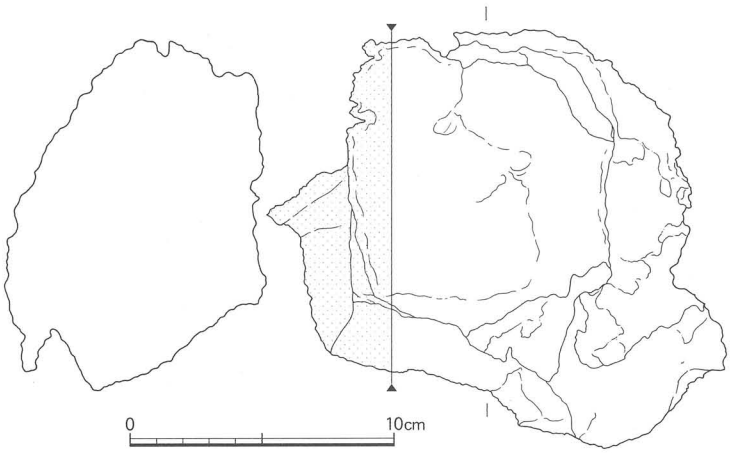
側部が破面となった中型の二段椀形鍛冶滓である。上下面と右側から上手の側面が生きており、それ以外の側面は鋭い破面となっている。破面数は７を数える。上半部には錆色の強い一回り小振りの椀形鍛冶滓が乗り、下半部にはより大型の椀形鍛冶滓が遺存している。生成順序としては下→上の順だが、観察上、上部から先に始める。上面の滓は中央部がわずかに低いピザ状で厚みは2.5cm強と薄いものである。右上手側の肩部は半流動状で、部分的に２枚が重なっている。両者とも似た外観である。滓の表面には微細な木炭痕が連続し、やや内側に１cm大の粘土質の滓が２ヶ所盛り上がっている。下半の滓に比べて磁着はやや強い。上面の浅い窪みには全体に鍛造剥片を多量に含む酸化土砂が固着しているが、本来の物ではなく二次的な固着物である。下半の滓部は全体の厚みの８割方を占め、上下面には木炭痕が密集する。中核部は密度の高い滓部である。上面の木炭痕は２cm大近いものも認められ、一部は木炭そのものもかみ込んでいる。下面はきれいな椀形で、その表面には１cm大以下の粉炭痕が密集する。場所によりわずかに細かい砂質の炉壁土らしき痕跡が点在する。炉壁土には粗い石英質の粒子を含むものと細い砂粒状の両者があり、鍛冶炉側の地張り粘土や表面の土質を反映している可能性があろう。この面にも木炭痕の凹部を中心に青黒い光沢を持った鍛造剥片が、二次的にかなり固着している。鍛造剥片は大半が表裏面とも平坦な光沢を持ったもので、鍛冶工程の進んだものが多い。木炭痕から見ると鍛冶炭は針葉樹材が主として用いられている。破面の気孔は少なめで、上下面に近い部位では量が目立つ。色調は表面が濃茶褐色から黒褐色で、地は濃茶褐色から青黒色である。

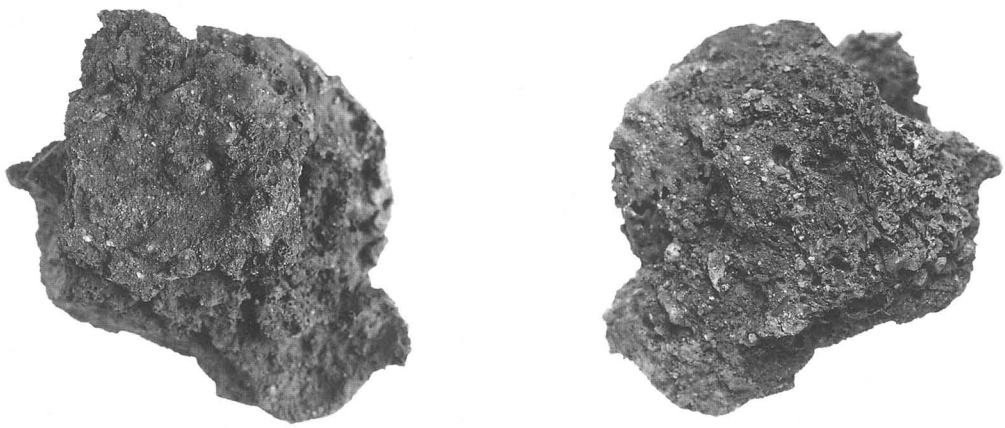
分析部分

長軸端部１／４を直線状に切断し、滓部を中心に分析に用いる。残材返却。

備考

11D区の炉跡とした鍛冶炉周辺の出土遺物である。回収された全体量はコンテナ１箱程度と少ないが、中型で２段椀形滓や上面に鉄粒状の錆化部の多い滓が目立っている。平面形は中小とも楕円形主体で、底面は木炭痕のみである。このことから鍛冶炉は近世に多い粉炭底と推定される。ほとんどの椀形鍛冶滓に光沢のある薄手の鍛造剥片が固着し、僅かに粒状滓も混じっている。鍛冶滓上に突出するように残る鉄部は２～４cm大の小鉄塊で、これを素材にいくつかの工程にまたがって鍛冶を行っている可能性が高い。付着する鍛造剥片は0.3～0.1㎜程度の厚みを持っている。

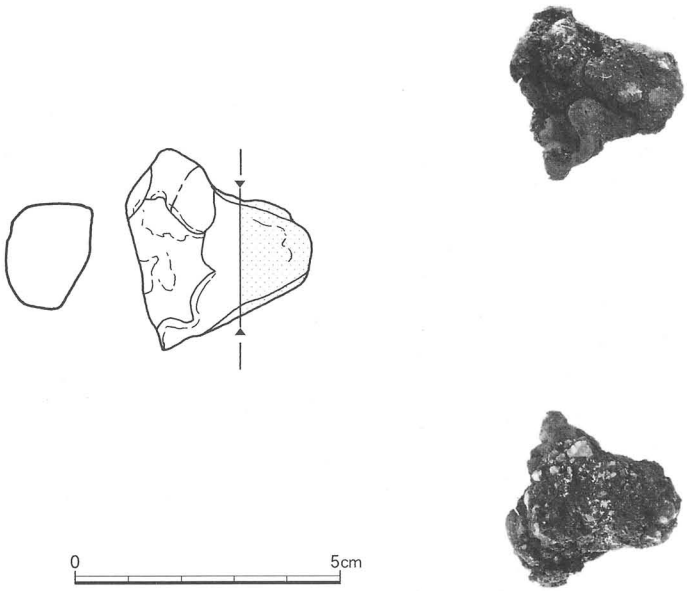




第44表　資料番号２

出土状況	遺跡名	板屋Ⅲ遺跡	遺物No	117	分析	項目	滓	メタル
	出土位置	11D炉跡（B１）	時期・根拠	近世：出土陶磁器		マクロ		○
試料記号	検鏡：ITA-43 化学：－ 放射化：－	法量 長さ 2.3cm 幅 2.5cm 厚さ 1.1cm 重量 7.2g	色調	表：茶褐色～黒褐色 地：濃茶褐色～黒褐色		検鏡		◎
						硬度		
						CMA		
						X線解折		
						化学		
						耐火度		
遺物種類（名称）	鍛冶滓（含鉄）		磁着度	4		カロリー		
			メタル度	H（○）		放射化		
						X線透過		○

観察所見	平面、不整三角形をした含鉄の鍛冶滓である。左側面の一部が欠けており破面数は１を数える。表皮はやや流動状の滓部で、下面には茶褐色の酸化土砂が固着している。右半部は含鉄部で突出しており、放射割れが始まっている。上手側部は木炭痕様の圧痕である。左手は抉られたようになっているが、微細なガス質の滓表皮の欠落したものである。含鉄部の表面には光沢を持った薄手の鍛造剥片が酸化土砂とともに固着している。色調は表面が茶褐色から黒褐色、地は濃茶褐色から黒褐色である。
分析部分	長軸端部１／２を直線状に切断し、メタル部を中心に分析に用いる。残材断面樹脂塗布。残材返却。
備考	小ぶりの含鉄の滓である。鍛冶炉の粉炭層中に持ち込んだものであろうか。外観的には区別が難しいが、製錬系の含鉄滓が被熱したものか、精錬鍛冶段階の含鉄の鍛冶滓が、やはり粉炭層中に遊離したまま落ち込んだもののどちらかであろう。



第44表　資料番号３

出土状況	遺跡名	板屋Ⅲ遺跡	遺物No.	122	分析	項目	滓	メタル
	出土位置	11D炉跡（B１）	時期・根拠	近世：出土陶磁器		マクロ		○
試料記号	検鏡：ITA-44 化学：－ 放射化：－	法量 長さ 7.4cm 幅 6.8cm 厚さ 3.0cm 重量 167.7g	色調	表：濃茶褐色 遺存度 破片 地：濃茶褐色～黒褐色 破面数 ３？		検鏡		◎
						硬度	○	
						CMA		
						X線解折		
						化学		
						耐火度		
遺物種類（名称）	鍛冶滓（含鉄）		磁着度	9 前含浸 －		カロリー		
						放射化		
			メタル度	L（●） 断面樹脂 ○		X線透過		○

観察所見

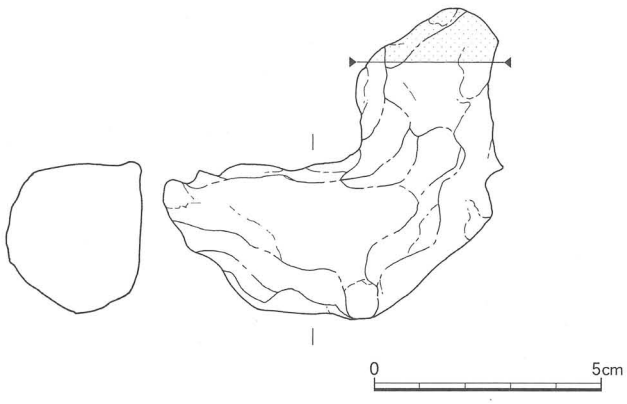
逆Ｌ字形に屈曲した含鉄の鍛冶滓である。全体の断面形が椀形で両側部に小さな破面が残されている。破面数は３を数える。中核部は鉄主体で外周部には二次的に鍛造剥片や粉炭を多量に含む酸化土砂が固着している。上面は全体的には平坦気味で、中央付近は大きく窪んでいる。表面には２cm大以下の木炭痕が明瞭である。右側部は微細な錆ぶくれのある波状の面である。破面とも自然面とも区別がつきにくい。左手上手側は抉れるように窪んでおり、底面側は工具痕の可能性を持ち、上半部は肩部の滓の破面である。全体に磁着が強く放射割れや黒錆も激しい。表面に二次的に固着する酸化土砂中の鍛造剥片の厚みは、0.28㎜～0.1㎜程度と薄く、両面が青黒い光沢を持つものである。色調は表面が濃茶褐色、地は濃茶褐色から黒褐色である。

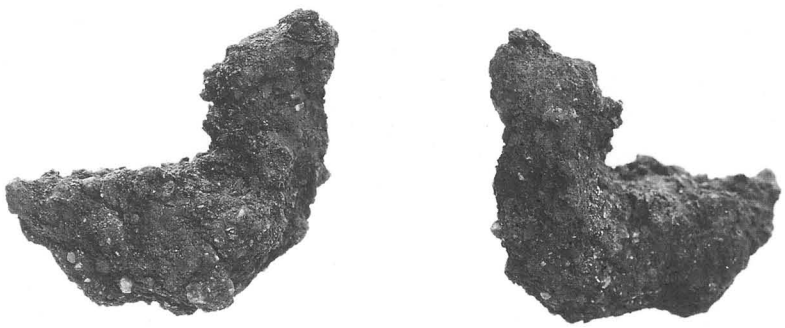
分析部分

長軸端部１／５を直線状に切断し、メタル部を中心に分析に用いる。残材断面樹脂塗布。残材返却。

備考

不定形な鉄塊系遺物のようにも、鉄主体の椀形鍛冶滓の側部のようにも、見える遺物である。比較的全体に均質で、錆化部のみ磁着が弱い。表面が二次的な黒錆に覆われており、滓部を伴う可能性もあるが、外見的には区別ができない。精錬鉄塊の可能性もあろう。本資料に付着する鍛造剥片の様相は、分析資料№１～２に付着するものと同様、比較的薄手で、工程的には進んでいる。





第44表　資料番号４

出土状況	遺跡名	板屋Ⅲ遺跡	遺物No	123	分析	項目	滓	メタル
	出土位置	11D炉跡（B１）	時期・根拠	近世：出土陶磁器		マクロ	○	
試料記号	検鏡：ITA-45 化学：－ 放射化：－	法量 長さ － cm 幅 － cm 厚さ － cm 重量 － g	色調	表：－		検鏡	○	
				地：－		硬度		
						CMA		
						X線解折		
						化学		
						耐火度		
遺物種類（名称）	粒状滓（３点）		磁着度	－		カロリー		
			メタル度	なし		放射化		
						X線透過		

観察所見	11D区炉跡周辺の土砂を任意に一部取り上げ水洗して回収された粒状滓である。粒径の差が比較的、数の少ない母資料から選択されている。また、磁着の強弱により二分した後、それぞれから選択構成している。磁着弱が分析No44-イ-１の１点、磁着強は分析No44-ロ-１からロ-２の２点である。
分析部分	必要品を選択し、粒状滓として分析に用いる。残材返却。
備考	

資料番号４　粒状滓

番号	直径(㎜)	色調	形状および表面	磁着	気孔
4-イ-1	2.3	黒褐色	ややいびつな球形。光沢なし。	弱	なし
4-ロ-1	2.5	黒褐色	ややいびつな球形。光沢ややあり。	強	なし
4-ロ-2	0.5	黒褐色	いびつな球形。光沢なし。	強	なし

第44表　資料番号５

出土状況	遺跡名	板屋Ⅲ遺跡	遺物No	124	分析	項目	滓	メタル
	出土位置	11D炉跡（B１）	時期・根拠	近世：出土陶磁器		マクロ	○	
試料記号	検鏡：ITA-46 化学：－ 放射化：－	法量 長さ － cm 幅 － cm 厚さ － cm 重量 － g	色調	表：－		検鏡	○	
				地：－		硬度		
						CMA		
						X線解折		
						化学		
						耐火度		
遺物種類（名称）	鍛造剥片（４点）		磁着度	－		カロリー		
			メタル度	なし		放射化		
						X線透過		

観察所見	11D区炉跡周辺の土砂を任意に一部取り上げ水洗して回収された鍛造剥片である。比較的数少ない母資料から選択されている。また、磁着の強弱により二分した後、それぞれから選択構成している。磁着弱が分析No46-イ-１からイ-２の２点、磁着強は分析No46-ロ-１からロ-２の２点である。
分析部分	必要品を選択し、鍛造剥片として分析に用いる。残材返却。
備考	分析資料No１から３や、非分析の椀形鍛冶滓の表面には多量の鍛造剥片が固着している。

資料番号５　鍛造剥片

番号	長軸(㎜)	短軸(㎜)	厚さ(㎜)	色調	表	裏	磁着	気孔
5-イ-1	4.2	3.4	0.7	灰黒色	平滑である。光沢ややあり。	凹凸あり。光沢ややあり。	弱	なし
5-イ-2	5	2.7	0.36	灰黒色	平滑である。光沢ややあり。	平滑である。光沢ややあり。	弱	なし
5-ロ-1	3.7	2.7	0.09	灰黒色	やや凹凸あり。光沢なし。	凹凸あり。光沢なし。	強	なし
5-ロ-2	2.4	1.2	0.08	暗青灰色	平滑である。光沢あり。	平滑である。光沢ややあり。	強	なし

5-イ-1

5-イ-2

5-ロ-1

5-ロ-2

第７章　自然化学分析

はじめに

板屋Ⅲ遺跡においては、近世の掘立柱建物跡に付設した鍛冶炉の内容、縄文時代を中心とした遺跡の自然環境及び農耕に関わる問題、黒色土層の年代値を解明するために自然科学分野の分析を依頼した。そしてその成果については、本章で各研究者及び研究機関からその成果を報告いただき掲載している。

これらの成果の詳細については各節の記述を読んでもらいたい。ここでは各成果について簡単に整理しておきたい。

第１節の製鉄関連遺物の分析については、検出した鍛冶炉の性格が精錬段階～鍛錬鍛冶段階までの工程を行っていたことが確認された。発掘調査にミス等の問題が多々あったが何とか遺構の性格について明らかにできたのは幸いであった。ただ、微細遺物である鍛造剥片・粒状滓について計画的な取り上げが不十分であったことから、鍛冶作業の詳細な復元には至らなかった点が課題として残った。

第２節のプラントオパール分析の成果は今回発掘調査を実施した西側調査区と第一次調査終了後の西側調査区との境界にあたる壁面から採取された試料についての報告である。これまで高橋氏が板屋Ⅲ遺跡採取試料を検討してきた総括的な成果である。この報告によると第３黒色土層及び第４黒色土層からイネのプラントオパールが検出されており非常に重大な発見と言える。報告でもあるように今後の様々な考古学的な検証作業が必要であることは言うまでもない。

第３節の花粉分析及びプラントオパール分析の成果は今回発掘調査を実施した西側調査区及び東側調査区で採取した土壌を検討したものである。西側調査区では旧自然流路を各ハイカ層で検出しており、その発掘成果と花粉分析の成果は符合しているものと判断された。また第４黒色土層で検出されている「キビ属型」のプラントオパールによって、キビの栽培の可能性が指摘されており第２節の成果ともに注目される。

第４節のプラントオパール分析の成果は1998年に第一次調査終了後の西側調査区との境界にあたる壁面及び14Ｇグリッドの北壁で採取した土壌を検討したものである。分析方法は第３節と同様に定量分析であり第１黒色土層～第４黒色土層まで連続した試料群の分析結果である。ここでも第３黒色土層で「キビ属型」・「ヒエ属型」のプラントオパールが検出されている。

第５節の放射性炭素年代測定値の成果は1998年に採取された試料と2001年の発掘調査で採取された試料のそれぞれの測定結果である。測定の対照となった第３黒色土層と第４黒色土層はプラントオパールの検出などから注目される土壌であり、その年代値も注目されるものである。今後とも機会があれば測定を行う必要がある黒色土層と考えられる。

第１節　板屋Ⅲ遺跡の製鉄関連遺物の分析調査

安来市体育文化振興財団・和鋼博物館
村　川　義　行

１．経緯

志津見ダム建設予定地内板屋Ⅲ遺跡（島根県飯石郡頓原町大字志津見）より出土した製鉄関連遺物ついて分析調査した結果を報告する。

板屋遺跡は、神戸川上流域右岸に面した低丘陵に位置し、総面積が２万m^2を超える大規模な遺跡である。便宜的に板屋Ⅰ遺跡、Ⅱ遺跡、Ⅲ遺跡と分けて、平成２年度から断続的に調査を行っているが、今回、西側調査区（板屋Ⅲ遺跡）で中世から近世と推測される掘立柱建物跡の中の炉跡と考えられる遺構より製鉄関連と思われる遺物が出土した。

２．調査方法

２－１．供試材

Table. １に供試材の明細を示す。供試材の通し番号は５であるが、粒状滓と鍛造剥片が夫々３～４点あるので総数は10点となる。

２－２．調査項目および方法

（１）目視観察

発掘調査担当者側作成の遺物観察表をもとにまとめた。

（２）マクロ組織

顕微鏡組織観察試料を10～20倍の光学顕微鏡にて出来るだけ試料の全体を観察した。

（３）顕微鏡組織

実測図に指示された位置から切出して樹脂に埋め込み、エメリー研磨紙の＃150、＃240、＃320、＃600、＃1000と順を追って研磨し、最終はダイヤモンドの３μ～１μで仕上げてから金属組織および鉱物組織を観察した。試料の腐食（Etching）は金属鉄は、ピクラル（ピクリン酸飽和アルコール溶液）およびナイタル（５％硝酸アルコール溶液）を用い、鉄滓は無腐食とした。

（４）硬度測定

鉄滓の鉱物相と金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース微小硬度計を用いて硬さを測定した。試料は顕微鏡観察試料を供用した。

（５）ＣＭＡ調査

顕微鏡組織観察試料にカーボン蒸着を施した後、Ｘ線マイクロアナライザーにより電子線を照射し、発生する特性Ｘ線を分光・画像化する定性分析とＸ線強度比から元素定量値を求め、データー解析を行い鉄滓の鉱物相を同定した。

（６）化学組成分析

供試材の化学組成分析は次の方法で実施した。

全鉄分(T･Fe)、金属鉄(M･Fe)、酸化第一鉄(FeO)：容量法。

炭素(C)、硫黄(S)：燃焼赤外線吸収法。

二酸化珪素(SiO_2)、酸化アルミニウム(Al_2O_3)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K_2O)、酸化ナトリウム(Na_2O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO_2)、酸化クロム

(Cr_2O_3)、五酸化燐(P_2O_5)、バナジウム(V)、銅(Cu)：誘導結合プラズマ発光分光分析（ICP法）。

3．調査結果

3－1．ITA-42：椀形鍛冶滓

（1）目視観察

側部が破面となった中型の二段椀形鍛冶滓である。破面の気孔は少なめで、色調は表面が濃茶褐色から黒褐色で、地は濃茶褐色から黒褐色である。

（2）顕微鏡組織

Photo. 1の②～⑤に示す。鉱物組成は、白色粒状結晶のウスタイト（FeO）、淡白色多角形結晶のウルボスピネル（$2FeO \cdot TiO_2$）および淡茶褐色の板状結晶および木ずれ状結晶のファイヤライトが暗黒色ガラス質の基地中に晶出している。

（3）硬度測定

Photo. 1の①に淡白色多角形結晶および淡茶褐色結晶のビッカース硬度測定（荷重300g）の圧痕を示す。硬度値は淡白色多角形結晶が666Hv、淡茶褐色大結晶が634Hvであった。マグネタイト（Fe_3O_4）の文献硬度値[1]が500～600Hv、ウスタイト（FeO）は450～500Hv、ファイヤライト（$2FeO \cdot SiO_4$）は600～700Hvの範囲が提示されている。ウルボスピネル（$2FeO \cdot TiO_4$）の硬度範囲は明記されてないが、６００Hv以上とされ、他の調査項目の結果と照合して、淡白色多角形結晶はウルボスピネル、淡茶褐色結晶はファイヤライトと見なされる。

（4）ＣＭＡ調査

Photo. 7のSE像（２次電子像）にある鉱物相の定性分析結果をFig. 1に示す。全体面から検出された元素は鉄（Fe）とガラス質成分（Si, Al, Ca, K, Mg, Na）およびチタン（Ti）である。また、同時に、ＳＥ全体の定量分析を実施し、その結果からは多い順にFeO、SiO_2、Al_2O_3、TiO_2、CaO、Na_2O、K_2Oと微少ながらMgOとなった。これらの酸化物を構成する元素は上記定性分析で検出された元素とほぼ一致する。つぎに、ＳＥ像で識別される鉱物相についてＡ～Ｅの記号をつけ、それぞれについて同様の定量分析を行った。さらに、鉱物相の分布を視覚化するためこれら一連の分析結果から検出された元素毎に面分析した特性Ｘ線像と定量分析値をPhoto. 7に示した。

ＳＥ像中で記号Ａの白色粒状結晶は鉄（Fe）に輝度が集中し、定量分析値はFeO：96.87％で、ウスタイト（FeO）と同定される。記号Ｂの淡白色多角形結晶はチタン（Ti）および鉄（Fe）に輝度が集中し、定量分析値はTiO_2：23.35％－Al_2O_3：9.03％－FeO：66.07％組成となり、ウルボスピネル（$2FeO\ TiO_2$）と同定される。記号Ｃの淡茶褐色の大きな結晶は鉄（Fe）と珪素（Si）、酸素（O）に輝度が集中し、定量分析値はSiO_2：33.12％－FeO：63.39％であることからファイヤライト（$2FeO \cdot SiO_2$）と同定される。記号Ｄの淡茶褐色の木ずれ状もしくは針状微小結晶は鉄（Fe）と珪素（Si）、酸素（O）輝度が集中し、やや太い結晶はカルシウム（Ca）にも輝度が集中している。また、定量分析値はSiO_2：42.78％－FeO：20.22％－Al:18.50％－Ca：6.96％－K：4.86％であるが、特性Ｘ線像より判断して結晶が微小であるためAlとKは基地のガラス質成分をひろっている可能性がある。したがって、成分系としては、SiO_2－FeO－(Ca)となり、ファイヤライトの系統と思われるが明瞭な鉱物相は決めかねる。

記号Ｂのウルボスピネル（$2FeO \cdot TiO_2$）の周辺を構成する記号Ｅの褐色結晶はアルミニウム（Al）の輝度が高い。定量分析値もAl_2O_3：49.32％－FeO：47.26％－TiO_2：2.52％であることから、含

Tiハーシナイト（$FeO \cdot Al_2O_3$）と同定される。

以上の結果より、本資料は砂鉄特有元素のチタン（Ti）を含む鉱物相（ウルボスピネル）が多く認められることから、砂鉄原料を始発とする鉄素材の鍛冶滓と推定される。

（5）化学組成分析

Table. 2、Table. 3に示す。全鉄分（T・Fe）は43.87%、金属鉄（M・Fe）は0.18%、酸化第1鉄（FeO）46.26%、酸化第2鉄（Fe_2O_3）は11.07%である。ガラス質成分（$SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O$）は35.13%、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）を3.56%含む。砂鉄特有の二酸化チタン（TiO_2）は4.13%で高め、バナジウム（V）も0.13%で高めである。また、酸化マンガン（MnO）は0.36%、銅（Cu）は0.01%で不純物の多い成分系である。また、酸化第2鉄（Fe_2O_3）が比較的少なく、酸化第1鉄（FeO）が多めであることから還元性雰囲気下で形成さたものと推定され、製錬滓に近い組成であることから精錬鍛冶滓に分類される。

3－2．ITA-43：鍛冶滓（含鉄）

（1）目視観察

平面、不整三角形をした含鉄の鍛冶滓である。一部が欠けており、表皮はやや流動性の滓で、色調は表面が濃茶褐色から黒褐色で、地は濃茶褐色から黒褐色である。

（2）マクロ組織

Photo. 6の①に示す。中心部は黒色の基地に白色の網目模様が見える。また、若干の空洞を生じ錆化もしている。中心から外側の灰白色部では錆化が進み、さらに最外周部の内層は微細なマグネタイト結晶、外層はゲーサイトと木炭の痕跡も認められる。中心部の空洞は抉られた欠落破面側に通じていたようにも見える。

（3）顕微鏡組織

Photo. 2の④～⑧に示す。④は中心部および近傍の組織を示す。⑤～⑥は中心部の組織で白色の棒状または稲妻状の組織は共晶炭化物（セメンタイト）、黒色の基地はやや錆化したパーライト組織である。⑦～⑧は中心部周辺の灰白色部の組織で黒色の棒状もしく稲妻状組織は共晶炭化物（セメンタイト）が錆化したもの、灰色の基地はパーライト組織が錆化したものである。中心部と共に亜共晶組成（C＜4.3%）であるが、溶融状態から放冷却されたと思われる組織である。鍛冶滓とすればかなり高温の鍛打が行われたと思われる。

3－3．ITA-44：鍛冶滓（含鉄）

（1）目視観察

断面形が椀形で両側部に小さな破面が残る。上面は平坦気味で、中央付近は窪んでいる。全体に磁着が強く放射割れや黒錆も激しい。色調は表面が濃茶褐色、地は濃茶褐色から黒褐色である。

（2）マクロ組織

Photo. 6の②に示す。亜共析鋼および過共析鋼の組織を有する2片を内蔵している。粒状滓や剥片は認められない。

（3）顕微鏡組織

Photo. 3の②③および④⑤に示す。②③は、白色結晶のフェライトと黒灰色のパーライト組織からなる亜共析鋼（C＜0.8%）の加熱－放冷組織である。また、フェライト／パーライトの比率より、②③の部位の含有炭素量は約0.4%と推定される。④⑤は縞状のパーライト組織とその粒界に

網状に析出した白色の炭化鉄（セメンタイト）で、過共析鋼（C＞0.8%）が加熱後放冷された組織である。同様にこの部分の炭素含有量は約1.1～1.3%と推定される。本資料は炭素含有量の異なる2部分を有するがその境界にはスラグの混入と共に両者の中間組成である共析組織（C≒0.8%）を形成し、組成の拡散が認められることから約800℃～900℃位の温度に長時間加熱後放冷されたと推定される。

（4）硬度測定

Photo. 3の①に白色結晶と黒灰色結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は白色結晶が101Hv、黒灰色結晶が243Hvで、前者はフェライト、後者はパーライト組織と見なされる。

3－4．ITA-45-イ-1：粒状滓

（1）目視観察

ややいびつな球形。光沢はなし。色調は黒褐色。直径：2.3㎜。

（2）マクロ組織

Photo. 2の⑥に示す。0.1～1㎜径の気泡を点在させた酸化鉄の基地である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 2の⑦～⑨に示す。ウスタイト（FeO）の粒が密集し、粒界は亀甲状に見える。部分的に外殻を構成する皮膜（厚さ：約0.02㎜）もウスタイト粒で微細な気泡を有する。

3－5．ITA-45-ロ-1：粒状滓

（1）目視観察

ややいびつな球形。光沢ややあり。色調は黒褐色。直径：2.5㎜。

（2）マクロ組織

Photo. 3の①に示す。断面全体に0.15㎜径以下の微細な気泡を無数に有する空洞化の著しい粒状滓である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 3の②～⑥に示す。ウスタイト（FeO）の粒が密集し、粒界はクラック状に見える。外殻には灰色のマグネタイト層（Fe_3O_4）－白色の極薄いヘマタイト層（Fe_2O_3）と、さらに外側を部分的であるが黒灰色のゲーサイト（FeO･OH）と思われる層が構成している。

3－6．ITA-45-ロ-2：粒状滓

（1）目視観察

非常に小さくいびつな球形。光沢なし。色調は黒褐色。直径：0.5㎜。

（2）マクロ組織

Photo. 3の⑦に示す。断面全体に約0.05～0.2㎜径の微細な多数の気泡と2ケの大きな楕円形状（長径約1㎜－短径約0.6㎜）気泡により半空洞化した粒状滓である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 3の⑧～⑩に示す。白色粒状結晶のウスタイト（FeO）と淡灰色木ずれ状ファイヤライト（$2FeO \cdot SiO_2$）が暗黒色ガラス質スラグ中に晶出している。精錬鍛冶段階の派生物と思われる。

3－7．ITA-46-イ-1：鍛造剥片

（1）目視観察

表裏共に光沢ややあり、表面は平滑だが、裏面は凹凸。色調は灰黒色。4.2㎜×3.4㎜×0.7㎜。

（2）マクロ組織

Photo. 4の①に示す。断面全体に約0.1㎜径以下の微細な多数の気泡有する鍛造剥片である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 4の②～③に示す。ウスタイト（FeO）の粒が密集し、粒界はクラック状に見える。ウスタイトは大小の粒がやや偏在している。鍛打作業の後半段階の派生物と思われる。

3－8．ITA-46-イ-2：鍛造剥片

（1）目視観察

表裏共に光沢あり、平滑である。色調は灰黒色。5㎜×2.7㎜×0.36㎜。

（2）マクロ組織

Photo. 4の④に示す。約0.1㎜径以下の微細な多数の気泡がやや偏在する鍛造剥片である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 4の②～③に示す。大小のウスタイト(FeO)の混粒が密集し、粒界はクラック状に見える。

3－9．ITA-46-ロ-1：鍛造剥片

（1）目視観察

表裏共に光沢なし、表面はやや凹凸、裏面は凹凸。色調は灰黒色。3.7㎜×2.7㎜×0.09㎜。

（2）マクロ組織

Photo. 5の①に示す。微細な気泡が点在する変形した鍛造剥片である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 5の②～④に示す。白色粒状結晶のウスタイト（FeO）が暗黒色ガラス質スラグ中に晶出している。

3－10．ITA-46-ロ-2：鍛造剥片

（1）目視観察

表裏共に平滑、表面は光沢あるが、裏面はやや光沢ある。色調は暗青灰色。2.4㎜×1.2㎜×0.08㎜。

（2）マクロ組織

Photo. 5の⑤に示す。微細な多数の気泡がやや点在する鍛造剥片である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 5の⑥～⑩に示す。ウスタイト（FeO）が密集し、粒界は繊細であるが、大小の気泡が点在する。

4．まとめ

調査資料が少数かつ断片的であるため、上記の調査結果を関連づけて鍛冶作業を考察することは困難であるが、あえてまとめれば、鍛冶作業は砂鉄系荒鉄を始発とした銑鉄から過共析鋼を鍛冶原料鉄としてかなり高温の加熱・鍛打が行われたものと思われる。

本調査の分析は日立金属（株）冶金研究所およびハイメック（株）中国事業所で実施した。

5．参考文献

（1）日刊工業新聞社：「焼結鉱組織写真および識別法」1968

（2）島根県教育委員会：「中原遺跡（付編）」志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6　1999

Table. 1　鉄関連遺物分析資料一覧表

試料記号	遺構名	出土位置	遺物名称	重量(g)	磁着度	メタル度	分析コメント	検鏡	EPMA	化学分析	硬度	マクロ	分析位置	採取方法
ITA-42	板屋Ⅲ	11D(B1)	椀形鍛冶滓	2200.0	9	錆化(△)	滓部を中心に	◎ —	○	○ —	○	—	長軸端部1/2	直線状の切断
ITA-43	板屋Ⅲ	11D(B1)	鍛冶滓(含鉄)	7.2	4	H(○)	メタル部を中心に	— ◎	—	— —	—	○	長軸端部1/2	直線状の切断
ITA-44	板屋Ⅲ	11D(B1)	鍛冶滓(含鉄)	167.7	9	L(●)	メタル部を中心に	— ◎	—	— —	○	○	長軸端部1/5	直線状の切断
ITA-45	板屋Ⅲ	11D(B1)	粒状滓	—	—	なし	粒状滓として	○ —	—	— —	—	○	必要品	選択
ITA-46	板屋Ⅲ	11D(B1)	鍛造剥片	—	—	なし	鍛造剥片として	○ —	—	— —	—	○	必要品	選択

Table. 2　椀形鍛冶滓（ITA－42）の化学組成（wt%）

試料記号	C	SiO_2	MnO	P_2O_5	S	Cr_2O_3	Na_2O	CaO	MgO	V_2O_5	TiO_2	Cu	K_2O	Al_2O_3	T·Fe	FeO	Fe_2O_3	M·Fe
ITA-42	0.015	23.73	0.36	0.079	0.031	0.03	0.49	2.51	1.05	0.24	4.13	0.01	0.79	6.56	43.87	46.24	11.07	0.18

Table. 3　椀形鍛冶滓（ITA－42）の調査結果まとめ

試料記号	遺物名称	顕微鏡組織	化学組成(wt%)							所見
			T·Fe	Fe_2O_3	塩基性成分	TiO_2	V_2O_5	MnO	ガラス質成分	Cu	
ITA-42	椀形鍛冶滓	W＋U＋F	43.87	11.07	3.56	4.13	0.24	0.36	35.13	0.01	精錬鍛冶滓

W：ウスタイト（Wüstite：FeO）、U：ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO·TiO_2$）、F：ファイヤライト（Fayalite：$2FeO·SiO_2$）

Table. 4　粒状滓・鍛造剥片一覧表

粒状滓（ITA－45）

番号	直径(mm)	色調	形状および表面	磁着	気孔	検鏡結果
4-イ-1	2.3	黒褐色	ややいびつな球形。光沢なし。	弱	なし	ウスタイト凝集
4-ロ-1	2.5	黒褐色	ややいびつな球形。光沢ややあり。	強	なし	ウスタイト凝集
4-ロ-2	0.5	黒褐色	いびつな球形。光沢なし。	強	なし	ガラス質スラグ、ウスタイト

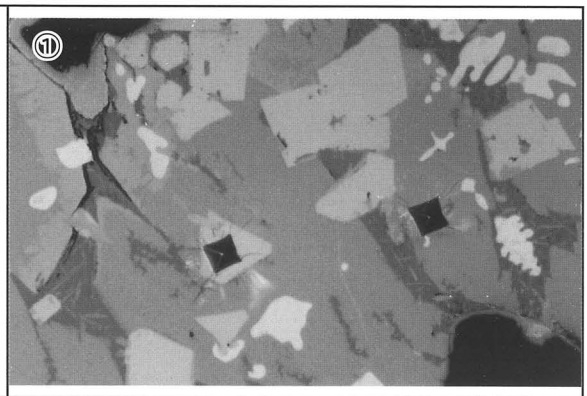
鍛造剥片（ITA－46）

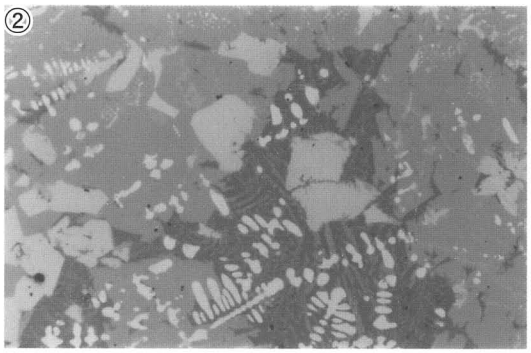
番号	長軸(mm)	短軸(mm)	厚さ(mm)	色調	表	裏	磁着	気孔	検鏡結果
5-イ-1	4.2	3.4	0.7	灰黒色	平滑である。光沢ややあり。	凹凸あり。光沢ややあり。	弱	なし	ウスタイト凝集
5-イ-2	5	2.7	0.36	灰黒色	平滑である。光沢ややあり。	平滑である。光沢ややあり。	弱	なし	ウスタイト凝集
5-ロ-1	3.7	2.7	0.09	灰黒色	やや凹凸あり。光沢なし。	凹凸あり。光沢なし。	強	なし	ガラス質スラグ、ウスタイト
5-ロ-2	2.4	1.2	0.08	暗青灰色	平滑である。光沢あり。	平滑である。光沢ややあり。	強	なし	ウスタイト凝集

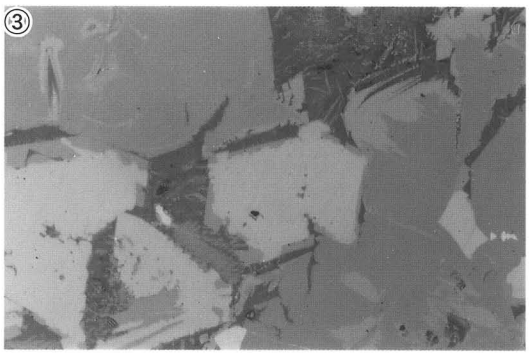
（1）ITA-42
椀形鍛冶滓

①×200　硬度圧痕
左：636Hv　　右：666Hv

②×100　　③×400
ウスタイト＋ウルボスピネル
ファイヤライト





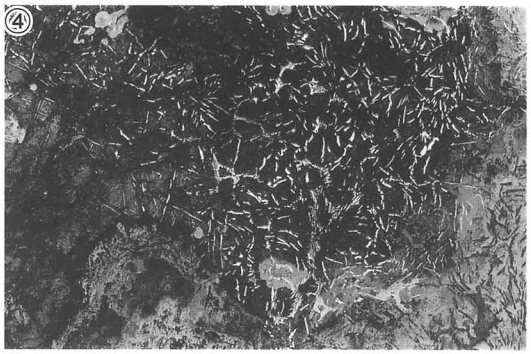


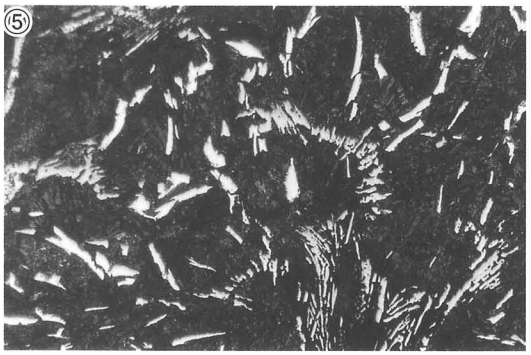
（2）ITA-43
鍛冶滓

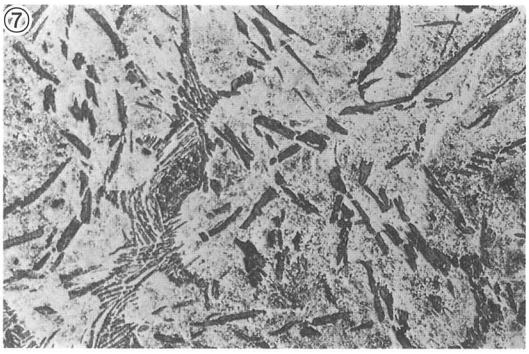
④×25

⑤×100　　⑥×400
セメンタイト(白)とパーライト

⑦×100　　⑧×400
セメンタイトの痕跡（黒）
パーライトの痕跡（灰）







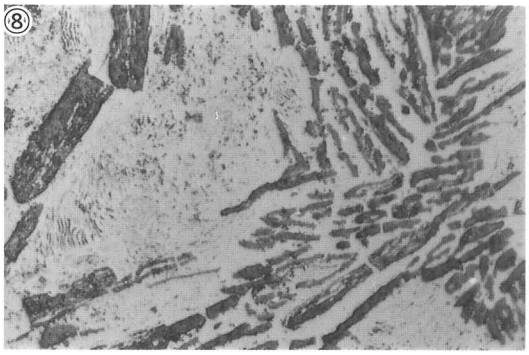


Photo. 1　椀形鍛冶滓と鍛冶滓の顕微鏡組織

（3）ITA-44

鍛冶滓

①×200　硬度圧痕

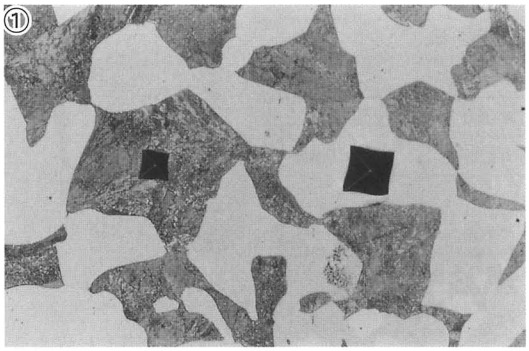
左：243Hv　　右：101Hv

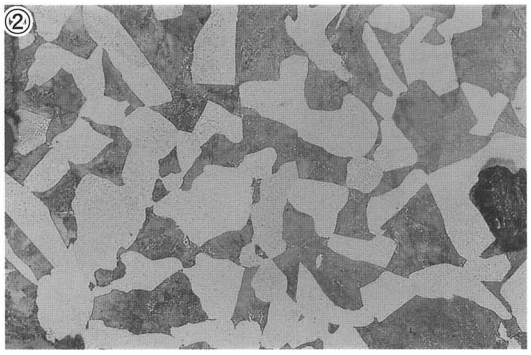
②×100　　③×400

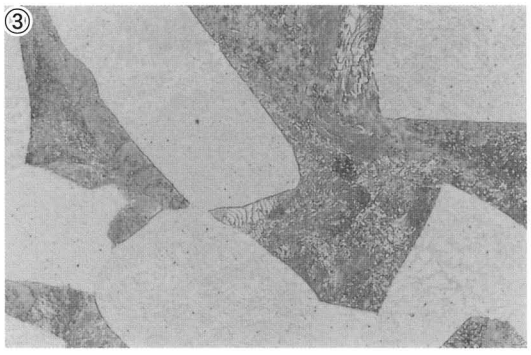
フェライト

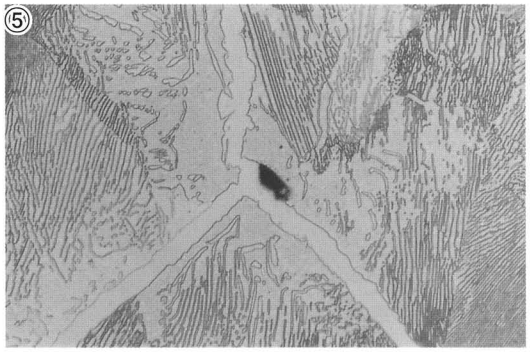
④×100　　⑤×400

セメンタイト(白)＋パーライト(縞)









（4）ITA-45-イ-1

粒状滓

⑥×15　マクロ組織

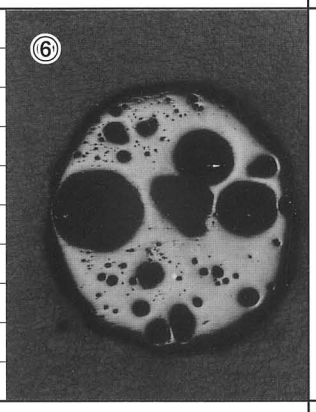
⑦×100　　⑧×400

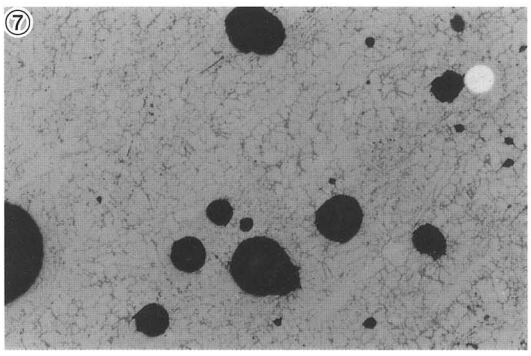
ウスタイト

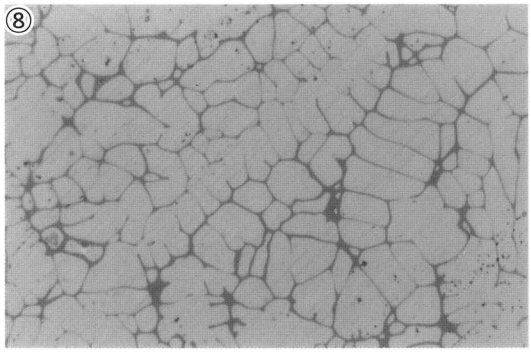
⑨×400

内層：ウスタイト

外層：ウスタイト







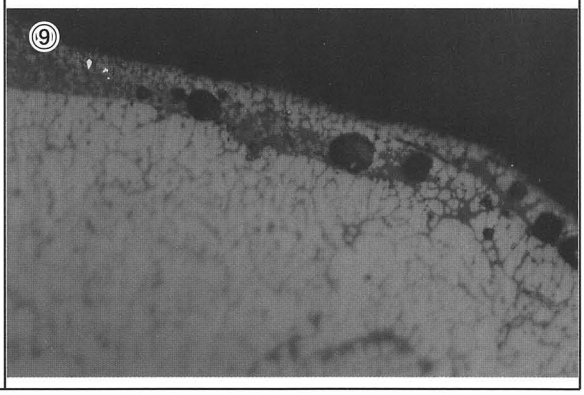


Photo. 2　鍛冶滓と粒状滓の顕微鏡組織

（5）ITA-45-ロ-1

粒状滓

①×15　マクロ組織

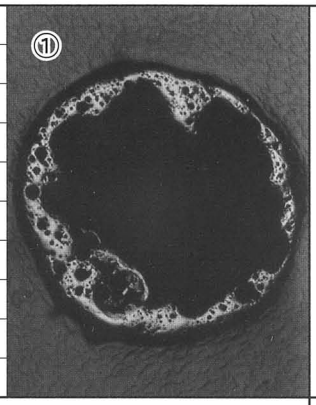
②×50　　③×100

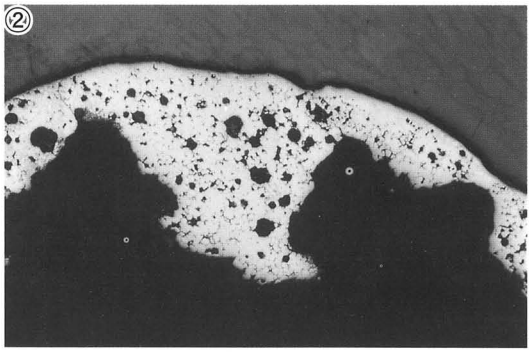
④×200　　⑤×400

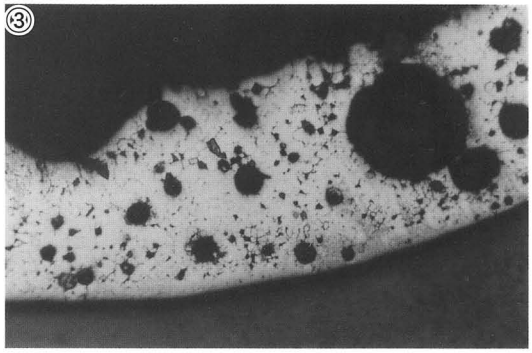
ウスタイト

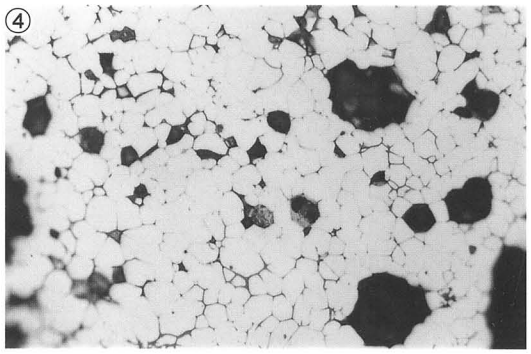
⑥×400

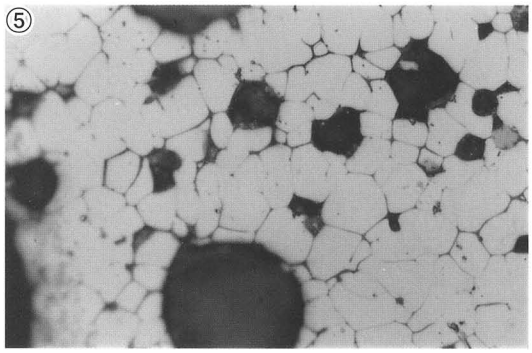
最外層：ゲーサイト

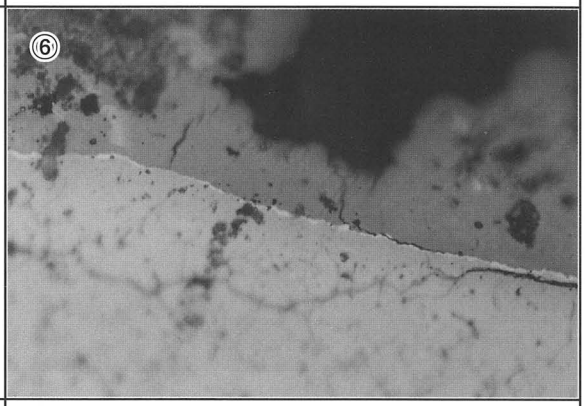












（6）ITA-45-ロ-2

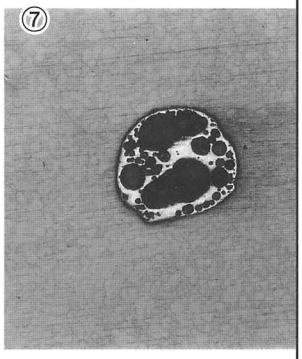
粒状滓

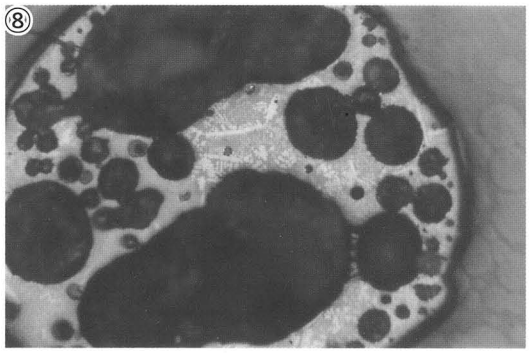
⑦×15　マクロ組織

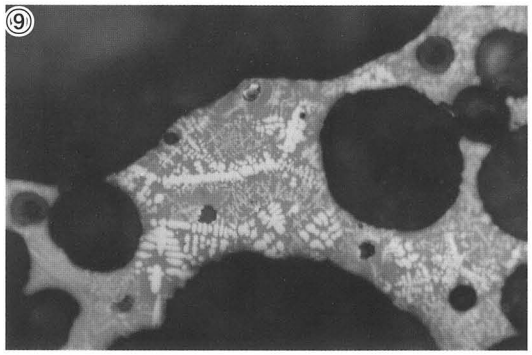
⑧×100　　⑨×200

⑩×400

ウスタイト＋ガラス質







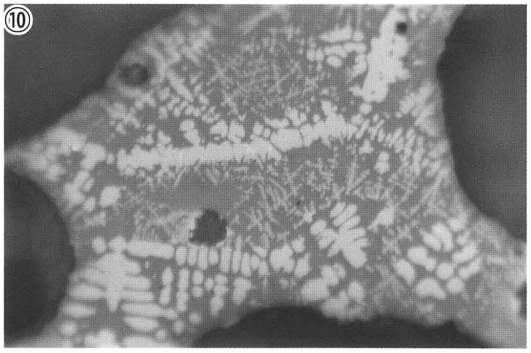


Photo. 3　粒状滓の顕微鏡組織